THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
新潟県立近代美術館
新潟県立万代島美術館
The Niigata **Bandaijima** Art Museum

新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館　年報

（平成26年度）2014

ANNUAL REPORT

2014

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
新潟県立近代美術館
新潟県立万代島美術館
The Niigata **Bandaijima** Art Museum

年報

目　次

平成26年度の流れ　近代美術館 ― ❸
万代島美術館 ― ❹

事業報告

展覧会　近代美術館　常設展　第１期　近代美術館の名品 ― ❼
素描の妙 ／ 花 ― ❼
100年前、大正という時代があった ― ❼
第２期　近代美術館の名品 ― ❾
レアリスムの東と西 ― ❾
古寺大観 ― ❾
第３期　さがして、みつけて ― ⓫
FACE ― ⓫
近代美術館の名品 ― ⓫
第４期　郷土に残る小山正太郎と不同舎の画家たち ― ⓭
近代美術館の名品 ― ⓭
こどものせかい ― ⓭
第５期　所蔵品に見る「書」 ― ⓯
近代美術館の名品 ― ⓯
富士詣考 ― ⓯
企画展　岩田正巳展 ― ⓱
宮芳平展 ― ⓳
法隆寺　祈りとかたち ― ㉖
黒井健　絵本原画の世界展 ― ㉛
コレクション・ストーリーズ ― ㊱
共催展　第69回新潟県美術展覧会長岡展 ― ㊷
第44回世界児童画展 ― ㊷
第16回亀倉雄策賞受賞記念　葛西薫展 ― ㊸
第45回新潟県ジュニア美術展覧会長岡展 ― ㊸
第18回新潟県立美術館友の会作品展 ― ㊹
こどものづくり大学校作品展覧会 ― ㊹
万代島美術館　所蔵品展　昭和追想 ― ㊺
企画展　梅佳代展 ― ㊿
美術の冒険 ― 52
近藤喜文展 ― 56
伊藤若冲と京の美術 ― 66
トーベ・ヤンソン展 ― 71

教育普及　近代美術館　イベント ― 83
館外活動・地域との連携 ― 85
刊行物・鑑賞資料 ― 88
作品解説会 ― 89
団体への解説 ― 89
学校教育等との連携 ― 90
観覧料免除 ― 92
博物館実習 ― 93
万代島美術館　イベント ― 94
刊行物 ― 96
作品解説会 ― 96
団体への解説 ― 97
学校教育等との連携 ― 97
観覧料免除 ― 99
サポートメンバー ― 100
博物館実習 ― 100

調査・研究　近代美術館 ― 101
万代島美術館 ― 103

収集・保存　美術品の収集 ― 104
美術品の保存　美術品の修復 ― 107
美術品の燻蒸 ― 108
美術品の貸出 ― 109

管理・運営

開館及び入館状況　近代美術館 ― 112
万代島美術館 ― 113
施設の貸出　近代美術館 ― 114
アンケート集計結果　近代美術館 ― 115
万代島美術館 ― 117
組織及び業務 ― 120
職員 ― 120

施設　近代美術館 ― 121
万代島美術館 ― 123

審議会等　美術館協議会（含 自己評価に対する委員評価） ― 125
美術品収集委員会 ― 132
新潟県立美術館友の会 ― 133

沿革 ― 134

平成26年度の流れ（新潟県立近代美術館）

4月	13日(日)	岩田正巳展映画鑑賞会「せたがや文化人・人と風土」
		企画展「岩田正巳展」閉会
		平成 25 年度コレクション展第 5 期閉会
	17日(木)	平成 26 年度コレクション展第 1 期開会
	25日(金)	企画展「宮芳平展」開場式
	26日(土)	「宮芳平展」開会
5月	10日(土)	美術鑑賞講座「宮芳平の生涯と作品」
	19日(月)	コレクション展第 1 期展示替え
	24日(土)	宮芳平展映画鑑賞会「森鷗外」
		友の会ワークショップ「デジカメ・スマホでプロの技を!」
	25日(日)	ワークショップ「宮芳平の描き方にせまる」
6月	1日(日)	「宮芳平展」閉会
	11日(水)	共催展「新潟県美術展覧会 長岡展」開会
	17日(火)	「新潟県美術展覧会 長岡展」閉会
	22日(日)	ワークショップ「はっけん！びじゅつかんツアー」
		コレクション展第 1 期閉会
	26日(木)	コレクション展第 2 期開会
7月	4日(金)	企画展「法隆寺　祈りとかたち」開場式
	5日(土)	「法隆寺　祈りとかたち」開会
		法隆寺展講演会「和の社会と日本文化」
	17日(木)	連携公演「東儀秀樹 雅楽公演」長岡市立劇場にて
	19日(土)	法隆寺展映画鑑賞会「聖徳太子」
	26日(土)	法隆寺展講演会「法隆寺の美術と聖徳太子」
	28日(月)	コレクション展第 2 期展示替え
8月	2日(土)	美術鑑賞講座「金堂壁画と日本近代美術」
	9日(土)	美術鑑賞講座「コローの風景」
	17日(日)	「法隆寺　祈りとかたち」閉会
	23日(土)	友の会ワークショップ「伝統色ってなに？」
	31日(日)	コレクション展第 2 期閉会
9月	4日(木)	コレクション展第 3 期開会
	11日(木)	企画展「黒井健 絵本原画の世界展」開場式
	12日(金)	「黒井健 絵本原画の世界展」開会
	13日(土)	黒井健展関連イベント「黒井健氏サイン会」
	14日(日)	黒井健展関連イベント「黒井健氏サイン会」
	20日(土)	美術鑑賞講座「肖像と向き合う」
	21日(日)	長岡大学茶道部による「びじゅつかん茶会」
	27日(土)	黒井健展関連イベント「おはなし きかせて！」
	28日(日)	黒井健展関連イベント「ギャラリー・ツアー」
10月	4日(土)	美術鑑賞講座「現代美術と映画」
	11日(土)	黒井健展関連イベント「おはなし きかせて！」
	12日(日)	黒井健展関連イベント「ギャラリー・ツアー」
	14日(火)	コレクション展第 3 期展示替え
	18日(土)	黒井健展関連イベント「おはなし きかせて！」
	25日(土)	美術鑑賞講座「ニイガタ絵本作家列伝」
	26日(日)	ワークショップ「くっつけて つくろう！」
11月	2日(日)	黒井健展関連イベント「ギャラリー・ツアー」
	3日(月)	「黒井健 絵本原画の世界展」閉会
	24日(月)	コレクション展第 3 期閉会
	25日(火) ～	館内改修工事のため休館
12月	27日(土) 28日(日) ～	年末年始の休館
1月	3日(土)	
	4日(日)	コレクション展第 4 期開会
	15日(木)	共催展「新潟県ジュニア美術展覧会 長岡展」開会
	17日(土)	映画鑑賞会「絵画を読む」
	24日(土)	「こどものせかい」ギャラリートーク
	25日(日)	「新潟県ジュニア美術展覧会 長岡展」閉会
	31日(土)	「こどものせかい」ギャラリートーク
2月	2日(月)	コレクション展第 4 期展示替え
	3日(火)	企画展「コレクション・ストーリーズ」開会
	14日(土)	映画鑑賞会「禁じられた遊び」
	21日(土)	「こどものせかい」ギャラリートーク
	28日(土)	美術鑑賞講座「コレクションと展覧会」
3月	1日(日)	コレクション展第4期閉会
	2日(月)	「コレクション・ストーリーズ」展示替え
	4日(水)	コレクション展第 5 期開会
	7日(土)	映画鑑賞会「第三の男」

平成26年度の流れ（新潟県立万代島美術館）

4月	26日㈯	梅佳代展関連イベント「梅佳代アーティスト・トーク＆サイン会」
5月	6日㈫	企画展「梅佳代展 UMEKAYO」閉会
	7日㈬～15日㈭	展示替えのため休館
	16日㈮	企画展「国立国際美術館コレクション　美術の冒険」開場式
	17日㈯	企画展「国立国際美術館コレクション　美術の冒険」開会
		美術の冒険展関連イベント　ギャラリートーク「国立国際美術館のコレクションについて」
	31日㈯	美術鑑賞講座「アジア・東欧の現代アート」
6月	14日㈯	美術鑑賞講座「ドイツの現代写真」
	22日㈰	企画展「国立国際コレクション　美術の冒険」閉会
	23日㈪～30日㈪	展示替えのため休館
7月	1日㈫～3日㈭	展示替えのため休館
	4日㈮	企画展「新潟が生んだジブリの動画家　近藤喜文展」開場式、開会
	12日㈯	近藤喜文展関連イベント「新潟市ジュニア合唱団によるミュージアム・コンサート」
	29日㈫	博物館実習初日
8月	2日㈯	近藤喜文展関連イベント「ギャラリートーク」
	7日㈭	博物館実習最終日
	9日㈯	近藤喜文展関連イベント「ポッチャリーノ弦楽四重奏団によるミュージアム・コンサート」
	31日㈰	企画展「新潟が生んだジブリの動画家　近藤喜文展」閉会
9月	1日㈪～11日㈭	展示替えのため休館
	12日㈮	企画展「伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華」開場式
	13日㈯	企画展「伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華」開会
		伊藤若冲と京の美術展関連イベント「ギャラリートーク」
	15日㈪	伊藤若冲と京の美術展関連イベント「キモノでミュージアム」
	23日㈫	伊藤若冲と京の美術展関連イベント「キモノでミュージアム」
10月	5日㈰	伊藤若冲と京の美術展関連イベント「作品解説会」
	19日㈰	伊藤若冲と京の美術展関連イベント「ミュージアム・コンサート『和を楽しむ』」
11月	3日㈪	企画展「伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華」閉会
	4日㈫～21日㈮	展示替えのため休館
	22日㈯	所蔵品展「昭和追想―美術でたどる時代の風景」開会
	22日㈯～30日㈰	友の会会員による作品展
12月	28日㈰～	年末年始の休館
1月	3日㈯	
	24日㈯	美術鑑賞講座「亀倉雄策　1950 年代の仕事」
2月	11日㈬	所蔵品展「昭和追想―美術でたどる時代の風景」閉会
	12日㈭～26日㈭	展示替えのため休館
	27日㈮	企画展「トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～」開場式
	28日㈯	企画展「トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～」開会
3月	1日㈰	トーベ・ヤンソン展関連イベント「『ミィ』割の日」
	21日㈯	トーベ・ヤンソン展関連イベント「トーク・イベント『ブックデザイナーからみたムーミンの魅力』」
	28日㈯	トーベ・ヤンソン展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」

事　業　報　告

■

常設展（コレクション展）

【趣　旨】

当館の所蔵品による展示。

本年度は、企画展にリンクした内容として、第１期は宮芳平展に合わせ「100年前、大正という時代があった」を、第２期は「法隆寺展」に合わせ「古寺大観」をテーマに据えた。第３期は「黒井健　絵本原画の世界展」に合わせ親子連れなど鑑賞の初心者が多く来館することを見込んで「さがして、みつけて」を、「新潟県ジュニア美術展」が開催される第４期には「こどもの世界」をテーマとして展示した。また、第４期では、地元出身の作家小山正太郎に関連する調査の成果として「郷土に残る小山正太郎と不同舎の画家たち」を開催し、小冊子も作成することができた。そのほかにも、本年度は新潟県で行われた植樹祭に合わせて会場の一画に「花」のコーナーを設けるなど、その時々に合わせた充実した内容の展示となった。

【観覧料】

一般……430円（340円）
大学・高校生……200円（160円）
中学生以下無料
※（　）内は有料20名以上の団体料金
※同時期の企画展観覧券で観覧可

第１期　2014年４月17日㈭～６月22日㈰（58日間）

前期：４月17日㈭～５月18日㈰
後期：５月20日㈫～６月22日㈰

展示室１　近代美術館の名品
展示室２　素描の妙／花
展示室３　100年前、大正という時代があった

素描の妙／花

【趣　旨】

完成作に価値をおき、下絵や習作として一段低く見られてしまいがちな素描。しかしながら、画家の技量と美的センスを最もよくうかがい知ることができるものとして、また画家の発想や完成作にいたる構想の変化を垣間見ることができるなど、素描を独自の魅力をたたえた芸術として紹介した。

また、全国植樹祭が長岡市内で開催されるのにあわせて、花をテーマにした小コーナーを別に設けた。

【総　括】

●評価すべき点

・展示期間などの制限から展示機会にあまり恵まれない素描作品を、前後期の展示替えをすることである程度まとめたかたちで紹介することができた。

●検討課題

・前後期で全点を展示替えするために、会場構成および点数上、展示可能な作家が限定されてしまった。

担当　澤田佳三

100年前、大正という時代があった

【趣　旨】

宮芳平展の開催にあわせ、芳平が青春時代を送った大正期の洋画･彫刻･版画を紹介した。今からちょうど100年前にあたる1914年は、芳平が画家としてデビューを飾った年にあたり、東京駅開業、第一次世界大戦開戦、二科会・日本美術院結成など重要な出来事が起こった年でもある。未曾有の大震災を経験するなど時代状況の類似性から関心が高まりつつある大正時代を振り返り、その時代に生み出された芸術の新たな価値を探る意味で開催した。

【総　括】

●評価すべき点

・15年間という短期間ながら、めまぐるしく時代状況が変転し、様々な芸術運動や個性が開花した大正期の空気を作品によって感じてもらうことができた。

・各作品の制作年に起きた事件をキャプションに記すことで、時代背景にも鑑賞者の意識が向くよう工夫した。

●検討課題

・所蔵品だけで大正期美術を体系的に紹介することは当然不可能であるが、今後さらなる充実のため収集活動を継続していく必要がある。

担当　長嶋圭哉

【出品リスト】

展示室1　近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
東山　魁夷	森の静寂	1964
工藤　甲人	夜	1963
加山　又造	馬	1957
青木　繁	妙義山	1902
藤田　嗣治	私の夢	1947
安井　曾太郎	読書	1942
梅原　龍三郎	紫禁城	1942
佐伯　祐三	広告塔	1927
里見　勝蔵	赤と緑の静物	1928
峰村　リツ子	桜井浜江像	1930
岡　鹿之助	朝の城	1970
佐藤　哲三	帰路	1954
横山　操	炎炎桜島	1956
吉原　治良	静物	1929
斎藤　義重	作品Ⅰ	1957
村井　正誠	ものうり	1958
脇田　和	花・鳥・人	1959
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892
P-E. ランソン	収穫する7人の女性	1895
J. アンソール	シノワズリー	c1920-25
G. ルオー	晩秋No.3	1948-52

ロビー

高村　真夫	春日野	1911

回廊

C. ズベール	V.I.P.	1933
竹田　康宏	Under the leaves	1994

展示室2　素描の妙

作家名	作品名	制作年
〈前期〉		
土田　麦僊	熊野風景1	c1905
	熊野風景3	c1905
	舞妓素描	1919
	舞妓素描	1919
	中国人物(時鴻)	1921
	中国人物(楽第)	1921
	西洋婦人素描	1921
	巴里の女素描	1921
	芥子素描	1926
	芥子素描	1926
	春小下絵	1920
	画帳　春(母)	1920
	画帳　春(子供)	1920
安井　曾太郎	人物	不明
阿部　展也	フィリピン風景より #45	1946
	やかんとコップ	1947
	花のデッサン #107	c1948
	「夜曲なめくじ」より	1949
	「シバ神幻想」より #25	c1955
	SV.JOVAN KANEO	c1957
	ヨーロッパ風景より #51	1957
	文字絵より #102	1959
難波田　史男	デッサン	1960-70年代
田畑　あきら子	作品No.7	1964-65
	作品No.23	1968
	作品No.25	1968
〈後期〉		
土田　麦僊	熊野風景4	c1905
	熊野風景5	c1905
	舞妓素描	1919
	舞妓素描	1919
	西洋婦人素描	1921
	巴里の女素描	1922-23
	中国風景(上海)	1921
	中国風景(竜甫)	1921
	シンガポール風景	1921
	シンガポール風景	1921
	画帳　春(子供)	1920
	画帳　春(母)	1920
	画帳　舞妓写生	不明
安井　曾太郎	人物	不明
阿部　展也	ドイツの男	c1948
	BEOGRADが	1957
	インド旅行より #76	c1953
	インド旅行より #97	c1953
	「人間」より #5	c1955
	花子 #70	1948
	顔 #32	c1958
	なめくじ夜曲	1947
難波田　史男	デッサン	1960-70年代
田畑　あきら子	作品No.26	1968
	作品No.8	1964-65
	作品No.25	1968

展示室2　花

作家名	作品名	制作年
高間　惣七	パンダの花と青い鳥	1971
小原　稔	サンパンがゆく	1989
安宅　馬雄	椅上の花	1959
熊岡　美彦	薔薇の花	1942
田中　道久	蓮	1939
牧野　虎雄	朝顔	1946
新保　兵次郎	ぱんじい	1953
鷹山　宇一	花	不明
峰村　リツ子	花	不明
児島　善三郎	菊	不明
加山　又造	白い華	1995
番場　春雄	残雪の椿園	1972
大矢　紀	清韻	1994
三輪　晃勢	菖蒲	1980
長井　亮之	（素描より）	不明
目黒　順三郎	彫漆水葵文箱	1989

展示室3　100年前、大正という時代があった

作家名	作品名	制作年
〈全会期〉		
岸田　劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916
萬　鉄五郎	雪の景(土沢)	1915
萬　鉄五郎	木の間風景	1918
北村　四海	空想に耽り居る女	1916
高村　真夫	ラバクール村	1915
坂本　繁二郎	牛	1915
中村　彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
矢部　友衛	習作	1920
高村　真夫	裸婦	1921
満谷　国四郎	裸婦	1923
坂田　一男	椅子による裸婦	1924
安井　曾太郎	京都風景	1924
安宅　安五郎	伊太利亜アッシジ	1922
安宅　安五郎	巴里郊外ムードン	1922
安宅　安五郎	群蝶	1926
牧野　虎雄	麦扱く農婦等	1918
牧野　虎雄	春去らんとす	1925
北村　四海	すみれ	1920
〈前期〉		
村山　槐多	裸婦	1916
深澤　索一	索一自選小品集より　静物	1932(1919初版)
	索一自選小品集より　郊外	1932(1923初版)
	索一自選小品集より　切り通し	1932(1924初版)
	索一自選小品集より　冬日	1932(1924初版)
	索一自選小品集より　洋館	1932(1924初版)
	索一自選小品集より　宇都宮所見	1932(1924初版)
	索一自選小品集より　樹木	1932(1925初版)
	索一自選小品集より　郊外	1932(1926初版)
	索一自選小品集より　冬	1932(1926初版)
〈後期〉		
深澤　索一	灘風景	1924
	代々木風景(版画211)	1925
	早春郊外	1925
	山村暮趣(版画276)	1926
川西　英	《HANGA》第一輯　軽業	1924
平塚　運一	《HANGA》第一輯　夜の女	1924
川上　澄生	《HANGA》第一輯　アラスカウナラスカ港　或る教会堂	1924
深澤　索一	《HANGA》第一輯　冬の郊外	1923
平川　清蔵	《HANGA》第一輯　失題	1924

第２期　2014年６月26日㈭～８月31日㈰（59日間）

前期：６月26日㈭～７月27日㈰
後期：７月29日㈫～８月31日㈰

展示室１　近代美術館の名品
展示室２　レアリスムの東と西
展示室３　古寺大観

レアリスムの東と西

【趣　旨】

「写実主義」という様式は、古今東西の芸術に広く存在してきたといえる。しかし三次元の視覚世界を二次元の画面に合理的に再現するという観点から考えた場合、まずは西洋において発展してきた表現様式が、19世紀後半に一つの完成の域に達し、それが明治維新後の日本に導入されたという歴史の道筋をたどることが可能だろう。

今回の展示では、前半で西洋から日本へと移入されたレアリスムについて紹介し、後半では戦後の日本絵画からさまざまな写実表現を駆使した作品を選んで、レアリスムの多様な展開を示すことを試みた。

【総　括】

●評価すべき点

・最後の章で「もう一つのリアル」と題してシュルレアリスティックな作品を紹介した。写実表現の奥深さを示唆することができた。

・会期が夏期であったため、若年層が多く来館した。学校来館や博物館実習などで、心に残った作品を１点選択する際に、この特集から選ぶ児童・生徒・学生が多く見られた。美術に親しむきっかけとして、レアリスムは良い視点であったといえる。

●検討課題

・説明の文章は、趣旨と章解説のみで、作品ごとの解説はつけなかった。主要な作品には適度な解説があった方が良かったかも知れない。

担当　平石昌子

古寺大観

【趣　旨】

企画展「法隆寺 祈りとかたち」の開催に関連させて、三条市出身で、日本の建築写真の第一人者である渡辺義雄の法隆寺をはじめとする奈良の諸寺を捉えた「古寺大観」の写真を中心に、「伊勢神宮」の写真をあわせて紹介した。

【総　括】

●評価すべき点

・企画展と連動する形で、奈良の古寺の魅力を優れた写真を通して伝えることができた。

●検討課題

・前後期で全点を展示替えするために、点数上、「古寺大観」以外に「伊勢神宮」の写真を含めた構成にしなければならなかった。

担当　澤田佳三

【出品リスト】

展示室1　近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
横山　操	朔原	1959
坂本　繁二郎	牛	1915
萬　鉄五郎	木の間風景	1918
青木　繁	妙義山	1902
藤田　嗣治	私の夢	1947
安井　曾太郎	読書	1942
梅原　龍三郎	紫禁城	1942
佐伯　祐三	広告塔	1927
里見　勝蔵	赤と緑の静物	1928
峰村　リツ子	桜井浜江像	1930
岡　鹿之助	朝の城	1970
佐藤　哲三	帰路	1954
横山　操	炎炎桜島	1956
吉原　治良	静物	1929
斎藤　義重	作品Ⅰ	1957
村井　正誠	ものうり	1958
脇田　和	花・鳥・人	1959
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892
P-E. ランソン	収穫する7人の女性	1895
J. アンソール	シノワズリー	c1920-25
G. ルオー	晩秋No.3	1948-52

ロビー

高村　真夫	春日野	1911

回廊

C. ズベール	V.I.P.	1933
竹田　康宏	Under the leaves	1994

展示室2　レアリスムの東と西

作家名	作品名	制作年	
人と自然へのまなざし－フランスを中心に			
J-B. グルーズ	少女像	18C半ば	*
J-B. グルーズ	ショールをまとった少女	18C半ば	*
J. E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859	
A. エルモア	甘い思い出	19C後半	*
G. クールベ	エトルタ海岸、夕日	1869	
T. ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	c1845	
C. コロー	ビブリ	1874-75	
J. デュプレ	羊飼い	c1883	
A. フォンタネージ	ブジェイ高原	c1858-60	
克明に描く－日本のレアリスム（1）			
〈全会期〉			
小山　正太郎	仙台の桜	1881	
中村　彝	洲崎義郎氏の肖像	1919	
岸田　劉生	冬枯れの道路	1916	
須田　国太郎	三輪附近	1934	
佐藤　哲三	農婦	1940	
〈前期〉			
浅井　忠	農人	1890	
土田　麦僊	蔬菜	1924	*
安井　曾太郎	さるすべり	不明	
〈後期〉			
小山　正太郎	男の肖像	不明	
土田　麦僊	鮭之図	1924	
安井　曾太郎	花	不明	
自然をいつくしむ－日本のレアリスム（2）			
〈全会期〉			
清水　敦次郎	坐禅石（苔寺）	1955	
富川　潤一	浜焼き	1960	
三輪　晃勢	トキ	1963	
村山　径	晨	1969	
小林　大幾	伊豆の七瀧	1976	
小野　末	一峯	1970	
中澤　茂	炎天下に立つ乙女	1972	
三輪　晃久	苑	1974	
長谷部　権次呂	静かな日	1990	
川合　清	秋	1983	
原　雅幸	霧と残雪	1985	
三輪　晃久	明けゆく	1985	
岩下　尊弘	束の間の静寂	1997	
赤穴　宏	壺と仮面	1985	
三芳　悌吉	廃船の中で	1976	
加山　又造	白菜と小鳥	1961	
〈前期〉			
三芳　悌吉	上野不忍池のはす	1985	
三芳　悌吉	ブルーベリー	不明	
〈後期〉			
三芳　悌吉	つるむらさき	不明	
三芳　悌吉	柿・花梨	不明	
もう一つのリアル			
阪本　文男	カッコの入っている静物	1973	
佐善　明	ボブの教え子	1978	
福岡　奉彦	羽音	1993	
金　昌烈	水滴	1974	
高松　次郎	椅子にかけた男の影	1965	*

※*印は寄託作品

展示室3　古寺大観

作家名	作品名	制作年
〈前期〉		
渡辺　義雄	《古寺大観》	1968-69/2001再プリント
	法隆寺 西院伽藍7～8世紀前期	
	法隆寺 金堂（西南面）7世紀中期	
	法隆寺 金堂の下層の雲斗	
	法隆寺 金堂の内部	
	法隆寺 南回廊と中門	
	薬師寺 東塔（西北面）8世紀前期	
	東大寺 南大門の内部構架	
	東大寺 大仏殿の内部18世紀前期	
	東大寺 鐘楼（西面）	
	東大寺 鐘楼の内部構架	
	唐招提寺 金堂の夜景（正面）8世紀後期	
	唐招提寺 講堂の内部の天井	
	元興寺極楽坊 禅室の内部	
	元興寺極楽坊 禅室の内部	
	浄瑠璃寺 本堂（正面）12世紀中期	
	浄瑠璃寺 本堂の内部	
	《伊勢神宮》	
	内宮御正殿北側回廊の大床・高欄と西宝殿	1962
	内宮御正殿北側全景と東宝殿・西宝殿の軒	1962
	内宮御正殿の軒と高欄の飾物	1962
	内宮四重の御垣	1962
	外宮御正殿東側面	1973
	内宮遷宮直後の新旧併存の景	1973
	外宮中重における勅使の祝詞	1973
〈後期〉		
渡辺　義雄	《古寺大観》	1968-69/2001再プリント
	法隆寺 金堂（背面）	
	法隆寺 金堂の内部	
	法隆寺 五重の塔（東北面）	
	法隆寺 南大門より中門・五重の塔を望む	
	法隆寺 東室の内部	
	興福寺 北円堂の宝珠と露盤	
	興福寺 北円堂内部の天井	
	東大寺 南大門（正面）12世紀後期	
	東大寺 大湯屋の釜屋構架	
	東大寺 法華堂の内部	
	東大寺 大湯屋の鉄湯船	
	唐招提寺 金堂内部の天井	
	唐招提寺 金堂内陣	
	当麻寺 東塔（東面）	
	当麻寺 本堂（曼陀羅堂）（正面）12世紀中期	
	当麻寺 本陣の内陣 当麻曼陀羅厨子	
	《伊勢神宮》	
	内宮敷地全景	1962
	内宮古殿地の心の御柱覆屋	1962
	内宮御正殿御階	1962
	内宮御正殿全景（北西側）	1962
	外宮手水舎の柄杓	1962
	内宮御正殿の千木	1963
	内宮宇治橋	1973

第３期　2014年９月４日㈭～11月24日（月・休）（71日間）

前期：９月４日㈭～10月13日（月・祝）
後期：10月15日㈬～11月24日（月・休）

展示室１　さがして、みつけて
展示室２　FACE
展示室３　近代美術館の名品

さがして、みつけて

【趣　旨】

同時期に開催していた企画展「黒井健 絵本原画の世界展」の観覧者に親子連れが多いであろうことを想定し、初心者でも美術鑑賞の楽しさを実感できるような展覧会をめざして企画した。

作品を漠然と見るのではなく、目的や意思を持って注意深く積極的に「観る」ことによって、はじめて「鑑賞」の入口に立てるのではないかと考える。

本展では「探す」ことをテーマに、各作品でパネルによって探す対象を鑑賞者に投げかけた。場合によっては、描かれていないかもしれないものも探すよう投げかけ、作品をじっくりみる機会になるようにした。

また、見つけたものを自分で付箋に書いて貼るボードを設置することにより、観覧者が積極的、能動的に関わることができるだけでなく、一人で鑑賞する人にも他人の意見が目に見える形にすることで少しでも見方が広がるよう工夫した。

【総　括】

●評価すべき点
・同行者同士で楽しそうに話しながら鑑賞する姿が見られ、観覧者の見る楽しみを広げることができた。

●検討課題
・企画展を見終わった後、コレクション展そのものにまわる来館者が少なかった。企画展出口からコレクション展にいざなうための工夫がさらに必要である。

【関連記事】

●新聞
11月11日㈫　新潟日報（ミュージアムへようこそ）
「見」から「観」への一歩／宮下東子

担当　宮下東子

FACE

【趣　旨】

「目は口ほどにものを言う」、「顔色を窺う」――などの言葉があるように、 心の機微が表情として映し出される「顔」は、人の心の動きを表し、見る者に多くのことを語る。また、人の姿かたちを表す肖像においては、外見的な正確さのみならず、内面的な人物像が宿ることも等しく重要視された。中でも特に「顔」は、個人を識別し、その人となりを表す重要なパーツとされてきた。

その人そのものを表していると言っても過言ではない「顔」。「顔」は何を表そうとしているのか、モデルの心情にまで迫るような顔から、不思議な顔まで、多様な作品から紹介する。

【総　括】

●評価すべき点
・当館のコレクションのうち、これまで展示機会が余りなかった作品も含めて紹介することができた。
・牛腸茂雄《SELF AND OTHERS》を一部展示することに併せて、新潟市美術館の「コレクション展Ⅲ　牛腸茂雄展」（８月29日㈮～10月26日㈰）の紹介を行い、「NIIGATAアートリンク」として相互に連携した活動ができた。

●検討課題
・様々な作品を紹介できた一方で散漫な印象になってしまった。もう少しテーマを掘り下げた展示内容にしたい。

担当　伊澤朋美

【出品リスト】

展示室1　さがして、みつけて

作家名	作品名	制作年
下村　良之介	翼	1980
たくさんのものが描かれている　あなたは何をみつけましたか		
篠原　有司男	スパイダーマン	1981
猪爪　彦一	河	1990
橋本　龍美	風之唄	1981
生きものたち		
三芳　悌吉	初夏	1977
3代　本間　琢斎	蠟型鋳銅・釣灯籠	1900
2代　宮田　藍堂	蠟型鋳銅ひねり蓮の余情香炉	1972
野間　仁根	花園の友人	1936
平澤　熊一	草むら	1960年代
工藤　甲人	夜	1963
コレをみつけて！		
猪熊　弦一郎	犬とネクタイ	1991
木村　忠太	桜樹のある村	1984
小島　丹漾	待つ	1965
小原　稔	棚	1975
三芳　悌吉	オルガンの上	1977
三浦　文治	越前国勝山町左義長祭り	不明

展示室2　FACE

作家名	作品名	制作年
肖像に見る顔		
〈全会期〉		
J-E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892
小山　正太郎	男の肖像	不明
小山　正太郎	婦人像	1891
佐藤　哲三郎	鍵富三作像	不明
武石　弘三郎	母	1917
中村　彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
國領　經郎	女医さん	1947
國領　經郎	千原氏像	1948
峰村　リツ子	桜井浜江像	1930
峰村　リツ子	Y氏像	1929
瀧川　毘堂	親鸞	1970
〈前期〉		
E. ドラートル	ユイスマンスの肖像	1894
O. ココシュカ	自画像　製図用鉛筆を持つ胸像	1914
	嘆願する女	1914
E. キルヒナー	アブサロムと顧問官	1918
A. デューラー	ウルリッヒ・ファルンビューラーの肖像	1522
〈後期〉		
F. ヴァロットン	エドガー・ポーの肖像	1894
K. コルヴィッツ	自画像	1904
E. キルヒナー	ドルリー	1917
偉人たちの横顔―学芸諸家		
〈前期〉		
濱谷　浩	學藝諸家　高村光太郎　詩人、彫刻家	1949
	學藝諸家　浜田庄司　陶芸家	1951
	學藝諸家　金田一京介　言語学者　国語学者	1954
	學藝諸家　高浜虚子　俳人	1946
	學藝諸家　瀧口修造　詩人	1937
	學藝諸家　伊藤整　作家、評論家、詩人	1954
	學藝諸家　小林秀雄　評論家	1955
	學藝諸家　正宗白鳥　作家	1959
	學藝諸家　巌本真理　ヴァイオリン奏者	1951
	學藝諸家　内田百閒　随筆家　作家	1954
〈後期〉		
濱谷　浩	學藝諸家　福田平八郎　日本画家	1951
	學藝諸家　前田青邨　日本画家	1953
	學藝諸家　柳田国男　民俗学者	1952
	學藝諸家　谷崎潤一郎　作家	1954
	學藝諸家　折口信夫　歌人、国文学者	1952
	學藝諸家　佐藤春夫　作家、詩人	1955
	學藝諸家　滝沢修　新劇俳優	1952
	學藝諸家　檀一雄　作家	1956
	學藝諸家　大岡昇平　作家	1953
	學藝諸家　永井荷風　作家	1954
SELF AND OTHERS		
〈前期〉		
牛腸　茂雄	SELF AND OTHERS	1977
	少女(「アトリエ・ブロック」(明大前)にて)	
	双子の少年	
	松岡功氏(桑沢デザイン研究所の友人)	
	母・牛腸春江	
〈後期〉		
牛腸　茂雄	SELF AND OTHERS	1977
	少年(アトリエ・ブロック)	
	双子の少女	
	高松翼氏(桑沢デザイン研究所の友人)	
	父・牛腸寅平	
顔はかたる		
〈全会期〉		
北村　四海	すみれ	1920
細野　稔人	鳥と少女	1976
千野　茂	F嬢	1970
F. ボテロ	頭像	1989
岡本　太郎	顔	1965
C. ズベール	V.I.P.	1993
M. エルンスト	鳥＝人頭	1934-35
阿部　展也	太郎	1949
阿部　展也	作品	1949
阿部　展也	人間	1955
倉石　隆	家系譜	1970
〈前期〉		
J.ティソ	夏の夕べ	1882
〈後期〉		
J. ティソ	野心を抱く女	1885
第16回亀倉雄策賞展　関連展示		
亀倉　雄策	ヒロシマアピールズ　1983	1983

展示室3　近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
〈全会期〉		
田淵 安一	輪舞	1961
脇田 和	あらそい	1955
吉原 治良	静物	1929
北川 民次	大地	1939
佐伯 祐三	広告塔	1927
萬 鉄五郎	木の間風景	1918
岸田 劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916
小山 正太郎	仙台の桜	1881
J. アンソール	シノワズリー	c1920-25
C. トロワイヨン	りんごの取り入れ	c1840
A. ロダン	疲れ	1887
北村 四海	女性立像	1926
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873
〈前期〉		
A. デューラー	黙示録 初版扉絵 ヨハネの殉教	1498(1511刊行)
	黙示録 第2図 神の玉座を囲む二十四人の長老	1498(1511刊行)
	黙示録 第10図 聖ミカエル、竜を倒す	1498(1511刊行)
	黙示録 第14図 深淵の鍵をもつ天使と新しきエルサレム	1498(1511刊行)
	メレンコリアⅠ	1514
	大受難伝：第3葉オリーブ山上のキリスト	1497-1500 (1511刊行)
	大受難伝：第4葉キリスト捕縛	1510(1511刊行)
〈後期〉		
A. デューラー	黙示録 扉絵 聖母子を仰ぎ見るヨハネ	1511
	黙示録 第1図 七つの燭台を見るヨハネ	1498(1511刊行)
	黙示録 第3図 四人の騎者	1498(1511刊行)
	黙示録 第8図 書物を食べるヨハネ	1498(1511刊行)
	黙示録 第9図 太陽の女性と七頭の竜	1498(1511刊行)
	黙示録 第13図 バビロンの娼婦	1498(1511刊行)
	6つの組紐文：第6葉 7つの同じ網目文様のある組紐文	1505−07

ロビー

牧野　虎雄	秋近き濱	1934

回廊

竹田　康宏	Under the leaves	1994

第４期　2015年１月４日㈰～３月１日㈰（49日間）

前期：１月４日㈰～２月１日㈰
後期：２月３日㈫～３月１日㈰

展示室１　郷土に残る小山正太郎と不同舎の画家たち
展示室２　近代美術館の名品
展示室３　こどものせかい

郷土に残る小山正太郎と不同舎の画家たち

【趣　旨】

平成25年度寄贈された新収蔵の小山正太郎《牧童図》、高村真夫《女》を紹介するため、小山と不同舎の画家たちの所蔵作品および、県内にありながらもあまり知られていない不同舎の画家たちの作品を併せて展示することにより、郷土ゆかりの小山と県出身の不同舎の画家たちを浮かび上がらせる。

【総　括】

●評価すべき点
・郷土ゆかりの画家たちの作品をまとめて鑑賞する機会を作ることができ、画家、作品への認識を新たにすることができた。また郷土へ視線を向けることができた。
・新出の作品も発見でき、また、不詳であった作品の画題や出品歴が判明したりし、学芸員としての調査・研究の姿を成すことができた。特に田中本吉については、詳しく知られていなかったが、調査がまとまり、生涯や作品を研究紀要にまとめることができた。

●検討課題
・常設展全般にわたる問題だが、どのように周知し、多くの県民が利用する状況を作るかということが大きな課題と考える。

【関連記事】

●新聞
1月13日㈫　新潟日報
展覧会へようこそ　郷土に残る小山正太郎と不同舎の画家たち／松矢国憲
その他　長岡新聞（1/22）

担当　松矢国憲

こどものせかい

【趣　旨】

「語り合いながら自由にお話を描き、見ることの楽しさを見つけてほしい」と願って企画したものである。対話をしながら鑑賞できる作品を子どもの目線で選び、展示した。第１章「どうやって描いたのかな」、第２章「どんな音・声が聞こえるかな」、第３章「こころをのぞくと…」、第４章「からだでかんしょう」という４部構成とした。そして、鑑賞の手がかりとなる視点「どんなお話聞こえる？」等をキャプションとして設置した。展示室出口には「体験コーナー」を設置し、表現の楽しさも味わえるようにした。

【総　括】

●評価すべき点
・「対話しながら鑑賞できるコーナー」の設置により、来館者が互いの解釈に心を傾け、気付きを深める鑑賞が実現した。
・団体来館する学校に対して、対話型鑑賞を積極的に提案し実施した。地域の小学生が「子ども学芸員」として、作品への思いを来館者に伝える活動も行われた。
・鑑賞後に体験コーナーで絵を描くことを楽しむ姿もあり、鑑賞と表現をつなげて楽しむコーナーとなった。

●検討課題
・子どもや家族をターゲットとした展覧会を行うにあたり、地域・学校のニーズを踏まえ、さらに連携協働を深める必要がある。子どもたちに育みたい能力や資質を明確にし、子どもの姿をもとに客観的な評価を積み重ねていくことが重要である。

担当　佐藤久美子
青木善治

【出品リスト】

展示室1　郷土に残る小山正太郎と不同舎の画家たち

作家名	作品名	制作年	所蔵先(空欄は当館蔵)
安田 稔	国士の俤	1937	長岡市中之島文化センター
小山 正太郎	一樹花十字詩図	1908	
	障子貼り図	1908	
	牧童図	1912	★
	牧童図	不明	
	中等臨画	1900	
	男の肖像	c1883	
	婦人像	1891	
	仙台の桜	1881	
田中 本吉	小山正太郎筆(仙台の桜)模写	1894	個人
	釜戸	1888	個人
	農家ノ夜業	1897	長岡市立山谷沢小学校
	農夫	不明	長岡市立山谷沢小学校
中村 不折	卓峰送別図(五幅)	c1890	個人
下村 為山	卓峰送別図(三幅)	c1890	個人
田中 本吉	スケッチブック5冊	1919-1933	個人
	「諸家折帖」	不明	
	「卓峰居士古稀記念帖」 上巻	c1931	個人
	「卓峰居士古稀記念帖」 下巻	c1931	個人
中村 不折	古稀記念帖	c1930	個人
田中 本吉	木曽乃山路の図	不明	個人
	風景	1906	長岡市立中央図書館
	風景(七ツ釜)	1932	個人
	風景	1932	長岡市立中央図書館
	風景	昭和初期	個人
	妙義山	不明	個人
	飛騨国中山七里ノ中	1921	個人
	伊豆修善寺	不明	個人
小泉 成一	小春ノ日和	1889	
三輪 大次郎	菊図	不明	長岡市立与板小学校
	農具	不明	新潟県立加茂農林高校
	苺	不明	
	睡蓮の沼	不明	
	高原の朝	不明	
	米を洗う女	不明	
	秋の森	不明	
青木 繁	妙義山	1902	
坂本 繁二郎	牛	1915	
満谷 国四郎	裸婦	1923	
高村 真夫	春日野	1911	
	ラバクール村	c1915	
	裸婦	1921	
	女	昭和初期	★
	河井継之助の肖像	1935	長岡高校記念資料館
	山本五十六元帥像	1944	長岡高校記念資料館
	諏訪堂の老杉	1951	長岡高校記念資料館

展示室２　近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年	
【全会期】			
岸田　劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916	
萬　鉄五郎	雪の景(土沢)	1915	
萬　鉄五郎	木の間風景	1918	
坂田　一男	椅子による裸婦	1924	
前田　寛治	赤い帽子の女	1925	
佐伯　祐三	広告塔	1927	
佐伯　祐三	パンテオン寺院	1928	
里見　勝蔵	赤と緑の静物	1928	
小出　楢重	ソファーの裸体B	1930	
鳥海　青児	ベルリン風景	c1930	
長谷川　利行	風景	1931	
須田　国太郎	三輪附近	1934	
吉原　治良	静物	1929	
吉原　治良	作品	1935	
矢部　友衛	習作	1920	
牧野　虎雄	麦扱く農婦等	1918	
牧野　虎雄	柿	不明	
安宅　安五郎	水泳	1940	
安宅　安五郎	姉弟	1931	
相馬　其一	雪景色	1934	
峰村　リツ子	日本橋風景	1929	
竹谷　富士雄	壺つくりの女	1940	
富樫　寅平	街	1930年代前半	★
佐藤　哲三	郵便脚夫宮下君	1931	
佐藤　哲三	風景	c1953	
T. ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	c1845	
C-F. ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869	
C. コロー	ビブリ	1874-75	
C. ピサロ	ルヴシエンヌの画家の家、雪	1871	＊
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873	
P. セザンヌ	水浴	1875-77	＊
J. デュプレ	羊飼い	1883	
P. =E. ランソン	収穫する7人の女性	1895	
M. ドニ	ベンガル虎、バッカス祭	1920	
R. デュフィ	オーケストラ	1949	＊
竹田　康宏	Under the leaves	1994	
堀　政晴	鋳分花器「彩」	1997	
【前期】			
D. ホックニー	バラード	1981	★
【後期】			
D. ホックニー	バラード(フランス作曲家三部作)	1981-82	★

ロビー

仲山　計介	光彩図	1996	★

展示室３　こどものせかい

作家名	作品名	制作年	
第１章　「どうやって かいたのかな？」			
白髪 一雄	志賀＃107	1973	
白髪 一雄	白色のひろがり	1965	＊
李 禹煥	コレスポンダンセ	1993	
元永 定正	作品	1965	＊
第２章　「どんな音・声がきこえるかな？」			
野間 仁根	花園の友人	1936	
加山 又造	月と駱駝	1957	
牧野 虎雄	秋近き濱	1934	
小島 丹漾	河口暮色	1956	
第３章　「こころをのぞくと…」			
藤田 嗣治	私の夢	1947	
北川 民次	大地	1939	
岡本 太郎	顔	1965	
ケーテ・コルヴィッツ	母と二人の子	1932-36	
第４章　「からだでかんしょう」			
岡本 信治郎	10人のインディアン	1964	＊
岡本 信治郎	10人のインディアン	1964	＊
岡本 信治郎	10人のインディアン	1964	＊
脇田 和	あらそい	1955	
オーギュスト・ロダン	考える人	1880	

※★は平成25年度新収蔵作品。＊は寄託作品

第５期　2015年３月４日㈬～４月12日㈰（35日間）

展示室１　所蔵品に見る「書」
展示室２　近代美術館の名品
展示室３　富士詣考

所蔵品に見る「書」

【趣　旨】

新潟県の書人である良寛や巻菱湖の手による江戸後期以降の書作品を時代で区切り、各時代の書の姿を紹介する。

【総　括】

●評価すべき点

・所蔵品の書について、時代を追って展示することができ、近代書史の一端を紹介できた。また、当館の書の収集方向を示すことができた。

●検討課題

・常設展全般にわたる問題だが、どのように周知し、多くの県民が利用する状況を作るかということが大きな課題と考える。その中で、美術以上に書について、どれだけ関心、興味を持ってもらえるか、日本人としての大きな課題でもあろう。

担当　松矢国憲

富士詣考

【趣　旨】

富士山に対する日本人の思い入れは強い。それは富士山が自然遺産ではなく、文化遺産として登録された理由でもある。富士山は「信仰の対象」であると同時に、「芸術の源泉」でもあった。とは言え、富士山は名所だからという理由だけで、描かれたわけではない。むしろ、シンプルな形だからこそ、表現者の力量が問われる主題でもあった。富士山がいつの時代でも美術作家を魅了するのは、富士山の持つ美しさ以上の何かを、表現することができるかということを、試されているからでもある。本展では美術作家がどのように富士山に挑んだかを、当館所蔵作品の日本画、洋画、写真等の多分野で紹介した。

【総　括】

●評価すべき点

・多分野からの展示になったが、所蔵作品を富士山に限ったことにより、展覧会の主題が明確になり、統一感のある展示となった。

・単に作品を展示するのではなく、通常の作品解説のほかに、作品が描かれた場所の解説や、描かれた当時と現在の違いなども紹介し、より興味をもてるような作品解説キャプションとしたことで、解説に広がりがもてた。

・通常、単独では展示しにくい小品の油彩作品や版画作品など紹介することができた。

●検討課題

・「富士」という主題は当館でも所蔵作品が限られており、第２弾の企画がたてにくく、一回限りの展示になりやすい。

担当　藤田裕彦

【出品リスト】

展示室１　所蔵品に見る書

作家名	作品名	制作年
石橋　犀水	中原逐鹿	1987
巻　菱湖	漢詩	江戸時代
熊沢　蕃山	漢詩	江戸時代
亀田　鵬斎	漢詩	江戸時代
亀田　鵬斎	漢詩	江戸時代
巻　菱湖	三国志抄	1830
良寛	なすずけ	江戸時代
良寛	和歌一首	c1821
館　柳湾	漢詩	江戸時代
大沼　沈山	漢詩	江戸時代
日下部　鳴鶴	漢詩	不明
前田　黙鳳	漢詩	不明
東郷　平八郎	対句	明治期
増村　朴斎	漢詩	1939
會津　八一	対句	c1953
會津　八一	和歌	c1952
相馬　御風	和歌	不明
山田　正平	谷神不死	1959
井上　有一	陶潛詩飲酒	1953
井上　有一	αNo.３５	1954
江口　草玄	作品No.６	1955
江口　草玄	窟	1956
江口　草玄	行けども荒野	1984
中村　木子	曠達	昭和20年代中頃　（個人蔵）
中村　木子	作品Ｃ	昭和30年代中頃　（個人蔵）
中村　木子	作品	昭和30年代中頃　（個人蔵）
比田井　南谷	作品25	1956
比田井　南谷	作品64-25	1964
弦巻　松蔭	渓山好画図	1971
高須　翠雲	漢文	1989
江川　蒼竹	漢武帝詩秋風辞	1977
竹内　臨川	処静観動	1973
古川　悟	松竹梅	1977
三浦　康廣	観自	1986

展示室２　近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年	
岸田　劉生	冬枯れの道路（原宿附近写生）	1916	
萬　鉄五郎	雪の景（土沢）	1915	
萬　鉄五郎	木の間風景	1918	
坂田　一男	椅子による裸婦	1924	
前田　寛治	赤い帽子の女	1925	
佐伯　祐三	広告塔	1927	
佐伯　祐三	パンテオン寺院	1928	
里見　勝蔵	赤と緑の静物	1928	
小出　楢重	ソファーの裸体B	1930	
鳥海　青児	ベルリン風景	c1930	
長谷川　利行	風景	1931	
須田　国太郎	三輪附近	1934	
吉原　治良	静物	1929	
吉原　治良	作品	1935	
矢部　友衛	習作	1920	
牧野　虎雄	麦扱く農婦等	1918	
牧野　虎雄	柿	不明	
安宅　安五郎	水泳	1940	
安宅　安五郎	姉弟	1931	
相馬　其一	雪景色	1934	
峰村　リツ子	日本橋風景	1929	
竹谷　富士雄	壺つくりの女	1940	
富樫　寅平	街	1930年代前半	★
佐藤　哲三	郵便脚夫宮下君	1931	
佐藤　哲三	風景	c1953	
T. ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	c1845	
C-F. ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869	
C. コロー	ビブリ	1874-75	
C. ピサロ	ルヴシエンヌの画家の家、雪	1871	＊
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873	
P. セザンヌ	水浴	1875-77	＊
J. デュブレ	羊飼い	1883	
P. =E. ランソン	収穫する７人の女性	1895	
M. ドニ	ベンガル虎、バッカス祭	1920	
R. デュフィ	オーケストラ	1949	＊
D. ホックニー	イーゴル・ストラヴィンスキー	1981	
竹田　康宏	Under the leaves	1994	
堀　政晴	鋳分花器「彩」	1997	

展示室３　富士詣考

作家名	作品名	制作年
梅原　龍三郎	富士山	1949
横山　操	富士	1960
横山　操	『中央公論』表紙絵　1966年１月号「富士山」	1966
横山　操	『中央公論』表紙絵　1967年１月号「暁富士」	1967
横山　操	伊豆	1964
歌川　広重	『東海道五十三次』より　川崎・六郷渡船	1833
歌川　広重	『東海道五十三次』より　平塚・縄手道	1833
歌川　広重	『東海道五十三次』より　箱根・湖水図	1833
歌川　広重	『東海道五十三次』より　原・朝之富士	1833
歌川　広重	『東海道五十三次』より　吉原・左富士	1833
歌川　広重	『東海道五十三次』より　由井・薩捶嶺	1833
歌川　広重	『東海道五十三次』より　舞阪・今切真景	1833
葛飾　北斎	『冨嶽三十六景之内』　遠江山中	1831-33
岡田　紅陽	朝の富士山（パノラマ台）	1930
岡田　紅陽	湖畔の春（本栖湖）	1935
岡田　紅陽	浅春（七面山）	1936
岡田　紅陽	湖心清澄　河口湖	1938
岡田　紅陽	暮色　精進湖	1938
岡田　紅陽	富士山（航空）	1954
岡田　紅陽	朝靄の彼方　乾徳山	1942
岡田　紅陽	神韻霊峰（七面山）	1943
岡田　紅陽	冬の農村（忍野）	1943
岡田　紅陽	黒富士（三ツ峠）	1943
堺　時雄	不詳（富士山）	c1934
堺　時雄	不詳（富士山）	c1934
田崎　広助	箱根の富士	不明
深澤　索一	新日本百景　裏富士	1939
富岡　惣一郎	富士雪景	不明
仲條　正義	仲条のフジのヤマイ　（３点）	2002
前田　常作	須弥山富士の図／須弥山マチャプチャリの図	1974

ロビー

仲山　計介	光彩図	1996	★

※★は平成25年度新収蔵作品。＊は寄託作品

企　画　展

生誕120年　岩田正巳展
新興大和絵、その清澄なる世界

【趣　旨】

現在の三条市に生まれた日本画家・岩田正巳（1893～1988）は松岡映丘に師事し、「新興大和絵会」（大正10年）、「国画院」（昭和10年）を結成する一方、官展にも出品、戦後はほぼ毎年日展に出品を続け、温雅で格調高い画風を確立した。本展では、正巳の代表作を県内外から可能な限り集め、師・映丘や山口蓬春ら関連作家の作品も併せて紹介することで、「新興大和絵運動」における正巳の位置づけにも光を当てた。

【総　括】

●評価すべき点

・戦前期に比重を置いた初の本格的な回顧展を実現し、かつ資料的価値の高い図録を作成できた。

・三条市や民間の識者等と連携しながら作品調査を進めることができた。

●検討課題

・県内で同一作家の展示が相次ぎ、県内主要メディアに広報の働きかけを行ったが十分な協力が得られなかったこともあり、目標の入場者数には遠く及ばなかった。当館として自主企画展を続けていくために、広報戦略の練り直しが必要。

・所在をつき止められなかった戦前作品が多数あり、今後の作家研究が必要。

【開催日・その他】

=2014年4月1日㈫～4月13日㈰（12日間）=

※全体会期は3月1日㈯～4月13日㈰（38日間）

主　催：新潟県立近代美術館

後　援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ･シィ･ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、FMながおか80.7、燕三条エフエム放送㈱

協　力：三条市、三条市歴史民俗産業資料館、三條新聞社

観覧料：一般……1,000円（800円）

大学・高校生……800円（600円）

※中学生以下無料

※（　）内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金

【関連行事】

・美術鑑賞講座

「『新興大和絵』の時代」

3月22日㈯　14:00～　講堂

講　師：長嶋圭哉（当館主任学芸員）

参加者数：42名

・映画鑑賞会

「せたがや文化人･人と風土 岩田正巳」

3月29日㈯　14:00～　講堂

参加者数：9名

・作品解説会

3月2日㈰／3月9日㈰／3月23日㈰／4月6日㈰

参加者数：20名／10名／10名／10名

【図　録】

仕　様：A４判変形（28.0×22.5㎝）　本文151頁
編　集：新潟県立近代美術館
発　行：新潟県立近代美術館
内　容：ごあいさつ
謝辞
むかしのものを描いても、生きたものをかきたい―岩田正巳の人と作品／長嶋圭哉
図版
第１章　画家をめざして
第２章　新興大和絵会の時代
―風景との出会い
第３章　官展での活躍
―歴史画家としてのあゆみ
第４章　戦後・独自の展開
参考図版（戦前期の美術雑誌等に掲載された岩田正巳作品）
新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵 岩田正巳大下絵一覧
岩田正巳関連写真
年譜
参考文献一覧
自伝「雪をふんで」
出品目録

【関連記事】

●新聞
12月19日㈭　三條新聞
特集記事（《大和路の西行》搬出）
３月１日㈯　三條新聞
特集記事（開場式）
３月14日㈮　新潟日報
ミュージアムへようこそ／長嶋圭哉

その他　みつけ新聞（2/20㈭）
十日町新聞（2/20㈭）
妻有新聞（2/21㈮）
栃尾タイムス（2/15㈯）
長岡新聞（2/18㈫、3/11㈫）
越南タイムズ（3/6㈭）
新潟日報（3/11㈫）

●テレビ
３月30日㈰　NHK Eテレ
日曜美術館　アートシーン

●ラジオ
３月27日㈭　FM－NIIGATA
サウンドスプラッシュ auプラチナ・スポットセレクション

【観覧者数】

※4/1～4/13

有料観覧者数	当日	806
	前売	68
無料観覧者数	招待	635
	無料	33
	免除	69
総観覧者数		1,611
有料率（%）		54.2

※全会期

有料観覧者数	当日	2,277
	前売	204
無料観覧者数	招待	1,294
	無料	142
	免除	245
総観覧者数		4,162
有料率（%）		59.6

担当　長嶋圭哉

※本展の展示図面及び出品リストは、平成25年度版年報を参照のこと。

生誕120年　宮芳平展
野の花として生くる。

【趣　旨】

新潟県魚沼出身の洋画家宮芳平の生誕120年を記念し開催した。芳平は、東京美術学校在学中、第８回文展に出品するが落選。落選理由を森鷗外に訪ねたことから二人の交流がはじまり、鷗外の短編小説「天寵」の主人公M君となった画家である。貧しい生活の中、制作を続け、65歳で退職するまで教職を務めながら、自然を対象に主観的風景画を描き続けた生涯を油彩画、素描、銅版画、ペン画などにより回顧した。

【総　括】

●評価すべき点

・郷土作家の全貌を示す展覧会を全国５会場で行うことができ、地元だけでなく全国的に知名度を上げることに貢献できた。

・他４館との共同企画の中で、積極的に参画し、展示内容や図録の編集など、当館の意向を具現化することができた。

●検討課題

・郷土の無名の作家に対する一般の人々の興味は薄く、純粋な芸術に対する興味、関心は近年さらに低下していると思われる。話題性だけの展覧会にしか足を運ばない人々の動向は、今後加速し、純粋な芸術は廃れていくのだろう。記録のための美術館としての機能は、採算性にかかわらず、重要となっていくと思われる。

【開催日・その他】

=2014年４月26日㈯～６月１日㈰（32日間）=

主　催：新潟県立近代美術館　読売新聞社　美術館連絡協議会　TeNYテレビ新潟

協　賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン・日本興亜損保

協　力：日本通運

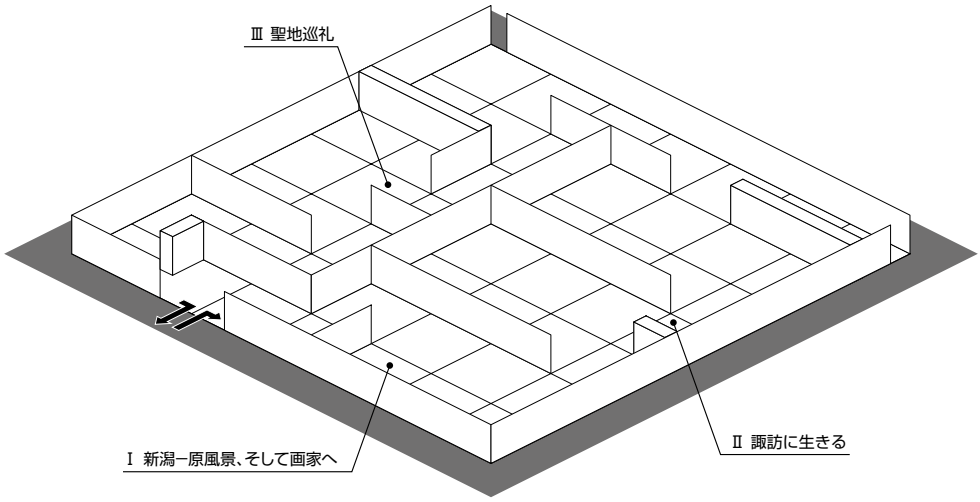
後　援：長岡市、柏崎市、魚沼市、長岡市教育委員会、柏崎市教育委員会、魚沼市教育委員会、新潟県小学校長会・中学校長会・特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7

観覧料：一般……900円（700円）
大学・高校生……700円（500円）
※中学生以下は無料
※（　）内は有料20名以上の団体料金

【関連行事】

・美術鑑賞講座
「宮芳平の生涯と作品」
５月10日㈯　14：00～　講堂
講　師：松矢国憲（当館専門学芸員）
参加者数：17名

・作品解説会
４月27日㈰／５月４日㈰／11日㈰／18日㈰／25日㈰／６月１日㈰　14：00～
参加者数：12名／７名／８名／８名／10名／11名



【図録（画文集）】

仕　様：B5判　208頁
編　集：前田忠史（茅野市美術館）、野地耕一郎（練馬区立美術館）、左近充直美（島根県立石見美術館）、松矢国憲（新潟県立近代美術館）、澤田龍太郎（安曇野市豊科近代美術館）
発　行：株式会社求龍堂
内　容：はじめに　澤田龍太郎
吾れ、ミレーにならん。――明治期におけるミレー・イメージの一断面として／野地耕一郎
Ⅰ章　新潟――原風景、そして画家へ
森鷗外の小説『天寵』の画家／左近充直美
宮芳平と柏崎／松矢国憲
ペン画
Ⅱ章　諏訪に生きる
宮芳平が諏訪で育み、残したもの／前田忠史
Ⅲ章　信仰と巡礼
聖地巡礼／松矢国憲
素描
『AYUMI』
年譜
文献目録
作品目録

【関連記事】

●新聞

平成25年

10月８日㈫　新潟日報

画家宮芳平（魚沼出身）　内面見つめ描いた生涯

平成26年

４月21日㈪　新潟日報

先人のふるさと　揺籃の地を訪ねて26 鷗外に愛された「天寵」

５月５日㈪　新潟日報

ミュージアムへようこそ　宮芳平展／松矢国憲

５月９日㈮　柏崎時報

原点としての「柏崎」濃厚に

５月10日㈯　信濃毎日新聞

旧諏訪高女で長年指導　画家・宮芳平生誕120年展

〈連載〉

読売新聞（新潟版）「生誕120年　宮芳平展」

松矢国憲（5/16、17、20）

その他　栃尾タイムス（5/5）

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	1,037
	前売	－
無料観覧者数	招待	731
	無料	187
	免除	328
総観覧者数		2,283
有料率（%）		45.4

担当　松矢国憲

【出品リスト】

№.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先
1	小さな赤い鉄橋	1912頃	油彩・カンヴァス	17.6×12.4	安曇野市豊科近代美術館
2	自画像	1914	油彩・板	30.5×23.1	安曇野市豊科近代美術館
3	庭の花々	1914	油彩・カンヴァス	60.5×73.0	新潟県柏崎市立比角小学校
4	「カーテンに」下絵	1914	クレヨン・紙	64.8×49.7	安曇野市豊科近代美術館
5	カーテンに	1914	油彩・カンヴァス	74.5×53.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
6	椿	1914	油彩・カンヴァス	209.0×126.0	安曇野市豊科近代美術館
7	ガウンをまとった女	1915	油彩・カンヴァス	91.0×65.2	安曇野市豊科近代美術館
8	歌	1915	油彩・カンヴァス	106.0×66.6	文京区立森鷗外記念館
9	落ちたる楽人	1916	油彩・カンヴァス	66.6×121.6	文京区立森鷗外記念館
10	落日の嘆美	1916	油彩・カンヴァス	117.0×63.5	練馬区立美術館
11	自画像	1916	油彩・カルトン	45.5×37.5	練馬区立美術館
12	聖夜	1916	パステル・カンヴァス	31.4×71.3	安曇野市豊科近代美術館
13	聖夜	1916	油彩・カンヴァス	121.0×121.0	練馬区立美術館
14	無題	1917	コンテ、水彩・紙	173.6×47.5	練馬区立美術館
15	若きLの像	1917	油彩・カンヴァス	71.3×60.3	練馬区立美術館
16	ドント・オープン	大正中期	パステル・紙	134.8×171.8	新潟県立近代美術館・万代島美術館
17	自画像	1919頃	油彩・カンヴァス	39.2×32.0	安曇野市豊科近代美術館
18	風景(魚野川)	不明	油彩・カンヴァス	40.5×52.7	安曇野市豊科近代美術館
19	別荘の戸口	1919	油彩・カンヴァス	53.7×45.8	安曇野市豊科近代美術館
20	風景(原っぱ)	1919-1920	油彩・カンヴァス	40.6×51.6	安曇野市豊科近代美術館
21	木立	不明	油彩・カンヴァス	52.0×40.5	安曇野市豊科近代美術館
22	庭の木下道	1922	油彩・紙	31.4×31.0	安曇野市豊科近代美術館
23	平塚風景(麦畑)	1922頃	油彩・カンヴァスボード	23.7×32.8	安曇野市豊科近代美術館
24	平塚の別荘の庭	1922頃	油彩・紙	41.6×35.4	安曇野市豊科近代美術館
25	風景(上諏訪)	1922頃	油彩・カンヴァス	27.1×31.8	安曇野市豊科近代美術館
26	風景(工場)	1923	油彩・カンヴァスボード	44.6×51.6	安曇野市豊科近代美術館
27	砂丘(平塚)	1923	油彩・紙	28.2×35.5	安曇野市豊科近代美術館
28	乳母車	1923	油彩・カンヴァス	72.8×90.7	公益社団法人諏訪教育会
29	風景(繭倉)	1923頃	油彩・カンヴァス	45.5×52.5	安曇野市豊科近代美術館
30	自画像	1924	油彩・カンヴァス	72.4×60.5	安曇野市豊科近代美術館
31	花散りし頃	1924	油彩・紙	32.7×23.7	安曇野市豊科近代美術館
32	諏訪風景	1925	油彩・カンヴァス	73.2×61.0	安曇野市豊科近代美術館
33	静物(果物とポット)	1928	油彩・カンヴァスボード	23.7×32.9	安曇野市豊科近代美術館
34	静物(バイオリンと帽子)	1928	油彩・カンヴァス	45.5×53.2	安曇野市豊科近代美術館
35	人形	1929	油彩・カンヴァス	35.7×34.7	柏崎ふるさと人物館
36	無限に生きるものとして一歩一歩を計画せ	1930	油彩・カンヴァス	33.3×41.1	個人
37	諏訪湖(立石より)	1930	油彩・カンヴァス	32.3×41.1	安曇野市豊科近代美術館
38	欅	1930	油彩・カンヴァス	50.4×65.4	長野県諏訪二葉高等学校
39	澄子像(赤い着物)	1931	油彩・カンヴァス	72.8×60.6	安曇野市豊科近代美術館
40	妻像	1933頃	油彩・カンヴァス	45.0×44.9	安曇野市豊科近代美術館
41	曇りの湖	1935	油彩・カンヴァス	38.0×45.5	安曇野市豊科近代美術館
42	清里風景	1935	油彩・カンヴァス	38.0×45.3	安曇野市豊科近代美術館
43	山	1937	油彩・カンヴァス	72.7×90.9	茅野市美術館
44	冬枯れ(晩秋)	1937	油彩・カンヴァス	72.7×90.9	茅野市美術館
45	茜さす山	1937	油彩・カンヴァス	101.5×101.0	長野県諏訪二葉高等学校
46	幸子像	1938頃	油彩・カンヴァス	90.7×72.8	安曇野市豊科近代美術館
47	山晴る	1941	油彩・カンヴァス	53.4×133.0	少林山　頼岳寺
48	妻	1941頃	油彩・板	33.0×24.0	安曇野市豊科近代美術館
49	あやめの庭	1945頃	油彩・板	45.5×52.5	安曇野市豊科近代美術館
50	荒土を耕す(旧題「秋」)	1940-1947頃	油彩・カンヴァス	72.5×116.5	ホテル鷲乃湯
51	雪解くる頃	1942-1949	油彩・カンヴァス	80.8×116.8	長野県岡谷東高等学校
52	八島	1949	油彩・カンヴァス	56.6×161.0	長野県諏訪二葉高等学校
53	澄子像(白)	1949頃	油彩・カンヴァス	45.5×45.8	安曇野市豊科近代美術館
54	静物(リンゴその他)	1950頃	油彩・カンヴァス	32.2×41.0	安曇野市豊科近代美術館
55	自画像	1950頃	油彩・紙	29.6×25.5	安曇野市豊科近代美術館
56	少女像(紫)	1951頃	油彩・カンヴァス	29.5×39.3	安曇野市豊科近代美術館
57	白馬	1952-1954	油彩・カンヴァス	65.5×80.5	安曇野市豊科近代美術館
58	旧校舎　美術室の一隅より	1954	パステル、コンテ・紙	27.0×24.0	長野県諏訪二葉高等学校
59	母と子　その1	1954	油彩・カンヴァス	104.0×104.0	茅野市美術館
60	母と子　その2	1954	油彩・カンヴァス	90.0×90.4	茅野市美術館
61	校庭の秋	1955	油彩・カンヴァス	45.5×53.0	個人
62	枯れた花(遺品)	1955頃	油彩・カンヴァス	72.8×60.6	安曇野市豊科近代美術館
63	山浦の初夏	1955	油彩・板	45.5×37.6	安曇野市豊科近代美術館
64	りんごの木	1955	油彩・紙	14.8×32.5	安曇野市豊科近代美術館
65	風景　その28　月の映る湖	1955	油彩・カンヴァスボード	31.7×40.5	安曇野市豊科近代美術館

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先
66	風景(富士見にて)　その5	1955	油彩・カンヴァスボード	37.9×45.4	安曇野市豊科近代美術館
67	牡丹	1956	油彩・紙	38.3×53.5	安曇野市豊科近代美術館
68	風景　その２０	1955(1963加筆)	油彩・カンヴァスボード	31.7×40.7	個人
69	果物と野菜　その2	1955(1963加筆)	油彩・カンヴァスボード	31.5×40.5	個人
70	静物(黄色い皿と果物)　その4	1955	油彩・板	24.2×33.0	個人
71	雪後	1956頃	油彩・カンヴァスボード	61.3×72.7	安曇野市豊科近代美術館
72	花園に花満つる	1956	油彩・紙	50.5×60.5	安曇野市豊科近代美術館
73	ギターを持つ少女	1956	油彩・カンヴァス	60.5×50.0	安曇野市豊科近代美術館
74	山から帰った娘	1956	油彩・カンヴァス	50.5×65.5	安曇野市豊科近代美術館
75	妙子像	1950-1956	油彩・紙	38.5×30.0	安曇野市豊科近代美術館
76	博子坐像	1956	油彩・カンヴァスボード	53.0×45.5	安曇野市豊科近代美術館
77	マンドリン	1956-1957	油彩・カンヴァスボード	45.5×52.9	安曇野市豊科近代美術館
78	花火	1957頃	油彩・紙	40.8×63.6	安曇野市豊科近代美術館
79	鉄の門のある家(京都)	1958	油彩・紙	44.7×51.9	安曇野市豊科近代美術館
80	睡蓮　その1	1958	油彩・カンヴァスボード	31.5×40.5	個人
81	海　その1	1959	油彩・カンヴァス	59.7×71.7	新潟県立近代美術館・万代島美術館
82	海　その2	1959	油彩・カンヴァス	60.6×72.8	安曇野市豊科近代美術館
83	竹薮(京都にて)	1960	油彩・カンヴァスボード	45.5×53.0	安曇野市豊科近代美術館
84	夕方の湖	1961	油彩・紙	30.1×38.5	安曇野市豊科近代美術館
85	火	1961	油彩・紙	30.2×38.6	安曇野市豊科近代美術館
86	湖辺	1961	油彩・カンヴァスボード	31.9×40.8	安曇野市豊科近代美術館
87	きざはし	1959-1964	油彩・カンヴァス	89.9×115.8	新潟県立近代美術館・万代島美術館
88	かくれ岩(海　その4)	1959-1965	油彩・カンヴァス	60.8×72.9	個人
89	水蓮　その3	不明	油彩・カンヴァス	80.0×65.3	安曇野市豊科近代美術館
90	蓮	不明	油脂・カンヴァス	73.0×90.1	安曇野市豊科近代美術館
91	けしの花	1965	油彩・カンヴァス	21.4×33.5	安曇野市豊科近代美術館
92	夕暮れと林檎	1965	油彩・カンヴァス	32.2×41.0	安曇野市豊科近代美術館
93	富士	1962-1969	油彩・カンヴァスボード	73.0×90.1	安曇野市豊科近代美術館
94	山据	1969	油彩・カンヴァス	45.0×53.0	新潟県立小千谷高等学校
95	宝を積んだ舩	1959-1970	油彩・カンヴァス	60.6×72.8	安曇野市豊科近代美術館
96	月と湖のある風景	不明	油彩・紙	20.5×37.7	安曇野市豊科近代美術館
97	ローマの廃墟	1967	油彩・カンヴァス	22.1×27.5	安曇野市豊科近代美術館
98	ベテスダの池	1967	油彩・カンヴァス	27.5×22.1	安曇野市豊科近代美術館
99	素描	1967頃	コンテ・紙	12.6×16.6	宮柊二記念館
100	聖地巡礼素描	1967頃	コンテ・紙	13.7×17.8	宮柊二記念館
101	マリアの驚き	1970	油彩・カンヴァス	29.0×38.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
102	降誕	1970	油彩・カンヴァス	40.0×32.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
103	逃避	1970	油彩・カンヴァス	31.5×40.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
104	ベテスダの池	1970	油彩・カンヴァス	41.0×32.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
105	ニカノルの門	1970	油彩・カンヴァス	31.5×40.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
106	ユダの椅子	1970	油彩・カンヴァス	31.5×40.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
107	ニザンの月	1970	油彩・カンヴァス	40.5×31.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
108	ゴルゴダ	1970	油彩・カンヴァス	52.5×45.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
109	埋葬	1970	油彩・カンヴァス	38.0×45.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
110	マグダラのマリアの悲しみ	1970	油彩・カンヴァス	45.5×38.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
111	エフタとその娘	1970	油彩・カンヴァス	45.5×38.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
112	サロメ	1970	油彩・カンヴァス	45.5×37.5	新潟県立近代美術館・万代島美術館
113	ルツとナオミ	1970	油彩・カンヴァス	31.5×41.0	新潟県立近代美術館・万代島美術館
114	バールの歌姫	1970	油彩・紙	38.5×30.0	宮柊二記念館
115	原画:聖地巡礼「機上より」	『コスモス』1967年4月号	コンテ・紙	15.4×17.5	宮柊二記念館
116	原画:聖地巡礼「ローマにて」	『コスモス』1967年5月号	コンテ・紙	13.8×17.6	宮柊二記念館
117	原画:聖地巡「フランス・ルルドにて」	『コスモス』1967年6月号	コンテ・紙	14.8×17.5	宮柊二記念館
118	原画:聖地巡礼「巴里にて」	『コスモス』1967年7月号	コンテ・紙	16.8×22.4	宮柊二記念館
119	原画:聖地巡礼「ロンドンにて」	『コスモス』1967年8月号	コンテ・紙	20.0×13.6	宮柊二記念館
120	原画:聖地巡礼「ベルリンにて」	『コスモス』1967年9月号	コンテ・紙	15.2×17.5	宮柊二記念館
121	原画:聖地巡礼「アテネにて」	『コスモス』1967年10月号	コンテ・紙	15.2×14.8	宮柊二記念館
122	原画:聖地巡礼「カイロにて」	『コスモス』1967年11月号	コンテ・紙	17.8×21.5	宮柊二記念館
123	原画:聖地巡礼「ベイルートにて」	『コスモス』1967年12月号	コンテ・紙	15.0×17.5	宮柊二記念館
124	原画:聖地巡礼「死海にて」	『コスモス』1968年1月号	コンテ・紙	17.3×13.7	宮柊二記念館
125	原画:聖地巡礼「エルサレムにて」	『コスモス』1968年2月号	コンテ・紙	15.2×17.7	宮柊二記念館
126	原画:聖地巡礼「エマオにて」	『コスモス』1968年3月号	コンテ・紙	17.5×14.0	宮柊二記念館
127	原画:聖地巡礼「ベテレヘムにて1」	『コスモス』1968年4月号	コンテ・紙	13.7×17.5	宮柊二記念館
128	原画:聖地巡礼「ベテレヘムにて2」	『コスモス』1968年5月号	コンテ・紙	15.7×15.0	宮柊二記念館
129	原画:聖地巡礼「ゴルゴダにて」	『コスモス』1968年6月号	コンテ・紙	17.7×13.6	宮柊二記念館
130	原画:聖地巡礼「ケデロンの谷にて」	『コスモス』1968年7月号	コンテ・紙	17.5×13.6	宮柊二記念館

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先
131	原画:聖地巡礼「ベテスダの池にて」	『コスモス』1968年8月号	コンテ・紙	17.5×15.5	宮柊二記念館
132	原画:聖地巡礼「マケラオにて」	『聖地巡礼』1970刊	コンテ・紙	19.2×13.0	宮柊二記念館
133	原画:聖地巡礼「ソドム・ゴモラにて」	『コスモス』1968年10月号	コンテ・紙	15.0×15.0	宮柊二記念館
134	原画:聖地巡礼「ニカノルの門にて」	『コスモス』1968年11月号	コンテ・紙	15.0×15.0	宮柊二記念館
135	原画:聖地巡礼「善きサマリア人の宿にて」	『コスモス』1968年12月号	コンテ・紙	15.0×13.8	宮柊二記念館
136	原画:聖地巡礼「ギレアデにて―エフタとその娘」	『コスモス』1969年1月号	コンテ・紙	17.8×13.7	宮柊二記念館
137	原画:聖地巡礼「ヤコブの井戸にて」	『コスモス』1969年2月号	コンテ・紙	17.7×13.8	宮柊二記念館
138	月	1965-70	油彩・カンヴァス	45.6×33.6	安曇野市豊科近代美術館
139	いただき(頂)	1956-70	油彩・カンヴァス	60.7×72.8	安曇野市豊科近代美術館
140	さざなみ	1970	油彩・カンヴァス	72.0×115.8	新潟県立近代美術館・万代島美術館
141	地上の灯　その1	1970	油彩・カンヴァス	33.7×24.6	安曇野市豊科近代美術館
142	地上の灯　その2	1970	油彩・カンヴァス	31.5×40.5	安曇野市豊科近代美術館
143	太陽　その1	1970	油彩・カンヴァス	24.5×33.7	安曇野市豊科近代美術館
144	太陽　その2	1970	油脂・カンヴァス	41.3×32.3	安曇野市豊科近代美術館
145	白い太陽	1970	油彩・カンヴァス	41.0×32.3	安曇野市豊科近代美術館
146	太陽(海峡を渡る時)	1970	油彩・カンヴァス	53.2×45.6	安曇野市豊科近代美術館
147	雲間の灯	1959-70	油彩・カンヴァス	72.8×60.7	安曇野市豊科近代美術館
148	花野	1970頃	油彩・カンヴァス	45.7×53.0	安曇野市豊科近代美術館
149	黒い太陽(絶筆)	1967-1971	油彩・カンヴァス	40.5×31.5	安曇野市豊科近代美術館
150	野の草よ　森よ	1921	クレヨン、ペン・紙	28.5×22.2	安曇野市豊科近代美術館
151	接吻	1921頃	ペン・紙	11.1×14.0	個人
152	憔悴	1921頃	ペン、水彩・紙	11.2×11.4	個人
153	春の眠り	1921頃	ペン、水彩・紙	13.6×17.8	個人
154	着物の乙女二人	1922	ペン・紙	29.1×11.2	安曇野市豊科近代美術館
155	朝暾讃礼	1922	ペン・紙	11.1×30.9	安曇野市豊科近代美術館
156	憂鬱	1922頃	ペン・紙	9.7×16.7	個人
157	湖の乙女	1922頃	ペン、水彩・紙	27.2×11.9	個人
158	夜	1922頃	ペン、水彩・紙	16.4×13.0	個人
159	寂滅	不明	ペン・紙	16.5×24.7	安曇野市豊科近代美術館
160	木	不明	ペン・紙	43.1×28.0	安曇野市豊科近代美術館
161	沈める鐘	不明	ペン・紙	18.2×12.1	安曇野市豊科近代美術館
162	祈り	不明	ペン・紙	18.4×9.4	安曇野市豊科近代美術館
163	落日の嘆美	不明	ペン・紙	15.7×12.3	安曇野市豊科近代美術館
164	穏やかな南東の風よ	不明	ペン・紙	12.3×12.4	安曇野市豊科近代美術館
165	歌	不明	ペン・紙	22.9×11.4	安曇野市豊科近代美術館
166	黙示	不明	ペン・紙	21.6×10.1	安曇野市豊科近代美術館
167	目覚め	不明	ペン・紙	13.6×15.2	安曇野市豊科近代美術館
168	海の話　2	不明	ペン・紙	12.8×25.8	安曇野市豊科近代美術館
169	ねむり	不明	クレヨン・紙	28.9×18.4	個人
170	Do not open.	不明	クレヨン・紙	27.2×18.3	安曇野市豊科近代美術館
171	父と子の悲哀	不明	ペン・紙	11.9×11.8	安曇野市豊科近代美術館
172	ひなた	不明	ペン・紙	20.5×12.5	安曇野市豊科近代美術館
173	耽溺	不明	ペン・紙	14.0×13.0	個人
174	獲得	不明	ペン・紙	21.8×8.4	安曇野市豊科近代美術館
175	楽人と人魚	不明	ペン・紙	11.9×23.1	安曇野市豊科近代美術館
176	今日よりは幸福な日ぞ	不明	ペン・紙	21.0×13.5	個人
177	椿の傍らで	不明	ペン・紙	21.4×9.9	安曇野市豊科近代美術館
178	無題(上京直前)	1911頃	木炭・紙	62.4×47.2	安曇野市豊科近代美術館
179	無題(上京直前)	1911頃	木炭・紙	62.5×46.5	安曇野市豊科近代美術館
180	無題(白馬会時代)	1912頃	木炭・紙	63.2×47.9	安曇野市豊科近代美術館
181	無題(白馬会時代)	1912頃	木炭・紙	64×48.4	安曇野市豊科近代美術館
182	婦人像	1912-1913頃	コンテ・紙	58.0×38.5	練馬区立美術館
183	無題(美校時代)	1913	木炭・紙	63.2×48.3	安曇野市豊科近代美術館
184	石膏像ｇ(美校時代)	1913頃	木炭・紙	63×47.4	安曇野市豊科近代美術館
185	自画像	1918	鉛筆／コンテ・紙	38.3×26.9	安曇野市豊科近代美術館
186	裸婦ｄ(日本美術院時代)	1918頃	木炭・紙	45.2×62.2	安曇野市豊科近代美術館
187	無題(日本美術院時代)	1918	コンテ・紙	150×58.5	安曇野市豊科近代美術館
188	男　トルソ(デッサンコンクール前)	1919	コンテ・紙	76×58.3	安曇野市豊科近代美術館
189	裸婦　ｆ(デッサンコンクール前)	1919	コンテ・紙	121×56.3	安曇野市豊科近代美術館
190	自画像	1919	コンテ・紙	38.7×38.0	個人
191	自画像	1919	コンテ・紙	49.8×38.2	安曇野市豊科近代美術館
192	自画像	1920	鉛筆・コンテ・紙	47.6×31.1	安曇野市豊科近代美術館
193	自画像	1923	鉛筆・紙	37.7×28.7	安曇野市豊科近代美術館
194	自画像	1924	鉛筆・紙	38.3×29.4	安曇野市豊科近代美術館
195	自画像	1933	コンテ・紙	37.8×28.3	安曇野市豊科近代美術館
196	自画像	1952	墨・水彩・和紙	28.9×20.1	安曇野市豊科近代美術館

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	所蔵先
197	自画像	1955	コンテ・紙	35.9×25.2	安曇野市豊科近代美術館
198	自画像	1956	木炭・紙	38.5×29.5	練馬区立美術館
199	自画像	1959	鉛筆・紙	35.8×25	安曇野市豊科近代美術館
200	秋の湖畔	不明	クレヨン・紙	29.2×38.7	安曇野市豊科近代美術館
201	街はづれ俯瞰	不明	クレヨン・紙	29.7×37.5	安曇野市豊科近代美術館
202	無　題	1959	クレヨン・紙	27.6×35.1	安曇野市豊科近代美術館
203	無　題	1959	クレヨン・紙	27.2×35.1	安曇野市豊科近代美術館
204	コスモス	1934	エッチング・紙	9.0×11.9	練馬区立美術館
205	黒百合	1934	エッチング・紙	11.7×8.9	練馬区立美術館
206	ポプラと湖	1934	エッチング・紙	5.9×8.4	練馬区立美術館
207	田舎(三日月)	1933	エッチング・紙	6.0×9.0	練馬区立美術館
208	祈り	1935頃	エッチング・紙	9.0×8.3	練馬区立美術館
209	室内	1935	エッチング・紙	5.8×8.7	練馬区立美術館
210	モロコシとトマト	1935	エッチング・紙	5.9×8.8	練馬区立美術館
211	望月	1935	エッチング・紙	9.0×11.8	練馬区立美術館
212	山(と湖)	1935頃	エッチング・紙	11.5×17.6	練馬区立美術館
213	裏山	1935	エッチング・紙	10.0×13.0	練馬区立美術館
214	水辺	1935頃	エッチング・紙	8.8×11.9	練馬区立美術館
215	庭の花(すみれ)	1936	エッチング・紙	8.8×5.9	練馬区立美術館
216	郊外	不明	エッチング・紙	8.8×12.0	練馬区立美術館
217	さくら草	不明	エッチング・紙	8.9×5.8	練馬区立美術館
218	水	不明	エッチング・紙	8.9×11.7	練馬区立美術館
219	(眼を病める)自画像	不明	エッチング・紙	11.7×8.8	練馬区立美術館
220	雲	不明	エッチング・紙	9.8×11.6	練馬区立美術館
221	おぼろの太陽	不明	エッチング・紙	9.7×17.8	練馬区立美術館
参考作品	自画像	1934	エッチング・紙	8.7×5.9	練馬区立美術館
参考作品	昭子像	1935	エッチング・紙	8.9×5.8	練馬区立美術館
参考作品	茄子の木	不明	エッチング・紙	8.8×5.8	練馬区立美術館
参考作品	叢	不明	エッチング・紙	8.8×11.9	練馬区立美術館
参考作品	茄子	1934	エッチング・紙	6.0×9.0	練馬区立美術館
参考作品	湖と乙女	不明	エッチング・紙	8.9×8.4	練馬区立美術館
参考作品	コーヒーわかし	不明	エッチング・紙	11.8×8.8	練馬区立美術館
参考作品	旧校舎	1935	エッチング・紙	8.8×11.8	練馬区立美術館
参考作品	ブラジルへ行った人の家	不明	エッチング・紙	8.8×11.6	練馬区立美術館
参考作品	御神木	不明	エッチング・紙	11.6×8.8	練馬区立美術館
参考作品	雨(その2)	不明	エッチング・紙	8.9×11.7	練馬区立美術館
参考作品	田舎(晩秋)	1933	エッチング・紙	6.0×8.9	練馬区立美術館
参考作品	実のなる木(りんごの木)	不明	エッチング・紙	8.6×11.8	練馬区立美術館
参考作品	門	1934	エッチング・紙	9.0×11.8	練馬区立美術館
参考作品	年賀状	1936	エッチング・紙	11.4×8.5	練馬区立美術館
参考作品	八ヶ岳	不明	エッチング・紙	8.4×17.8	練馬区立美術館
参考作品	自画像	1955	木炭・紙	38.5×29.5	練馬区立美術館
参考作品	自画像	1927	油彩・板	37×26.4	安曇野市豊科近代美術館
参考作品	自画像(赤い帽子)	不明	油彩・板	33.2×23.8	安曇野市豊科近代美術館
参考作品	自画像	1959	油彩・紙	29.4×25.7	安曇野市豊科近代美術館
参考作品	自画像	不明	油彩・カンヴァスボード	33.3×24.3	安曇野市豊科近代美術館
参考作品	自画像	不明	油彩・紙	25.9×19.4	安曇野市豊科近代美術館
参考作品	聖徳太子像(軸装)	1905	岩彩・紙	42.6×16.0	安曇野市豊科近代美術館
参考作品	図画室表札「こはわが城」				安曇野市豊科近代美術館
参考作品	AYUMI　初版　表紙版木				安曇野市豊科近代美術館
参考作品	宮芳平愛用の画材道具				安曇野市豊科近代美術館
参考作品	旅行鞄(聖地巡礼に使用)		革		安曇野市豊科近代美術館
参考作品	聖地巡礼証明書(巡礼終了時に教会よりもらったもの)				安曇野市豊科近代美術館
参考作品	AYUMI(前期1号)				安曇野市豊科近代美術館
参考作品	AYUMI(後期1号)				安曇野市豊科近代美術館
参考作品	宮芳平 森鷗外宛はがき	1915-1919			文京区立森鷗外記念館
参考作品	宮芳平 森於菟宛手紙	1936-1956			文京区立森鷗外記念館
追加出品	風景　その19	1955	油彩・カンヴァスボード	31.6×40.6	個人

東日本大震災復興祈念・新潟県中越地震復興10年
法隆寺　祈りとかたち

【趣　旨】

法隆寺は、推古15年（607）に聖徳太子によって斑鳩宮の近くに発願された、飛鳥寺につづくわが国２番目の本格伽藍の寺院である。天智９年（670）４月30日夜半に落雷によって全焼したとされ、再建には全焼後から和銅４年（711）まで40年を費やしたが、その間に、金堂中央には釈迦三尊像、東に薬師像、西に救世観音像を安置したほか、太子時代の優れた仏教美術が多数集められ、法隆寺は太子建立寺院から太子信仰寺院へと変貌を遂げた。以降、それぞれの時代で多くの人々から信仰を受け、現在では、日本で初めて世界文化遺産として指定を受けたことでも、世界中により知られるようになった。

東京美術学校はその誕生時から法隆寺と浅からぬ縁を持ち、以来、東京藝術大学と名前を変えた今日に至るまで、文化財保護という立場で法隆寺と交流を続けている。

本展では、法隆寺が落雷による全焼から、太子信仰寺院として人々の大きな信仰の場として復興していった歴史を踏まえ、かつ東京美術学校との130年に渡る交流の歴史を振り返りながら、法隆寺の宝物をはじめとして、法隆寺信仰を示す様々な美術品を一堂に紹介した。

３年前に大きな災厄を体験し、今も必死に尽力している被災された方々と、10年前の中越地震を乗り越えられた方々にも、「復興」という意味においても意義深い展覧会であると言える。

【総　括】

●評価すべき点

・法隆寺様からは国宝・重文あわせて18点という多数の作品を借用できた。また会場構成も見やすく分かりやすいという法隆寺様側からの評価も得られた。

・アンケートをみると、大変満足とまあまあ満足を合計すると81％が満足という結果であり、多くの方々が満足を得られていることがわかる。

●検討課題

・アンケートの自由記載欄に展示作品の中で仏像の率が少なかったことに対して不満を持たれた方が16％あった。この部分が入館者数の当初目標の３分の２に留まったことの理由であろう。

【開催日・その他】

=2014年７月５日㈯～８月17日㈰（39日間）=

主　催：「法隆寺　祈りとかたち」新潟展実行委員会、新潟県立近代美術館、新潟日報社、BSN新潟放送、UX新潟テレビ21

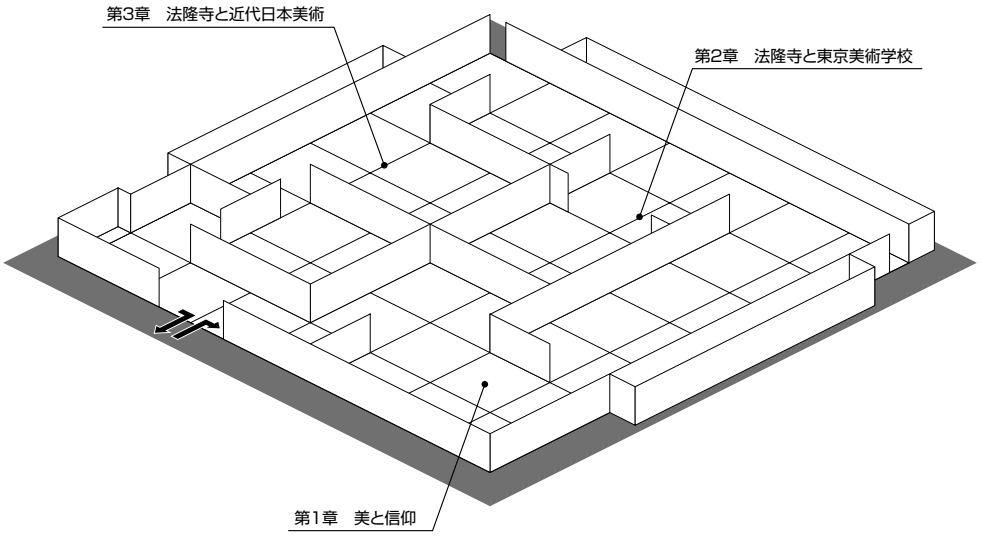
後　援：文化庁、長岡市、長岡市教育委員会、新潟県小学校校長会・中学校長会・特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0

特別協力：朝日新聞社

協　賛：大伸社

協　力：日本通運、塩竈港運送

観覧料：一般……1,400円（1,200円）
大学・高校生……1,200円（1,000円）
※中学生以下無料
※（　）内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金



【関連行事】

・講演会
「聖徳太子の教えと法隆寺の歴史」
　7月5日㈯　13：00～　講堂
　講　師：大野玄妙氏（法隆寺管長）
　参加者数：170名

・講演会
「法隆寺の美術－展示作品を中心に」
　7月26日㈯　14：00～　講堂
　講　師：水野敬三郎氏（当館名誉館長）
　参加者数：175名

・関連講座
「金堂壁画と日本近代美術」
　8月2日㈯　14：00～　講堂
　講　師：長嶋圭哉（当館主任学芸員）
　参加者数：46名

・関連映画
『聖徳太子』
　7月19日㈯　14：00～／15：00～
　参加者数：110名

・関連公演
「東儀秀樹　雅楽公演」
　7月17日㈭　19：00～　長岡市立劇場大ホール
　※（公財）長岡市芸術文化振興財団連携事業

・その他
「せんとくんの写真撮影会」
　7月19日㈯／20日㈰
　各11:00～／14:00

【図　録】

仕　様：B5判変形　本文214頁
編　集：仙台市博物館
　　東京藝術大学大学美術館
　　新潟県立近代美術館
　　朝日新聞社
発　行：朝日新聞社
内　容：ごあいさつ
　　法隆寺境内伽藍配置図
　　ごあいさつ／大野玄妙
　　法隆寺の美術と聖徳太子信仰／水野敬三郎
　　法隆寺と美術学校－二つの「上宮太子祭典」を中心に
　　／芹生春菜
　　第１章　美と信仰－法隆寺の仏教美術
　　第２章　法隆寺と東京美術学校
　　第３章　法隆寺と近代日本美術
　　コラム
　　岡倉天心の『奈良古社寺調査手録』／薩摩雅登
　　鈴木空如のこと／細川良隆
　　作品解説
　　作家解説
　　作品目録
　　法隆寺関連年表
　　List of works

【関連記事】

●新聞
　6月29日㈰　新潟日報（特集　見開き２頁）
　　「「法隆寺　祈りとかたち」展　５日開幕」

その他　新潟日報（2013/11/7、5/11、6/29、7/1、
　　7/4、7/5、7/6、7/19、7/23、7/24、
　　7/27、8/1、8/12）
　　長岡新聞（6/26、7/15）

〈連載〉
・新潟日報「法隆寺　祈りとかたち」
　①《地蔵菩薩立像》／佐藤久美子（7/15）
　②《鋳出如来三尊像》／伊澤朋美（7/16）
　③《天人（金堂天蓋附属）》／伊澤朋美（7/17）
　④《観音菩薩立像（伝金堂阿弥陀如来脇侍）》／伊澤朋美
　　（7/19）
　⑤村上華岳《阿弥陀》／長嶋圭哉（7/23）
　⑥《聖徳太子立像（孝養像）》佐藤久美子　（7/24）
　⑦鈴木空如《「法隆寺金堂壁画模写」第１号壁釈迦浄土図》
　　藤田裕彦（7/26）

●テレビ
　8月13日㈬　NST
　　Nスタプラス／藤田裕彦
　BSNニュース
　（2013/11/6、3/3、4/25、6/30、7/5、
　7/18、7/19、7/31、8/11、8/23）
　UX新潟テレビ21ニュース
　（6/30、7/3、7/4、7/5、7/12、7/19、
　7/31、8/11）

●ラジオ
　7月9日㈬　BSNラジオ
　　「ゆうWAVE」／佐藤久美子
　8月4日㈪　BSNラジオ
　　「ゆうWAVE」／青木善治
　会期中３週にわたって放送　BSNラジオ
　　「しあわせの種まきSHOW」／藤田裕彦

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	22,475
	前売	8,440
無料観覧者数	招待	2,816
	無料	2,329
	免除	2,978
総観覧者数		39,038
有料率（%）		79.2

担当　藤田裕彦

【出品リスト】

No.	作品名	作家名	制作年	寸法(縦×横cm)	備考	所蔵先	展示期間
第1章　美と信仰							
1	鋳出如来三尊像		飛鳥時代	縦25.9　横19.7		法隆寺	
2	天人(金堂天蓋附属)		飛鳥時代	ばっ子総高53.9 細腰壺52.3	重要文化財	法隆寺	
3	鳳凰(金堂天蓋附属)		飛鳥時代	高約30	重要文化財	法隆寺	
4	持国天立像		飛鳥時代	像高50.3		法隆寺	
5	多聞天立像		飛鳥時代	像高51.5		法隆寺	
6	薬師如来坐像(伝峯薬師胎内仏)		奈良時代	像高15.4	重要文化財	法隆寺	
7	地蔵菩薩立像		平安時代	像高172.7	国宝	法隆寺	
8	阿弥陀如来坐像		平安時代	像高88.4	重要文化財	法隆寺	
9	広目天立像		平安時代	高94.5	重要文化財	法隆寺	
10	多聞天立像		平安時代	高93.4	重要文化財	法隆寺	
11	観音菩薩立像(伝金堂阿弥陀来脇侍)		鎌倉時代	像高55.4	重要文化財	法隆寺	
12	聖徳太子立像(二歳像)		鎌倉時代	像高59.0		法隆寺	
13	聖徳太子立像(孝養像)		鎌倉時代	像高91.1	重要文化財	法隆寺	
14	舞楽面		平安時代～鎌倉時代		重要文化財	法隆寺	
15	法華曼荼羅		平安時代	縦71.1、横58.5		法隆寺	
16	聖徳太子像(水鏡御影)		鎌倉時代	縦109.5、横82.0		法隆寺	
17	飾金具(金堂天蓋附属)		飛鳥時代	高31.0、幅11.6 高35.2、幅14.0		法隆寺	
18	金銅灌頂幡垂飾		飛鳥時代	長112.5、長95.0		法隆寺	
19	胡面水瓶		奈良時代	高30.9	重要文化財	法隆寺	
20	金銅鉢		奈良時代	高13.1、口径22.4 高13.1、口径22.7	重要文化財	法隆寺	
21	響銅香水壺		奈良時代	高15.4、胴径23.2		法隆寺	
22	響銅鋺		奈良時代	高12.4、口径24.6 高6.9、口径15.9 高12.0、口径25.2		法隆寺	
23	響銅皿		奈良時代	高4.0、径21.5		法隆寺	
24	布薩水瓶		鎌倉時代	高25.8、胴径14.3	重要文化財	法隆寺	
25	文欟木厨子		奈良時代	高147.0 幅174.0 奥行50.3		法隆寺	
26	布薩手洗・花器		建武5年(1338)	高6.1　口径26.3	重要文化財	法隆寺	
27	平絹幡残欠(智泉法師銘)		飛鳥時代～奈良時代	長147.5、幅28.8		法隆寺	
28	綾幡足残欠		飛鳥時代～奈良時代			法隆寺	
29	幡足残欠		飛鳥時代～奈良時代			法隆寺	
30	百万搭及び陀羅尼		奈良時代			法隆寺	
第2章　法隆寺と東京美術学校							
31	扇面法華教冊子断簡		平安時代	上弦48.8、下弦20.9、 辺23.3	重要文化財	法隆寺	後期
32	孔雀明王像		鎌倉時代	縦118.5、横82.0	重要文化財	法隆寺	後期
33	毘沙門天像		鎌倉時代	262.7×128.3	重要文化財	法隆寺	~7/18
34	釈迦十六羅漢像		鎌倉時代	縦137.3、横71.5		法隆寺	前期
35	不動明王二童子像		鎌倉時代	61.8×27.9		法隆寺	後期
36	阿弥陀三尊像		鎌倉時代～南北朝時代	149.0×65.0		法隆寺	前期
37	赤童子像		室町時代	80.0×33.0		法隆寺	前期
38	十六羅漢図		鎌倉時代	屏風各扇縦175.8、横 63.7(八曲一双屏風)	重要文化財	法隆寺	前期
39	聖徳太子像	森鳳聲	1926	高69.2		法隆寺	
40	聖徳太子像(摂政像)	高村光雲	1927	高16.7		法隆寺	
41	聖徳太子像(摂政像)	平櫛田中	1946	高17.6		法隆寺	
42	定胤和上像	高村光雲	1930	高83.7		法隆寺	

No.	作品名	作家名	制作年	寸法(縦×横cm)	備考	所蔵先	展示期間
43	華籠	香取秀真	1921	高3.6　径29.7		法隆寺	
44	華瓶	香取秀真	1940	高36.8　口径16.4		法隆寺	
45	火舎	香取秀真	1940	高21.3　径27.1		法隆寺	
46	如意	清水南山	1921	長50.5　幅26.5		法隆寺	
47	香合	清水南山	1933	高2.2　径9.1		法隆寺	
48	香合	六角紫水	1921	高3.6　径15.1		法隆寺	
49	法隆寺金堂壁画模写	鈴木空如	1932−36頃	大壁　312×267、 小壁　312×158	秋田県指定文化財	大仙市	
50	法隆寺金堂壁画模写	髙橋新三郎、新井政明、 藁谷実、武井好之、 小田野尚之、廣嶋敬久	1982−85	146.0×96.5、 159.0×120.0、 145.0×95.0、 197.0×116.0、 171.5×106.0、 172.0×101.5		台東区	

第３章　法隆寺と近代日本美術

51	金堂落慶之図	和田英作		191.0×418.0		法隆寺	
52	聖徳太子図	菊池契月		141.9×51.0		静嘉堂文庫美術館	後期
53	厩戸皇子	清水古関	1901	155.0×83.0		京都市立芸術大学芸術資料館	
54	上宮皇子	安村行雲	1910	167.2×83.7		東京藝術大学大学美術館	
55	来迎	武井輝三	1917	中182.5×68.8、 左右各185.0×68.8		東京藝術大学大学美術館	
56	多至波奈大郎女	吉村忠夫	1926	246.4×129.2		法隆寺	
57	太子降誕	堂本印象	1947	173×192		京都府立堂本印象美術館	
58	聖徳太子像(摂政像)	高村光雲	1911	高46.0		東京藝術大学大学美術館	
59	法隆寺夢殿	中川紀元	1933頃	72.4×91.2		中野美術館	
60	五重塔図	吉田善彦	1942	42.6×22.4		法隆寺	
61	斑鳩寺初秋	平塚運一	1942	80.5×61.7		東京国立近代美術館	
62	残照	後藤純男	1972	180.0×227.0		東京国立近代美術館	
63	阿弥陀	村上華岳	1916	209.4×131.0		京都市美術館	前期
64	聖観音	荒井寛方	1943頃	122.0×45.0		さくら市ミュージアム ―荒井寛方記念館―	
65	観世音菩薩	太田聴雨	1953頃	121.0×36.0		宮城県美術館	後期
66	救	杉山寧	1986	91.5×68.5		個人	

前期　7/4〜7/27
後期　7/28〜8/17

中越地震復興10年　画業40周年記念
黒井健　絵本原画の世界展

【趣　旨】

新潟出身で日本を代表する絵本画家の一人である黒井健は『ごんぎつね』の絵本等で知られている。

本展は、黒井が2012年に画業40年を迎えたことを記念して企画された巡回展であり、その創作活動の軌跡を、作家や物語との出会い―文と絵のハーモニーをテーマに振り返るものであった。

2014年は中越地震から10年を経た年にあたるが、黒井は、地元の新潟日報紙上の復興キャンペーンで地元の風景を描いたイラストレーションを掲載しており、その原画も展示に含まれることから、当館では「中越地震復興10年」の冠をつけることとなった。

それに伴い、また当館の展示室が他会場より広いこともあり、展示の構成を若干変更し、展示室内には絵本コーナーや、休息のための触れて楽しむコーナーを設置し、また、展示室外にはワークショップコーナーを随時設置した。

【総　括】

●評価すべき点

・展示の構成を若干変更することにより、観覧者に印象的な余韻を残すことができた。

・能動的に、かつ簡便に活動できるワークショップコーナーの設置により、来館者により高い満足感を与えることができた。

●検討課題

・子ども向けのイメージのある絵本原画展であることから、内容が大人向けであっても、小さな子ども（あるいは子ども連れの大人）も満足できるよう、より一層の工夫が必要である。

・中高年男性を呼び込む広報の開発が必要である。

【開催日・その他】

=2014年9月12日㈮～11月3日（月･祝）（46日間）=

主　催：新潟県立近代美術館、TeNYテレビ新潟、黒井健新潟展実行委員会、読売新聞社、美術館連絡協議会

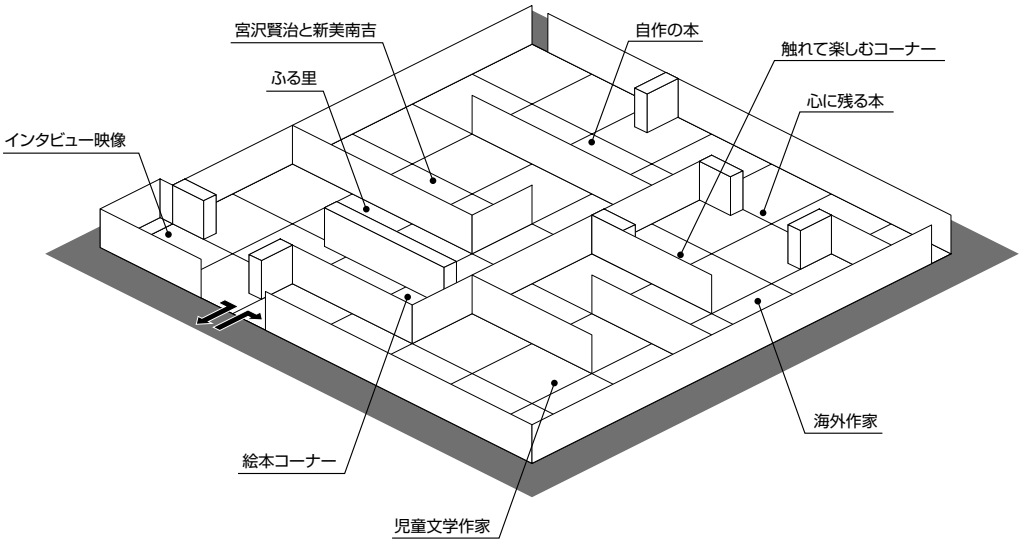
協　賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン・日本興亜損保

後　援：長岡市、長岡市教育委員会、長岡市三島郡小学校長会、長岡市三島郡中学校長会、みんなの防災フェア実行委員会、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7、ラジオチャット・エフエム新津、燕三条エフエム放送株式会社、ケーブルテレビのエヌ･シィ･ティ

企画制作：渋谷出版企画

協　力：新美南吉記念館

観覧料：一般……1,000円（800円）
大学・高校生……800円（600円）
※中学生以下無料
※（　）内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金



【関連行事】

・サイン会
黒井健氏サイン会
9月13日㈯　11:00～／14:00～
9月14日㈰　11:00～
美術館ロビー
参加者数：各100名（合計300名）

・絵本よみきかせ
おはなし　きかせて！～TeNYアナウンサーによる絵本よみきかせ～
企画展示室絵本コーナー
9月27日㈯　11:00～／14:00～
よみきかせ：内田拓志氏（テレビ新潟アナウンサー）
参加者数：35名／22名
10月11日㈯　11:00～／14:00～
よみきかせ：斎藤久美子氏（テレビ新潟アナウンサー）
参加者数：55名／45名
10月18日㈯　11:00～／14:00～
よみきかせ：酒井美帆氏（テレビ新潟アナウンサー）
参加者数：49名／47名

・美術鑑賞講座
ニイガタ絵本作家列伝
10月25日㈯　14:00～　講堂
講師：宮下東子（当館学芸課長代理）
聴講者数：22名

・ギャラリー・ツアー
9月28日・10月12日・11月2日㈰　14:00～
企画展示室
案内：佐藤久美子（当館学芸課長代理、9/28）
伊澤朋美（当館美術学芸員、10/12）
宮下東子（当館学芸課長代理、11/2）
参加者数：31名／15名／20名

・ワークショップ
ぽんぽんぽんころわんぽん
会期中随時　企画展示室ロビー

【図　録】

仕　様：270×217㎜ 128頁
編　集：渋谷出版企画
発　行：2012年
内　容：心ある作品との出会い／黒井健
　図版　日本の情景－Ⅰ 宮沢賢治と新美南吉
　　日本の情景－Ⅱ　ふる里
　　コラボレーション－Ⅰ　児童文学作家
　　コラボレーション－Ⅱ　海外作家
　　コラボレーション－Ⅲ　心に残る本
　　自作絵本
　作家紹介　Interview、略歴、黒井健の仕事

【関連記事】

●新聞
　9月29日㈪　新潟日報
　　夢で見た出来事のよう／宮下東子

その他　読売新聞新潟県版（9/12、9/14、10/10）
　　新潟よみうり（9/12）
　　長岡新聞（8/9、10/2）
　　十日町タイムス（8/28）
　　妻有新聞（9/5）
　　産経新聞（10/12）
　　栃尾タイムス（10/25）

●テレビ
　9月11日㈭　TeNYテレビ新潟
　　新潟一番　秋のおでかけ中継／宮下東子

●ラジオ
　9月19日㈮　FM　PORT
　　Sw！tch　Weekend Switch／宮下東子

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	11,417
	前売	2,527
無料観覧者数	招待	2,330
	無料	1,071
	免除	4,035
総観覧者数		21,380
有料率（%）		65.2

担当　宮下東子

【出品リスト】

№.	文(作)	絵本名	原画出品点数	出版年	出版社
1	(描き下ろし)	「銀河鉄道の夜」より　ケンタウルス祭の夜	1点		
コラボレーションⅠ　児童文学作家					
2	あまんきみこ	『おかあさんの目』	4点	1988	あかね書房
3	あまんきみこ	『天の町やなぎ通り』	4点	2007	あかね書房
4	間所ひさこ	『かぜのひのころわん』	3点	1987	ひさかたチャイルド
5	間所ひさこ	『ころわんはおにいちゃん』	2点	1986	ひさかたチャイルド
6	間所ひさこ	『ころわんとしろいくも』	2点	1998	ひさかたチャイルド
7	間所ひさこ	『よなかのころわん』	2点	1991	ひさかたチャイルド
8	杉みき子	『月夜のバス』	3点	2002	偕成社
9	なみかわみさき	『海のおっちゃんになったぼく』	5点	2006	クレヨンハウス
10	薫くみこ	『赤いポストとはいしゃさん』	4点	2009	ポプラ社
11	深山さくら	『かかしのじいさん』	5点	2009	佼成出版社
12	内田麟太郎	『だれかがぼくを』	4点	2010	PHP研究所
13	山下明生	『よるのふね』	5点	2011	ポプラ社
14	森山京	『バスがくるまで』	4点	2011	小峰書店
15	森山京	『ぶたのモモコはバレリーナ』	3点	1986	小峰書店
16	森山京	『ぶたのモモコとフルーツパーラー』	3点	1993	小峰書店
17	茂市久美子	『またたびトラベル』	3点	2004	学習研究社
18	茂市久美子	『またたびトラベル物語　招福堂のまねきねこ』	4点	2009	学習研究社
コラボレーションⅡ　海外作家					
19	パール・S・バック	『つなみ』	5点	1988	径書房
20	ナンシー・ホワイト・カールストローム	『およげラッコぼうや』	5点	1993	偕成社
21	マーガレット・ワイズ・ブラウン	『おひさまとおつきさまのしたで』	5点	2010	教育画劇
コラボレーションⅢ　心に残る本					
22	みなみらんぼう	『月からきたうさぎ』	3点	1993	学習研究社
23	武田鉄矢	『二十六夜まいり』	3点	1999	小学館
24	シャーリーン・コスタンゾ	『１２の贈り物』	4点	2003	ポプラ社
25	山田太一	『リリアン』	4点	2006	小学館
26	新井満	『この街で』	3点	2006	
27	嘉納純子	『あのね、サンタの国ではね』	2点	1990	偕成社
28	にしもとよう	『うまれてきてくれてありがとう』	5点	2011	童心社
自作の本					
29	黒井健	『でんぐりでんぐり』	4点	1982	あかね書房
30	黒井健	『12月24日』	5点	1994	白泉社
31	黒井健	『雲へ』	4点	2002	偕成社
32	黒井健	『HOTEL』	4点	1992	瑞雲社
33	黒井健	『LONG NIGHT』	2点	1995	瑞雲社
34	黒井健	『ミシシッピ　900マイル カヌーの旅』	5点	1988	偕成社
日本の情景Ⅰ　宮沢賢治と新美南吉					
35	(ミネルヴァ表紙)	賢治肖像	1点		
36	宮沢賢治	『私のイーハトヴ』	5点	1997	偕成社
37	宮沢賢治	『雲の信号―イーハトヴ詩画集』	6点	1995	偕成社
38	宮沢賢治	『猫の事務所』	4点	1994	偕成社
39	宮沢賢治	『水仙月の四日』	3点	1999	ミキハウス
40	(描き下ろし)	南吉肖像	1点		
41	新美南吉	『ごんぎつね』	6点	1986	偕成社
42	新美南吉	『手ぶくろを買いに』	7点	1988	偕成社
43	新美南吉	『がちょうのたんじょうび』	5点	2005	にっけん教育出版

No.	文(作)	絵本名	原画出品点数	出版年	出版社
日本の情景Ⅱ　ふる里					
44	星野知子	『ふる里へ』	8点	2006	小学館
45	鶴野正夫	『しなの川』	5点	1994	PHP研究所
46	淺沼ミキ子	『ハナミズキのみち』	6点	2013	金の星社

その他の展示物					
47	作家名他	作品名	点数他	制作年	出版社他
48	黒井健	木彫　事務長　『猫の事務所』			
49	黒井健	木彫　一番書記　『猫の事務所』			
50	黒井健	木彫　ウェイター　『HOTEL』			
51	黒井健	『ぶたのモモコはバレリーナ』　スケッチノート			
52	黒井健	『リリアン』　ダミー本			
53	黒井健	つばめっ子かるた　原画	44点	2012	
54	木暮正夫　文	『虹のかかる村』		1981	サンリオ
55	石井睦美　作	単行本「すみれちゃん」シリーズ(書籍4冊)			偕成社
56		教科書『こくご二 下』			光村図書出版
57		カレンダー		1989	日本生命保険相互会社
58		ケツメイシCDジャケット　「トレイン」ケツメイシ		2007	トイズファクトリー
59		切手　国際防災の10年	20枚のシート	1990	
60		切手　ふみの日　国際花と緑の博覧会記念　国際防災の10年		1990	
61		切手　国連防災世界会議記念	20枚のシート	1994	
62		切手　いい日旅立ち	20枚のシート	1998	
63		切手　土地改良制度50周年記念	20枚のシート	1999	
64		切手　民間空港再会50周年記念	10枚綴り	2002	
65		切手　中部国際空港開港記念		2005	
66		切手　中部国際空港開港記念	10枚綴り	2005	
67		切手　greetings		2008	
68		切手　動物愛護週間制定60周年	10枚綴り	2009	
69		切手　フィンランド／日本共同発行	5枚綴りのシート2枚	2010	
70		切手　季節の思い出シリーズ 第3集	10枚綴り	2014	
71	新美南吉	『ガチョウノタンジョウビ』原稿 第1葉			
72	新美南吉	『手袋を買いに』原稿 第2葉			
73	凪	フェルト作品　「ころわん」			
74	凪	フェルト作品　『ころわんはおにいちゃん』より			
75	凪	フェルト作品　『ころわん ちょろわん』より			
76	凪	フェルト作品　『およげらっこぼうや』より			
77	凪	フェルト作品　『月からきたうさぎ』より			
78	凪	フェルト作品　『あのねサンタの国ではね……』より			
79	凪	フェルト作品　『あのねサンタの国ではね……』より			
80	凪	フェルト作品　『12月24日』より			
81	凪	フェルト作品　『うまれてきてくれてありがとう』より			

※絵本原画(描き下ろし等を含む)43タイトル181点・木彫3点・カルタ原画44点・フェルト8点・他
※かるた原画は22点ずつ前期･後期に分けて展示した。

コレクション・ストーリーズ－11年の物語

【趣　旨】

2003年度に「県民の美の財産―新潟県立近代美術館コレクション10年の歩み」を開催し、開館から10年間のコレクションと活動を振り返った。本展は、その後の11年間に収集された主な作品を、当館の名品とともに、それぞれのストーリーで紹介する展覧会。さらに、コレクションの形成には、展覧会が様々な形で影響していることから、関連する展覧会もあわせて紹介し、当館の11年の活動の軌跡を収集と展示の側面から振り返った。

【総　括】

●評価すべき点

・開館以来３冊目となる所蔵品目録として、1,700点超の多数の作品の基本情報を掲載する形で発行することができた。

・所蔵品による企画展としての魅力を高めるよう、11年間の収蔵品に過去の名品を関連させて展示し、10のストーリーに仕立てながら展覧会と収集という当館の主要な活動の歴史を新旧の関係でつなげる構成として工夫した。

・前後期に分けて約７割の作品を入れ替えるなど多くの作品を展示し、新規の額装や展示台の作成によって初公開となる作品も含めることができた。

●検討課題

・県単独の展覧会で予算が限定された中での広報展開で成果はあったものの、観覧者増までにはいたらなかった。

【開催日・その他】

=2015年２月３日㈫～３月31日㈫（49日間）=

※全体会期は２月３日㈫～４月５日㈰（54日間）

主　催：新潟県立近代美術館

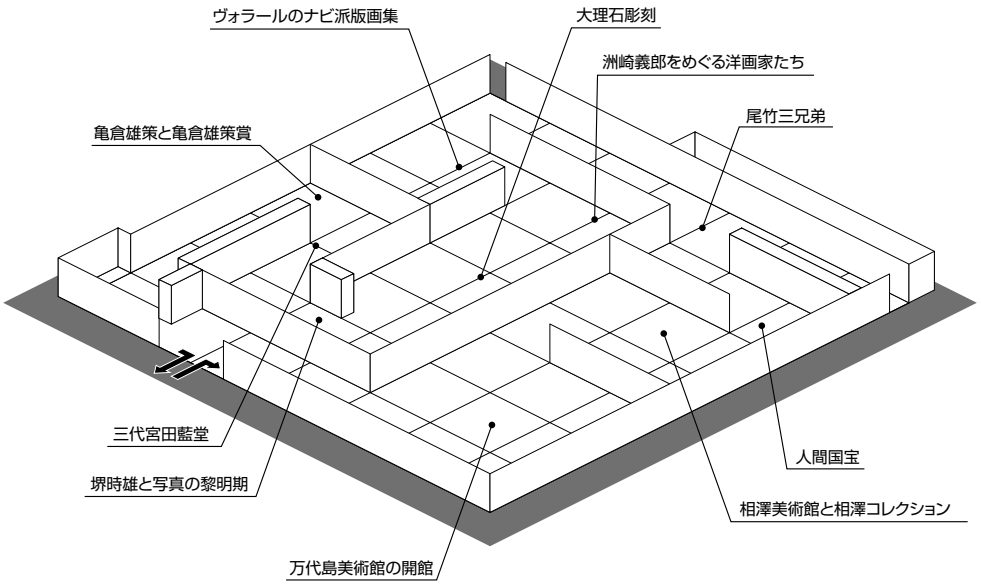
後　援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シィ・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、燕三条エフエム放送株式会社、FMながおか80.7

観覧料：一般……600円（400円）
　　大学・高校生……400円（200円）
　　※中学生以下無料
　　※（　）内は有料20名以上の団体料金

【関連行事】

・美術鑑賞講座
「コレクションと展覧会」
２月28日㈯　14：00～　講堂
講　師：澤田佳三（当館学芸課長代理）
参加者数：15名

・作品解説会
２月８日㈰／２月15日㈰／２月22日㈰／３月１日㈰／３月８日㈰／３月15日㈰／３月22日㈰　14：00～
参加者数：５名／５名／１名／９名／10名／７名／８名



【図　録】

仕　様：28.0×21.5㎝　本文276頁
編　集：新潟県立近代美術館
発　行：新潟県立近代美術館
内　容：ごあいさつ
　　凡例
　　図版　原色図版、絵画（日本画）、絵画（洋画ほか）・平面、版画、彫刻・工芸・書、水彩画・グラフィックデザイン・写真、素描・その他の作品、相澤コレクション
　　作家略歴
　　作家索引
　　寄贈者一覧

【関連記事】

●新聞
　2月27日㈮　新潟日報
　　展覧会へようこそ「コレクション・ストーリーズ−11年の物語−」／澤田佳三

その他　妻有新聞（1/23）
　　朝日新聞（2/3）
　　新潟日報（2/26）
　　読売新聞（3/19）

●テレビ
　2月10日㈫　NHK新潟
　　「お昼はじょんのびくらし情報便」／澤田佳三

【観覧者数】

※2/3〜3/31

有料観覧者数	当日	1,119
	前売	—
無料観覧者数	無料	409
	無料	130
	免除	167
総観覧者数		1,825
有料率（%）		61.3

担当　澤田佳三

【出品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	展示期間
万代島美術館の開館						
1	A・ウォーホル	花	1970	紙、スクリーンプリント、インク	各91.5×91.5	前後期で4点ずつ入替
2	R・リキテンスタイン	睡蓮と柳	1992	スクリーン・プリント、ステンレス、スチール板	147.3×264.6	
3	菅原 健彦	円形のジャングルジム	1993	紙本彩色	243.3×488.0	
4	斉藤 典彦	RITES OF PASSAGE	2000	紙本彩色	335.0×260.0	
5	千住 博	WATERFALL	2000	紙本彩色	194.0×266.0	
6	福田　美蘭	ブッシュ大統領に話しかけるキリスト	2002	板、アクリル絵具	130.3×162.0	
相澤美術館と相澤コレクション						
7	塚谷 政義	A氏像	1952	カンヴァス、油彩	32.7×23.7	
8	塚谷 政義	凧	1967	カンヴァス、油彩	100.0×80.3	
9	塚谷 政義	浮子	1983	カンヴァス、油彩	50.0×72.8	
10	難波田 龍起	線の遊びH	1954	紙、水彩、インク	29.1×41.5	前期
11	難波田 龍起	心象的形象	1972	紙、水彩	37.1×53.2	前期
12	難波田 龍起	人と自然10	1989	紙、水彩	71.0×155.7	前期
13	難波田 龍起	凝集	1984	紙、水彩、インク	37.6×53.3	前期
14	難波田 龍起	線の遊びB	1954	紙、水彩、ペン	26.3×36.0	後期
15	難波田 龍起	立像	1984	紙、水彩	50.0×65.7	後期
16	難波田 龍起	人と自然9	1989	紙、水彩	71.0×155.9	後期
17	難波田 龍起	生	1985	紙、水彩	37.4×53.2	後期
18	難波田 史男	鳥	1961	紙、水彩、インク	35.6×24.1	前期
19	難波田 史男	無題	1968	紙、水彩、インク	21.3×32.3	前期
20	難波田 史男	花の精のおどり	1968	紙、水彩、インク	21.4×28.4	前期
21	難波田 史男	無題	1971	紙、水彩、インク	23.8×30.5	前期
22	難波田 史男	無題	1972	紙、水彩、インク	21.0×32.0	前期
23	難波田 史男	彩色画	1965	紙、水彩、インク	19.5×35.0	後期
24	難波田 史男	レジスタンスの日々	1962	紙、水彩、インク	76.7×109.0	後期
25	難波田 史男	桜の散る頃	1968	紙、水彩、インク	23.0×30.5	後期
26	難波田 史男	湖底	1970	紙、水彩、インク	20.5×31.7	後期
27	江口 草玄	刻野	1955	紙、墨	63.8×115.0	前期
28	江口 草玄	地	1965	紙、墨	120.5×179.0	前期
29	江口 草玄	あんばいのよい朔日の空	1988	紙、墨	33.6×42.7	前期
30	江口 草玄	二つ重なるささやきの傘	1989	紙、墨	55.9×70.1	前期
31	江口 草玄	破	1961	紙、墨	92.5×125.5	後期
32	江口 草玄	川	1963	紙、墨	179.0×119.5	後期
33	江口 草玄	雨まで誉めて戻る仲人	1989	紙、墨	56.4×70.3	後期
34	江口 草玄	たとえる顔にこまる仲人	1990	紙、墨	65.7×67.8	後期
35	長﨑 莫人	蛭谷風景	1950年代	紙本彩色	91.8×61.6	前期
36	長﨑 莫人	街の煙突	1958	紙本彩色	54.5×92.1	前期
37	長﨑 莫人	波	1972	紙本彩色	146.8×181.9	前期
38	長﨑 莫人	赤い海	1954	紙本彩色	67.2×82.3	後期
39	長﨑 莫人	棚山	1950年代	紙本墨画	54.6×92.3	後期
40	長﨑 莫人	黄河流域2	1982	紙本彩色	118.0×162.0	後期
新潟県の人間国宝						
41	佐々木 象堂	鋳銀鼎式香炉	1950	鋳銀(銀)	高さ17.8　幅10.8	
42	佐々木 象堂	蠟型鋳銅獣装耳小花入	1959	蠟型鋳金(青銅)	高さ39.5	～3／8
43	佐々木 象堂	鋳銅色絵鸚哥置物	1940	蠟型鋳金(青銅)	高さ32.5	3／10～
44	三浦 小平二	青磁飾り壺「シルクロード」	2003	青磁	26.0×28.0	
45	三浦 小平二	青磁絵皿シルクロード	1978	青磁	6.5×40.0	
46	伊藤 赤水	無名異練上鉢	1988	陶器	高さ19.0	
47	玉川 宣夫	木目金花瓶	2009	鍛金、木目金(銅、銀、赤銅)	高さ25.0　径23.0	
尾竹三兄弟						
48	尾竹 越堂	浜辺図	明治後期	紙本彩色	36.5×63.5	前期
49	尾竹 越堂	船遊び	大正前期	紙本彩色	130.5×41.0	前期

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	展示期間
50	尾竹 越堂	桃太郎	1922	絹本彩色	127.7×41.5	前期
51	尾竹 越堂	七福神図	不明	絹本彩色	125.0×50.2	前期
52	尾竹 越堂	竹図	1931	絹本墨画	137.5×45.5	前期
53	尾竹 越堂	渡し	大正初期	紙本彩色	各168.5×354.0 (六曲一双屏風)	後期
54	尾竹 竹坡	梧桐	1911	紙本彩色	各156.0×361.0 (六曲一双屏風)	前期
55	尾竹 竹坡	山岳図	大正後期〜昭和初期	紙本彩色	50.6×66.0	前期
56	尾竹 竹坡	山岳図	大正後期〜昭和初期	紙本彩色	50.6×66.0	前期
57	尾竹 竹坡	阿寒湖	昭和初期	紙本彩色	33.5×198.0	前期
58	尾竹 竹坡	豪華大下絵	1915頃	紙、墨	175.0×68.0	後期
59	尾竹 竹坡	豪華下絵	1915頃	紙、鉛筆	55.0×77.0	後期
60	尾竹 竹坡	豪華下絵	1915頃	紙、鉛筆	55.0×78.0	後期
61	尾竹 竹坡	豪華下絵	1915頃	紙、鉛筆	36.0×78.0	後期
62	尾竹 竹坡	大地円	1925	絹本彩色	左右206.0×143.0、 中央206.0×173.0	後期
63	尾竹 国観	巴	1930	絹本彩色	233.0×172.0	前期
64	尾竹 国観	騎兵図	明治後期	紙本墨画	73.1×334.8	後期

ヴォラールのナビ派版画集

	M・ドニ	『アムール(愛)』	1892-1899制作 (1899刊行)	カラーリトグラフ		
65		1.表紙			56.0×45.0	前期
66		2.寓意			29.4×43.5	前期
67		3.物腰は優しく清らかに			41.5×30.3	前期
68		4.朝のブーケ、悲しみ			41.3×31.0	前期
69		5.それは敬虔な神秘さだった			46.5×32.5	前期
70		6.騎士は十字軍で死んではいない			42.0×30.5	前期
71		7.たそがれは古い絵画のような優しさを持つ			45.5×33.1	後期
72		8.彼女は夢よりも美しかった			43.5×32.0	後期
73		9.そして彼女の手が優しく触れる			42.0×31.5	後期
74		10.私たちの魂はゆっくりとした動作の中に			31.0×43.0	後期
75		11.青白い銀の長椅子の上で			43.7×31.3	後期
76		12.人生は貴重な慎み深いものとなる			32.5×43.5	後期
	P・ボナール	『パリ生活の諸相』	1895-1899制作 (1899刊行)	カラーリトグラフ		
77		1.表紙			41.0×33.0	前期
78		2.並木道			31.5×46.0	前期
79		3.街角			27.5×35.0	前期
80		4.中庭に面した家			34.5×25.7	前期
81		5.上方から見た街路			37.0×22.5	前期
82		6.大通り			17.4×43.4	前期
83		7.広場、夕暮れ			28.0×39.0	後期
84		8.八百屋			29.0×34.0	後期
85		9.橋			27.0×41.0	後期
86		10.劇場にて			20.0×40.0	後期
87		11.街路、夕暮れ、雨			25.0×35.5	後期
88		12.凱旋門			32.0×47.0	後期
	E・ヴュイヤール	『風景と室内』	1896-1899制作 (1899刊行)	カラーリトグラフ		
89		1.表紙			51.5×39.0	前期
90		2.チェッカーの勝負			33.1×26.5	前期
91		3.大通り			30.5×41.0	前期
92		4.野原を横切る			26.0×34.7	前期
93		6.バラ色の壁紙のある室内I			34.5×27.5	前期
94		10.ヨーロッパ橋で			31.0×35.0	前期
95		5.吊りランプのある室内			35.5×28.2	後期
96		8.バラ色の壁紙のある室内Ⅲ			34.5×27.5	後期
97		9.炉辺			34.5×27.5	後期
98		11.洋菓子店			36.0×27.7	後期
99		12.料理女			35.0×27.0	後期
100		13.義理の姉妹			35.5×28.5	後期

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	展示期間	
洲崎義郎をめぐる洋画家たち							
101	中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919	カンヴァス、油彩	83.0×64.0		
102	中村 彝	小鳥の復活	1917	紙、ペン	14.7×10.0	前期	*
103	中村 彝	洲崎義郎宛書簡	1918	紙、墨	—	前期	
104	中村 彝	洲崎義郎宛書簡	1916	紙、墨	—	後期	
105	宮 芳平	カーテンに	1914	カンヴァス、油彩	74.5×53.0		
106	宮 芳平	ドント・オープン	大正中期	紙、パステル	134.8×171.8		
107	國領 經郎	女医さん	1947	カンヴァス、油彩	116.5×91.0		
108	國領 經郎	遠い海	1987	カンヴァス、油彩	130.0×194.5		
大理石彫刻—北村四海と武石弘三郎							
109	北村 四海	女性立像	1926	大理石	60.0×28.5×24.5		
110	北村 四海	すみれ	1920頃	大理石	51.0×37.0×31.0		
111	北村 四海	空想に耽り居る女	1916	大理石	61.5×30.0×31.0		
112	武石 弘三郎	母	1917	ブロンズ	35.0×20.5×25.5		
113	武石 弘三郎	裸婦浮彫	1939	大理石	96.0×75.8×13.0		
堺時雄と写真の黎明期							
114	堺 時雄	《芸術は不朽》あるいは《吾魂の墓》	1920	モノクローム・プリント	55.0×42.5	前期	
115	堺 時雄	死の花	1920	モノクローム・プリント	16.5×12.0	前期	
116	堺 時雄	題不明(花のシルエットとレコード)	1928頃	モノクローム・プリント	25.4×30.3	前期	
117	堺 時雄	題不明(ハンカチとクローバーII)	1928-33頃	モノクローム・プリント	25.5×30.3	前期	
118	堺 時雄	邁進の意気	1922	モノクローム・プリント	27.8×23.4	前期	
119	堺 時雄	題不明(海辺あるいは日本海の落日)	1922	モノクローム・プリント	18.9×44.7	前期	
120	堺 時雄	題不明(さざなみ)	1922-26	モノクローム・プリント	23.7×29.6	前期	
121	堺 時雄	題不明(外人墓地)	1928-33	モノクローム・プリント	21.6×29.1	前期	
122	堺 時雄	《窓辺》あるいは《窓辺の女の子》	1927	モノクローム・プリント	30.5×25.0	前期	
123	堺 時雄	ソフィア(婦人像 斜め右向き)	1926	モノクローム・プリント	27.3×21.5	前期	
124	堺 時雄	題不明(婦人像 横顔)	1926	モノクローム・プリント	21.3×14.5	前期	
125	堺 時雄	異人池(新潟カトリック教会付近)	1922-26	モノクローム・プリント	44.9×30.2	前期	
126	堺 時雄	禅(あるいは蝉)古の閑	1928	モノクローム・プリント	27.4×41.7	前期	
127	堺 時雄	下萌	1926	モノクローム・プリント	20.0×54.3	前期	
128	堺 時雄	戦闘中の美観	1935	モノクローム・プリント	24.0×29.6	前期	
129	江崎 禮二	下岡蓮杖翁(初代)	不明	モノクローム・プリント	14.7×10.7	前期	
130	鈴木 真一	九段鈴木先生ご夫妻	不明	モノクローム・プリント	16.0×10.5	前期	
131	金井 弥一?	九段子息「パイロ?」ヤスッチ	不明	モノクローム・プリント	10.8×16.3	前期	
132	金井 弥一?	後藤新平氏	1911頃	モノクローム・プリント	15.0×10.2	前期	
133	金井 弥一	籠手田知事	1891-96	モノクローム・プリント	27.0×20.8	前期	
134	金井 弥一	大津参事官夫妻(夫人は籠手田知事令嬢)	不明	モノクローム・プリント	15.9×10.3	前期	
135	金井 弥一	礎町より柾谷小路を望む	1932-33	モノクローム・プリント	15.1×10.6	前期	
136	堺 時雄	記念写真(自写像)	1921	モノクローム・プリント	11.3×15.8	前期	
137	堺 時雄	題不明(花)	不明	モノクローム・プリント	11.9×16.4	前期	
138	堺 時雄	里見弴一家(主婦の友掲載用)	1928-33	モノクローム・プリント	11.4×15.2	前期	
139	堺 時雄?	キリスト教 葬式	1935-40	モノクローム・プリント	14.2×20.0	前期	
140	堺 時雄	レクイエム	1922	モノクローム・プリント	50.0×65.5	後期	
141	堺 時雄	修道院の壁	1921	モノクローム・プリント	29.8×22.8	後期	
142	堺 時雄	題不明(少女)	1922	モノクローム・プリント	30.3×25.4	後期	
143	堺 時雄	ソフィア(婦人像 正面)	1926	モノクローム・プリント	30.4×25.3	後期	
144	堺 時雄	シルエット	1926	モノクローム・プリント	27.9×21.4	後期	
145	堺 時雄	ヘティ高	1928-32	モノクローム・プリント	30.4×24.6	後期	
146	堺 時雄	題不明(ビクターレコード)	1928-35	モノクローム・プリント	30.3×25.4	後期	
147	堺 時雄	題不明(ハンカチとクローバーI)	1928-33頃	モノクローム・プリント	25.4×30.3	後期	
148	堺 時雄	題不明(花と骸骨のコラージュ)	1936-41	モノクローム・プリント	45.2×55.9	後期	
149	堺 時雄	題不明(雲と飛行機)	1935頃	モノクローム・プリント	45.4×55.7	後期	
150	堺 時雄	富士山暮色中庭	1928-35	モノクローム・プリント	22.0×30.6	後期	
151	堺 時雄	新潟砂丘(本館時代)	1936-41	モノクローム・プリント	27.8×39.4	後期	
152	堺 時雄	題不明(波)	1922-26	モノクローム・プリント	28.4×42.1	後期	

※＊は寄託作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)	展示期間
153	堺 時雄	築地	1927	モノクローム・プリント	24.3×28.2	後期
154	堺 時雄	題不明(軽井沢万平ホテル)	不明	モノクローム・プリント	18.7×26.6	後期
155	鈴木 真一	下岡蓮杖翁(初代)	不明	モノクローム・プリント	16.5×10.5	後期
156	鈴木 真一	横氏文夫・横山松三郎氏 金井弥一入門保証人	不明	モノクローム・プリント	15.5×10.5	後期
157	金井 弥一	初期自動車新発田町第1号	不明	モノクローム・プリント	9.8×13.9	後期
158	金井 弥一	板垣退助	1891	モノクローム・プリント	20.2×14.3	後期
159	金井 弥一	題不明(女性の肖像)	不明	モノクローム・プリント	27.0×20.6	後期
160	金井 弥一	籠手田知事長女 大津参事官夫人	不明	モノクローム・プリント	14.8×10.0	後期
161	金井 弥一?	秩父宮殿下の妹御	不明	モノクローム・プリント	16.5×11.2	後期
162	金井 弥一	上大川前十字路より万代橋方面を望む	1932-33	モノクローム・プリント	15.0×10.6	後期
163	金井 幸二	野口英世 大野屋にて	不明	モノクローム・プリント	14.8×9.9	後期
164	堺 時雄	題不明(花)	不明	モノクローム・プリント	11.9×16.4	後期
165	堺 時雄	久米正夫	不明	モノクローム・プリント	12.0×16.7	後期

三代宮田藍堂のアクセサリー

166	三代宮田藍堂	ペンダント 海の城	1980頃	蠟型鋳金(銀、真珠)	2.5×3.5×3.5
167	三代宮田藍堂	蠟型鋳金・終わりのない物語「恋秤」	1983	蠟型鋳金(金、銀、白銅、カラーアクリル)	高さ59.0
168	三代宮田藍堂	指輪　美豆波乃女	1980頃	蠟型鋳金(金)	2.5×5.0×3.5
169	三代宮田藍堂	指輪　美豆波乃女	2003	蠟型鋳金(金)	3.0×7.5×3.5
170	三代宮田藍堂	指輪　美豆波乃女	1980頃	蠟型鋳金(金)	3.0×6.5×3.0
171	三代宮田藍堂	指輪　美豆波乃女	1980頃	蠟型鋳金(金)	2.5×10.5×3.5
172	三代宮田藍堂	指輪　美豆波乃女	2003	蠟型鋳金(金)	3.5×7.0×3.0
173	三代宮田藍堂	ブローチ　秘境	1980頃	蠟型鋳金(金)	5.0×7.0×2.0
174	三代宮田藍堂	ブローチ　花籠	1980頃	蠟型鋳金(銀)	7.0×5.5×2.0
175	三代宮田藍堂	ペンダント お話	1970頃	蠟型鋳金(銀)	6.0×7.0×1.3
176	三代宮田藍堂	指輪 夜もすがら	1980頃	蠟型鋳金(金)	2.5×11.5×2.5
177	三代宮田藍堂	ペンダント 銀の蔦	1990頃	蠟型鋳金(銀)	7.5×2.5×1.0
178	三代宮田藍堂	ペンダント 思ひ思ひに	2000頃	蠟型鋳金(銀)	7.0×2.3×1.0

亀倉雄策と亀倉雄策賞

179	亀倉 雄策	東京オリンピックシンボルマークポスター	1961	グラビア印刷	103.0×56.0
180	亀倉 雄策	EXPO'70 シンボルマーク	1967	シルクスクリーン	103.0×72.7
181	亀倉 雄策	ヒロシマアピールズ1983	1983	オフセット印刷	103.0×72.7
182	亀倉 雄策	新潟県立近代美術館開館告知ポスター(冬)	1992	オフセット印刷	103.0×72.7
183	仲條 正義	個展「仲條のフジのヤマイ」ポスター	2002	オフセット印刷	72.8×93.8
184	勝井 三雄	作品集「視覚の地平 visionary ∞ scape」ポスター	2004	シルクスクリーン印刷	103.8×73.0
185	佐藤 卓	21_21 DESIGN SIGHT 企画展「water」ポスター	2007	デジタル・プリント	145.5×103.0
186	浅葉 克己	住宅メーカのデザイン思想「ミサワデザイン 2009 バウハウス」ポスター	2009	デジタル・プリント	145.6×103.0
187	澁谷 克彦	化粧品会社のイメージポスター「SHISEIDO」	2011	デジタル・プリント	147.5×105.0
188	植原 亮輔	ファッションブランド「THEATRE PRODUCTS」グラフィックツール	2004-2009	オフセット印刷	—
189	平野 敬子	美術館の周年事業関連制作物「東京国立近代美術館60周年」	2012	デジタル・プリント	—
190	松永 真	薫香 「ISSIMBOW "Katachi-koh"」パッケージデザイン	2006		—
191	服部 一成	ファッション情報誌『流行通信』ブックデザイン	2002-2004	デジタル・プリント	—

前期　2/3〜3/1
後期　3/3〜4/5

共　催　展

第69回新潟県美術展覧会 長岡展

【趣旨及び総括】

県民の日頃の創作渇仰の発表の場を提供し、併せて新潟県の芸術文化の振興に寄与することを目的に開設され、69回を迎えた。

日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真の７部門に、2,878人4,105点の応募があり、入賞作品54点、入選作品1,031点が選ばれた。

長岡展では、７部門の県展賞、奨励賞、新潟日報美術振興賞の入賞作品、長岡市及び周辺地域の入選作品、並びに審査員、委員の作品、無鑑査作品を展示し、７日間で3,635名と多数の来館者があり、盛況であった。

【開催日・その他】

＝2014年6月11日㈬～6月17日㈫＝

主　催：新潟日報社、新潟県、新潟県教育委員会、新潟市、長岡市、上越教育委員会、佐渡市教育委員会

後　援：新潟市教育委員会、長岡市教育委員会、上越市、柏崎市教育委員会、佐渡市、㈶新潟日報美術振興財団

観覧料：一般450円、大学生以下無料

審査員：日本画：北田克己、由里本出
洋　画：佐々木豊、田辺知治
版　画：柳澤紀子、山中現
彫　刻：戸谷成雄、深井隆
工　芸：佐治ヒロシ、春山文典
書　道：小野寺啓治、横山煌平
写　真：齋藤康一、高橋国博

長岡展作品解説会

6月11日㈬　石丸雨虹（書道）
河面元（工芸）
6月12日㈭　田辺千勝（写真）
菊地美秋（日本画）
6月13日㈮　渡辺寿（洋画）
小川宏（版画）
今井厚（洋画）
6月15日㈰　目黒煌人（書道）
関登美恵（日本画）
松本保忠（彫刻）
倉茂義隆（写真）
6月16日㈪　荒川希伊（書道）
池山阿有（洋画）
坪谷幸作（日本画）

担当：青木善治

第44回世界児童画展

【趣旨及び総括】

世界児童画展は1970年３月に大阪で開かれた万国博覧会を機に開催されて、今回で44回を迎えた。この展覧会は、子どもたちの感性と理性の調和の取れた成長を願い、子どもたちが自らつくり出す造形文化の支援と、国境を超えて世界の人々を繋ぐ国際相互理解を目的として開催してきている。

今回は、日本と世界28の国と地域から約15万４千点の応募があり、このうち新潟県からの応募作品では「特別賞」に2作品、「特選」に20作品が選ばれた。新潟県展では、これらに加え、新潟県からの応募で「入選」となった169作品も展示した。計288点展示した。６日間で2,060名と多数の来館者があり、盛況であった。

【開催日・その他】

＝2014年８月５日㈫～８月10日㈰＝

主　催：公益財団法人美育文化協会、TeNYテレビ新潟、新潟県立近代美術館

後　援：外務省、文部科学省、新潟県教育委員会、読売新聞社、社団法人日本美術教育連合、全国造形教育連盟

協　力：ぺんてる株式会社

観覧料：無料

会　場：新潟県立近代美術館　ギャラリー

担当：青木善治

第16回亀倉雄策賞受賞記念 葛西薫展「ヒロシマ・アピールズ」

【趣旨及び総括】

JAGDA（公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会）初代会長の故亀倉雄策のコレクションを所蔵する館として、氏を讃えて創設された「亀倉雄策賞」の受賞作家作品展を継続開催することで、更なるグラフィックデザインの発展に寄与する。

本年度は、公立大学法人長岡造形大学、新潟県立近代美術館、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）よる三者主催で実施。昨年度まで当展と併せて開催していたJAGDA新人賞展は、長岡造形大学NIDホール（11月20日㈭～26日㈬）での実施となった。

展示内容としては、葛西薫氏の第16回亀倉雄策賞受賞作となった、《HIROSHIMA APPEALS 2013》と、作品制作のために描いた数々の原画を中心に展示。また、サントリーウーロン茶やユナイテッドアローズなどの広告作品の映像や、装丁を行ったペーター・ツムトア（著）／鈴木仁子（訳）『建築を考える」（みすず書房）、半田也寸志（写真・文）『IRON STILLS　アメリカ、鉄の遺構』（ADP）などの書籍も会場で併せて紹介した。

【開催日・その他】

=2014年9月9日㈫ ～ 9月30日㈫（19日間）
会　場：新潟県立近代美術館　ギャラリー
主　催：公立大学法人長岡造形大学、新潟県立近代美術館、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会
協　力：クリエイションギャラリーG8、亀倉雄策賞事務局
観覧料：無料

【関連行事】

開催記念講演
日　時：9月28日㈰　14：00～
会　場：新潟県立近代美術館　講堂
講　師：石川竜太氏（JAGDA賞2014受賞）
　　葛西薫氏（第16回亀倉雄策賞受賞）
参加者数：117名

担当：伊澤朋美

第45回新潟県ジュニア美術展覧会長岡展

【趣旨及び総括】

感性豊かな子どもの育成と美術振興をねらいとして、45年間継続している全県規模のコンクールである。今回は、県内695の幼・保・小・中学校、特別支援学校等から33,809点の応募があった。9名の審査員により選ばれた2,060点を新潟市、上越市、柏崎市、長岡市の4会場に巡回展示した。

長岡展会場である当館には、10日間の会期中に2,808名の入場があり、家族で美術鑑賞を楽しむ場となった。

【開催日・その他】

会　場：新潟展 2014年11月29日～12月11日
　　新潟県民会館ギャラリーにて
　　長岡展 2015年1月15日～1月25日
　　新潟県立近代美術館にて
　　柏崎展 2015年1月29日～2月3日
　　柏崎市ソフィアセンターにて
　　上越展 2015年2月7日～2月12日
　　上越市民プラザにて
主　催：新潟日報社、新潟県教育委員会、新潟県立近代美術館、新潟県美術教育連盟、新潟市教育委員会、長岡市教育委員会、上越市教育委員会、柏崎市
後　援：新潟日報美術振興財団
観覧料：無料

審査員（敬称略）

幼稚園・保育園	松本健義（上越教育大学教授）
小学校1年	春日明夫（東京造形大学教授）
小学校2年	山田芳明（鳴門教育大学准教授）
小学校3年	結城和廣（長岡造形大学教授）
小学校4年	水島尚喜（聖心女子大学教授）
小学校5年	丹治嘉彦（新潟大学教授）
小学校6年	阿部靖子（上越教育大学教授）
中学校1～3年	村上尚徳（環太平洋大学教授）
特別支援学校	天形健（福島大学教授）

担当　佐藤久美子

第18回新潟県立美術館
友の会作品展

【趣旨及び総括】

友の会会員の制作した作品を募集し、会員の結束を図りながら、美術館の運営や活動に協力することを目的として、平成９年度に企画、以来開催を続けている。

第18回展では、会員がワークショップで制作した作品を中心に、会の活動の様子などの写真やアートカフェの様子の写真なども、近代美術館のエントランスホールに展示した。展示作業は会員が中心となって行った。

また、万代島美術館のエントランスでも近代美術館と同じ内容で展示、開催した。

【開催日・その他】

近代美術館
開催日：2014年10月11日㈯～10月19日㈰
会　場: 新潟県立近代美術館エントランス

万代島美術館
開催日：2014年11月18日㈫～11月30日㈰
会　場：新潟県立万代島美術館エントランス

主　催：新潟県立美術館友の会
観覧料：無料

担当：更科昌江（友の会事務局）

長岡造形大学2014年度
こどもものづくり大学校作品展覧会
～こども×カタチ展～

【趣旨及び総括】

長岡造形大学主催事業「こどもものづくり大学校」は、ものづくりによって豊かな感性と創造力をはぐくみ、また日常生活では体験できない自由な発想の場を提供するという趣旨で、小学３～６年生を対象に行われる講座である。同大学のキャンパスを主な活動場所とし、６クラス156名の子どもが参加した。当館でもそのうちの１講座を学外ワークとして受け持ち「色をみつけよう～お気に入りの作品から～」を10月５日及び19日に実施した。

本展覧会は、年間を通してガラス、陶芸、油絵、彫刻、クラフト――と、多彩な10講座を受講した子どもたちのユーモアあふれる作品の数々を展示し、こどもものづくり大学校の活動を紹介するものである。今年度は277点の作品が展示され、会期中は、作品を出品した子どもの家族を中心とした来場者でにぎわった。

【開催日・その他】

=2015年３月14日㈯～３月22日㈰=
会　場：新潟県立近代美術館　ギャラリー
主　催　長岡造形大学
共　催：新潟県立近代美術館
後　援：長岡市、長岡市教育委員会、新潟日報社、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シィ・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT79.0、FMながおか80.7、長岡新聞社
観覧料：無料
来場者数：724名

担当：宮下東子

所蔵品展

昭和追想　美術でたどる時代の風景

【趣　旨】

元号が昭和から平成にかわり、すでに四半世紀が過ぎた。昭和の64年間は、近代大衆文化の誕生、日中戦争から太平洋戦争、連合国軍による占領や廃墟からの復興、高度経済成長時代からバブル経済と、まさに激動の時代であった。本展では、昭和時代の社会や世相を反映している作品を、当館の所蔵品を中心に出品した。平成生まれには新鮮な、昭和生まれには懐かしい展覧会となった。

【総　括】

●評価すべき点

・当館の所蔵品のみならず、新潟市歴史博物館、新潟市美術館、燕市産業史料館、新潟商工会議所からも作品を借用し、展覧会の趣旨をより明確にすることができた。

・関連年表で新潟の庶民の昭和史を取り上げたところ、たいへん好評であった。展覧会のみならず、新潟交通商事が主催するイベントでも活用してもらえた。

・「昭和末期の子供たちのあそび場」と題したコーナーをロビーに設け、新鮮な切り口で見せることができた。

●検討課題

・所蔵品展の枠なので独自の広報予算がなく、展覧会の魅力を十分に伝えきれなかった。

【開催日・その他】

=2014年11月22日㈯～2015年2月11日(水・祝)(67日間)=

※会期中、一部展示替えあり

主　催：新潟県立万代島美術館

協　力：新潟市美術館、新潟市歴史博物館、新潟市商工会議所、燕市産業史料館

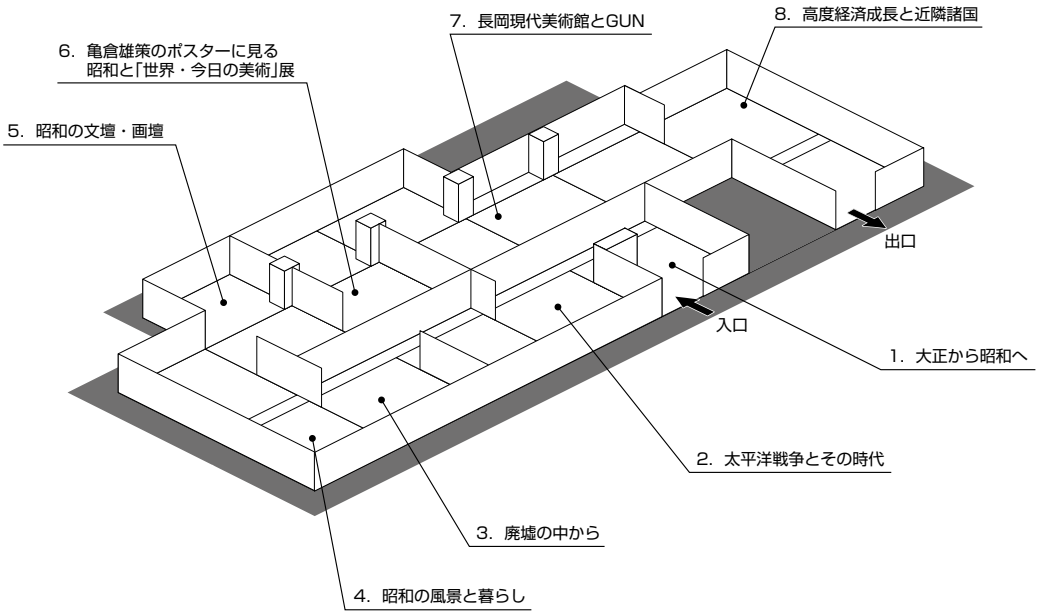
後　援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、読売新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞社 新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……310円（250円）

大学・高校生……150円（120円）

※中学生以下無料

※（　）内は有料20名以上の団体料金



【関連行事】

・美術鑑賞講座「亀倉雄策 1950年代の仕事」
　1月24日㈯　14：00～　美術館ロビー
　講　師：今井有（当館業務課長代理）
　参加者数：13名
・当館学芸員による作品解説会
　毎週日曜日　14：00～　美術館展示室
・友の会会員による作品展
　11月22日㈯～11月30日㈰　美術館ロビー

【関連記事】

●新聞
　12月22日㈪　新潟日報
　　ミュージアムへようこそ「「本物」重視 色濃く反映」／高晟埈
　12月４日㈭　新潟日報　投稿
　　美術展で「昭和」思い出す／丸田洋一

その他　信濃毎日新聞（12/25）

●雑誌
　『財界にいがた』11月号
　　美術展「昭和追想 美術でたどる時代の風景」

●テレビ
　12月16日㈫　NHK
　　お昼はじょんのび／高晟埈
　1月４日㈰　UX
　　ほっとホット新潟／高晟埈

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	1,802
	前売	―
無料観覧者数	招待	530
	無料	206
	免除	222
総観覧者数		2,760
有料率（%）		65.3

担当　高晟埈

【出品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横cm)	所蔵先	展示期間
1. 大正から昭和へ							
1	牧野虎雄	サンルーム	1929	カンヴァス、油絵具	116.5×91.0		
2	諸橋政範	潮風	1937	カンヴァス、油絵具	97.0×161.5		
3	安宅馬雄	鸚鵡と少女	1936	カンヴァス、油絵具	162.2×130.1		
4	田中道久	舞妓	1934	カンヴァス、油絵具	61.0×50.0		
5	佐藤哲三	農村託児所	1934	カンヴァス、油絵具	97.0×130.0		
6	佐藤哲三	稲(農林一号)	1941	カンヴァス、油絵具	80.5×65.5		
7	番場春雄	雪に遊ぶ	1935	紙、岩絵具	180.0×180.0		前期
8	西脇順三郎	萬代橋風景	1941頃	紙本彩色	171.0×165.0		後期
2. 太平洋戦争とその時代							
9	長谷部権次呂	女子警防団	1943	紙本彩色	190.0×85.0		
10	石井柏亭	出雲雄姿(下図)	1938	カンヴァス、油絵具	60.8×73.0		
11	三芳悌吉	パラシュート制作工場(東京藤沢無線)	1945	カンヴァス、油絵具	50.0×60.5		
12	山下新太郎	木更津航空隊行幸(下図)	1943	カンヴァス、油絵具	45.2×81.0		
13	岩川義雄	小休止	1943	木彫	63.0×117.0		
14	羽下修三	二千六百年を舞う	1940	木彫、着彩	139.0×94.0×47.0		
15	主婦友社	建国絵巻双六	1940		54.0×77.5		
16	大日本雄弁会講談社	『講談社の絵本 支那事変武勇談』	1937	カンヴァス、油絵具			
17	大日本雄弁会講談社	『少年倶楽部 第19巻第1号』	1932				
18	近藤健児	『マンガ イサムクンノ南洋見物』	1942				
19	渡辺義雄	戦中・戦後の東京(10点)	1945-1946	モノクローム・プリント	27.0×40.3		
3. 廃墟の中から							
20	阿部展也	人	1951	カンヴァス、油絵具	72.0×61.0		
21	阿部展也	埋葬	1952	カンヴァス、油絵具	73.0×91.0		
22	佐藤哲三郎	御行幸	1947	カンヴァス、油絵具	183.0×116.0	新潟市美術館	
23	山口長男	漠	1972	板、油絵具	182.0×182.0		
24	戸張幸男	片隅の男	1955	ブロンズ鋳造	110.0×100.0×75.0		
25	谷中安規	朝鮮	1932	紙	10.0×15.6		後期
26	谷中安規	少年画集⑧ 朝鮮	1933	紙	12.7×18.2		前期
27	岩本正二	少年の町②	1956			個人	
28	横山操	カザフスタンの女	1951	紙、岩絵具	240.3×117.4		
29	宮崎進	黄色い大地	2000	麻布、木工ボンド、木炭、油絵具、合板	261.0×393.0		
30	宮崎進	ナナエツの少女	1996	石膏、油絵具	80.0×32.0×100.0 台100.0×40.0×40.5		
31	富樫寅平	農家	1943	カンヴァス、油絵具	112.4×145.5		
32	小川小城	新潟の傷痍軍人	1953			新潟市歴史博物館	
4. 昭和の風景と暮らし							
33	安宅安五郎	新潟異人池天主教会	1946	紙、水彩絵具、顔料	32.4×42.8		前期
34	安宅安五郎	新潟税関	1946	紙、水彩絵具、顔料	32.1×41.2		後期
35	安宅安五郎	新潟鍵冨邸中庭	1944	紙、水彩絵具、顔料	33.8×45.4		前期
36	安宅安五郎	新潟斎藤家別邸庭園	1944	紙、水彩絵具、顔料	34.4×47.0		後期
37	安宅安五郎	沼垂	1949	紙、水彩絵具、顔料	32.2×44.6		前期
38	安宅安五郎	沼垂にて	1949	紙、水彩絵具、顔料	44..4×33.2		後期
39	横山操	秋	1963	紙、岩絵具	150.0×61.0		
40	児島善三郎	森と聚落	1958	カンヴァス、油絵具	60.0×73.0		
41	栢森義	織女の家路	1971	板、油絵具	166.8×121.7		
42	矢部友衛	茶刈―静岡県下	1960	カンヴァス、油絵具	116.8×91.0		

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横㎝)	所蔵先	展示期間
43	小林工業	灰皿 ラッキーウッド ボナロワ	1966			燕市産業史料館	
44	エムテートリマツ	学校給食用先割れスプーン	1970頃			燕市産業史料館	
45	小林工業	イチゴつぶし用スプーン	1960			青山彫金所(燕市産業史料館寄託)	
46	イケダ	イタリアン用ステンレス皿	1965頃			みかづき(燕市産業史料館寄託)	
47	作者不詳	レストランダイワ食品サンプル				新潟市歴史博物館	

5. 昭和の文壇・画壇

48	濱谷浩	昭和男性諸君 大いなる趣味人,黒船館の吉田正太郎さん	1947	モノクローム・プリント	28.8×19.3		前期
49	濱谷浩	昭和男性諸君 この道一筋の塗師,内田宗寛さん	1947	モノクローム・プリント	28.8×19.0		後期
50	濱谷浩	昭和男性諸君 多芸博覧強記の陶工,斎藤三郎さん	1947	モノクローム・プリント	28.8×19.2		後期
51	濱谷浩	昭和女人集 粉雪舞う料亭行形亭 挨拶する伸江さん	1953	モノクローム・プリント	28.8×19.1		前期
52	濱谷浩	學藝諸家 堀口大學 詩人	1946	モノクローム・プリント	28.9×19.0		後期
53	濱谷浩	學藝諸家 相馬御風 詩人,文学者,書家	1946	モノクローム・プリント	28.8×19.0		後期
54	濱谷浩	學藝諸家 會津八一 歌人,美術史家,書家	1947	モノクローム・プリント	28.7×18.9		前期
55	濱谷浩	學藝諸家 會津八一 歌人,美術史家,書家	1947	モノクローム・プリント	28.8×19.2		後期
56	濱谷浩	學藝諸家 小林古径 日本画家	1949	モノクローム・プリント	28.8×19.1		前期
57	濱谷浩	學藝諸家 小林古径 日本画家	1949	モノクローム・プリント	19.0×29.0		後期
58	濱谷浩	學藝諸家 坂口安吾 作家	1954	モノクローム・プリント	19.1×28.9		前期
59	濱谷浩	學藝諸家 安井曾太郎 画家	1949	モノクローム・プリント	29.9×19.8		前期
60	梅原龍三郎	紫禁城	1942	カンヴァス、油絵具	82.5×69.0		
61	東山魁夷	森の静寂	1964	紙、岩絵具	121.7×162.8		
62	村山径	朝の火山	1978	紙、岩絵具	175.3×209.0		
63	五代伊藤赤水	無名異壺	1988	陶器	高さ34.5、径30.0		
64	芹沢銈介	釈迦十大弟子 大迦葉	1982-84	強製紙	100.0×59.1		
65	芹沢銈介	釈迦十大弟子 阿那律	1982-84	強製紙	83.0×52.7		

6. 亀倉雄策のポスターに見る昭和と「世界・今日の美術」展

66	亀倉雄策	ニッポン放送開局	1954	オフセット	72.8×51.9		
67	亀倉雄策	東京オリンピック 陸上	1962	グラビア	103.0×72.7		
68	亀倉雄策	EXPO'70 日本の祭	1969	グラビア	103.0×72.7		
69	亀倉雄策	フジテレビシンボルマーク	1958				
70	亀倉雄策	NTTトレードマークロゴタイプ	1985		72.8×103.0		
71	亀倉雄策	地下鉄東京開通	1956	オフセット	103.0×72.7		
72	亀倉雄策	強い電球!　明るい家庭!　イエスランプ	1950年代	オフセット	50.8×35.6		
73	亀倉雄策	ゼネラルテレビカレンダー	1954	オフセット	84.4×59.4		
74	亀倉雄策	ゼネラル電気洗濯機	1953	オフセット	73.0×33.7		
75	亀倉雄策	世界・今日の美術展	1956	オフセット	71.9×51.7		
76	亀倉雄策	日本インダストリアルデザイナー協会シンボルマーク	1969				
77	オノサトトシノブ	同心円	1971	カンヴァス、油絵具	15.5×22.5		
78	ルチオ・フォンタナ	空間概念 期待	1962	カンヴァス、水性塗料	56.0×47.0		
79	末松正樹	ボン・ボワイヤージュ	1962	カンヴァス、油絵具	227.0×182.0		
80	杉全直	きっこう	1960	カンヴァス、ミクストメディア	60.6×72.6		
81	河原温	JAN. 1. 1975	1975	カンヴァス、アクリル絵具	25.7×32.8		
82	阿部展也	R-29	1967	板、蠟	179.0×179.0		
83	難波田龍起	森の詩	1960	カンヴァス、油絵具	40.5×32.0		

7. 長岡現代美術館とGUN

84	岡本信治郎	10人のインディアン(3点)	1964	カンヴァス、水彩	各190.0×130.0	駒形十吉記念美術館 (新潟県立近代美術館寄託)	
85	磯辺行久	WORK '63-87	1964	木、紙、木箱、大理石粉　他	272.0×212.0×6.5	駒形十吉記念美術館 (新潟県立近代美術館寄託)	

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（縦×横㎝）	所蔵先	展示期間
86	田中敦子	作品	1963	カンヴァス、合成樹脂エナメル塗料	194.8×130.0	駒形十吉記念美術館（新潟県立近代美術館寄託）	
87	チャールズ・ヒンマン	休憩	1965	カンヴァス、アクリル絵具	166.0×229.0×23.0	駒形十吉記念美術館（新潟県立近代美術館寄託）	
88	高松次郎	椅子にかけた男の影	1965	カンヴァス、油彩	178.0×223.0	駒形十吉記念美術館（新潟県立近代美術館寄託）	
89	篠原有司男	花魁殺し	1965	カンヴァス、油彩、アクリル板、金箔	225.0×181.0	駒形十吉記念美術館（新潟県立近代美術館寄託）	
90	ケンダル・ショウ	名人の高跳び	1964	カンヴァス、油彩	243.0×142.0	駒形十吉記念美術館（新潟県立近代美術館寄託）	
91	エンリコ・カステラーニ	白の表面 No.41	1966	カンヴァス、油彩、釘	120.0×150.0	駒形十吉記念美術館（新潟県立近代美術館寄託）	
92	靄嘔	日本	1966	カンヴァス、油彩、ヒートン、テグス、スコップ	29.0×182.0×10.0	駒形十吉記念美術館（新潟県立近代美術館寄託）	
93	山口勝弘	作品	1967	アクリル樹脂、蛍光管	150.0×300.0×164.0	駒形十吉記念美術館（新潟県立近代美術館寄託）	
94	GUN	雪のイメージを変えるイベント	2009				
95	堀川紀夫	スノー・パフォーマンス	1980年代		116.0×100.0		

8．高度経済成長と近隣諸国

96	横山操	高速四号線	1964	紙、岩絵具	239.7×480.7		
97	横山操	TOKYO	1968	紙本彩色	180.0×181.0		
98	小林新一	日本の中の38度線	1959			新潟市歴史博物館	
99	アレクセイ・ヒョードロフ	風景	不明			新潟商工会議所	
100	金昌烈	水滴	1974	カンヴァス、アクリル絵具	194.0×97.0		
101	米谷清和	街ー朝	1986	紙本彩色	200.0×290.0		前期
102	米谷清和	街ー夕方	1986	紙本彩色	200.0×290.0		後期
103	中島萬木	長岡悠久山の松林	1971	紙本彩色	169.8×171.2		
104	長﨑莫人	雲崗石仏1	1978	紙本彩色	89.8×159.8		
105	長﨑莫人	北魏交脚弥勒	1979	紙本彩色	162.8×90.0		

9．昭和末期のこどもたちのあそびば

106	任天堂	家庭用ゲーム機「ファミリーコンピュータ」	1983			個人	
107	任天堂	ファミコン用RFスイッチ	1983			個人	
108	集英社	『週刊少年ジャンプ』10号（2月18日号）	1985			個人	
109	集英社	『週刊少年ジャンプ』20号（4月29日号）	1985			個人	
110	集英社	『週刊少年ジャンプ』46号（10月28日号）	1985			個人	
111	キャニオン・レコード他	シングル盤レコード	1980年代			個人	
112	バンダイ	キン肉マン消しゴム	1983-87			個人	

前期　11/22～1/4
後期　1/6～2/11

企　画　展

梅佳代展　UMEKAYO

【趣　旨】

なにげない日常のなかに潜むさまざまな光景を独自の視点から切り取ってみせる写真家・梅佳代（1981－）の初期から最新作までを展示。作家の活動の根幹ともいえるスナップ写真による〈シャッターチャンス〉シリーズ、身近な他者との関係性を軸に展開する〈男子〉〈じいちゃんさま〉シリーズなど約600点の作品により、梅佳代の魅力を多角的に紹介した。

【総　括】

●評価すべき点

・「篠山紀信展」に引き続いての写真展となった。2つの展覧会により、現代写真の多様な動向を紹介することができた。

・アンケートでは「思わず笑ってしまった」「涙が出た」などの感想が多く寄せられた。美術にあまり馴染みのない来館者でも共感できる親しみやすい展示内容であった。

・ポスター、チラシなど、広報用の印刷物のデザインは、作家とも親交が深く、本展図録のブックデザインも手がけたデザイナーの祖父江慎に依頼した。通常とは異なる斬新なデザインで来館者の興味を引くことができた。

●検討課題

・作家本人によるアーティスト・トーク＆サイン会を実施したところ、300人以上の参加者があった。参加者の協力もあり、無事進めることができたが、展示室内が人であふれることになった。参加人数の予測は難しいが、事故のないよう留意したい。

【開催日・その他】

=2014年4月1日㈫〜5月6日㈫（34日間）
※全体会期は3月15日㈯〜5月6日㈫（49日間）

主　催：新潟県立万代島美術館、NST
後　援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社
技術協力：キヤノン株式会社
企画協力：pdash
制作協力：産経新聞社
観覧料：一般……800円（600円）〈800円〉
大学・高校生……600円（400円）
※中学生以下無料
※（　）内は有料20名以上の団体料金
※〈　〉内は前売料金

【関連行事】

・「梅佳代アーティスト・トーク＆サイン会」
　４月26日㈯　トーク14:00～/サイン会15:00～
　美術館展示室（トーク）およびロビー（サイン会）
　講　師：梅佳代氏
　参加者数：トーク＝310名、サイン会＝70名

【図　録】

仕　様：A４判変形
発　行：産経新聞社
制　作：株式会社新潮社
内　容：ごあいさつ
　作家略歴・展覧会歴
　図版
　　シャッターチャンス Part１
　　女子中学生
　　能登
　　じいちゃんさま
　　男子
　　シークレット
　　シャッターチャンスPart２
　「様相と距離　梅佳代の作品をめぐって」（福士理）
　「はじめてのおつかい」（写真・文　都築響一）
　梅佳代　主要文献目録（今井有・中村亜紀子・福士理編）
　掲載作品リスト

【関連記事】

●新聞
　４月８日㈫　新潟日報
　「日々の営みにおかしさ　新潟で展覧会開催中　写真家・梅佳代さん」
　４月25日㈮　新潟日報
　ミュージアムへようこそ「梅佳代展UMEKAYO 笑いと愛に満ちた日常」／今井有

【観覧者数】

※４/１～５/６

有料観覧者数	当日	4,801
	前売	981
無料観覧者数	招待	1,086
	無料	813
	免除	191
総観覧者数		7,872
有料率（%）		73.5

※全会期

有料観覧者数	当日	6,479
	前売	1,302
無料観覧者数	招待	1,361
	無料	2,663
	免除	340
総観覧者数		10,515
有料率（%）		74.0

担当　今井有

※本展の展示図面および出品リストは平成25年度版年報を参照のこと。

国立国際美術館コレクション
美術の冒険

【趣　旨】

美術には、我々の日常生活の中の常識の鎖を断ち切って自由な思考へと導く、そんな力がある。本展では、大阪の国立国際美術館のコレクションの中から、こうした美術の力を感じさせる作品を選りすぐり、新潟では初めて大々的に公開した。

【総　括】

●評価すべき点

・印刷物の作成にデザイナーを起用することにより、インパクトあるポスターを作成することができた。

・国立国際美術館、茨城県近代美術館と協働し、展覧会の展示構成や図録執筆にも当初から学芸員が積極的に関与した。

・ちょうど中学生の団体が多く来館する時期だったので、先入観のない眼で現代アートを鑑賞する機会を与えられ、一定の教育的効果はあったと思われる。

●検討課題

・広報手段が限られたことで、メインのターゲットである現代アートの初心者をあまり呼び込むことができなかった。

【開催日・その他】

=2014年5月17日㈯～6月22日㈰（34日間）=

主　催：新潟県立万代島美術館、国立国際美術館

後　援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、読売新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞社 新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……800円（600円）
　　大学・高校生……600円（400円）
　　※中学生以下無料
　　※（　）内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金

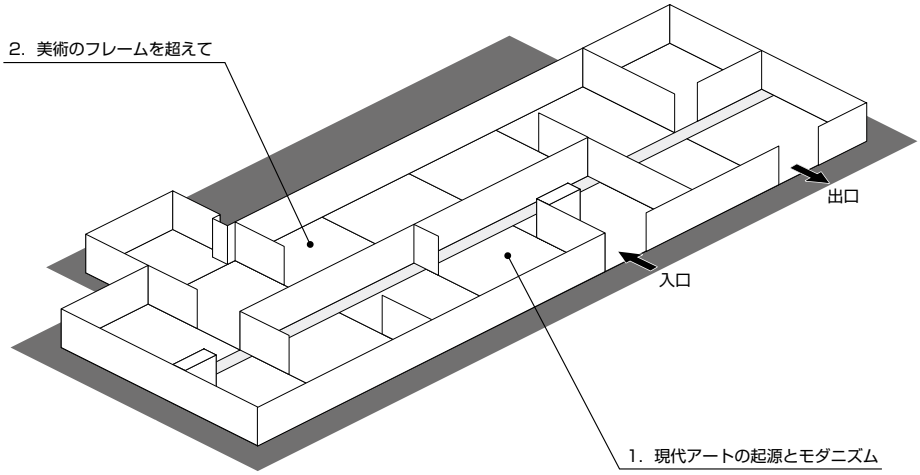
【関連行事】

・ギャラリートーク
「国立国際美術館のコレクションについて」
　5月17日㈯　14：00～　美術館展示室
　講　師：島敦彦（国立国際美術館 副館長）
　参加者数：25名

・美術鑑賞講座
「アジア･東欧の現代アート」
　5月31日㈯　14：00～　NICOプラザ会議室
　講　師：高晟埈（当館主任学芸員）
　参加者数：８名

・美術鑑賞講座
「ドイツの現代写真」
　6月14日㈯　14：00～　美術館ロビー
　講　師：桐原浩（当館業務課長）
　参加者数：14名

・当館学芸員による作品解説会
　毎週日曜日　14：00～　美術館展示室



【図　録】

仕　様：A4判　112頁
編　集：国立国際美術館／新潟県立万代島美術館／茨城県近代美術館
発　行：国立国際美術館／新潟県立万代島美術館／茨城県近代美術館
内容：美術の冒険とともにあるのは……／山梨俊夫
関西の現代アートに対する雑感―郭徳俊、榎忠、森村泰昌を中心に／高晟埈
「私」の感覚にはじまる／永松左知
図版
第１章 現代アートの起源と「モダニズム」
第２章 美術のフレームを超えて
作品リスト

【関連記事】

●新聞
5月19日㈪　新潟日報
ミュージアムへようこそ「現代アートの流れ網羅 関西作家の個性を凝縮」／高晟埈

その他　新潟日報（5月21日㈬）
朝日新聞（5月18日㈰）

●雑誌
『月刊庄内小僧』 5月号
20世紀を代表する作品が一堂に

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	2,752
	前売	492
無料観覧者数	招待	878
	無料	478
	免除	356
総観覧者数		4,956
有料率（%）		65.5

担当　高晟埈

【出品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横㎝)
第１章　現代アートの起源とモダニズム					
1	ポール・セザンヌ	宴の準備	1890頃	油彩、カンバス	45.0×53.0
2	ヴァシリー・カンディンスキー	絵の中の絵	1929	油彩、厚紙	69.8×48.7
3	パブロ・ピカソ	ポスターのある風景	1912	油彩、エナメル、カンバス	46.0×61.0
4	パブロ・ピカソ	肘かけ椅子に坐る裸婦	1964	油彩、カンバス	146.0×97.0
5	マルセル・デュシャン	L.H.O.O.Q.	1919/64	印刷された紙、鉛筆	30.1×23.0
6	マルセル・デュシャン	チェス・プレーヤー	1966	ソフトグランドエッチング、和紙	44.0×57.9
7	マン・レイ	埃の培養	1920/77	ゼラチンシルバープリント	21.1×37.5
8	マン・レイ	レイヨグラフ	1959	ゼラチンシルバープリント	29.9×23.8
9	マン・レイ	イジドール・デュカスの謎	1920/71	ミクストメディア	46.0×58.7×23.0
10	マックス・エルンスト	灰色の森	1927	油彩、カンバス	80.0×100.0
11	ジャン・デュビュッフェ	愉快な夜	1949	油彩、カンバス	89.0×116.0
12	ジョルジョ・モランディ	静物	1952	油彩、カンバス	33.2×45.0
13	ルーチョ・フォンタナ	空間概念、期待	1962	水性塗料、カンバス	100.0×81.0
14	バーネット・ニューマン	夜の女王 I	1951	油彩、カンバス	244.0×48.0
15	吉原治良	無題	1971	油彩、カンバス	230.0×315.5
16	モーリス・ルイス	Nun	1959	アクリル(マグナ)、カンバス	249.0×351.0
17	ヴィレム・デ・クーニング	水	1970	油彩、紙、カンバス	107.0×81.0
18	アンディ・ウォーホル	版画集『マリリン』より[1]	1967	シルクスクリーン、紙	91.4×91.4
19	アンディ・ウォーホル	版画集『マリリン』より[4]	1967	シルクスクリーン、紙	91.4×91.4
20	アンディ・ウォーホル	版画集『マリリン』より[8]	1967	シルクスクリーン、紙	91.4×91.4
21	アンディ・ウォーホル	版画集『マリリン』より[10]	1967	シルクスクリーン、紙	91.4×91.4
22	ドナルド・ジャド	無題	1977	ステンレス・スチール	4点組 各25.0×50.0×25.0
23	草間彌生	道徳の部屋	1976	ミクストメディア	269.5×185.0×25.0
24	フランク・ステラ	グレー・スクランブルXII ダブル	1968	アクリル、カンバス	175.3×350.3
25	ニキ・ド・サンファール	アダムとイヴ	1977	アクリル、色鉛筆、パステル、プラスチック	38.4×22.0×12.0
26	アルマン	百のイカ	1980	ステンレス	16.0×24.0×29.0
27	クリスト	包まれたライヒスターク(旧ドイツ帝国議会議事堂)、ベルリンのプロジェクト	1980	コラージュ(布、糸、パステル、木炭、鉛筆、建築図面、紙)	2点組 [上]28.0×71.0、 [下]56.0×71.0
28	榎倉康二	干渉 (STORY-No.46)	1992	アクリル、綿布、木	197.0×290.9
29	高松次郎	大理石の単体	1971	大理石	60.0×50.0×18.0
30	中西夏之	コンパクト・オブジェ	1962	ポリエステル樹脂、ミクストメディア	24.0×15.0×16.0
31	森山大道	続にっぽん劇場写真帖	1978	ゼラチンシルバープリント	28.0×41.4
32	森山大道	続にっぽん劇場写真帖	1978		32.4×40.0
33	森山大道	続にっぽん劇場写真帖	1978		33.0×40.0
34	森山大道	続にっぽん劇場写真帖	1978		40.9×33.1
35	森山大道	続にっぽん劇場写真帖	1978		27.9×41.4
36	森山大道	続にっぽん劇場写真帖	1978		40.4×33.1
37	榎忠	ハンガリー国へハンガリ(半刈)で行く	1977-78	ゼラチンシルバープリント、パネル	79.0×51.0
38	郭徳俊	レーガンと郭	1981	セリグラフ、紙	53.3×36.9
39	ジョセフ・コスース	カラー	1968	写真(反転)	100.0×100.0
第2章　美術のフレームを超えて					
40	エミリー・カーメ・ウングワレー	ヤム(ヤムイモ)	1995	アクリル、カンバス	202.5×89.4
41	ジグマー・ポルケ	恋人たち	1972	アクリル、プリント布地	190.5×150.5
42	ゲルハルト・リヒター	抽象絵画 (648-1)	1987	油彩、カンバス	225.0×200.0
43	ゲオルク・バゼリッツ	ケーニッヒ夫妻の肖像	1970-71	油彩、カンバス	250.0×199.0
44	エンツォ・クッキ	聖なる聖人	1981	油彩、カンバス	180.0×110.5
45	杉本博司	プロスペクトパーク・シアター、ニューヨーク	1978	ゼラチンシルバープリント	42.2×54.0
46	杉本博司	ビーコン、ニューヨーク	1979	ゼラチンシルバープリント	42.3×54.1
47	杉本博司	パームス、ミシガン	1980	ゼラチンシルバープリント	42.3×54.0
48	デイヴィッド・ホックニー	ぼくの母、ボルトン修道院、ヨークシャー、1982年11月 #5	1982	コラージュ(写真)	120.5×70.0

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横㎝)
49	トニー・クラッグ	日本の盾	1987	ブロンズ	150.0×150.0×20.0
50	トーマス・ルフ	ポートレート(K.クネフェル)	1988	Cプリント	210.5×165.3
51	トーマス・シュトゥルート	渋谷交差点、東京	1991	クロモゲンカラープリント	184.0×241.3
52	森村泰昌	肖像(ファン・ゴッホ)	1985	カラー写真	120.0×100.0
53	森村泰昌	フェルメール研究(大きな物語は、小さな部屋の片隅に現れる)	2004	カラー写真	145.5×125.5
54	ソフィ・カル	B, C, W	1998	Cプリント、テキスト	2点組 各67.0×67.0
55	米田知子	フロイトの眼鏡―ユングのテキストを見るII	1998	ゼラチンシルバープリント	75.0×75.0
56	米田知子	マーラーの眼鏡―『交響曲(未完成)第10番』の楽譜を見る	1999	ゼラチンシルバープリント	75.0×75.0
57	米田知子	谷崎潤一郎の眼鏡―松子夫人への手紙を見る	1999	ゼラチンシルバープリント	75.0×75.0
58	米田知子	ル・コルビュジエの眼鏡―パリ「近代住居」の講演原稿を見る	2003	ゼラチンシルバープリント	75.0×75.0
59	松江泰治	BER 31119	2011	Cプリント	110.0×137.5
60	柴田敏雄	青森県黒石市	2006	Cプリント	100.0×125.0
61	畠山直哉	ブラスト　#5707	1998	Cプリント	100.0×150.0
62	奈良美智	長い長い長い夜	1995	アクリル、綿布	120.0×110.4
63	小林孝亘	Forest	2000	油彩、カンバス	280.0×270.0
64	村瀬恭子	Around the Lilac Rock #4	2006	油彩、色鉛筆、綿布	180.0×145.0
65	丸山直文	Butterfly Song	2004	アクリル、綿布	260.0×260.0
66	町田久美	雪の日	2008	青墨、岩絵具、顔料、色鉛筆、鉛筆、雲肌麻紙	194.0×162.0
67	森千裕	ビン・カンの日	2009	透明水彩、鉛筆、フェルトペン、水彩紙、木製パネル	120.0×180.0
68	伊藤存	picnic	2001	布に刺繍、木製パネル	180.0×300.0
69	後藤靖香	寄書	2008	油彩、アクリル、墨汁、カンバス	300.0×500.0
70	塩田千春	トラウマ／日常	2008	糸、服、石膏、アクリル絵具、鉄	179.5×100.5×74.0
71	ロレッタ・ラックス	ドロテア	2006	イルフォクロームプリント	38.0×38.0
72	ロレッタ・ラックス	アイルランドの少女たち	2005	イルフォクロームプリント	38.0×42.0
73	やなぎみわ	My Grandmothers: YUKA	2000	発色現像方式印画、テキスト	160.0×160.0
74	島袋道浩	箱に生まれて	2001	段ボールの箱、CD、CDプレーヤー、スピーカーシステム、センサー、泡盛	サイズ可変
75	島袋道浩	柿とトマト	2010	Cプリント、アルポリックマウント	18.8×28.4
76	ヤノベケンジ	アトムスーツ・プロジェクト　タワー3	2002	ライトボックス	160.0×120.0×20.0
77	ヤノベケンジ	アトムカー(黒)	1998	ガイガーカウンター、FRP、モーター、他	111.0×150.0×210.0
78	アラヤー・ラートチャムルーンスック	ミレーの《落穂拾い》とタイの農民たち	2008	ビデオ(15分)	
79	アラヤー・ラートチャムルーンスック	ルノワールの《ムーラン・ド・ラ・ギャレット》とタイの村人たち	2008	Cプリント	73.5×73.5
80	張大力(ジャン・ダーリー)	拆(チャイ)、平安大街、北京	1999	Cプリント	90.0×60.0
81	馬六明(マ・リューミン)	ベイビー No.6	1998	油彩、カンバス	60.0×100.5
82	ジョージェ・オズボルト	形而上的なもの以外の何を愛せと言うのか	2008	アクリル、イコンボード	50.0×40.0
83	リアム・ギリック	エンディングス	2008	粉体塗装、アルミニウム	70.0×128.0×0.5

新潟が生んだジブリの動画家
近藤喜文展

【趣　旨】

新潟県五泉市に生まれ育った日本屈指のアニメーター・近藤喜文（1950-98）の業績を紹介した。スタジオジブリの協力のもとで、近藤の描いたキャラクターデザインやアニメーション原画、イメージボード、スケッチなど約700点もの作品・資料を展示した。

【総　括】

●評価すべき点

・知る人ぞ知る存在であった新潟出身のアニメーターの業績を、地元五泉市の協力も得て知らしめることができた。

・これまでの展覧会開催から良好な関係を築いてきたテレビ新潟、スタジオジブリと協働し、新潟独自の企画とし実現させることができた。

・巡回のない独自企画として全国発信でき、県内だけでなく県外からも多数の来館者を集めることに成功した。

・貴重な作品・資料の展示のほか、展示室内には映画『耳をすませば』のシーンを再現した撮影コーナーや、ぬりえを自由に楽しんでいただけるコーナーを設置し好評であった。また、展示室出口には、来館者の感想ボードを設置、多くのコメントがよせられた。

●検討課題

・特になし。

【開催日・その他】

=2014年７月４日㈮～2014年８月31日㈰（57日間）

主　催：新潟県立万代島美術館、TeNYテレビ新潟、近藤喜文展実行委員会

共　催：新潟市、新潟市教育委員会、五泉市、五泉市教育委員会

企画制作協力：スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館

協　力：日本テレビ放送網

後　援：読売新聞新潟支局、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

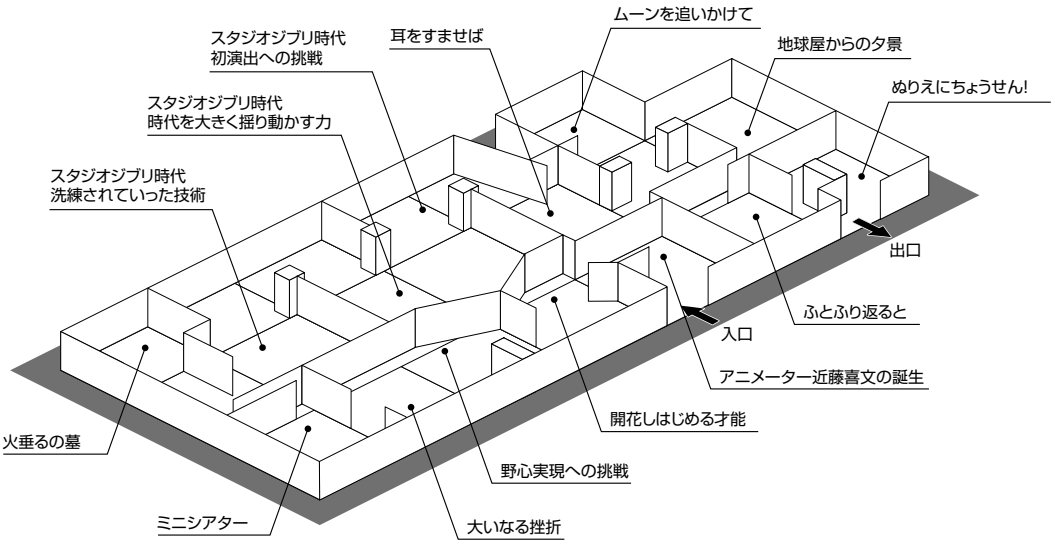
協　賛：株式会社ブルボン

観覧料：一般……1,100（900）円〈900円〉
大学・高校生……900（700）円
※中学生以下無料
※（　）内は20名以上の団体料金
※〈　〉は前売券料金

【関連行事】

・新潟市ジュニア合唱団によるミュージアム・コンサート
日　時：７月12日㈯　11:30～12:00
場　所：美術館ロビー
参加者数：136名

・ギャラリートーク
日　時：８月２日㈯　14:00～
講　師：橋田真氏（スタジオジブリ 制作業務部 広報担当部長）
場　所：美術館展示室
参加者数：60名



・ポッチャリーノ弦楽四重奏団によるミュージアム･コンサート
　日　時：8月9日㈯　14:00～14:40
　場　所：美術館ロビー
　参加者数：220名

・タクシー運転手向け解説会
　日　時：7月7日㈪　14:00～14:30　*休館日
　場　所：美術館展示室
　参加者数：15名

【図　録】

本展図録はないが、それに代わるものとして、絶版だった『近藤喜文の仕事』（株式会社スタジオ・ジブリ、2000）を部数限定で再版した。

【関連記事】

●新聞
　7月5日㈯　読売新聞
　「五泉出身　近藤喜文展　ジブリの世界堪能」
　7月29日㈫　しんぶん赤旗
　「『近藤喜文展』に寄せて」／叶精二
　8月9日㈯　新潟日報
　ミュージアムへようこそ「新潟が生んだジブリの動画家　近藤喜文展」／桐原浩

その他　読売新聞　7/5、7/20、8/16、8/29
　　新潟日報　7/2、7/9、8/3
　　みつけ新聞　6/5
　　十日町新聞　6/5
　　妻有新聞　6/20

〈連載〉
・読売新聞　作品解説
　①《「火垂るの墓」イメージボード》「優しく温かな観察眼」／桐原浩（8/9）
　②《「おもひでぽろぽろ」修正原画》「生きた表情 繊細な線で」／桐原浩（8/14）
　③《「耳をすませば」背景画とセル画》「観客引き込む 等身大の若者」／桐原浩（8/15）
　④《「耳をすませば」キャラクターデザインのための習作》「妥協なきデザインの修正」／桐原浩（8/16）
　⑤《ふとふり返ると―近藤喜文画文集》「日常の輝き 一冊に」／桐原浩（8/20）

●雑誌
『財界にいがた』６月号
『月刊キャレル』８月号　記事広告見開き２ページ
『月刊Komachi！』８月号　記事広告「新潟アート通信」見開き２ページ

●テレビ
7/4　テレビ新潟「夕方ワイド新潟一番」

●ラジオ
7/4　エフエム新潟「SOUND SPLASH」
7/5　FM PORT「GOOD MORNING PORT CITY Saturday」
7/8　文化放送「大竹まことゴールデンラジオ」
7/14　エフエム新潟「SOUND SPLASH EX」（ジブリの森美術館三好氏電話インタビュー）

●その他
7/30　配信　朝日新聞デジタル「WEBRONZA」／叶精二

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	34,597
	前売	8,008
無料観覧者数	招待	3,117
	無料	9,858
	免除	2,380
総観覧者数		57,960
有料率（%）		73.5

担当　桐原浩、今井有

【出品リスト】

No.	作品名	内容	制作年	技法・材質
1～5	ルパン三世 パイロット版	不二子 01～05	1971-1972	紙、鉛筆、赤鉛筆
6～8	女性ファッションイラスト	女性イラスト 1～3	1968-1976	紙、水彩
9	女性ファッションイラスト	女性イラスト 5	1968-1976	紙、水彩
10	女性ファッションイラスト	女性イラスト 10	1968-1976	紙、鉛筆
11	女性ファッションイラスト	女性イラスト 6	1968-1976	紙、鉛筆
12～15	未来少年コナン	原画	1978	紙、鉛筆、色鉛筆
16～33	未来少年コナン	第3話　原画 18枚	1978	
34～57	未来少年コナン	第6話　原画 24枚	1978	
58	赤毛のアン	キャラ設定 ラフ・習作　アン 03	1979	紙、鉛筆
59	赤毛のアン	キャラ設定　妖精	1979	紙、鉛筆
60	赤毛のアン	キャラ設定 ラフ・習作　ダイアナ 01	1979	紙、鉛筆
61	赤毛のアン	キャラ設定 トマス一家	1979	紙、鉛筆、色鉛筆
62	赤毛のアン	キャラ設定 ハモンド一家	1979	紙、鉛筆、色鉛筆
63	赤毛のアン	本編用スケッチ アン 07	1979	紙、鉛筆
64	赤毛のアン	キャラ設定 ラフ・習作　ギルバート 06	1979	紙、鉛筆
65～66	赤毛のアン	キャラ設定 ラフ・習作　マリラ 03～04	1979	紙、鉛筆
67	赤毛のアン	キャラ設定 ラフ・習作　アン 09	1979	紙、鉛筆、水彩
68	赤毛のアン	キャラ設定 ラフ・習作　マシュウ 04	1979	紙、鉛筆、水彩
69	赤毛のアン	風俗スケッチ 03	1979	紙、鉛筆、水彩
70	赤毛のアン	本編用スケッチ アン 02	1979	紙、鉛筆
71	赤毛のアン	本編用スケッチ アン 01	1979	紙、鉛筆
72	赤毛のアン	本編用スケッチ アン 05	1979	紙、鉛筆
73	赤毛のアン	本編用スケッチ アン 03	1979	紙、鉛筆
74	赤毛のアン	キャラ設定 ラフ・習作　アン 07	1979	紙、鉛筆
75	赤毛のアン	キャラ設定 ラフ・習作　アン 05	1979	紙、鉛筆、水彩
76	赤毛のアン	キャラ設定 ラフ・習作　アン 06	1979	紙、鉛筆、水彩
77	赤毛のアン	キャラ設定 ラフ・習作　アン 04	1979	紙、鉛筆、水彩
78	赤毛のアン	風俗スケッチ 01	1979	紙、鉛筆、水彩
79	赤毛のアン	風俗スケッチ 09	1979	紙、鉛筆、水彩
80	赤毛のアン	風俗スケッチ 04	1979	紙、鉛筆、水彩
81	赤毛のアン	風俗スケッチ 06	1979	紙、鉛筆、水彩
82	赤毛のアン	風俗スケッチ 08	1979	紙、鉛筆、水彩
83	赤毛のアン	風俗スケッチ 05	1979	紙、鉛筆、水彩
84	赤毛のアン	風俗スケッチ 07	1979	紙、鉛筆、水彩
85	赤毛のアン	オープニング	1979	紙、鉛筆、色鉛筆
86	赤毛のアン	描き下ろしなど 02	1979	紙、鉛筆、水彩
87	赤毛のアン	キャラ設定 ラフ・習作アン 01	1979	紙、鉛筆、色鉛筆
88	赤毛のアン	描き下ろしなど 01	1979	紙、鉛筆、色鉛筆
89～109	トム・ソーヤの冒険	原画 21枚	1980	
110	名探偵ホームズ	イメージボード 08	1981	紙、鉛筆
111	名探偵ホームズ	イメージボード 07	1981	紙、鉛筆、水彩
112	名探偵ホームズ	イメージボード 06	1981	紙、鉛筆、水彩
113～114	名探偵ホームズ	イメージボード 11～12	1981	紙、鉛筆、水彩
115	名探偵ホームズ	イメージボード 17	1981	紙、鉛筆、水彩
116	名探偵ホームズ	イメージボード 09	1981	紙、鉛筆、水彩
117	名探偵ホームズ	イメージボード 14	1981	紙、鉛筆、水彩
118	名探偵ホームズ	イメージボード 13	1981	紙、鉛筆、水彩
119	名探偵ホームズ	イメージボード 19	1981	紙、鉛筆、水彩
120	名探偵ホームズ	イメージボード 16	1981	紙、鉛筆、水彩
121	名探偵ホームズ	イメージボード 18	1981	紙、鉛筆、水彩
122	名探偵ホームズ	イメージボード 10	1981	紙、鉛筆、水彩
123	名探偵ホームズ	イメージボード 32	1981	紙、鉛筆
124	名探偵ホームズ	イメージボード 31	1981	紙、鉛筆
125	名探偵ホームズ	イメージボード 15	1981	紙、鉛筆、水彩
126	名探偵ホームズ	イメージボード 22	1981	紙、鉛筆、水彩
127～128	名探偵ホームズ	イメージボード 20～21	1981	紙、鉛筆、水彩
129	名探偵ホームズ	イメージボード 30	1981	紙、鉛筆
130	名探偵ホームズ	イメージボード 35	1981	紙、鉛筆
131～132	名探偵ホームズ	イメージボード 33～34	1981	紙、鉛筆
133	名探偵ホームズ	イメージボード 25	1981	紙、鉛筆
134	名探偵ホームズ	イメージボード 01	1981	紙、鉛筆
135～136	名探偵ホームズ	イメージボード 03～04	1981	紙、鉛筆
137	名探偵ホームズ	イメージボード 05	1981	紙、鉛筆、水彩
138	名探偵ホームズ	イメージボード 28	1981	紙、鉛筆
139～140	名探偵ホームズ	イメージボード 23～24	1981	紙、鉛筆
141	名探偵ホームズ	イメージボード 27	1981	紙、鉛筆
142	名探偵ホームズ	イメージボード 26	1981	紙、鉛筆

No.	作品名	内容	制作年	技法・材質
143	名探偵ホームズ	イメージボード 02	1981	紙、鉛筆
144	名探偵ホームズ	イメージボード 29	1981	紙、鉛筆
145	企画スケッチ集	テニスをする少女スケッチ 02	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
146	企画スケッチ集	水車と泳ぐ少年スケッチ 02	1980-1987	紙、鉛筆
147	企画スケッチ集	ハムスターと少女スケッチ 01	1980-1987	紙、鉛筆
148	企画スケッチ集	浴衣の少女 スケッチ 01	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
149	大きな一年生と小さな二年生	イメージボード 04	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
150	大きな一年生と小さな二年生	キャラ設定	1980-1987	紙、鉛筆
151	大きな一年生と小さな二年生	イメージボード 01	1980-1987	紙、鉛筆
152	大きな一年生と小さな二年生	イメージボード 03	1980-1987	紙、鉛筆
153	大きな一年生と小さな二年生	イメージボード 02	1980-1987	紙、鉛筆
154	兄妹探偵	イメージボード 01	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
155	兄妹探偵	イメージボード 02	1980-1987	紙、鉛筆、色鉛筆
156	兄妹探偵	イメージボード 04	1980-1987	紙、鉛筆、色鉛筆
157～158	兄妹探偵	キャラ設定 01～02	1980-1987	紙、鉛筆
159	兄妹探偵	イメージボード 03	1980-1987	紙、鉛筆
160	退魔戦記	スケッチ 01(スケッチブック p?)	1980-1987	紙、水彩
161	退魔戦記	スケッチ 02(スケッチブック p)	1980-1987	紙、ペン、水彩
162	退魔戦記	スケッチ 03(スケッチブック p4)	1980-1987	紙、ペン
163	退魔戦記	スケッチ 04(スケッチブック p6)	1980-1987	紙、ペン、水彩
164	退魔戦記	スケッチ 05(スケッチブック p8)	1980-1987	紙、ペン、水彩
165	退魔戦記	スケッチ 06(スケッチブック p15)	1980-1987	紙、ペン
166	退魔戦記	スケッチ 07(スケッチブック p16)	1980-1987	紙、ペン
167	退魔戦記	スケッチ 08(スケッチブック p18)	1980-1987	紙、ペン、水彩
168	退魔戦記	スケッチ 09(スケッチブック p?)	1980-1987	紙、ペン、水彩
169	退魔戦記	スケッチ 10(スケッチブック p17)	1980-1987	紙、ペン、水彩
170	退魔戦記	スケッチ 11(スケッチブック p23)	1980-1987	紙、ペン
171	退魔戦記	スケッチ 12(スケッチブック p25)	1980-1987	紙、ペン
172	退魔戦記	スケッチ 13(スケッチブック p28)	1980-1987	紙、ペン、水彩
173	退魔戦記	スケッチ 14(スケッチブック p30)	1980-1987	紙、ペン、水彩
174	退魔戦記	スケッチ 15(スケッチブック p33)	1980-1987	紙、鉛筆、色鉛筆
175	退魔戦記	スケッチ 16(スケッチブック p44)	1980-1987	紙、ペン
176	退魔戦記	スケッチ 17(スケッチブック p45)	1980-1987	紙、ペン
177	退魔戦記	スケッチ 18(スケッチブック p31)	1980-1987	紙、ペン、水彩
178	退魔戦記	スケッチ 19(スケッチブック p12)	1980-1987	紙、ペン、水彩
179	退魔戦記	スケッチ 20(スケッチブック p2)	1980-1987	紙、ペン
180	退魔戦記	スケッチ 21(スケッチブック p22)	1980-1987	紙、ペン
181～182	退魔戦記	スケッチ 04～05	1980-1987	紙、鉛筆
183～184	退魔戦記	スケッチ 06～07	1980-1987	紙、鉛筆、色鉛筆
185	退魔戦記	スケッチ 08	1980-1987	紙、鉛筆
186	退魔戦記	スケッチ 09	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
187～189	退魔戦記	スケッチ 10～12	1980-1987	紙、鉛筆
190～192	退魔戦記	ポスター下絵	1980-1987	
193～195	退魔戦記	イメージボード	1980-1987	
196～201	退魔戦記	キャラクター設定	1980-1987	
202～206	疾走する少女	キャラ設定 習作 01～05	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
207～214	疾走する少女	イメージボード 01～08	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
215～216	疾走する少女	イメージボード 10～11	1980-1987	紙、鉛筆
217～218	バイオリンを持つ少年	キャラ設定 01～02	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
219～220	バイオリンを持つ少年	キャラ設定 03～04	1980-1987	紙、鉛筆
221～222	バイオリンを持つ少年	キャラ設定 07～08	1980-1987	紙、鉛筆
223	王女と献身的な犬	イメージボード	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
224	王女と献身的な犬	キャラ設定 01	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
225	王女と献身的な犬	キャラ設定 23	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
226	王女と献身的な犬	キャラ設定 06	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
227	王女と献身的な犬	キャラ設定 21	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
228	王女と献身的な犬	キャラ設定 27	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
229～230	王女と献身的な犬	キャラ設定 25～26	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
231	王女と献身的な犬	キャラ設定 02	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
232	王女と献身的な犬	キャラ設定 04	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
233	王女と献身的な犬	キャラ設定 03	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
234	王女と献身的な犬	キャラ設定 12	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
235	王女と献身的な犬	キャラ設定 09	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
236	王女と献身的な犬	キャラ設定 08	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
237	王女と献身的な犬	キャラ設定 24	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
238～239	王女と献身的な犬	キャラ設定 13～14	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
240	王女と献身的な犬	キャラ設定 11	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
241	王女と献身的な犬	キャラ設定 15	1980-1987	紙、鉛筆、水彩

No.	作品名	内容	制作年	技法・材質
242	王女と献身的な犬	キャラ設定 22	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
243	王女と献身的な犬	キャラ設定 16	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
244～245	王女と献身的な犬	キャラ設定 19～20	1980-1987	紙、鉛筆、水彩
246	リトル・ニモ	イメージボード 03	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
247	リトル・ニモ	イメージボード 01	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
248	リトル・ニモ	イメージボード 06	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
249	リトル・ニモ	イメージボード 05	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
250	リトル・ニモ	イメージボード 07	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
251	リトル・ニモ	イメージボード 04	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
252	リトル・ニモ	キャラ設定 03	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
253	リトル・ニモ	キャラ設定 05	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
254	リトル・ニモ	キャラ設定 04	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
255	リトル・ニモ	イメージボード 08	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
256	リトル・ニモ	イメージボード 10	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
257	リトル・ニモ	イメージボード 12	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
258	リトル・ニモ	イメージボード 09	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
259	リトル・ニモ	イメージボード 11	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
260～261	リトル・ニモ	イメージボード 13～14	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
262	リトル・ニモ	イメージボード 20	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
263	リトル・ニモ	イメージボード 24	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
264	リトル・ニモ	イメージボード 19	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
265	リトル・ニモ	イメージボード 23	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
266～267	リトル・ニモ	イメージボード 21～22	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
268	リトル・ニモ	イメージボード 26	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
269	リトル・ニモ	イメージボード 28	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
270	リトル・ニモ	イメージボード 29	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
271	リトル・ニモ	イメージボード 27	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
272	リトル・ニモ	イメージボード 30	1982-1985	紙、ペン
273	リトル・ニモ	キャラ設定 07	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
274	リトル・ニモ	キャラ設定 02	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
275	リトル・ニモ	キャラ設定 06	1982-1985	紙、鉛筆、色鉛筆、水彩
276	リトル・ニモ	キャラ設定 09	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
277	リトル・ニモ	キャラ設定 01	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
278	リトル・ニモ	キャラ設定 13	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
279	リトル・ニモ	キャラ設定 14	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
280	リトル・ニモ	キャラ設定 12	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
281～284	リトル・ニモ	エピソードスケッチ 01～04	1982-1985	紙、鉛筆
285	リトル・ニモ	イメージボード 73	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
286	リトル・ニモ	イメージボード 76	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
287	リトル・ニモ	イメージボード 02	1982-1985	紙、鉛筆、ペン、水彩
288～289	リトル・ニモ	イメージボード 15～16	1982-1985	紙、鉛筆、ペン、水彩
290～291	リトル・ニモ	イメージボード 17～18	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
292	リトル・ニモ	キャラ設定 08	1982-1985	紙、鉛筆
293	リトル・ニモ	キャラ設定 10	1982-1985	紙、鉛筆
294	リトル・ニモ	キャラ設定 11	1982-1985	紙、鉛筆、色鉛筆
295～297	リトル・ニモ	キャラ設定 15～17	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
298	リトル・ニモ	イメージボード 25	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
299	リトル・ニモ	イメージボード 31	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
300	リトル・ニモ	イメージボード 32	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
301	リトル・ニモ	キャラ設定 18	1982-1985	紙、鉛筆
302	リトル・ニモ	イメージボード 33	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
303	リトル・ニモ	キャラ設定 19	1982-1985	紙、鉛筆
304	リトル・ニモ	イメージボード 34	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
305	リトル・ニモ	キャラ設定 20	1982-1985	紙、鉛筆
306	リトル・ニモ	絵コンテ コピー	1982-1985	コピー
307	リトル・ニモ	イメージボード 59	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
308	リトル・ニモ	イメージボード 60	1982-1985	紙、ペン、水彩
309～312	リトル・ニモ	イメージボード 63～66	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
313	リトル・ニモ	イメージボード 68	1982-1985	紙、鉛筆、ペン
314	リトル・ニモ	イメージボード 69	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
315	リトル・ニモ	イメージボード 70	1982-1985	紙、ペン、色鉛筆
316	リトル・ニモ	イメージボード 71	1982-1985	紙、鉛筆、ペン、水彩
317	リトル・ニモ	イメージボード 72	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
318	リトル・ニモ	イメージボード 74	1982-1985	紙、鉛筆、水彩
319	リトル・ニモ	イメージボード 75	1982-1985	紙、鉛筆、ペン
320	リトル・ニモ	パイロットフィルム 3m30s	1982-1985	
321	愛の若草物語	キャラ設定 0127 エイミー No.1	1987	紙、鉛筆
322	愛の若草物語	キャラ設定 0219 メグ No.2	1987	紙、鉛筆

No.	作品名	内容	制作年	技法・材質
323	愛の若草物語	キャラ設定 0323 ジョオ No.3	1987	紙、鉛筆
324	愛の若草物語	キャラ設定 0414 ミスターマーチ No.2	1987	紙、鉛筆
325	愛の若草物語	キャラ設定 0522 ジョオ No.2	1987	紙、鉛筆
326	愛の若草物語	キャラ設定 0626 ベス No.2	1987	紙、鉛筆
327	愛の若草物語	キャラ設定 0716 母ミセスマーチ No.1	1987	紙、鉛筆
328	愛の若草物語	キャラ設定 0843 ミルキーアン(ネコ) No.2	1987	紙、鉛筆
329	火垂るの墓	ポスター セルと背景画	1988	紙、水彩、セル、セル絵具
330	火垂るの墓	イメージボード 06	1988	紙、鉛筆、水彩
331	火垂るの墓	イメージボード 84	1988	紙、鉛筆、水彩
332	火垂るの墓	イメージボード 01	1988	紙、鉛筆、水彩
333	火垂るの墓	イメージボード 44	1988	紙、鉛筆、水彩
334～336	火垂るの墓	イメージボード 07～09	1988	紙、鉛筆、水彩
337	火垂るの墓	イメージボード 10	1988	紙、鉛筆、水彩
338	火垂るの墓	イメージボード 12	1988	紙、鉛筆、水彩
339	火垂るの墓	イメージボード 14	1988	紙、鉛筆、水彩
340	火垂るの墓	イメージボード 16	1988	紙、鉛筆、水彩
341	火垂るの墓	イメージボード 17	1988	紙、鉛筆、水彩
342	火垂るの墓	イメージボード 13	1988	紙、鉛筆、水彩
343	火垂るの墓	イメージボード 15	1988	紙、鉛筆、水彩
344	火垂るの墓	イメージボード 11	1988	紙、鉛筆、水彩
345	火垂るの墓	イメージボード 18	1988	紙、鉛筆
346	火垂るの墓	イメージボード 20	1988	紙、鉛筆、水彩
347	火垂るの墓	イメージボード 24	1988	紙、鉛筆、水彩
348	火垂るの墓	イメージボード 19	1988	紙、鉛筆、水彩
349	火垂るの墓	イメージボード 21	1988	紙、鉛筆
350	火垂るの墓	イメージボード 23	1988	紙、鉛筆
351	火垂るの墓	イメージボード 26	1988	紙、鉛筆、水彩
352	火垂るの墓	イメージボード 28	1988	紙、鉛筆
353	火垂るの墓	イメージボード 32	1988	紙、鉛筆
354	火垂るの墓	イメージボード 27	1988	紙、鉛筆
355	火垂るの墓	イメージボード 29	1988	紙、鉛筆、水彩
356	火垂るの墓	イメージボード 31	1988	紙、鉛筆、水彩
357	火垂るの墓	イメージボード 33	1988	紙、鉛筆、水彩
358	火垂るの墓	イメージボード 38	1988	紙、鉛筆、水彩
359	火垂るの墓	イメージボード 34	1988	紙、鉛筆、水彩
360	火垂るの墓	イメージボード 36	1988	紙、鉛筆、水彩
361	火垂るの墓	イメージボード 03	1988	紙、鉛筆、水彩
362	火垂るの墓	イメージボード 35	1988	紙、鉛筆、水彩
363	火垂るの墓	イメージボード 37	1988	紙、鉛筆、水彩
364～365	火垂るの墓	イメージボード 39～40	1988	紙、鉛筆、水彩
366	火垂るの墓	イメージボード 42	1988	紙、鉛筆、水彩
367	火垂るの墓	イメージボード 41	1988	紙、鉛筆、水彩
368	火垂るの墓	イメージボード 43	1988	紙、鉛筆、水彩
369	火垂るの墓	イメージボード 45	1988	紙、鉛筆、水彩
370	火垂るの墓	イメージボード 47	1988	紙、鉛筆、水彩
371	火垂るの墓	イメージボード 49	1988	紙、鉛筆、水彩
372	火垂るの墓	イメージボード 46	1988	紙、鉛筆、水彩
373	火垂るの墓	イメージボード 48	1988	紙、鉛筆、水彩
374～376	火垂るの墓	イメージボード 50～52	1988	紙、鉛筆、水彩
377	火垂るの墓	イメージボード 54	1988	紙、鉛筆、水彩
378	火垂るの墓	イメージボード 56	1988	紙、鉛筆、水彩
379	火垂るの墓	イメージボード 53	1988	紙、鉛筆、水彩
380	火垂るの墓	イメージボード 05	1988	紙、鉛筆、水彩
381	火垂るの墓	イメージボード 55	1988	紙、鉛筆、水彩
382～384	火垂るの墓	イメージボード 57～59	1988	紙、鉛筆、水彩
385	火垂るの墓	イメージボード 60	1988	紙、鉛筆、水彩
386	火垂るの墓	イメージボード 62	1988	紙、鉛筆
387	火垂るの墓	イメージボード 64	1988	紙、鉛筆
388	火垂るの墓	イメージボード 61	1988	紙、鉛筆、水彩
389	火垂るの墓	イメージボード 02	1988	紙、鉛筆、水彩
390	火垂るの墓	イメージボード 63	1988	紙、鉛筆、水彩
391	火垂るの墓	イメージボード 65	1988	紙、鉛筆
392	火垂るの墓	イメージボード 66	1988	紙、鉛筆、水彩
393	火垂るの墓	イメージボード 68	1988	紙、鉛筆、水彩
394	火垂るの墓	イメージボード 70	1988	紙、鉛筆、水彩
395	火垂るの墓	イメージボード 67	1988	紙、鉛筆、水彩
396	火垂るの墓	イメージボード 69	1988	紙、鉛筆、水彩
397～398	火垂るの墓	イメージボード 71～72	1988	紙、鉛筆、水彩

No.	作品名	内容	制作年	技法・材質
399	火垂るの墓	イメージボード 74	1988	紙、鉛筆、水彩
400	火垂るの墓	イメージボード 76	1988	紙、鉛筆、水彩
401	火垂るの墓	イメージボード 78	1988	紙、鉛筆、水彩
402	火垂るの墓	イメージボード 73	1988	紙、鉛筆、ペン、水彩
403	火垂るの墓	イメージボード 75	1988	紙、鉛筆、水彩
404	火垂るの墓	イメージボード 77	1988	紙、鉛筆、ペン、水彩
405	火垂るの墓	イメージボード 79	1988	紙、鉛筆、水彩
406～407	火垂るの墓	イメージボード 80～81	1988	紙、鉛筆、水彩
408～412	火垂るの墓	キャラ設定　清太と節子 01～05	1988	紙、鉛筆
413	火垂るの墓	設定　ドロップ缶	1988	紙、鉛筆
414～416	火垂るの墓	キャラ設定　清太 01～03	1988	紙、鉛筆
417～425	火垂るの墓	キャラ設定　節子 01～09	1988	紙、鉛筆
426～427	火垂るの墓	キャラ比較表 01～02	1988	紙、鉛筆
428	火垂るの墓	設定後半の変更	1988	紙、鉛筆
429	火垂るの墓	キャラ設定　母　01	1988	紙、鉛筆
430	火垂るの墓	キャラ設定　未亡人 01	1988	紙、鉛筆
431	火垂るの墓	設定　清太のリュック	1988	紙、鉛筆
432	火垂るの墓	ポスター原画	1988	紙、鉛筆
433	火垂るの墓	ポスター下描き	1988	紙、鉛筆
434	火垂るの墓	キャラ習作　清太 04	1988	紙、鉛筆
435	火垂るの墓	キャラ習作　清太 01	1988	紙、鉛筆
436	火垂るの墓	キャラ習作　節子 12	1988	紙、鉛筆、水彩
437	火垂るの墓	イメージボード 04	1988	紙、鉛筆、水彩
438	火垂るの墓	キャラ習作　節子 09	1988	紙、鉛筆
439	火垂るの墓	キャラ習作　節子 10	1988	紙、鉛筆
440	火垂るの墓	キャラ習作　節子 03	1988	紙、鉛筆
441～455	火垂るの墓	キャラ表情集 01～15	1988	紙、鉛筆
456	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編タエコ 01	1991	紙、鉛筆、色鉛筆
457	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編荷づくり中のタエコ	1991	紙、鉛筆
458～461	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編タエコ 02～05	1991	紙、鉛筆
462	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編タエコ 06	1991	紙、鉛筆、色鉛筆
463	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編タエコ 山形行きのコスチウム	1991	紙、鉛筆、色鉛筆
464～468	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編トシオ 01～05	1991	紙、鉛筆
469	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編トシオ 蔵王行き	1991	紙、鉛筆、色鉛筆
470	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編トシオ 出迎え	1991	紙、鉛筆、色鉛筆
471	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編比較表	1991	紙、鉛筆、色鉛筆
472～473	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編タエコ　04～05	1991	紙、鉛筆、色鉛筆
474	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編お母さん 01	1991	紙、鉛筆、色鉛筆
475	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編お父さん 01	1991	紙、鉛筆
476	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編ナオ子 01	1991	紙、鉛筆
477	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編ヤエ子 01	1991	紙、鉛筆
478	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編おばあちゃん 01	1991	紙、鉛筆
479	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編スー 01	1991	紙、鉛筆、
480	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編谷さん	1991	紙、鉛筆
481	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編アイコ	1991	紙、鉛筆
482	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編トコ	1991	紙、鉛筆
483	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編リエ	1991	紙、鉛筆
484	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編ヒロ	1991	紙、鉛筆
485	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 おもひで編アベくん	1991	紙、鉛筆
486	おもひでぽろぽろ	動画原画　S12-C66 01	1991	紙、鉛筆
487	おもひでぽろぽろ	動画原画　S12-C66 02	1991	紙、鉛筆、色鉛筆
488	おもひでぽろぽろ	動画原画　S12-C113 01	1991	紙、鉛筆、色鉛筆
489	おもひでぽろぽろ	動画原画　S12-C113 02	1991	紙、鉛筆
490	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編タエコの口元の表情について	1991	紙、鉛筆、セロテープ、コピー
491	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編口パクについて	1991	紙、鉛筆、ペン
492～495	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編タエコ 表情集 01～04	1991	紙、鉛筆
496	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編トシオ 表情集 01	1991	紙、鉛筆
497～498	おもひでぽろぽろ	キャラ設定 27歳編タエコ 表情集 05～06	1991	紙、鉛筆
499	魔女の宅急便	イメージボード 19	1989	紙、鉛筆、水彩
500	魔女の宅急便	イメージボード 18	1989	紙、鉛筆、水彩
501～502	魔女の宅急便	イメージボード 03～04	1989	紙、鉛筆、水彩
503～505	魔女の宅急便	イメージボード 06～08	1989	紙、鉛筆、水彩
506	魔女の宅急便	イメージボード 05	1989	紙、鉛筆、水彩
507	魔女の宅急便	イメージボード 43	1989	紙、鉛筆、水彩
508～515	魔女の宅急便	イメージボード 09～16	1989	紙、鉛筆、水彩
516	魔女の宅急便	イメージボード 20	1989	紙、鉛筆、水彩
517	魔女の宅急便	イメージボード 22	1989	紙、鉛筆、水彩
518	魔女の宅急便	イメージボード 24	1989	紙、鉛筆、水彩

No.	作品名	内容	制作年	技法・材質
519	魔女の宅急便	イメージボード 21	1989	紙、鉛筆、水彩
520	魔女の宅急便	イメージボード 23	1989	紙、鉛筆、水彩
521～523	魔女の宅急便	イメージボード 25～27	1989	紙、鉛筆、水彩
524	魔女の宅急便	イメージボード 29	1989	紙、鉛筆、水彩
525	魔女の宅急便	イメージボード 31	1989	紙、鉛筆、水彩
526	魔女の宅急便	イメージボード 42	1989	紙、鉛筆、水彩
527	魔女の宅急便	イメージボード 28	1989	紙、鉛筆、水彩
528	魔女の宅急便	イメージボード 30	1989	紙、鉛筆、水彩
529	魔女の宅急便	イメージボード 33	1989	紙、鉛筆、水彩
530	魔女の宅急便	イメージボード 01	1989	紙、鉛筆、水彩
531	魔女の宅急便	イメージボード 34	1989	紙、鉛筆、水彩
532	魔女の宅急便	イメージボード 02	1989	紙、鉛筆、水彩
533	魔女の宅急便	イメージボード 36	1989	紙、鉛筆、水彩
534	魔女の宅急便	イメージボード 38	1989	紙、鉛筆、水彩
535	魔女の宅急便	イメージボード 40	1989	紙、鉛筆、水彩
536	魔女の宅急便	イメージボード 35	1989	紙、鉛筆、水彩
537	魔女の宅急便	イメージボード 37	1989	紙、鉛筆、水彩
538	魔女の宅急便	イメージボード 39	1989	紙、鉛筆、水彩
539	魔女の宅急便	イメージボード 41	1989	紙、鉛筆、水彩
540～543	魔女の宅急便	修正原画 C503 01～04	1989	紙、鉛筆、色鉛筆
544		机		
545		小道具		
546		ラジカセ		
547		ストップウォッチ		
548～551	紅の豚	動画原画　C0938_0948C_0950_0964	1992	
552～555	平成狸合戦ぽんぽこ	動画原画　S03-C17	1994	
556～559	平成狸合戦ぽんぽこ	動画原画　S84-C13	1994	
560～563	もののけ姫	動画原画　C1055	1997	
564		オープニング映像ロングバージョン		
565	そらいろのたね	セル画	1992	セル、セル絵具
566～567	そらいろのたね	キャラ習作 01～02	1992	紙、鉛筆、色鉛筆
568～572	そらいろのたね	絵コンテ 第2話 01～05	1992	紙、鉛筆
573～581	耳をすませば	絵コンテ No.001～009	1995	紙、鉛筆、色鉛筆
582～590	耳をすませば	絵コンテ No.108～116	1995	紙、鉛筆、色鉛筆
591	耳をすませば	ポスター下描き 04	1995	紙、鉛筆
592	耳をすませば	ポスター下描き 03	1995	紙、鉛筆
593	耳をすませば	キャラ習作　せいじ 34	1995	紙、鉛筆
594	耳をすませば	ポスター下描き 01	1995	紙、鉛筆
595	耳をすませば	キャラ習作　しずく 22	1995	紙、鉛筆
596	耳をすませば	キャラ習作　しずく 24	1995	紙、鉛筆
597	耳をすませば	キャラ習作　しずく 26	1995	紙、鉛筆
598～599	耳をすませば	キャラ習作　しずく 01～02	1995	紙、鉛筆
600～601	耳をすませば	キャラ習作　しずく 04～05	1995	紙、鉛筆
602	耳をすませば	キャラ習作　しずく 16	1995	紙、鉛筆
603	耳をすませば	キャラ習作　しずく 14	1995	紙、鉛筆
604	耳をすませば	キャラ習作　しずく 15	1995	紙、鉛筆
605	耳をすませば	キャラ習作　しずく 21	1995	紙、鉛筆
606	耳をすませば	キャラ習作　しずく 19	1995	紙、鉛筆
607	耳をすませば	キャラ習作　しずく 32	1995	紙、鉛筆
608	耳をすませば	キャラ習作　しずく 12	1995	紙、鉛筆
609	耳をすませば	キャラ習作　しずく 09	1995	紙、鉛筆
610	耳をすませば	キャラ習作　しずく 25	1995	紙、鉛筆
611	耳をすませば	キャラ習作　せいじ 01	1995	紙、鉛筆
612	耳をすませば	キャラ習作　せいじ 27	1995	紙、鉛筆
613	耳をすませば	キャラ習作　せいじ 07	1995	紙、鉛筆
614	耳をすませば	キャラ習作　せいじ 17	1995	紙、鉛筆
615	耳をすませば	キャラ習作　せいじ 21	1995	紙、鉛筆
616	耳をすませば	キャラ習作　せいじ 05	1995	紙、鉛筆、色鉛筆
617	耳をすませば	キャラ習作　杉村 03	1995	紙、鉛筆
618	耳をすませば	キャラ習作　杉村 06	1995	紙、鉛筆
619	耳をすませば	キャラ習作　杉村 04	1995	紙、鉛筆
620	耳をすませば	キャラ習作　杉村 02	1995	紙、鉛筆
621	耳をすませば	キャラ習作　夕子 01	1995	紙、鉛筆
622	耳をすませば	キャラ習作　夕子 05	1995	紙、鉛筆
623	耳をすませば	キャラ習作　夕子 02	1995	紙、鉛筆
624	耳をすませば	キャラ習作　夕子 06	1995	紙、鉛筆
625	耳をすませば	キャラ習作　おじいちゃん 03	1995	紙、鉛筆
626	耳をすませば	キャラ習作　おじいちゃん 06	1995	紙、鉛筆

No.	作品名	内容	制作年	技法・材質
627	耳をすませば	キャラ習作　おじいちゃん 26	1995	紙、鉛筆
628	耳をすませば	キャラ習作　おじいさん 12	1995	紙、鉛筆
629	耳をすませば	キャラ習作　おじいさん 01	1995	紙、鉛筆
630	耳をすませば	キャラ習作　おじいさん 10	1995	紙、鉛筆
631	耳をすませば	キャラ習作　おじいさん 08	1995	紙、鉛筆
632	耳をすませば	キャラ習作　おじいさん 11	1995	紙、鉛筆
633	耳をすませば	キャラ習作　おじいさん 16	1995	紙、鉛筆
634	耳をすませば	キャラ習作　おじいさん 25	1995	紙、鉛筆、色鉛筆
635	耳をすませば	キャラ習作　おじいさん 18	1995	紙、鉛筆
636	耳をすませば	キャラ習作　おじいさん 19	1995	紙、鉛筆
637	耳をすませば	セルと背景画　C0001	1995	紙、セル、セル絵具
638	耳をすませば	セルと背景画　C0025	1995	紙、セル、セル絵具
639	耳をすませば	セルと背景画　C0046	1995	紙、セル、セル絵具
640	耳をすませば	セルと背景画　C0261	1995	紙、セル、セル絵具
641	耳をすませば	セルと背景画　C0370	1995	紙、セル、セル絵具
642	耳をすませば	セルと背景画　C0479	1995	紙、セル、セル絵具
643	耳をすませば	セルと背景画　C0597	1995	紙、セル、セル絵具
644	耳をすませば	セルと背景画　C0709	1995	紙、セル、セル絵具
645	耳をすませば	セルと背景画　C0931	1995	紙、セル、セル絵具
646	耳をすませば	セルと背景画　C0949	1995	紙、セル、セル絵具
647	耳をすませば	セルと背景画　C1023	1995	紙、水彩
648	耳をすませば	セルと背景画　C0183_0188_0191	1995	紙、セル、セル絵具
649	耳をすませば	セルと背景画　C0515	1995	紙、セル、セル絵具
650	耳をすませば	セルと背景画　C0270	1995	紙、セル、セル絵具
651	耳をすませば	セルと背景画　C0915	1995	紙、セル、セル絵具
652～667	耳をすませば	美術設定 他16点	1995	
668～671	耳をすませば	ポスター 01～04	1995	
672	耳をすませば	劇場用パンフレット	1995	
673	耳をすませば	予告編 映像	1995	
674	ふとふり返ると	1994年10月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
675	ふとふり返ると	原画　1997年3月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
676	ふとふり返ると	原画　1997年4月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
677	ふとふり返ると	原画　1997年7月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
678	ふとふり返ると	原画　1996年6月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
679	ふとふり返ると	原画　1996年7月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
680	ふとふり返ると	原画　1996年8月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
681	ふとふり返ると	原画　1997年8月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
682	ふとふり返ると	原画　1997年10月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
683	ふとふり返ると	原画　1996年11月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
684	ふとふり返ると	原画　1997年1月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
685	ふとふり返ると	原画　1998年2月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
686	ふとふり返ると	原画　1993年9月号	1993-1995	紙、鉛筆、色鉛筆
687	ふとふり返ると	原画　1993年9月号	1993-1996	紙、鉛筆、色鉛筆
688	ふとふり返ると	原画　1994年8月号	1993-1997	紙、鉛筆、色鉛筆
689	ふとふり返ると	原画　1994年8月号	1993-1998	紙、鉛筆、色鉛筆
690	ふとふり返ると	おばあちゃん 下絵	1993-1999	紙、鉛筆、色鉛筆
691	ふとふり返ると	原画　1993年9月号	1993-1999	紙、鉛筆、色鉛筆
692	ふとふり返ると		1993-1999	紙、鉛筆、色鉛筆
693	ふとふり返ると		1993-1999	紙、鉛筆、色鉛筆
694	ふとふり返ると		1993-1999	紙、鉛筆、色鉛筆
695	ふとふり返ると		1993-1999	紙、鉛筆、色鉛筆
696	ふとふり返ると		1993-1999	紙、鉛筆、色鉛筆
697	ふとふり返ると		1993-1999	紙、鉛筆、色鉛筆
698	ふとふり返ると		1993-1999	紙、鉛筆、色鉛筆
699	一日一漫　第一巻		1965-1968	ノート
700	一日一漫　第二巻		1965-1968	ノート
701	漫画映画とは		1965-1968	ノート
702	(題不詳)		1965-1968	紙、水彩
703	UFO (同人誌)		1965-1968	ノート
704	スクラップブック		1968-1972	紙、鉛筆
705		講演会チラシ用イラスト 01　コピー		コピー
706		講演会チラシ用イラスト 02　コピー		コピー
707		大判イラスト 01		紙、鉛筆、水彩、油性ペン
708		大判イラスト 02		紙、墨汁、黒ペン
709		凧		

伊藤若冲と京の美術
――細見コレクションの精華

【趣　旨】

日本美術の各時代・各分野を網羅し「日本美術の教科書」とも言われる京都・細見美術館のコレクションの中から、江戸時代に活躍した画家・伊藤若冲の作品をまとめて展示したほか、祭礼図や物語絵、蒔絵、茶陶、茶の湯釜などを厳選し、日本美術の多彩な魅力を紹介した。

【総　括】

●評価すべき点

・伊藤若冲を始め、近世以降の日本美術のもつ様々な魅力を多くの人に伝えることができた。

・重要文化財が３点あったが、文化庁の指導を受けて展示環境の空気質・温湿度条件を整え、無事に展示できた。

●検討課題

・多くの潜在的来館者に訴えるよう、人気の高い「伊藤若冲」を展覧会名に使用したため、若冲作品の出品を過度に期待する来館者が出てしまった。より丁寧な広報に心がけたい。

【開催日・その他】

=2014年９月13日㈯～11月３日（月・祝）（51日間）

※会期中展示替えあり

主　催：新潟県立万代島美術館、新潟日報社、NST、伊藤若冲と京の美術展実行委員会、細見美術館

後　援：新潟市、新潟市教育委員会、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……1,300円（1,100円）〈1,100円〉

大学・高校生……1,100円（900円）

※中学生以下無料

※（　）内は20名以上の団体料金

※〈　〉は前売券料金

【関連行事】

・ギャラリートーク

日　時：９月13日㈯　11:00～／14:00～

講　師：細見良行氏（細見美術館館長）

場　所：美術館展示室

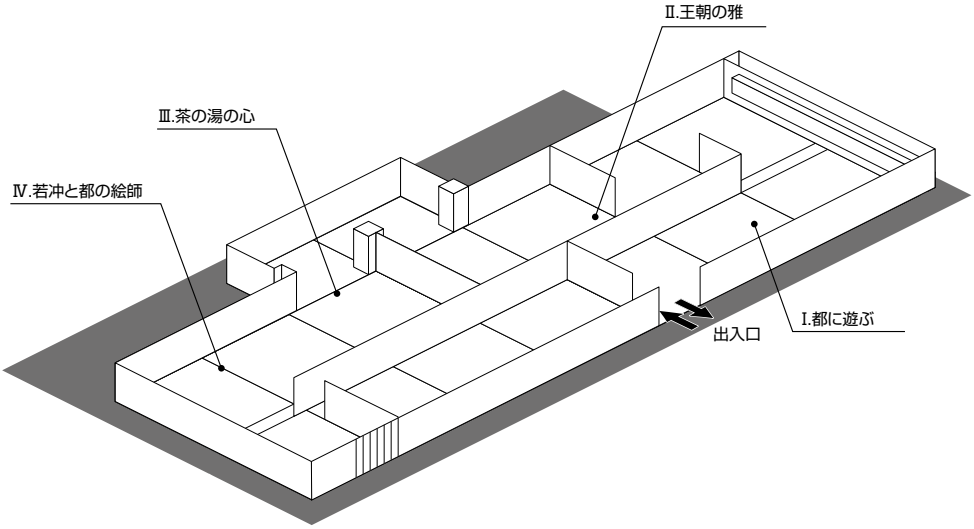
参加者数：70名／66名

・キモノでミュージアム

内　容：和装で来館した方にオリジナルグッズ（A５クリアファイル）をプレゼント

日　時：９月15日（月・祝）／９月23日（火・祝）

参加者数：25名／45名



・作品解説会
日　時：10月5日㈰　14:00～
講　師：伊藤京子氏（細見美術館主任学芸員）
場　所：美術館展示室
参加者数：70名

・ミュージアム・コンサート「和を楽しむ」
日　時：10月19日㈰　14:00～14:30
出　演：薫風之音（箏：藤崎浩子、尺八：鯨岡徹）
場　所：美術館ロビー
参加者数：108名

・タクシー運転手向け解説会
日　時：9月24日㈬　14:00～14:30
場　所：万代島美術館展示室
参加者数：10名

【図　録】

仕　様：24×19㎝　192頁
監修・編集：細見美術館
デザイン：則武千鶴（立生株式会社）
発　行：株式会社青幻舎
印刷・製本：株式会社サンエムカラー
内　容：はじめに
「コレクションで辿る京の美術」　細見良行
「京の絵師、若冲とその時代」　岡野智子
図版　都に遊ぶ－名所遊楽と祭礼の世界－
都の美意識Ⅰ－王朝のみやび－
都の美意識Ⅱ－茶の湯の心－
若冲と都の絵師－華ひらく個性－
作品解説
作者解説
用語解説
作品目録
細見美術館の紹介

【関連記事】

●新聞

9月8日(月)　新潟日報（1頁特集）

「輝き放つ奇想の画家　琳派絵画、茶道具 美たどる」

10月20日(月)　新潟日報

ミュージアムへようこそ「伊藤若冲と京の美術　精緻な描写　さえわたる」／桐原浩

その他

新潟日報　8/28、9/11、9/13、9/24、10/5、10/11

十日町新聞　7/17

みつけ新聞　7/31

十日町タイムス　8/8

村上新聞　8/10

妻有新聞　8/13

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	11,161
	前売	5,185
無料観覧者数	招待	1,761
	無料	585
	免除	928
総観覧者数		19,620
有料率（%）		83.3

担当　飯島沙耶子、桐原浩、今井有

【出品リスト】

◎重要文化財　○重要美術品

No.	作品名	作者	技法・材質	形状	制作年	寸法(縦×横 cm)	前期 9/13～10/5	後期 10/7～11/3
都に遊ぶ―名所遊楽と祭礼の世界―								
1	東山名所図屏風		紙本金地著色	四曲一双	桃山時代	各83.4×175.4	○	○
2	北野社頭図屏風	「椋政」印	紙本金地著色	六曲一隻	江戸前期	75.5×271.4	○	○
3	洛外図屏風		紙本著色	六曲一隻	江戸前期	153.5×349.0	○	○
4	祇園祭礼図屏風		紙本著色	六曲一双	江戸前期	各145.2×356.8	○	○
5	東山四条河原遊楽図屏風		紙本著色	六曲一隻	江戸前期	38.6×192.2	○	○
6	四条河原図巻		紙本著色	一巻	江戸前期	34.5×760.5	○	○
7	遊楽図扇面		紙本著色	十面	江戸前期	各17.0×35.5	○	○
8	遊楽図高坏		陶胎胡粉地彩色	一基	江戸前期	径12.8×高12.0	○	○
9	桜幔幕蒔絵重箱		木製漆塗	一合	江戸前期	26.5×24.2×37.5	○	○
10	菊花蒔絵十種香箱		木製漆塗	一具	江戸中期	20.8×19.8×15.7	○	○
11	若松楓蒔絵提重		木製漆塗他	一具	江戸後期	34.6×20.0×33.7	○	○
12	薬玉図	土佐光孚	紙本著色	一幅	江戸後期	85.0×25.0	○	○
13	合せ貝		貝・金地彩色	二対	江戸後期	各6.5×8.3	○	○
14	やすらい祭・牛祭図屏風	浮田一蕙	紙本著色	六曲一双	江戸後期	各139.0×271.0	右隻	左隻
15	ちょうちょう踊り図屏風	小沢華嶽	紙本著色	六曲一隻	江戸後期	123.8×259.8	○	○
16	賀茂競馬図屏風		紙本金地著色	六曲一双	江戸末期	各157.2×358.8	○	右隻
都の美意識Ⅰ―王朝のみやび―								
17	○「貫之集」巻下 断簡〈石山切〉	藤原定信	彩箋墨書	一幅	平安後期	22.0×31.0	―	○
18	◎明恵上人仮名消息(井上尼宛)	明恵高弁	紙本墨書	一幅	鎌倉時代	29.7×93.7	―	○
19	時代不同歌合絵巻 断簡		紙本墨画	一幅	鎌倉末期	27.5×50.3	―	○
20	◎山王霊験記絵巻		紙本著色	一巻	室町時代	32.6×922.5	―	○
21	撫子図屏風		紙本金地著色	六曲一隻	江戸前期	63.3×264.8	○	○
22	忍草下絵和歌巻 断簡	本阿弥光悦 書 俵屋宗達 下絵	紙本墨書 金銀泥	一幅	江戸前期	32.3×47.5	○	○
23	水葵下絵和歌色紙	本阿弥光悦 書	紙本墨書・雲母摺り	一幅	江戸前期	20.3×17.0	○	○
24	和歌短冊	本阿弥光悦 書	紙本墨書・金銀泥	一幅	江戸前期	36.0×5.7	○	○
25	歌仙絵色紙	小野通女	紙本著色	一幅	慶長二年 (1597)	29.2×26.1	○	○
26	歌仙絵「源順」	岩佐又兵衛	紙本著色	一幅	江戸前期	31.6×28.3	○	○
27	歌仙絵色紙「藤原仲文」	俵屋宗達	紙本著色	一幅	江戸前期	27.7×24.7	○	○
28	伊勢物語かるた	伝 葛岡宣慶 書	紙本著色・紙本墨書	一具のうち	江戸前期	各札9.0×6.0	○	○
29	伊勢物語図	野崎真一	絹本著色	四枚	江戸末～ 明治中期	各16.7×20.0	○	○
30	伊勢物語図扇面「河内越」	神坂雪佳	紙本著色	一幅	大正末～ 昭和初期	20.3×59.0	○	○
31	源氏物語図屏風「総角」	岩佐又兵衛	紙本金地著色	六曲一隻	江戸前期	155.0×351.0	○	○
32	源氏物語図色紙		紙本著色	七面	江戸前期	各20.4×17.4	○	○
33	狭衣物語絵巻 断簡(藤)		紙本著色	一幅	江戸前期	29.8×37.1	○	○
34	狭衣物語絵巻 断簡(山吹)		紙本著色	一幅	江戸前期	32.3×52.9	○	○
35	清少納言観雪図	鈴木守一	絹本着色	一幅	江戸後期	105.7×40.0	○	○
36	四季花木図屏風	冷泉為恭	紙本淡彩	六曲一隻	江戸後期	105.5×275.0	○	○
37	小倉山蒔絵硯箱		木製漆塗	一合	江戸前期	22.8×19.5×4.0	○	○
38	定家詠月次花鳥蒔絵重硯箱		木製漆塗	一合	江戸前期	18.6×26.1×19.7	○	○
39	定家詠月次花鳥図	野崎真一	絹本著色	四枚	江戸末～ 明治中期	各16.7×20.0	○	○
都の美意識Ⅱ―茶の湯の心―								
40	墨蹟	蘭渓道隆	紙本墨画	一幅	鎌倉時代	51.5×76.8	○	○
41	墨蹟	大休正念	紙本墨画	一幅	鎌倉時代	106.7×21.3	○	○
42	墨蹟	春屋妙葩	紙本墨画	一幅	南北朝時代	126.8×24.4	○	○
43	○豊臣秀吉自筆書状(いわ宛)	豊臣秀吉	紙本墨書	一幅	天正十六 (1588)	28.9×85.6	―	○
44	利休消息	千利休	紙本墨書	一幅	桃山時代	42.3×26.6	○	○
45	◎芦屋霰地楓鹿図真形釜		鉄製鋳造	一口	室町時代	口径14.8×胴径25.9×高19.7	○	○
46	芦屋松藤図真形釜		鉄製鋳造	一口	室町時代	口径13.5×胴径23.3×高16.0	○	○
47	桜図肩衝釜		鉄製鋳造	一口	桃山時代	口径12.5×胴径21.4×高18.0	○	○
48	龍宝山鉄風炉		鉄製鋳造	一口	桃山時代	胴径47.7×高28.5	○	○

No.	作品名	作者	技法・材質	形状	制作年	寸法(縦×横 cm)	前期 9/13〜10/5	後期 10/7〜11/3
49	志野茶碗　銘「弁慶」		施釉陶器	一口	桃山時代	口径13.5×高9.8	○	○
50	瀬戸黒茶碗　銘「鳴門」		施釉陶器	一口	江戸前期	口径7.9×高11.0	○	○
51	黒織部沓形茶碗		施釉陶器	一口	江戸前期	口径10.7×胴径12.9×高6.7	○	○
52	志野宝珠形香合		施釉陶器	一合	桃山時代	径5.0×高4.0	○	○
53	織部菊兜香合		施釉陶器	一合	桃山時代	径5.2×高4.6	○	○
54	織部分銅形香合		施釉陶器	一合	桃山時代	径4.3×高3.9	○	○
55	信楽水指　銘「赤富士」		施釉陶器	一口	江戸中期	径14.0×高17.3	○	○
56	錆絵馬図角皿	尾形乾山	施釉陶器	一枚	江戸中期	22.0×22.0×2.2	○	○
57	錆絵牡丹唐草文向付	尾形乾山	施釉陶器	五客	江戸中期	各13.2×13.1×4.9	○	○
58	色絵唐子図筆筒	尾形乾山	施釉陶器	一口	江戸中期	口径10.4×高11.8	○	○
59	七宝舟形釣花入		有線七宝	一口	江戸前期	長径32.9×短径12.3	○	○
60	七宝八角水指		有線七宝	一合	江戸中〜後期	長径21.4×短径17.1×高21.6	○	○
61	七宝手付菓子盆		有線七宝	一口	江戸中〜後期	24.0×25.7×高12.6	○	○
62	七宝五七桐紋釘隠付風炉先屏風		有線七宝(釘隠)	二曲一隻	江戸前期(釘隠)	39.5×172.2	○	○

若冲と都の絵師―華ひらく個性―

63	平家納経(模本)「化城喩品」「嘱累品」	田中親美 俵屋宗達(原画)	紙本金銀泥著色	各一巻	大正時代	化城喩品25.9×693.6 嘱累品25.5×120.7	○	○
64	四季草花図屏風	「伊年」印	紙本金地著色	六曲一双	江戸前期	各155.5×347.2	右隻	左隻
65	四季草花桜楓図屏風	「伊年」印	紙本著色	六曲一双	江戸前期	各157.5×347.2	○	○
66	墨竹図	尾形光琳	紙本墨画	一幅	江戸中期	21.0×22.3	○	○
67	秋草図団扇	「成乙」印	紙本金地著色	一幅	江戸中期	22.0×26.3	○	○
68	四季草花図	神坂雪佳	絹本著色	双幅	大正後期	各120.3×26.9	○	○
69	御所人形図	神坂雪佳	絹本著色	一幅	大正時代	25.4×21.7	○	○
70	若竹に小禽図	円山応挙	絹本著色	一幅	寛政七年(1795)	96.7×32.6	○	○
71	月下秋草図	松村景文	絹本淡彩	一幅	江戸後期	109.3×41.7	○	○
72	江口君図	田中訥言 松村景文	絹本淡彩	一幅	江戸後期	82.9×25.0	○	○
73	楚蓮香図	山口素絢	絹本著色	一幅	文化六年(1809)	112.0×48.2	○	○
74	児島湾真景図	池大雅	絹本著色	一幅	江戸中期	99.7×37.6	○	○
75	富士望見図	青木木米	紙本墨画淡彩	一幅	文政七年(1824)	31.4×54.2	○	○
76	雪中雄鶏図	伊藤若冲	紙本著色	一幅	江戸中期	114.2×61.9	○	○
77	糸瓜群虫図	伊藤若冲	絹本著色	一幅	江戸中期	111.6×48.4	○	○
78	風竹図	伊藤若冲	絹本著色	一幅	江戸中期	103.0×38.5	○	○
79	仔犬に箒図	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	99.5×27.8	○	○
80	花鳥図押絵貼屏風	伊藤若冲	紙本墨画	六曲一双	江戸中期	各図126.5×53.0	○	○
81	海老図	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	109.4×28.7	○	○
82	伏見人形図	伊藤若冲	紙本著色	一幅	江戸中期	93.6×28.5	○	○
83	萬歳図	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	105.2×29.8	○	○
84	鼠婚礼図	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	寛政八年(1796)	36.0×60.7	○	○
85	虻に双鶏図	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	37.3×53.3	○	○
86	群鶏図	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	寛政八年(1796)	143.5×52.5	○	○
87	里芋図	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	110.6×40.8	○	○
88	関羽像	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	87.8×29.8	○	○
89	踏歌図	伊藤若冲	絹本著色	一幅	江戸中期	103.5×35.0	○	○
90	宝珠に小槌図	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	94.6×28.8	○	○
91	遊鶏図押絵貼屏風	若演	紙本墨画	六曲一双	江戸後期	各図125.8×47.2	○	○
92	釣瓶に鶏図	若演	紙本墨画	一幅	江戸後期	114.8×42.8	○	○

生誕100周年
トーベ・ヤンソン展　～ムーミンと生きる～

【趣　旨】

世界中で愛され続ける「ムーミン」シリーズを生んだフィンランドの作家、トーベ・ヤンソン（1914-2001）の全貌を紹介した展覧会。フィンランドの国立アテネウム美術館で開催された生誕100年を記念する回顧展を日本巡回展として再構成したものであり、トーベの代表作「ムーミン」シリーズの挿絵原画のほか、生涯を通じて描いた油彩、文学作品の挿絵、写真資料など約400点を展示した。

【総　括】

●評価すべき点

・ムーミンの作家として知られるトーベ・ヤンソンが、ムーミンのみならず、風刺雑誌の挿絵や油彩、舞台美術、漫画など、様々な分野で才能を発揮した作家であることを紹介できた。

・日本で人気の高い「ムーミン」シリーズの挿絵絵や絵本の原画を約280点展示、日本のムーミンファンの期待に応えることができた。

・トーベが夏を過ごしたクルーヴ島の小屋を再現して展示、作品だけでなく、作家のライフスタイルを紹介することにより、その独特の価値観や作品の背景にある世界観に触れて頂くことができた。

・読書コーナーや、ムーミンのキャラクターをイメージした衣装を身につけられるコーナー、アニメ上映など、来館者が楽しめる様々な仕掛けを用意することができた。

・イベントはいずれも参加者数が多く好評で、大きな混乱なく実施できた。

●検討課題

・挿絵原画はサイズが小さく、展示の高さの点で幼児や小学校低学年の児童にはやや見づらかったことが推測される。来館者からは多くご意見があったわけではないが、今後の展示では作品の安全にも配慮しながら方策について工夫したい。

【開催日・その他】

=2015年2月28日㈯～3月31日㈫（29日間）

※全体会期は2月28日㈯～5月6日（水・休）（63日間）

主　催：新潟県立万代島美術館、UX新潟テレビ21、トーベ・ヤンソン展新潟展実行委員会、朝日新聞社、新潟日報社

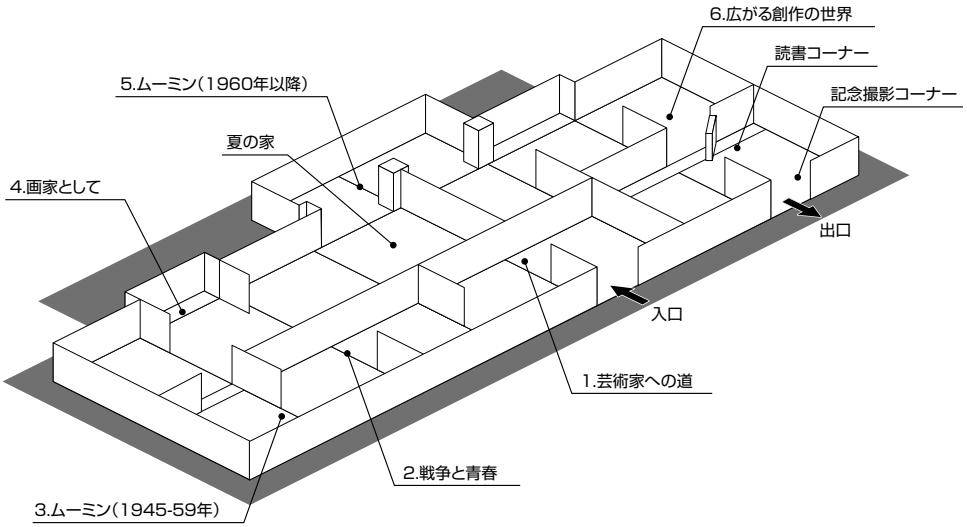
後　援：フィンランド大使館、新潟市、新潟市教育委員会、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

協　賛：エプソン販売㈱、日本写真印刷㈱

特別協賛：dwarf

協　力：フィンランド国立アテネウム美術館、㈱タトル・モリエイジェンシー、フィンエアー、フィンエアー・カーゴ、㈱河出書房新社、（公財）ギャラリーエークワッド、㈱講談社、S2㈱

観覧料：一般……1,000円（800円）〈800円〉
大学・高校生……800円（600円）
※中学生以下無料
※（　）内は有料20名以上の団体料金
※〈　〉内は前売料金



【関連行事】

・「ミイ」割の日
＊「ちびのミイ」のようなおだんごヘアでご来館の方の観覧料100円引。また対象者先着30名様にプレゼント（絵はがき）を贈呈
　3月1日㈰
　参加者数：30名（プレゼント贈呈者）

・トーク･イベント「ブックデザイナーからみたムーミンの魅力」
　3月21日㈯　14:00〜15:30
　NICOプラザ会議室（万代島ビル11階）
　講　師：祖父江慎氏（ブックデザイナー）
　参加者数：130名
　イベント後、祖父江氏によるサイン会(参加者30名)も実施

・万代島ビル女性ランチ親睦会「美術に親しもう！」
　3月12日㈭　12:25〜12:55
　講　師：今井有（当館業務課長代理）
　万代島ビルディング会議室（万代島ビル6階）
　参加者数：107名

・学芸員によるギャラリートーク
　3月28日㈯　14:00〜

・記念撮影コーナー「ムーミン谷の住人になりきろう！」
　展示室内
　開館中随時参加可能

【図　録】

仕　様：25.0×18.7㎝　254頁
編　集：朝日新聞社
編集協力：河出書房新社、清田麻衣子
執　筆：トゥーラ・カルヤライネン（展覧会監修者、ヘルシンキ現代美術館KIASMA元館長）、冨原眞弓（聖心女子大学哲学科教授）、今井有（新潟県立万代島美術館）、朝日新聞社
協　力：迫村裕子（S2）
アート・ディレクション：祖父江慎
ブックデザイン：福島よし恵、小川あずさ（コズフィッシュ）
プリンティングディレクター：渡辺穣（日本写真印刷）
翻　訳：露久保由美子、ヘレンハルメ美穂、五十嵐淳(リベル)
印　刷：日本写真印刷
発　行：朝日新聞社
内容：
・ごあいさつ（主催者）
・偉大な芸術家（フィンランド国立美術館館長リスト・ラウホネン／アテネウム美術館館長　スサンナ・ペッテルッソン）
・ごあいさつ（駐日フィンランド大使）
・トーベ･ヤンソン―その人生と作品(トゥーラ･カルヤライネン)
・「ムーミンの変貌」―語り部トーベ･ヤンソンの忠実なる相棒（冨原眞弓）
・マルチな芸術家、トーベの全容を日本へ(ソフィア･ヤンソンさんインタビュー)

［作品図版、解説］（章解説、作品解説＝今井有）
1　芸術家への道
2　戦争と青春
3　ムーミン（1945-59年）
4　画家として
5　ムーミン（1960年以降）
6　広がる創作の世界

・トーベ・ヤンソン年譜
・作品リスト

【関連記事】

●新聞
10月22日㈬　朝日新聞
「生誕100周年トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる伝記著者トゥーラ・カルヤライネンさんが語る世界観」

その他　朝日新聞　1/22、2/12、2/28、3/2、3/21、3/22、3/29
新潟日報　2/28、3/21、3/22
読売新聞　3/13
信濃毎日新聞　3/28

〈連載〉
朝日新聞「新潟でトーベ・ヤンソン展」／今井有
・「第１章　芸術家への道」3/6
・「第２章　戦争と青春」3/14
・「第３章　ムーミン（1945-59年）」3/20
・「第４章　画家として」3/27

●テレビ
2月27日㈮　UX「スーパーJにいがた」※会場中継
2月28日㈯　UX「まるどり」※会場中継

●ラジオ
3月25日㈬　FM PORT「Switch」／今井有

●雑誌
「山下裕二のこれが欲しい！vol.70　トーベ・ヤンソン「家族」個人蔵」、『月刊アートコレクターズ』2015年1月号（No.70）

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	8,234
	前売	2,818
無料観覧者数	招待	685
	無料	2,287
	免除	412
総観覧者数		14,436
有料率（%）		76.5

担当　今井有

【出品リスト】

No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横㎝)	所蔵先
第1章　芸術家への道					
1	幼少期の素描	1918-20	鉛筆、水彩、色鉛筆・紙	87×87.5(額寸)	個人
2	風景(ピクニック)	1930年代	グワッシュ・紙	23.5×32	個人
3	家	1930年代	グワッシュ、鉛筆・紙	40×26.5	個人
4	神秘的な風景	1930年代	油彩・合板	61×152.5	フィンランド国立アテネウム美術館
5	出会い	1930年代	グワッシュ・紙	21×16.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
6	風に揺れる花	1930年代	グワッシュ・紙	10.5×14.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
7	木の根元で眠る者たち	1930年代	グワッシュ、インク・紙	22.1×26.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
8	冬の夜の狼たち	1930年代	水彩、グワッシュ・紙	34.5×47	ロユリュポイカ・アウテリネン コレクション
9	無題	1930年代	鉛筆、水彩・紙	14.6×13.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
10	自画像(若い女性の頭部)	1937	油彩・カンヴァス	41×33	個人
11	ボートにのるペル・ウロフ・ヤンソン	1937	油彩・カンヴァス	74×60.5	個人
12	マヤ・ヴァンニの肖像	1938	油彩・カンヴァス	74×60	個人
13	親愛なるトリンカへ　自画像	1939	油彩・カンヴァス	44.5×37.5	個人
14	サム・ヴァンニの肖像	1939	木炭・紙	48.5×38.5	個人
15	トーベ・ヤンソンの肖像　(サム・ヴァンニ作)	1930年代	木炭・紙	50.5×40	劇団ヴィヴィカス・ヴェンネル
16	トーベ・ヤンソンの肖像　(サム・ヴァンニ作)	1940	油彩・カンヴァス	100.5×81.5	アモス・アンデルソン美術館
17	青いヒヤシンス	1939	油彩・カンヴァス	55.5×47	個人
18	自画像、煙草を吸う娘	1940	油彩・カンヴァス	41×33.5	個人
19	娘と飾り棚　シルクのイブニングドレスを着た自画像	1940年代	油彩・カンヴァス	73×50.5	オリマッティ美術館、イルマリ&トイニ・ウォール=ハカラ・アート・財団コレクション
20	母ハム(シグネ・ハンマルステン=ヤンソン)の肖像	1945	油彩・カンヴァス	65.5×55	個人
第2章　戦争と青春					
21	空襲警報が鳴る時	1940	油彩・カンヴァス	59.5×73.5	個人
22	風景	1940	油彩・カンヴァス	38.5×47	個人
23	トーロの漕艇場	1940	油彩・カンヴァス	64×75	個人
24	二次会	1941	油彩・カンヴァス	73×92	個人
25	アトリエ	1941	油彩・カンヴァス	80.5×66	タンペレ市立美術館
26	花	1941	油彩・カンヴァス	73.5×60.5	アイネ芸術財団、アイネ美術館
27	窓辺の女性	1941	油彩・カンヴァス	47×55.5	個人
28	無題	1941	グワッシュ、インク・紙	27×23	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
29	家族	1942	油彩・カンヴァス	89×116	個人
30	山猫の毛皮をまとった自画像	1942	油彩・カンヴァス	73×60.5	個人
31	女性(自画像)	1942	油彩・カンヴァス	100×82	スオミ生命保険会社
32	ウッランリンナの風景	1943	油彩・カンヴァス	33.5×41.5	個人
33	ゴム農園	1942	油彩・合板	86×89.5	個人
34	毛皮をまとった少女	1943	油彩・カンヴァス	41.5×33.5	個人
35	庭	1943	油彩・カンヴァス	64×73	個人
36	静物	1945	油彩・カンヴァス	82×66	フィンランド国立アテネウム美術館
37	カタヤノッカ地区からの眺め	1945	油彩・カンヴァス	52×62	個人
38	家具デザイナー　ルナル・エングブロムの肖像	1945	油彩・カンヴァス	130.5×75.5	プロ・アルティブス財団
39	航路標識	1946	油彩・カンヴァス	60.5×72	個人
40	山岳風景	1948	油彩・カンヴァス	47.5×55.5	個人
41	果物のある静物	1951	油彩・カンヴァス	65×81	個人
42	暖かいストーブのそばで	1953	油彩・カンヴァス	55×46.5	個人
43	「ガルム」1944年10月号表紙	1944	インク、水彩・紙	31.2×23.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
44	「ガルム」1938年9月号表紙	1938	インク、水彩・紙	27.4×19.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
45	「ガルム」1942年夏号表紙	1942	インク、水彩・紙	30.3×22	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
46	「ガルム」1941年クリスマス号表紙	1941	インク、水彩・紙	23.4×32.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
47	「ガルム」1943年9月号表紙	1943	インク、水彩・紙	32.8×23.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館

No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横cm)	所蔵先
48	「ガルム」1943年クリスマス号表紙	1943	インク、水彩・紙	32.6×23.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
49	「ガルム」1944年挿絵	1944	インク・紙	25.8×17.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
50	「ガルム」1945年1月号表紙	1945	インク、水彩・紙	32.6×23.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
51	「ガルム」1945年5月号表紙	1945	インク、水彩・紙	32.5×23.6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館

第3章　ムーミン(1945-1959)

52	「小さなトロールと大きな洪水」挿絵	1945	インク・紙	8×11	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
53	「小さなトロールと大きな洪水」挿絵	1945	インク・紙	6×6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
54	「小さなトロールと大きな洪水」挿絵	1945	インク・紙	22.2×9.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
55	「小さなトロールと大きな洪水」挿絵	1945	インク・紙	7×6.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
56	「小さなトロールと大きな洪水」挿絵	1945	インク・紙	7.8×14.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
57	「小さなトロールと大きな洪水」挿絵	1945	インク・紙	7.3×6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
58	「小さなトロールと大きな洪水」挿絵	1945	インク・紙	8.2×11.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
59	「小さなトロールと大きな洪水」挿絵	1945	インク・紙	7.4×6.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
60	「小さなトロールと大きな洪水」挿絵	1945	インク・紙	16.4×11.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
61	「ムーミン谷の彗星」表紙	1946	水彩、インク・紙	28×20.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
62	「ムーミン谷の彗星」挿絵	1946	インク・紙	5.5×11.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
63	「ムーミン谷の彗星」挿絵	1946	インク・紙	4.4×4.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
64	「ムーミン谷の彗星」挿絵	1946頃	インク・紙	13.5×14.5	個人
65	「ムーミン谷の彗星」挿絵	1946	インク・紙	15.8×15.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
66	「ムーミン谷の彗星」挿絵	1946頃	インク・紙	12×12.5	個人
67	「ムーミン谷の彗星」挿絵	1946頃	インク・紙	12.5×12.5	個人
68	「ムーミン谷の彗星」挿絵	1946頃	インク、マスキングインク、鉛筆・紙	21×15.5	個人
69	「ムーミン谷の彗星」挿絵	1946頃	インク、鉛筆・紙	21×14.5	個人
70	連載マンガ「ムーミントロールと地球の終わり」原画	1947	インク・紙	9.7×45.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
71	連載マンガ「ムーミントロールと地球の終わり」原画	1947	インク・紙	9.7×45.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
72	連載マンガ「ムーミントロールと地球の終わり」原画	1947	インク・紙	9.7×45.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
73	連載マンガ「ムーミントロールと地球の終わり」原画	1947	インク・紙	9.7×45.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
74	連載マンガ「ムーミントロールと地球の終わり」原画	1947	インク・紙	8.9×23.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
75	連載マンガ「ムーミントロールと地球の終わり」原画	1947	インク・紙	8.9×22.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
76	連載マンガ「おさびし島のご先祖さま」習作	1953	鉛筆・紙	27.3×21.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
77	連載マンガ「おさびし島のご先祖さま」習作	1953	鉛筆・紙	27.3×21.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
78	連載マンガ「おさびし島のご先祖さま」習作	1953	鉛筆・紙	27.3×21.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
79	連載マンガ「おさびし島のご先祖さま」習作	1953	鉛筆・紙	27.3×21.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
80	連載マンガ「ムーミンパパの灯台守」習作	1953	鉛筆・紙	8.5×21	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
80	連載マンガ「ムーミンパパの灯台守」印刷見本	1953	印刷	不明	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
81	連載マンガ「ムーミンパパの灯台守」習作	1953	鉛筆・紙	8.5×21	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
81	連載マンガ「ムーミンパパの灯台守」印刷見本	1953	印刷	不明	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
82	連載マンガ「ムーミンパパの灯台守」習作	1953	鉛筆・紙	17.3×21	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
82	連載マンガ「ムーミンパパの灯台守」印刷見本	1953	印刷	不明	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
83	連載マンガ「ムーミンパパの灯台守」習作	1953	鉛筆・紙	27.4×21	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
83	連載マンガ「ムーミンパパの灯台守」印刷見本	1953	印刷	不明	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
84	連載マンガ「まいごの火星人」習作	1953	鉛筆・紙	28.7×21	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
84	連載マンガ「まいごの火星人」印刷見本	1953	印刷	不明	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
85	連載マンガ「まいごの火星人」習作	1953	鉛筆・紙	28.5×21	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
85	連載マンガ「まいごの火星人」印刷見本	1953	印刷	不明	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
86	連載マンガ「まいごの火星人」習作	1953	鉛筆・紙	29.6×21	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
86	連載マンガ「まいごの火星人」印刷見本	1953	印刷	不明	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
87	連載マンガ「まいごの火星人」習作	1953	鉛筆・紙	29.6×21	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
87	連載マンガ「まいごの火星人」印刷見本	1953	印刷	不明	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
88	連載マンガ「やっかいな冬」習作	1953	鉛筆・紙	13.5×20.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館

No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横cm)	所蔵先
89	連載マンガ「やっかいな冬」習作	1953	鉛筆・紙	18×21.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
89	連載マンガ「やっかいな冬」印刷見本	1953	印刷	不明	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
90	連載マンガ「ムーミンパパの灯台守」習作	1950年代頃	インク・トレーシングペーパー	29.5×20.5	個人
91	連載マンガ「ムーミンパパの灯台守」習作	1950年代頃	インク、鉛筆・トレーシングペーパー	29.5×21.5	個人
92	連載マンガ「まいごの火星人」習作	1950年代頃	インク・トレーシングペーパー	29×21.5	個人
93	連載マンガ「まいごの火星人」ほか習作	1950年代頃	インク、鉛筆・トレーシングペーパー	29×21.5	個人
94	連載マンガ「預言者あらわる」習作	1950年代頃	インク・トレーシングペーパー	28×22	個人
95	連載マンガ「預言者あらわる」ほか習作	1950年代頃	インク・トレーシングペーパー	28×21.5	個人
96	「たのしいムーミン一家」挿絵	1948	インク・紙	8.5×13.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
97	「たのしいムーミン一家」挿絵	1948	インク・紙	7.2×10.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
98	「たのしいムーミン一家」挿絵	1948	インク・紙	6.4×10.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
99	「たのしいムーミン一家」挿絵	1948	インク・紙	5.7×10	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
100	「たのしいムーミン一家」挿絵	1948	インク・紙	7.9×11.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
101	「たのしいムーミン一家」挿絵	1948	インク・紙	5×9.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
102	「ムーミンパパの思い出」表紙	1968	グワッシュ、インク・紙	29.8×21.6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
103	「ムーミンパパの思い出」挿絵	1968	インク・紙	12.4×17.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
104	「ムーミンパパの思い出」挿絵	1950	インク・紙	12.2×16.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
105	「ムーミンパパの思い出」挿絵	1968	インク・紙	13.3×12.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
106	「ムーミンパパの思い出」挿絵	1950	インク・紙	11.1×9.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
107	「ムーミンパパの思い出」挿絵	1950	インク・紙	16.7×16.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
108	「ムーミン谷の夏まつり」挿絵	1954	インク・紙	6.5×9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
109	「ムーミン谷の夏まつり」挿絵	1954	インク・紙	7.2×6.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
110	「ムーミン谷の夏まつり」挿絵	1954	インク・紙	8.8×10	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
111	「ムーミン谷の夏まつり」挿絵	1954	インク・紙	6.4×9.6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
112	「ムーミン谷の夏まつり」挿絵	1954	インク・紙	9.8×9.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
113	「ムーミン谷の夏まつり」挿絵	1954	インク・紙	7.7×7.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
114	「ムーミン谷の夏まつり」挿絵	1954	インク・紙	6×10.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
115	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957	インク・紙	22.3×15.6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
116	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957	インク・紙	19×13.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
117	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957	インク・紙	7.7×9.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
118	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957	インク・紙	10.4×15.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
119	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957	インク・紙	10×15.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
120	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957	インク・紙	10.6×14.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
121	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957	インク・紙	8.9×14.6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
122	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957頃	インク・紙	7×11.5	個人
123	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957	インク・紙	11×15.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
124	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957	スクラッチボード	18.8×13	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
125	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957頃	インク・紙	9.5×12.5	個人
126	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957頃	インク・紙	8.5×13	個人
127	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957	スクラッチボード	10.8×13.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
128	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957頃	インク・紙	10×13	個人
129	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957頃	インク・紙	12.5×12	個人
130	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957頃	インク・紙	9×13	個人
131	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957頃	インク・紙	8.5×12.5	個人
132	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957頃	スクラッチボード	18×12.5	個人
133	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957頃	インク・紙	7×12	個人
134	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957頃	インク・紙	12×14	個人
135	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957頃	インク・紙	12.5×12.5	個人
136	「ムーミン谷の冬」挿絵	1957	グワッシュ、インク・紙	22.5×17.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
137	「ムーミン谷の冬」表紙習作	1956	グワッシュ・紙	21.5×14.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
138	「ムーミン谷の冬」表紙習作	1956	鉛筆・紙	21×15	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館

No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横cm)	所蔵先
139	「ムーミン谷の冬」表紙習作	1956	鉛筆・紙	21×15	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
140	「ムーミン谷の冬」習作	1957頃	グワッシュ、鉛筆・紙	28×25	個人

第4章　画家として

141	シェッラ岩礁の絵	1960	油彩・カンヴァス	59×97.5	オーランド諸島美術館
142	バルコニーへの眺め	1961	油彩・カンヴァス	92×73	フィンランド国立アテネウム美術館
143	太陽に照らされる崖	1961	油彩・カンヴァス	60×81	個人
144	月明かり	1964	油彩・カンヴァス	73.5×92	個人
145	風化	1965	油彩・カンヴァス	81×116	タンペレ市立美術館
146	風力階級８級	1966	油彩・カンヴァス	65×92.5	個人
147	フェンネル	1975	油彩・カンヴァス	60×96	個人
148	グラフィック・アーティスト	1975	油彩・カンヴァス	95×85	個人
149	自画像	1975	油彩・カンヴァス	65×47	個人
150	クルーヴ島の地図	1964	ミクストメディア・羊皮紙	52×51	個人

第5章　ムーミン(1960年以降)

151	絵本「さびしがりやのクニット」挿絵	1960	インク・紙	12.5×22	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
152	絵本「さびしがりやのクニット」挿絵	1960	インク・紙	6.4×4.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
153	絵本「さびしがりやのクニット」挿絵	1960	インク・紙	14×22	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
154	絵本「さびしがりやのクニット」挿絵	1960	インク・紙	7.1×22	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
155	絵本「さびしがりやのクニット」挿絵	1960	インク・紙	19.4×22.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
156	絵本「さびしがりやのクニット」習作	1960	グワッシュ、インク・紙	5.7×9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
157	絵本「さびしがりやのクニット」習作	1960	グワッシュ、インク・紙	6.1×10	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
158	絵本「さびしがりやのクニット」習作	1960	グワッシュ、インク・紙	6.1×9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
159	絵本「さびしがりやのクニット」習作	1960	グワッシュ、インク・紙	6×10.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
160	「ムーミン谷の仲間たち」表紙	1962	グワッシュ、インク・紙	29.7×21.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
161	「ムーミン谷の仲間たち　春のしらべ」挿絵	1962	インク・紙	5.9×13.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
162	「ムーミン谷の仲間たち　春のしらべ」挿絵	1962	インク・紙	6.8×13.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
163	「ムーミン谷の仲間たち　ぞっとする話」挿絵	1962	インク・紙	13.7×7.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
164	「ムーミン谷の仲間たち　ぞっとする話」習作	1962	インク・紙	16.9×10.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
165	「ムーミン谷の仲間たち　ぞっとする話」ほか習作	1962	インク・紙	23.6×15.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
166	「ムーミン谷の仲間たち　この世のおわりにおびえるフィリフヨンカ」習作	1962	インク・紙	10×7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
167	「ムーミン谷の仲間たち　この世のおわりにおびえるフィリフヨンカ」挿絵	1962	インク・紙	18.2×12.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
168	「ムーミン谷の仲間たち　この世のおわりにおびえるフィリフヨンカ」挿絵	1962	インク・紙	11.6×6.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
169	「ムーミン谷の仲間たち　この世のおわりにおびえるフィリフヨンカ」習作	1962	インク・紙	19.8×17.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
170	「ムーミン谷の仲間たち　この世のおわりにおびえるフィリフヨンカ」習作	1962	インク・紙	19.3×13.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
171	「ムーミン谷の仲間たち　この世のおわりにおびえるフィリフヨンカ」習作	1962	インク・紙	22.5×17	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
172	「ムーミン谷の仲間たち　この世のおわりにおびえるフィリフヨンカ」習作	1962	インク・紙	21×15.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
173	「ムーミン谷の仲間たち　この世のおわりにおびえるフィリフヨンカ」習作	1962	インク・紙	20×13.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
174	「ムーミン谷の仲間たち　この世のおわりにおびえるフィリフヨンカ」習作	1962	インク・紙	24.6×30	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
175	「ムーミン谷の仲間たち　この世のおわりにおびえるフィリフヨンカ」習作	1962	インク・紙	21×30	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
176	「ムーミン谷の仲間たち　世界でいちばんさいごの竜」ほか習作	1962	インク・紙	19.7×15.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
177	「ムーミン谷の仲間たち　しずかなのがすきなヘムレンさん」習作	1962	インク・紙	19.7×19.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
178	「ムーミン谷の仲間たち　しずかなのがすきなヘムレンさん」習作	1962	インク・紙	9.8×24.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
179	「ムーミン谷の仲間たち　しずかなのがすきなヘムレンさん」習作	1962	インク・紙	27.8×18.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
180	「ムーミン谷の仲間たち　しずかなのがすきなヘムレンさん」ほか習作	1962	インク・紙	20.7×19.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
181	「ムーミン谷の仲間たち　しずかなのがすきなヘムレンさん」挿絵	1962	インク・紙	9.3×11.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
182	「ムーミン谷の仲間たち　しずかなのがすきなヘムレンさん」挿絵	1962	インク・紙	7.3×15	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
183	「ムーミン谷の仲間たち　しずかなのがすきなヘムレンさん」習作	1962	インク・紙	16.8×12	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
184	「ムーミン谷の仲間たち　しずかなのがすきなヘムレンさん」挿絵	1962	インク・紙	18.2×12.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館

No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横cm)	所蔵先
185	「ムーミン谷の仲間たち　目に見えない子」挿絵	1962	インク・紙	6×7.6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
186	「ムーミン谷の仲間たち　目に見えない子」挿絵	1962	インク・紙	9.3×9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
187	「ムーミン谷の仲間たち　目に見えない子」習作	1962	インク・紙	10.4×14.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
188	「ムーミン谷の仲間たち　ニョロニョロのひみつ」挿絵	1962	インク・紙	8.2×8.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
189	「ムーミン谷の仲間たち　ニョロニョロのひみつ」挿絵	1962	インク・紙	8.2×9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
190	「ムーミン谷の仲間たち　ニョロニョロのひみつ」習作	1962	インク・紙	6.6×13.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
191	「ムーミン谷の仲間たち　もみの木」挿絵	1962	インク・紙	7.5×14	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
192	「ムーミンパパ海へいく」習作	1965	インク・紙	18.3×20.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
193	「ムーミンパパ海へいく」習作	1965	インク・紙	26.6×20.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
194	「ムーミンパパ海へいく」習作	1965	インク・紙	26.7×20.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
195	「ムーミンパパ海へいく」習作	1965	インク・紙	26.7×20.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
196	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	10×29	個人
197	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	9×21	個人
198	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	13×21	個人
199	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	17×23.5	個人
200	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	7.5×12.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
201	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1966	インク・紙	5.5×7.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
202	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	11.8×10.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
203	「ムーミンパパ海へいく」習作	1965	インク・紙	4.3×8.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
204	「ムーミンパパ海へいく」習作	1965	インク・紙	25.8×20.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
205	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	5.5×11	個人
206	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	6.7×15.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
207	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	10×14	個人
208	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	5×10	個人
209	「ムーミンパパ海へいく」習作	1965	インク・紙	6.3×9.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
210	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	10.1×14.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
211	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	10×12	個人
212	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	7×13	個人
213	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	31×12	個人
214	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	8×15	個人
215	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	11.5×18.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
216	「ムーミンパパ海へいく」習作	1965	インク・紙	6.2×4.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
217	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	13×14	個人
218	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	7.5×5.5 5.5×6 4×3.5	個人
219	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	10.2×20.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
220	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	7×11	個人
221	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	17×12	個人
222	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	11×16.5	個人
223	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	8.4×17	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
224	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	11.6×11.6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
225	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	13.5×14.5	個人
226	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	鉛筆、インク・紙	8×14.5	個人
227	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	16.5×21	個人
228	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	7.8×13.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
229	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	8.9×14	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
230	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	10.9×17.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
231	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	10.4×17.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
232	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	21.8×15.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
233	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	10×15.5	個人
234	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	10×10	個人
235	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	10.7×18.6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館

No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横cm)	所蔵先
236	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	5.5×20.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
237	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	8.8×14.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
238	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	8.4×14.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
239	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	7.5×8	個人
240	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965	インク・紙	12×13	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
241	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	9.5×15.5	個人
242	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	7.5×13	個人
243	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	17×6.5	個人
244	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	6.5×10.5	個人
245	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	5×9.5	個人
246	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	10×18	個人
247	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	12.5×17	個人
248	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	10.5×12.5	個人
249	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク、鉛筆・紙	8×22	個人
250	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	13×10	個人
251	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	11.5×18	個人
252	「ムーミンパパ海へいく」挿絵	1965頃	インク・紙	30×21	個人
253	「ムーミン谷の十一月」英語版表紙	1976	グワッシュ、インク・厚紙	27.8×21	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
254	「ムーミン谷の十一月」表紙	1970	水彩、インク・厚紙	10.2×10.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
255	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	33×22.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
256	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	グワッシュ、インク・厚紙	14.4×14.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
257	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	9.3×14.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
258	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	7.8×8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
259	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	8×17.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
260	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	11.4×15.6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
261	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	11.1×13.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
262	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	8×7.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
263	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	10.5×8.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
264	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	7.9×13.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
265	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	8.9×16.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
266	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	6.2×21.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
267	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	8.7×18.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
268	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	17.1×15.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
269	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	6.8×18	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
270	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	6.8×22.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
271	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	9.2×13.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
272	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	9×8.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
273	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	14.2×14.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
274	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	8.1×30.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
275	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	9.1×7.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
276	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	9×6.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
277	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	9.4×36.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
278	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	8.7×14.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
279	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	8.4×12.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
280	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	11.6×15.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
281	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	5.3×4.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
282	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	8×4.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
283	「ムーミン谷の十一月」挿絵	1970	インク・厚紙	8×4.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
284	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	8×24.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
285	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	6×19.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
286	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	7.8×17.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
287	「ムーミン谷の十一月」習作	1970	インク・厚紙	8×17.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館

No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横cm)	所蔵先
288	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」挿絵	1977	グワッシュ・紙	33.2×49.1	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
289	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」扉	1977	グワッシュ、インク・紙	38×29	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
290	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」挿絵	1976	グワッシュ・紙	38.5×28.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
291	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	鉛筆、グワッシュ・紙	27×40	個人
292	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	グワッシュ・紙	27×40	個人
293	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」挿絵	1976	グワッシュ・紙	38.7×49.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
294	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	グワッシュ・紙	22.5 × 41.5	個人
295	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	グワッシュ・紙	22.5×41.5	個人
296	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	鉛筆、グワッシュ・紙	27.5×40	個人
297	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	インク、鉛筆・紙	27×40.5	個人
298	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	グワッシュ、鉛筆・紙	27×40.5	個人
299	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」挿絵	1977	グワッシュ・紙	38.5×48.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
300	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	鉛筆、グワッシュ・紙	29×42.5	個人
301	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	鉛筆、グワッシュ・紙	27×40	個人
302	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	鉛筆・紙	27×38	個人
302	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	鉛筆・紙	27×38	個人
303	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	鉛筆、グワッシュ・紙	27×40.5	個人
304	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」習作	1976頃	鉛筆、グワッシュ・紙	27×40.5	個人
305	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」挿絵	1977	グワッシュ・紙	38.2×28.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
306	絵本「ムーミン谷へのふしぎな旅」挿絵	1977	グワッシュ・紙	38.4×28.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
307	「ムーミン谷の彗星」より　ムーミン谷からの逃避 (トゥーリッキ・ピエティラ作)	1977	ミクストメディア	45×84×52	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
308	「ムーミン谷の冬」より　春 (トゥーリッキ・ピエティラ作)	1989	ミクストメディア	24×59×45	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
309	「ムーミン谷の冬」より　おさびし山にスキーで出かけるヘムレンさん (トゥーリッキ・ピエティラ作)	1990	ミクストメディア	49×56×40	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
310	「ムーミン谷の冬」より　おしゃまさんの雪のうま (トゥーリッキ・ピエティラ作)	1983	ミクストメディア	38×69×35	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館

第6章　広がる創作の世界

311	ムーミントロールと花	1940年代	水彩・紙	18×14	個人
312	初期のニョロニョロ	1940年代頃	水彩、インク・紙	16.5×13.5	個人
313	滞在(ヴィヴェカとトーベ)	1940年代	インク、鉛筆・紙	15.5×31	個人
314	おしゃまさんの誕生日メニュー	1957	インク・紙	18.5×12.5	個人
315	新聞用挿絵	1960	鉛筆・紙	19.7×28.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
316	ムーミントロール	1977	インク・紙	8×10	個人
317	クニット	1977	インク・紙	8×10	個人
318	抱擁	1991	インク、鉛筆・紙	46×42.5	個人
319	ムーミンママ	不明	鉛筆、色鉛筆・紙	30×22	個人
320	駆け回るオコジョ	1950年代	インク・紙	11.5×21	個人
321	大人になったオコジョ	1950年代	インク・紙	11.5×21	個人
322	本棚に色を塗るオコジョ	1955	水彩、インク・紙	7.5×8.5	個人
323	熊手を持つオコジョ	不明	鉛筆・紙	7.5×12.5	個人
324	バラの茂みにいるオコジョ	不明	インク・紙	12×23	個人
325	無題	不明	鉛筆・紙	6×20.5	個人
326	あなたのオコジョ	不明	インク、鉛筆・紙	11×21	個人
327	飛んでいるオコジョ	不明	ボールペン・紙	3.2×11.3	個人
328	「ホビットの冒険」表紙	1962	グワッシュ、インク・紙	20.2×14	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
329	「ホビットの冒険」挿絵	1962	インク・紙	7.8×5.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
330	「ホビットの冒険」挿絵	1962	インク・紙	24.7×17.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
331	「ホビットの冒険」挿絵	1962	インク・紙	3.9×16	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
332	「ホビットの冒険」挿絵	1962	インク・紙	19×13.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
333	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	8.1×6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
334	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	9.3×7.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館

No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横cm)	所蔵先
335	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	6.2×17.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
336	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	3×7.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
337	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	11.8×17.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
338	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	15.8×20	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
339	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	8×8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
340	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	4.5×12.6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
341	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	15×11.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
342	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	24.5×17	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
343	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	10.9×20.6	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
344	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	29.3×20.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
345	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	29.3×20.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
346	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	28.8×20.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
347	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	24×20.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
348	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	28.8×20.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
349	「ホビットの冒険」習作	1962	インク・紙	19.7×20.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
350	「不思議の国のアリス」表紙	1966	水彩、インク・紙	26.4×18.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
351	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	インク・紙	8.2×14.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
352	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	インク・紙	6.7×11.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
353	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	インク・紙	9.5×14.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
354	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	インク・紙	9.3×15.3	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
355	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	グワッシュ、インク・紙	13.7×11.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
356	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	グワッシュ、インク・紙	12.2×11.2	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
357	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	グワッシュ、インク・紙	12.3×11.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
358	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	インク・紙	20.5×15.4	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
359	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	グワッシュ、インク・紙	11×12.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
360	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	グワッシュ、インク・紙	21.7×13.9	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
361	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	水彩、インク・紙	10.9×11.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
362	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	水彩、インク・紙	14.4×12.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
363	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	水彩、インク・紙	18×14.7	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
364	「不思議の国のアリス」挿絵	1966	インク・紙	7.3×9.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
365-1	「不思議の国のアリス」習作	1966	インク・紙	17×29	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
365-2	「不思議の国のアリス」習作	1966	インク・紙	31×29	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
365-3	「不思議の国のアリス」習作	1966	インク・紙	31×29	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
366	「聴く女」表紙	1971	グワッシュ、インク・厚紙	33×24.5	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
367	「少女ソフィアの夏」挿絵	1976	インク・紙	24.7×19.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
368	「少女ソフィアの夏」挿絵	1976	インク・紙	24.7×19.8	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
369	無題	不明	インク・紙	22.9×17	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
370	隠遁者	不明	インク・紙	22.9×17	タンペレ市立美術館　ムーミン谷博物館
371	コトカの保育園のための壁画習作	1949	水彩、グワッシュ・紙	38×72	個人
372	遊び(アウロラ小児科病院のための壁画習作)	1956	油彩、テンペラ・カンヴァス	77.5×56	ヘルシンキ美術館
373	遊び3(アウロラ小児科病院のための壁画習作)	1956	油彩、テンペラ・カンヴァス	87×103	ヘルシンキ美術館
374	遊び2(アウロラ小児科病院のための壁画習作)	1956	油彩、テンペラ・カンヴァス	76×107	ヘルシンキ美術館
375	ロッドユール	不明	鉛筆、グワッシュ・紙	28×20.5	個人
376	ヘムレンさん	不明	鉛筆、グワッシュ・紙	28×21	個人
377	スナフキン	不明	鉛筆、グワッシュ・紙	28×20.5	個人
378	舞台背景のためのスケッチ	不明	鉛筆、グワッシュ・紙	33.5×44.5	個人
379	舞台背景のためのスケッチ	不明	鉛筆、グワッシュ・紙	26.5×44.5	個人
380	演劇「クラッシュ」の舞台衣装のためのスケッチ	1964頃	グワッシュ、レース、鉛筆・紙	39.5×30.5	個人
381	演劇「クラッシュ」の舞台衣装のためのスケッチ	1964頃	水彩、鉛筆・紙	40×28.5	個人
382	演劇「クラッシュ」の舞台衣装のためのスケッチ	1964頃	クレヨン、グリッター、鉛筆・紙	44×36	個人
383	演劇「クラッシュ」の舞台衣装のためのスケッチ	1964頃	グワッシュ、鉛筆・紙	45.5×35	個人
384	演劇「クラッシュ」の舞台衣装のためのスケッチ	1964頃	クレヨン、水彩、鉛筆・紙	40×28.5	個人

No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法(縦×横cm)	所蔵先
385-1	ムーミンの屋敷の内部	不明	インク、鉛筆・紙	21×29.5	個人
385-2	無題	不明	インク・鉛筆、紙	29.5×21	個人
385-3	ちびのミイの舞台衣装のためのスケッチ	不明	インク・鉛筆、紙	29.5×21	個人
386	「ムーミン・オペラ」ポスター	1974頃	ポスター	70.5×50	個人
387	演劇「舞台に立つトロールたち」ポスター習作	1982頃	インク、水彩、鉛筆・紙	68×49	個人
388	「スナフキンの春の歌」楽譜表紙	不明	水彩、インク・紙	31×22	個人
参考出品	パレット	1965		40×60	個人
参考出品	「夏の家」再現	2013		2700×5710×4960	(公財)ギャラリーエークワッド
参考出品	クルーブ島の模型	2013		30×30	フィンランドセンター

イベント

講演会

開催日	時　間	関連展覧会名	演　　題	講　　師	内　　容	参加者数
7月5日㈯	13:00～ 14:00	企画展 「法隆寺 祈りとかたち」	和の社会と日本文化	大野玄妙氏 （法隆寺管長）	法隆寺が太子建立寺院から太子信仰寺院へと移り変わっていく歴史を、聖徳太子の偉業とあわせて分かりやすく紹介。	170
7月26日㈯	13:00～ 14:00	企画展 「法隆寺 祈りとかたち」	法隆寺の美術と聖徳太子	水野敬三郎氏 （当館名誉館長、東京藝術大学名誉教授、本展監修者）	法隆寺が所蔵する仏像や天蓋などの歴史的背景や、百済等諸外国からの影響を分かりやすく紹介。	175

計345名

講　座

開催日	時 間	関連展覧会名	講　座　名	講　　師	内　　容	参加者数
5月10日㈯	14:00～ 15:30	生誕120年　宮芳平展 野の花として生くる。	宮芳平の生涯と作品	松矢国憲館 （当館専門学芸員）	洋画家・宮芳平の生涯と作品を概観。	17
8月2日㈯	14:00～ 15:30	法隆寺　祈りとかたち	金堂壁画と日本近代美術	長嶋圭哉 （当館主任学芸員）	近代の画家や美術史家にとって、法隆寺金堂壁画はどのような存在だったのだろうか。模写事業に参加した画家たちや岡倉天心、和辻哲郎らを例に考察。	46
8月9日㈯	14:00～ 15:30	コレクション展第2期 「レアリスムの東と西」	コローの風景―レアリスムと神話のあいだ	平石昌子 （当館学芸課長代理）	夢見るような風景や神話画を描いて人気を博したコロー。自然を愛し人を愛したフランスの国民的画家の生涯と画業をたどる講座。	17
9月20日㈯	14:00～ 15:30	コレクション展第3期 「FACE」	肖像と向き合う	伊澤朋美 （当館美術学芸員）	人の人格や記憶をとどめるものとして作られてきた肖像。顔をテーマにしたコレクション展「FACE」の展示作品に依りながら、肖像に込められた思いや意味を探る講座。	7
10月4日㈯	14:00～ 15:30		現代美術と映画	藤田裕彦 （当館学芸課長）	1970年代以降の現代美術の流れを、その当時の社会情勢、特にアメリカ映画との関連づけながら紹介。	11
10月25日㈯	14:00～ 15:30	黒井健　絵本原画の世界展	ニイガタ絵本作家列伝	宮下東子 （当館学芸課長代理）	新潟県出身の6人の童画家・絵本作家の作品を分析。また、イギリス黄金期の挿絵や平安時代の絵巻とも関連させながら紹介。	22
2月28日㈯	14:00～ 15:30	コレクション・ストーリーズ	コレクションと展覧会	澤田佳三 （当館学芸課長代理）	展覧会との関わりを視点に、この11年間に収集された作品を振り返りながら収集と展示という美術館の主要な活動を紹介。	15

計135名

ワークショップ

開催日	時間	関連展覧会名	ワークショップ名	講　　師	内　　容	参加者数
5月24日㈯	10:00～ 12:00		デジカメ・スマホで プロの技を！	中條均紀氏（写真家）	写真の基本を学び、デジカメやスマートフォンを使って風景を撮影。（友の会との共催事業）	21
5月25日㈰	10:00～ 12:00	生誕120年　宮芳平展 野の花として生くる。	宮芳平の描き方に せまる	佐藤久美子（当館学芸課長代理）	「宮芳平展」の作品をもとに、アクリル絵の具を重ねて描くことにチャレンジする内容。	3
6月22日㈰	14:00～ 15:00		はっけん!びじゅつかん ツアー	伊澤朋美（当館美術学芸員）	美術館の中や外には驚きや発見がいっぱい。美術館を巡る楽しいツアーを実施。	22
8月19日㈫	13:00～ 17:00	コレクション展第2期 「レアリスムの東と西」	夏休み子どもアート ～リアルへのチャレンジ～ ①水滴を描く ②植物を描く	麻績勝広氏 （新潟県立柏崎特別支援学校教諭） 恩田康一氏 （長岡市立中之島中学校教諭）	絵画制作や指導を専門とする教員を講師に招き、レアリズムを追求した作品を観たり、本物そっくりに描いたりする楽しさを味わうワークショップを実施。完成作品を館内に展示。	27
8月23日㈯	14:00～ 16:00	コレクション展第2期 「近代美術館の名品」	伝統色ってなに? ～和のいろを学ぼう!～	宮崎朋子氏 （カラーコンサルタント） 鑑賞担当　佐藤久美子 （当館学芸課長代理）	カラーコンサルタントを講師に招き、コレクション作品に親しみながら、日本古来の美しい伝統色を学ぶ。（友の会との共催事業）	33
10月26日㈰	14:00～ 16:00		くっつけて つくろう!	青木善治（当館副参事）	緩衝材をくっつけながら、オブジェをつくる。	11

計117名

映画鑑賞会

開催日	時 間	関連展覧会名	タイトル	内　　容	参加者数
4月13日㈰	14:00～	岩田正巳展	せたがや文化人・人と風土 岩田正巳	1982年　製作国:日本　企画:世田谷区 製作:東宝映像株式会社　上映時間:26分 現在の三条市で生まれ、戦後は世田谷で暮らした正巳の人生をたどるとともに、その代表作を紹介する。	27
5月24日㈯	14:00～ 15:00～	生誕120年　宮芳平展　野の花として生くる。	森鷗外	1999年　製作国日本　上映時間:30分 森鷗外の短編小説「天寵」のモデルは宮芳平。鷗外の多岐にわたる作品と独自の世界を映像で読み解く。	37
7月19日㈯	14:00～ 15:00～	法隆寺　祈りとかたち	聖徳太子	1994年　製作国:日本　上映時間:25分 聖徳太子の業績に焦点を当てて、大陸との交流によってもたらされた文化や技術、法隆寺の建造物などを紹介する。	110
1月17日㈯	14:00～ 15:00～		絵画を読む西洋美術入門のライブラリー	2007年　製作国:日本　上映時間:23分 西洋美術の基礎を楽しく分かりやすく解説した西洋美術入門のライブラリーである。	30
2月14日㈯	14:00～		禁じられた遊び	1952年　製作国:フランス　監督:ルネ・クレマン　上映時間:87分 アカデミー賞名誉賞、ヴェネツィア国際映画祭サン・マルコ金獅子賞受賞作戦争孤児になった一少女と農家の少年の純心な交情が描かれた名作である。	62
3月7日㈯	14:00～		第三の男	1952年　製作国:イギリス　監督:キャロル・リード　上映時間:105分 アカンヌ国際映画祭グランプリ、アカデミー賞撮影賞受賞作第二次大戦後のウィーンを舞台に、陰影や構図を凝らしたサスペンス・スリラーの傑作である。	70

計336名

その他のイベント

開催日	時間	関連展覧会名	催し名	講師等	内　　容	参加者数
7月19日㈯ 7月20日㈰	11:00～ 14:00～	法隆寺　祈りとかたち	写真撮影会	奈良のマスコットキャラクターせんとくん	奈良のマスコットキャラクターせんとくんが来館し、写真撮影会を実施。	180 500
9月27日㈯	11:00～ 14:00～	黒井健　絵本原画の世界展	おはなし　きかせて！	内田拓志氏 （TeNYアナウンサー）	『あのね、サンタの国ではね…』と『かかしのじいさん』の読み聞かせ。	35 22
10月11日㈯	11:00～ 14:00～	黒井健　絵本原画の世界展	おはなし　きかせて！	斎藤久美子氏 （TeNYアナウンサー）	『うまれてきてくれてありがとう』と『月からきたうさぎ』の読み聞かせ。	55 45
10月18日㈯	11:00～ 14:00～	黒井健　絵本原画の世界展	おはなし　きかせて！	酒井美帆氏 （TeNYアナウンサー）	『うまれてきてくれてありがとう』と『月からきたうさぎ』の読み聞かせ。	49 47
9月13日㈯	11:00～ 14:00～	黒井健　絵本原画の世界展	黒井健氏サイン会	黒井健氏 （絵本画家）	当日書籍を購入した先着各100名に整理券を配付し、サイン会を実施。	200
9月14日㈰	13:00～	黒井健　絵本原画の世界展	黒井健氏サイン会	黒井健氏 （絵本画家）	当日書籍を購入した先着100名に整理券を配付し、サイン会を実施。	100
9月21日㈰	10:30～ 15:30	黒井健　絵本原画の世界展	びじゅつかん茶会 （長岡大学茶道部によるお茶会）	長岡大学茶道部 （呈茶）	昨年度は開館20周年記念事業として行ったが、本年度からは友の会との共催で実施。	165

計1,398名

体験コーナー

開催期間	時間	関連展覧会名	体験コーナー名	担　　当	内　　容	材料
3月11日㈫～ 4月13日㈰ H27 3月4日㈬～ 4月12日㈰	9:00～ 17:00	コレクション展 「近代美術館の名品」	１枚の絵から イメージを広げて	青木善治（当館副参事）	デュブレ《羊飼い》の絵の外側の景色を想像して描く。	上質紙、鉛筆、色鉛筆
4月17日㈭～ 6月22日㈰	9：00～ 17:00	コレクション展 「近代美術館の名品」	探してみよう	青木善治（当館副参事）	ズベール《V.I.P》をよく観て、そこに描かれている世界の楽しさを伝える。	上質紙、鉛筆、色鉛筆
9月4日㈭～ 10月13日㈪	9：00～ 17:00	コレクション展 「近代美術館の名品」	作品をじっくりみて、色をぬろう	青木善治（当館副参事）	デューラー《黙示録》第10図、第14図が印刷された紙に色鉛筆で彩色する。	上質紙、鉛筆、色鉛筆
1月4日㈰～ 3月1日㈰	9：00～ 17:00	コレクション展 「こどものせかい」	11人目のインディアンを描こう	佐藤久美子 （当館学芸課長代理）	岡本信次郎《10人のインディアン》をもとに、「11人目のインディアン」を想像して描く。	上質紙、鉛筆、色鉛筆、ペン

館外活動・地域との連携

巡回ミュージアム

【趣旨及び総括】

巡回ミュージアムは、所蔵作品の中から作品を選定し、県内を巡回展示するもので、広く県民に美術鑑賞の機会を提供し、文化振興を図ることを目的としている。本年度は「遠隔地の県民に鑑賞機会を提供する」ことで　13年ぶりに阿賀町で行った。60歳以上の年配の層を中心に、幅広い年代の来場者がみられた。今後も、広く県民に美術鑑賞の機会を提供するだけでなく、事前事後の連携した活動など、さらに活動内容の充実を図っていきたい。

【開催地・開催期日・その他】

・阿賀町会場：阿賀町公民館

10月18日㈯～10月26日㈰（９日間）

主　催：新潟県立近代美術館、阿賀町教育委員会

後　援：新潟日報社、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、阿賀町合併10年・津川開町400年記念事業実行委員会

出品点数：27点

入場者数：378名

担当　伊澤朋美、佐藤久美子、青木善治

【出品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年
1	石井　柏亭	池	1928
2	田崎　広助	箱根の富士	不明
3	児島　善三郎	森と聚落	1958
4	里見　勝蔵	赤と緑の静物	1928
5	前田　寛治	赤い帽子の女	1925
6	高間　惣七	海・風	1960
7	末松　正樹	作品	1951
8	斎藤 義重	作品(Blue)	1961
9	パブロ・ピカソ	ランプの下の静物	1962
10	横山　操	波濤	1960
11	加山　又造	鳥	1961
12	加山　又造	烈風	1995
13	長﨑　莫人	赤い魚	1955
14	三浦　文治	浜	1973
15	福岡　奉彦	海と鳥	1991
16	三芳　悌吉	地図の前	1980
17	新保　兵次郎	窓辺	不明
18	小野　末	街景	1949
19	小野　末	島	1964
20	富岡　惣一郎	雪国シリーズ　北海道雷電海岸	1974
21	品川　工	ネガとポジ鏡シリーズNo1A	1974
22	品川　工	ネガとポジ鏡シリーズNo2A	1974
23	アルナルド・ポモドーロ	予言	1983
24	マリノ・マリーニ	騎手のための構想・習作	1955
25	本間　一秋	波響	1990
26	山本　自炉	鋳銅鷲香炉	1940
27	宮田　宏平 （三代藍堂）	終りのない物語 「月下独酌　唐・李白に捧ぐ」	1991

出前講座

月日	時　間	場　所(依頼主)	内　容	担当者	受講者数
5月28日㈬	9:35～10:20 10:40～11:25 11:30～12:15	長岡市立上組小学校　6学年	学芸員ってどんなお仕事でしょう	宮下東子 (当館学芸課長代理)	97
6月5日㈭	11:10～12:40	新潟デザイン専門学校 モンセラート美術大学 学生	日本画の基礎知識	宮下東子 (当館学芸課長代理)	11
6月27日㈮	9:45～10:35 10:45～11:35 11:45～12:35	見附市立見附中学校 2学年	法隆寺展出前講座 「仏像 見て ミテ！」上級コース	伊澤朋美 (当館美術学芸員)	93
7月2日㈬	9:50～10:40 10:50～11:40	長岡市立刈谷田中学校 2学年		伊澤朋美 (当館美術学芸員)	53
7月9日㈬	9:25～10:10 10:30～11:15 11:20～12:05	長岡市立上川西小学校　4学年	法隆寺展出前講座 「仏像 見て ミテ！」中級コース	宮下東子 (当館学芸課長代理)	110
7月23日㈬	13:30～14:30	出雲崎町教育委員会 中央公民館 出雲崎総合大学 第5回	法隆寺展関連 「法隆寺～祈りとかたち(展覧会の見どころ)」	長嶋圭哉 (当館主任学芸員)	35
9月16日㈫	8:40～9:25 9:30～10:15 10:35～11:20	長岡市立関原小学校　4学年	黒井健展関連 「黒井健さんの絵本・イラストレーション」	宮下東子 (当館学芸課長代理)	85
11月20日㈭	10:00～10:45 10:45～11:20	見附市立本所保育園　年長児・年中児	幼児向け出前講座 「たのしい かたちを ならべて みよう」	宮下東子 (当館学芸課長代理) 平石昌子 (当館学芸課長代理)	46
11月27日㈭	10:00～10:45 10:45～11:20	見附市立桜保育園　年長児・年中児		宮下東子 (当館学芸課長代理) 平石昌子 (当館学芸課長代理)	64
12月9日㈫	10:00～10:45 10:45～11:20	見附市立わかば保育園　年長児・年中児		宮下東子 (当館学芸課長代理) 青木善治 (当館副参事)	30
12月10日㈬	10:00～10:45 10:45～11:20	見附市立見附保育園　年長児・年中児		佐藤久美子 (当館学芸課長代理) 伊澤朋美 (当館美術学芸員)	47
12月11日㈭	10:00～10:45 10:45～11:20	見附市立名木野保育園　年長児・年中児		佐藤久美子 (当館学芸課長代理) 伊澤朋美 (当館美術学芸員)	28
12月18日㈭	9:40～10:30	長岡市立川口中学校　3学年	「デザインって、何？」	藤田裕彦 (当館学芸課長)	45
12月19日㈮	10:45～11:35	南魚沼市立五十沢中学校　3学年		藤田裕彦 (当館学芸課長)	30

計774名

こどものづくり大学校 学外ワーク（共催事業）

子どもたちに日常生活ではできない創るよろこびを体験してもらうため、隣接する長岡造形大学が平成23年度から毎年「こどものづくり大学校」を主催している。年間を通して行われる10回の講座のうち、１回を「学外ワーク」として当館が受け持っている。

本年はその４回目として、美術館に展示されている絵画作品の鑑賞からはじまるワークを行った。

日　時：10月５日㈰　10:00～16:00
　　10月19日㈰　10:00～16:00
会　場：新潟県立近代美術館　コレクション展示室
主　催：長岡造形大学
テーマ：「色をみつけよう～お気に入りの作品から～」
講　師：青木善治（当館副参事）
　　佐藤久美子（当館学芸課長代理）
　　宮下東子（当館学芸課長代理）
内　容：常設展示室で展示されている作品からお気に入りの作品を１点選び、その絵の中で使用されている色彩を５色抽出。その色を、絵具を混ぜて再現し、色のチップを作り、これを再構成して自分の作品とする。
参加者数：72名／76名

担当：宮下東子

第16回亀倉雄策賞受賞記念 葛西薫展　開催記念講演（共催事業）

平和希求ポスター「ヒロシマ・アピールズ」により第16回亀倉雄策賞を受賞した葛西薫氏と新潟在住のデザイナー石川竜太氏の対談を、共催した葛西薫展の記念講演として開催した。

講演後には葛西氏のサイン会を実施した。

日　時：９月28日㈰　14：00～15：50
会　場：新潟県立近代美術館　講堂
講　師：石川竜太氏（JAGDA賞2014受賞）
　　葛西薫氏（第16回亀倉雄策賞受賞）
参加者数：117名

担当：藤田裕彦、伊澤朋美

刊行物・鑑賞資料

刊行物・鑑賞資料名	概　　要	仕　　様	発行部数	発行日	内　　容
平成26年度年間スケジュール	平成26年度の企画展とコレクション展の日程及び内容、年間のイベントなどをまとめたもの	A4判変形（展開サイズ210×376㎜）　蛇腹4つ折り　4色×4色	35,000部	2014年4月1日	
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」42号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り（A4判）4頁	10,000部	2014年4月1日	中越地震から10年・法隆寺展などもりだくさん／NIIGATAアートリンク2014／特集・地元作家×場所①宮芳平と柏崎／②岩田正巳と日比谷公園／この夏、法隆寺さまが丸ごとやってくる！／わたしとこの1点　橋本龍美《風之唄》／CATALOGUE GUIDE「昭和の美術 1945年まで―〈目的芸術〉の軌跡」／キンビのおすすめ01／キンビのおすすめ02／編集部からのひとこと
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」43号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り（A4判）4頁	10,000部	2014年7月1日	中越地震から10年／コレクション・ストーリーズ―11年の物語／開館20年で272万人！新たな物語をかたちに。／私とこの1点　フランシス・ゴヤ・イ・ルシエンテス《カプリーチョス》65.ママ、どこへ行くの／ようこそキンビへ！鑑賞活動の様子から　体験コーナー開催中／イベントレポート「デジカメ・スマホでプロの技を！」／これからのイベント／CATALOGUE GUIDE「戦後の書 その一変相 江口草玄」「ゲンビ」／近美のおすすめ／お世話になっていますシリーズその5「平台車」／編集部からのひとこと
巡回ミュージアム阿賀町会場　セルフガイド	「巡回ミュージアム」のためのセルフガイド	A3判　蛇腹5面折り　モノクロ（リソグラフにて作成）	1,000部	2014年10月18日	
コレクション展第2期「レアリスムの東と西」鑑賞カード	所蔵作品鑑賞のヒントを示したカード。ラックに配架し、会場で自由に手に取り、持ち帰ることができるようにした。	A5両面、モノクロ（リソグラフにて作成）、2種		2014年4月17日	・ギュスターヴ・クールベ《エトルタ海岸、夕日》 ・岸田劉生《冬枯れの道路（原宿附近写生）》
コレクション展第3期「近代美術館の名品」鑑賞シート	所蔵作品鑑賞のヒントを示したシート。会場内のソファ上に設置し、自由に手に取り、読み終えたらその場に戻すようにした。	A4両面カラー（印刷機にて作成）パウチ加工、1種	1枚	2014年9月4日	・《メレンコリアⅠ》の謎にせまる！ ・モチーフを見つけてみましょう ・「メレンコリア」とは… ・「四体液説」とは…
企画展「法隆寺 祈りとかたち」出前授業用鑑賞アートカードセット	法隆寺展の出前授業プログラム「仏像見てミテ！」で使用するために作成したアートカード。法隆寺展で出品される作品に加え、同時代の代表的な仏像なども加え、仏像鑑賞の基本を学べるようにした。	A6片面カラー印刷機にて作成）、19枚	19枚7セット	2014年7月5日	
企画展「コレクション・ストーリーズ―11年の物語―」鑑賞シート	展覧会名にちなみ、各章の出品作品にまつわるストーリーを様々な観点から紹介する鑑賞シート。ラックに配架し、自由に手に取り、読み終えたらその場に戻すようにした。	A4両面カラー（印刷機にて作成）パウチ加工、4種	各種5枚、計20枚	2015年2月3日	・ヴォラールのナビ派版画集 ・三代宮田藍堂のアクセサリー ・大理石彫刻―北村四海と武石弘三郎 ・堺時雄と写真の黎明期
郷土に残る小山正太郎と不同舎の画家たち　小冊子	コレクション展第4期「郷土に残る小山正太郎と不同舎の画家たち」に出品された作家や作品を紹介する小冊子。	A5判、4色×4色、マットコート110kg、ステープル留め、24頁	600部	2015年1月4日	小山正太郎／田中本吉／中村不折／下村為山／三輪大次郎／小泉成一／安田稔／高村真夫／青木繁／坂本繁二郎／満谷国四郎
企画展「コレクション・ストーリーズ―11年の物語―」新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵品目録	2003年度から2013年度までの11年間に（一部を除く）新潟県立近代美術館及び、万代島美術館で収集し所蔵した作品を収録。	Ａ４判変形（280×215㎜）276頁	1,000部	2015年2月3日	絵画（日本画）／絵画（洋画ほか）／平面／版画／彫刻／工芸／書／水彩画／グラフィックデザイン／写真／素描／その他の作品／相澤コレクション／作家略歴

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会への理解を深め、より充実した鑑賞の機会となるように、学芸員による作品解説会を行った。コレクション展は毎週土曜日の午前11時から、企画展は毎週日曜日の午後２時から、それぞれの会場で行った。参加者がなかった解説会については、記録から除いた。

企画展（日曜日　14：00～）
コレクション展（土曜日　11：00～）

企画展

展覧会名 期日	人数
生誕120年 岩田正巳展	
4月 6日	10
小　計	10
生誕120年 宮芳平展　野の花として生くる。	
4月27日	12
5月 4日	7
5月25日	10
6月 1日	11
小　計	40
東日本大震災復興祈念・新潟県中越地震復興10年 法隆寺　祈りとかたち	
なし	
小　計	0
黒井健 絵本原画の世界展 ※ギャラリー・ツアー形式	
9月28日	31
10月12日	15
11月 2日	20
小　計	66
コレクション・ストーリーズ― 11年の物語―	
2月 8日	5
2月15日	5
2月22日	1
3月 1日	9
3月 8日	10
3月15日	7
3月22日	8
小　計	45
企画展合計	161

コレクション展

展覧会名 期日	人数
近代美術館の名品/素描の妙／100年前、大正という時代があった	
4月19日	3
5月10日	2
5月24日	3
6月 7日	1
6月21日	2
小　計	11
近代美術館の名品/レアリスムの東と西／古寺大観	
6月28日	2
7月 5日	10
7月12日	3
7月26日	2
小　計	17
さがして、みつけて/FACE／近代美術館の名品	
9月 6日	4
9月13日	4
9月20日	1
10月 4日	1
10月11日	11
11月 1日	4
11月 8日	3
11月15日	4
小　計	32
郷土に残る小山正太郎と不同舎の画家たち／近代美術館の名品/こどものせかい	
1月10日	5
1月31日	3
2月 7日	4
2月21日	3
2月28日	3
小　計	18
所蔵品に見る「書」／近代美術館の名品/富士詣考	
3月 7日	8
3月14日	5
3月21日	5
3月28日	2
小　計	20
コレクション展合計	98

団体への解説

希望団体に対し、作品解説や施設紹介等を行った。

コレクション展第１期		
6月20日㈮	三条市小教研図画工作部一斉研修	20名
計１回	小　計	20名
生誕120年 宮芳平展		
5月29日㈭	高崎市シティギャラリー	33名
5月29日㈭	長岡造形大学 博物館概論履修者	11名
計２回	小　計	44名
法隆寺　祈りとかたち		
7月17日㈭	新潟教弘友の会	40名
7月17日㈭	新潟教弘友の会	50名
7月18日㈮	新潟教弘友の会	46名
7月18日㈮	長岡市教頭会	17名
7月24日㈭	大島コミュニティセンター	19名
7月25日㈮	胎内市コミュニティセンター	24名
7月29日㈫	フカミ美術館	24名
7月30日㈬	三条市大島公民館	25名
7月30日㈬	新潟市つくし工房	37名
8月21日㈭	長岡デイサービスセンター	23名
計10回	小　計	305名
コレクション展第３期		
9月11日㈭	恵和保育園	87名
計１回	小　計	87名
黒井健 絵本原画の世界展		
9月12日㈮	長岡フレンドリールーム	8名
9月12日㈮	びゅうバス旅行１班	32名
9月13日㈯	小千谷市立吉谷小学校鑑賞研修会	6名
9月17日㈬	坂之上コミュニティセンター	22名
9月17日㈬	長岡和光幼稚園	45名
9月18日㈭	見附市桜保育園	76名
9月19日㈮	JA共済	11名
9月24日㈬	見附保育園	54名
9月25日㈭	わかば保育園	35名
9月28日㈰	柏崎市立鯖石小学校３年生PTA	10名
10月 1日㈬	びゅうバス旅行２班	29名
10月 2日㈭	名木野保育園	31名
10月 7日㈫	本所保育園	54名
10月17日㈮	フレンドリーミルはまなす	13名
10月28日㈫	びゅうプラザ郡山	32名
10月28日㈫	長岡市校長研修会	70名
10月28日㈫	中島幼稚園	88名
10月30日㈭	長岡市三島郡美術研究会研修会	26名
計18回	小　計	642名
コレクション展第４期		
1月20日㈫	太陽幼稚園	100名
1月21日㈬	ソウル東廣高校	33名
2月15日㈰	中越地区小中学校特別支援学校教員研修会	10名
計３回	小　計	143名
コレクション展第５期		
3月17日㈫	みどり保育園	22名
計１回	小　計	22名
合計36	人数合計	1,263名

学校教育等との連携

●図工・美術の授業および総合学習、美術部での利用 ― 展覧会の鑑賞

学校等のカリキュラムで来館した団体に展覧会鑑賞の機会を提供した。コレクション展示室での対話型鑑賞を積極的に提案しながら進めた。

【対話を取り入れた鑑賞、解説会、オリエンテーション】 2,556名

（児童生徒2,387名＋引率者169名）

生誕120年　宮芳平展

5月 2日㈮	新潟県立新井高等学校	（3年）	152名（12名）
5月 8日㈭	長岡市立刈谷田中学校	（3年）	71名（5名）
5月15日㈭	新潟市立月潟中学校	（2年）	10名（1名）

コレクション展第1期

6月 4日㈬	長岡市立信条小学校	（3・4年）	36名（3名）
6月13日㈮	三条市立大崎小学校	（6年）	102名（5名）

法隆寺　祈りとかたち

7月15日㈫	長岡市立総合支援学校	（高等部）	37名（13名）
7月15日㈫	小千谷市立小千谷中学校	（3年）	46名（3名）
7月15日㈫	新潟県立長岡商業高等学校	（2年）	40名（2名）
7月16日㈬	新潟県立長岡商業高等学校	（2年）	39名（3名）
7月16日㈬	新潟県立長岡明徳高等学校	（社会人講座）	23名（1名）
7月17日㈭	新潟県立長岡商業高等学校	（2年）	78名（4名）
7月17日㈭	長岡市立大島中学校	（1年）	113名（9名）
7月18日㈮	新潟県立長岡商業高等学校	（2年）	74名（2名）
7月23日㈬	長岡市立上川西小学校	（4年）	110名（5名）
7月29日㈫	長岡市立宮内中学校	（美術部）	50名（2名）
7月31日㈭	新潟県立長岡工業高等学校	（美術部）	9名（2名）
8月 6日㈬	上越市立城東中学校	（美術部）	15名（1名）

コレクション展第2期

8月27日㈬	長岡市立日越小学校	（3年）	82名（3名）

コレクション展第3期

9月 4日㈭	小千谷市立東小千谷小学校	（5年）	55名（3名）
9月10日㈬	小千谷市立小千谷小学校	（5年）	64名（3名）
9月11日㈭	小千谷市立小千谷小学校	（5年）	96名（4名）
9月11日㈭	長岡市立上通小学校	（3年）	22名（1名）

黒井健　絵本原画の世界展

9月12日㈮	小千谷市立南小学校	（5年）	21名（2名）
9月17日㈬	長岡市立大島中学校	（3年）	35名（2名）
9月19日㈮	三条市立大面小学校	（5年）	26名（2名）
9月24日㈬	妙高市立斐太南小学校	（1～6年）	52名（9名）
9月26日㈮	長岡市立桂小学校	（5・6年）	14名（2名）
9月28日㈰	柏崎市立鯖石小学校	（3年）	13名（1名）
9月30日㈫	長岡市立前川小学校	（5・6年）	16名（3名）
10月 3日㈮	小千谷市立片貝小学校	（5年）	42名（2名）
10月 7日㈫	長岡市立神田小学校	（2年）	33名（7名）
10月11日㈯	上越市立大潟中学校	（美術部）	10名（1名）
10月21日㈫	新潟市立西内野小学校	（6年）	82名（4名）
10月21日㈫	小千谷市立千田小学校	（5年）	19名（3名）
10月22日㈬	小千谷市立吉谷小学校、和泉小学校	（5年）	40名（3名）
10月28日㈫	燕市立小池中学校	（1年）	92名（4名）
10月29日㈬	長岡市立才津小学校	（4～6年）	75名（2名）
10月30日㈭	十日町市立水沢小学校	（3年）	40名（3名）
10月31日㈮	長岡市立上塩小学校	（3・4年）	14名（2名）
10月31日㈮	長岡市立東谷小学校	（1・2年）	32名（3名）
10月31日㈮	長岡市立大積小学校	（3・4年）	11名（1名）
11月 2日㈰	長岡市立秋葉中学校	（美術部）	22名（1名）

コレクション展第3期

11月5日㈬	長岡市立日越小学校	（5・6年）	72名（1名）

コレクション展第4期

1月14日㈬	長岡市立上組小学校	（6年）	95名（4名）
1月16日㈮	三条市立大面小学校	（6年）	30名（2名）
1月16日㈮	長岡市立中野俣小学校	（1～6年）	15名（3名）
1月22日㈭	見附市立新潟小学校	（4年）	10名（1名）
1月23日㈮	長岡市立脇野町小学校	（3年）	47名（2名）
1月23日㈮	加茂市立加茂小学校	（5年）	51名（3名）
2月14日㈯	長岡市立新町小学校	（高学年）	8名（2名）

コレクション・ストーリーズ

2月18日㈬	出雲崎町立出雲崎小学校	（4年）	31名（2名）

【担当教諭による鑑賞会、展覧会鑑賞のみ】 199名

（児童生徒176名＋引率者23名）

生誕120年　宮芳平展

5月24日㈯	長岡市立堤岡中学校	（美術部）	14名（1名）
5月31日㈯	魚沼市立堀之内中学校	（美術部）	19名（1名）
5月31日㈯	柏崎市立柏崎第一中学校	（美術部）	7名（1名）

コレクション展第1期

6月 4日㈬	長岡市立山古志中学校	（1年）	2名（1名）

法隆寺　祈りとかたち

7月31日㈭	新潟市立明鏡高等学校	（美術部）	21名（7名）
8月 5日㈫	柏崎市立柏崎第三中学校	（美術部）	15名（1名）
8月 8日㈮	長岡市立関原中学校	（美術部）	14名（1名

黒井健 絵本原画の世界展
10月 8日㈬ 新潟大学教育学部附属長岡中学校（美術部） 15名（1名）
10月19日㈰ 阿賀町立阿賀津川中学校（美術部） 13名（2名）
11月 2日㈰ 柏崎市立第一中学校 （美術部） 7名（1名）
11月 2日㈰ 長岡市立旭岡中学校 （美術部） 21名（2名）
11月 2日㈰ 魚沼市立堀之内中学校 （美術部） 20名（3名）

コレクション展第3期
11月22日㈯ 柏崎市立第二中学校 （美術部） 8名（1名）

●校外学習、修学旅行等
学校教育における校外学習、学校行事等での利用に供した。希望があった場合は、目的に応じて、施設等に関する説明や案内等を行った。

488名
（児童生徒439名＋引率者49名）

生誕120年 宮芳平展
5月23日㈮ 長岡市立東北中学校 （特別支援学級）12名（5名）

コレクション展第2期
6月27日㈮ 長岡英智高校 （1～3年）18名（2名）

法隆寺 祈りとかたち
7月10日㈭ 魚沼市適応指導教室 （中学3年） 2名（4名）

黒井健 絵本原画の世界展
9月26日㈮ 長岡市立総合支援学校 （高等部2年）15名（4名）
10月 1日㈬ 小千谷市立総合支援学校（高等部2年） 4名（3名）
10月 9日㈭ 長岡市立中島小学校 （1～6年）203名（12名）
10月 9日㈭ 長岡市立新町小学校 （1年） 76名（9名）
10月22日㈬ 長岡市立東北中学校 （特別支援学級）15名（5名）

コレクション展第4期
1月24日㈯ 長岡市立上組小学校 （6年） 90名（4名）

コレクション・ストーリーズ
2月13日㈮ 長岡市立総合支援学校 （高等部1年） 4名（1名）

※（ ）内の人数は引率者
合計3,243名
（児童生徒3,002名＋引率者241名）

●職場体験
学校等から希望に応じて、職場体験を受け入れた。

7月 9日㈬ 小千谷市立千田中学校 1名
7月24日㈭ 長岡市立東中学校 1名
8月28日㈭ 長岡市立北中学校 1名
9月30日㈫ 長岡市立堤岡中学校 6名

●子ども学芸員作品解説
長岡市立上組小学校6年生の「総合的な学習の時間」への取組として、児童が当館で作品鑑賞の成果を来館者に披露する「子ども学芸員」の活動に、学校と美術館が連携して取り組んだ。

4月22日㈫ 年間の活動についての打合せ（担当教諭3名来館）、会場下見
5月28日㈬ 出前授業「学芸員って、どんなお仕事でしょう？」
1月 6日㈫ 子ども学芸員作品解説会に向けて打合せ（担当教諭来館）
1月14日㈬ 全児童来館 コレクション展示室にて対話型鑑賞会を実施
1月24日㈯ こども学芸員実施（コレクション展第4期「こどものせかい」にて 参加児童90名・引率4名）

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

				企画展									コレクション展									月計
				学校等						障がい者	介助	合計	学校等						障がい者	介助	合計	
				小中・特			高校						小中・特			高校						
月	期間	日数	開催企画展名称	校数	児童生徒	引率	校数	生徒	引率				校数	児童生徒	引率	校数	生徒	引率				
4	1～13	12	生誕120年 岩田正巳展 ー新興大和絵、その清澄なる世界ー	0	0	0	0	0	0	56	13	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
	17～25	8											0	0	0	0	0	0	7	1	8	
	26～30	4	生誕120年 宮芳平展 野の花として生くる。	0	0	0	0	0	0	18	5	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	1～31	27		6	133	14	1	152	12	102	24	437	0	0	0	0	0	0	5	0	5	442
6	1	1		0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	213
	3～22	18											3	140	9	0	0	0	34	3	186	
	26～29	4											0	0	0	1	18	2	5	1	26	
7	1～4	4											0	0	0	0	0	0	1	0	1	1,661
	5～31	23	東日本大震災復興記念・新潟中越地震復興10年 法隆寺 祈りとかたち	5	321	23	8	321	34	700	260	1,659	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
8	1～17	16		3	44	3	0	0	0	587	235	869	0	0	0	0	0	0	3	1	4	1,005
	19～31	12											1	82	3	0	0	0	29	18	132	
9	4～11	7											4	237	11	0	0	0	6	3	257	800
	12～30	16	中越地震復興10年 画業40周年記念 黒井健 絵本原画の世界展	7	177	21	1	15	4	245	80	542	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
10	1～31	27		17	812	64	2	19	8	352	132	1,387	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1,388
11	1～3	3		4	70	7	0	0	0	90	34	201	0	0	0	0	0	0	0	0	0	311
	5～24	18											2	80	2	0	0	0	21	7	110	
1	4～31	24											7	338	19	0	0	0	21	5	383	383
2	1	1											0	0	0	0	0	0	1	1	2	107
	3～28	23	コレクション・ストーリーズ ー11年の物語	1	31	2	1	4	1	45	9	92	1	8	2	0	0	0	3	0	13	
3	1	1		0	0	0	0	0	0	5	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	107
	3	1		0	0	0	0	0	0	1	0	1										
	4～31	24		0	0	0	0	0	0	79	20	99	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
合計		274		43	1,588	134	13	511	59	2,281	813	5,386	18	885	46	1	18	2	140	40	1,131	6,517

＊観覧料免除申請はされていないが、小・中学生及び特別支援学校の児童生徒数を含む。
＊年間の合計日数においては、コレクション展の開催日数とは一致しない（3/3は企画展のみ開催したため）。

平成26年度　夏季休業期間 観覧料免除者数　7/19～8/31

月	期間	日数	展覧会名	高校生	月計	合計
7	19~31	11	東日本大震災復興祈念・新潟県中越地震復興10年　法隆寺　祈りとかたち	27	27	169
	19~31	11	コレクション展第2期	0		
8	1~17	16	東日本大震災復興祈念・新潟県中越地震復興10年　法隆寺　祈りとかたち	139	142	
	1~31	28	コレクション展第2期	3		

博物館実習

【趣　旨】

学芸員資格取得を目指す学生等のための博物館実習を実施し、４名の実習生を受け入れた。美術館学芸員の諸業務に関する講義の他、各分野の作品の取り扱いについて実習を行った。また今年度は、新潟県立歴史博物館、一般財団法人駒形十吉記念美術館を見学し、多様な博物館を知ることで視野を広げることを図った。さらに実習では当館所蔵品のなかから12点の作品を実際に展示したり、作品解説を行ったりするなど、学芸業務を実際に体験させることに重点をおいた。

【実習期間】

7月17日㈭～7月31日㈭　※土・日・祝日を除く

【実習生の所属および受け入れ人数】

長岡造形大学　　２名
新潟大学　　２名

【カリキュラム】

月日	時限	内　　容
7月17日㈭	1	開講式・館の概要説明、オリエンテーション
	2	展覧会見学(「法隆寺展」・「コレクション展第2期」)
	3	バックヤード見学
	4	講　義:博物館運営に関わる法律・現在の博物館を取り巻く状況
7月18日㈮	1	講　義:作品の収集・分類・保管とデータベース管理
	2	講　義:学芸課の業務／展覧会の企画から礼状まで
	3	実　習:作品の取り扱い・展示・点検(平面作品)
	4	
7月22日㈫	1	講　義:作品の保存・修復
	2	講　義:作品の調査・研究
	3	講　義:ミュージアムエデュケーション
	4	
7月23日㈬	1	実　習:作品の取り扱い・展示(軸・屏風)
	2	
	3	実　習:作品の取り扱い・展示(彫刻)
	4	講　義:総務課の業務／施設管理・安全対策
7月24日㈭	1	講　義:美術館と地域連携／ボランティアと友の会
	2	講　義:美術館のサービスと来館者の視点
	3	実　習:作品の取り扱い・展示(工芸)
	4	講　義:美術館の広報
7月25日㈮	1	実　習:展覧会計画①(作品・テーマ選定)
	2	
	3	
	4	実　　習:作品解説会説明、準備①
7月28日㈪	1	実　習:コレクション展展示替え作業見学(2,30分程度)
	2	実　習:展覧会計画②(リスト、図面、開催要項作成)
	3	実　習:展覧会計画③(パネル・キャプション等の作成)
	4	
7月29日㈫	1	実　習:作品搬入、展示作業
	2	
	3	
	4	実　　習:展示講評、撤収作業
7月30日㈬	1	他館見学
	2	
	3	
	4	実　習:作品解説会準備②
7月31日㈭	1	実　習:作品解説会準備③
	2	
	3	実　習:作品解説会(一般公開)１回目、講評
	4	実　習:作品解説会(一般公開)２回目、講評／実習のまとめ・閉講式

8時50分出勤　実習場所は会議室を基本とする
①9:00～10:20（80分）②10:40～12:00（80分）
③13:10～14:30（80分）④14:50～16:10（80分）

担当：伊澤朋美

イベント

講演会等

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
4月26日(土)	14:00～15:00	梅佳代展	アーティスト・トーク	梅佳代氏（写真家）	作家本人による展示室でのトーク。	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	310
5月17日(土)	14:00～14:50	国立国際美術館コレクション 美術の冒険	ギャラリートーク「国立国際美術館のコレクションについて」	島敦彦氏（国立国際美術館副館長）	国立国際美術館の副館長島敦彦氏によるギャラリートーク。展示室を巡りながら、出品作品について解説。	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	25
8月2日(土)	14:00～15:00	ジブリが生んだ新潟の動画家 近藤喜文展	ギャラリートーク	橋田真氏（スタジオジブリスタッフ）	スタジオジブリのスタッフ橋田氏によるギャラリートーク。アニメーション制作、近藤喜文の絵や表現について解説。	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	60
9月13日(土)	11:00～12:20	伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	ギャラリートーク	細見良行氏（細見美術館　館長）	細見美術館館長が展示室を巡りながら出品作品について解説。	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	70
	14:00～15:20							66
10月5日(日)	14:00～15:30	伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	作品解説会	伊藤京子氏（細見美術館　主任学芸員）	出品作品、京都の文化・歴史、細見コレクションの成り立ちについて展示室を巡りながら解説。	一般 要観覧券	万代島美術館展示室	70
3月21日(土・祝)	14:00～15:20	トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	トーク・イベント「ブックデザイナーからみたムーミンの魅力」	祖父江慎氏（ブックデザイナー）	展覧会カタログや、トーベの著作のブックデザインを数多く手がけてきた祖父江氏による、ムーミンやトーベの魅力の紹介。	一般 参加無料	NICOプラザ会議室（万代島ビル11階）	130

計731名

美術鑑賞講座

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
5月31日(土)	14:00～15:30	国立国際美術館コレクション 美術の冒険	アジア・東欧の現代アート	高晟埈（当館主任学芸員）	韓国、中国、ロシアなどの北東アジア、またタイと旧ユーゴスラヴィアの現代アートの流れを紹介。	一般 聴講無料	NICOプラザ会議室（万代島ビル11階）	8
6月14日(土)	14:00～15:40		ドイツの現代写真	桐原浩（当館業務課長）	展覧会出品作家ロレッタ・ラックスやドイツ現代写真を代表するベッヒャー夫婦などを紹介。			14
1月24日(土)	14:00～15:30	昭和追想―美術でたどる時代の風景	亀倉雄策　1950年代の仕事	今井有（当館業務課長代理）	新潟県燕市出身の亀倉雄策について、東京オリンピックの一連の仕事に至る前、1950年代の仕事を中心に紹介。			13

計35名

コンサート

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
7月12日(土)	11:30～12:00	ジブリが生んだ新潟の動画家　近藤喜文展	新潟市ジュニア合唱団によるミュージアム・コンサート	海野美栄(指揮)、斉藤愛子(ピアノ)、新潟市ジュニア合唱団	「耳をすませば」のテーマ曲「カントリーロード」などジブリのアニメに関わる曲や、誰もが耳にしたことのある楽曲などを中心に演奏。	一般 参加無料	万代島美術館ロビー	136
8月9日(土)	14:00～14:30	ジブリが生んだ新潟の動画家 近藤喜文展	ポッチャリーノ弦楽四重奏団によるミュージアム・コンサート	ポッチャリーノ弦楽四重奏団	「耳をすませば」のテーマ曲「カントリーロード」などジブリ映画のテーマ曲を演奏。	一般 参加無料	万代島美術館ロビー	220
10月19日(日)	14:00～14:30	伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	ミュージアム・コンサート「和を楽しむ」	薫風之音 (くんぷうのおと)	箏と尺八による古典曲からオリジナル曲などの邦楽の演奏。	一般 参加無料	万代島美術館ロビー	108

計464名

その他のイベント

開催日	時間	関連展覧会名	演題等	講師等	内容	対象等	会場	参加者数
4月26日(土)	15:15～16:30	梅佳代展	サイン会	梅佳代氏(写真家)	トーク終了後に図録・写真集購入者を対象に開催。	一般	万代島美術館ロビー	70
11月22日(土)～11月30日(日)	10:00～18:00	昭和追想―美術でたどる時代の風景	友の会会員による作品展		美術館友の会会員による作品展。	一般 無料	万代島美術館ロビー	―
3月21日(土・祝)	15:40～16:30	トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	サイン会	祖父江慎氏 (ブックデザイナー)	トーク終了後に図録購入者を対象に開催。	一般	万代島美術館ロビー	30名

小計100名
合計1,330名

刊行物

刊行物名	概要	仕様	発行部数	発行日	内容
平成26年度 展覧会案内リーフレット	平成26年度の展覧会日程及び内容、年間イベント予定などをまとめたもの	22.5×37.5㎝ 観音４つ折り 日英２か国語表記	55,000部	2014年４月１日	展覧会予定／開館カレンダー／美術鑑賞講座案内／近代美術館スケジュール／観覧料免除／乳幼児・障害者向け施設案内／サポートメンバー募集／友の会案内／市内美術館紹介／駐車場案内／交通案内
新潟県立万代島美術館だより「B.island」№13	美術館からの情報発信として一般来館者向けに編集したもの	A４版　４頁 ２つ折り	5,000部	2014年４月１日	企画展案内／所蔵品展案内／注目の展覧会　「新潟が生んだジブリの動画家　近藤喜文展」、「伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華」／イベントピックアップ／展覧会の裏側をお見せします!／展覧会ポスターのデザインにも注目!／本をご紹介します／NIIGATAアートリンク／サポートメンバー募集／近代美術館の企画展案内
新潟県立近代美術館　研究紀要 第14号	学芸員による研究報告	A４版　本文52頁	400部	2015年３月31日	【研究】 ・伊澤朋美「新収蔵品　武石弘三郎《裸婦浮彫》、北村四海《女性立像》について」 ・松本美樹「所蔵品《カプリーチョス》におけるゴヤの理念と否定的なイメージについて」 ・佐藤久美子「鑑賞と表現をつなぐ　美術館と地域をつなぐ　人と人をつなぐ～次世代を担う鑑賞者を育むために～」 ・松矢国憲「長岡出身の不同舎の画家・田中（脇屋）本吉の生涯と作品」 【英文要旨】

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会期中の土・日・祝日には学芸員による作品解説会等を行っている。
いずれも美術館に興味と親しみを感じていただくためのもので、来館者に興味をもって参加していただいた。

企画展
国立国際美術館コレクション
美術の冒険

作品解説会	人数
5月18日㈰	12名
5月25日㈰	19名
6月 1日㈰	18名
6月 8日㈰	15名
6月15日㈰	15名
6月22日㈰	20名
（6回）	
小計	99名

所蔵品展
昭和追想―美術でたどる時代の風景

作品解説会	人数
11月23日㈰	5名
11月30日㈰	3名
12月 7日㈰	5名
12月14日㈰	0名
12月21日㈰	7名
1月 4日㈰	8名
1月11日㈰	10名
1月18日㈰	16名
1月25日㈰	3名
2月 1日㈰	6名
2月 8日㈰	6名
（11回）	
小計	69名

企画展
トーベ･ヤンソン展

作品解説会	人数
3月28日㈯	25名
（1回）	
小計	25名

総合計18回
193名

団体への解説

団体来館のうち、希望があった場合、作品解説や施設紹介を行った。

美術の冒険
6月10日㈫　万代島ビル協力会　26名

近藤喜文展
7月16日㈬　地域活動支援センター　ピースフル　9名
8月 1日㈮　いずみ会（五泉市内）　52名
8月22日㈮　障害福祉サービス事業所　コスモス活動所　23名（引率12名）

伊藤若冲と京の美術
9月17日㈬　小野町ふるさと文化の館　28名
9月30日㈫　胎内市中央公民館　14名
10月22日㈬　上越市板倉区高齢者大学　15名（引率1名）

合計180名

学校教育等との連携

●図工・美術の授業及び部活動での利用―展覧会の鑑賞
学校のカリキュラム等で来館した学校団体に展覧会の鑑賞の機会を提供した。
特に希望のあった学校団体に関しては、学芸員による作品解説を行った。

［学芸員による作品解説を行った学校］　639名
（児童生徒597名＋引率者42名）

梅佳代展
4月29日㈫・㈷ 新潟県立新潟向陽高校（1・2・3年）　7名（2名）

美術の冒険
6月 3日㈫　新潟市立下山中学校　（1・2・3年）29名（1名）
6月 3日㈫　新潟市立曽野木中学校（1・2・3年）20名（1名）
6月 3日㈫　新潟大学教育学部附属長岡中学校（1・2・3年）30名（1名）
6月 4日㈬　田上町立田上中学校　（1・2・3年）13名（2名）
6月10日㈫　新潟市立白新中学校　（1・2・3年）21名（3名）
6月11日㈬　新潟市立五十嵐中学校（1・2・3年）22名（1名）

近藤喜文展
7月 4日㈮　新潟市立赤塚小学校　（3年）　37名（3名）
7月29日㈫　小千谷市立東小千谷中学校（1・2・3年）11名（2名）
7月30日㈬　三条市立第三中学校　（1・2・3年）31名（2名）
7月31日㈭　村上市立村未東中学校（1・2・3年）17名（2名）
7月31日㈭　新潟市立亀田中学校　（1・2・3年）20名（2名）
8月 1日㈮　柏崎市立東中学校　（1・2・3年）20名（1名）
8月 1日㈮　新潟市立黒埼中学校　（1・2・3年）38名（1名）
8月 5日㈫　柏崎市立第三中学校　（1・2・3年）15名（1名）
8月 6日㈬　三条市立下田中学校　（1・2・3年）20名（2名）
8月 8日㈮　村上市立朝日中学校　（1・2・3年）15名（1名）
8月 9日㈯　長岡市立秋葉中学校　（1・2・3年）22名（2名）

伊藤若冲と京の美術
10月 9日㈭　新潟市立下山中学校　（1・2年）　15名（1名）

昭和追想
1月20日㈫　新潟市立山潟小学校　（6年）　64名（3名）

トーベ・ヤンソン展
3月19日㈭　長岡市立江陽中学校　（1年）　120名（7名）
3月27日㈮　田上町立田上中学校　（1・2年）　10名（1名）

［展覧会鑑賞のみの学校団体］　580名
（児童生徒518名＋引率者62名）

梅佳代展
4月12日㈯　魚沼市立広神中学校　（2・3年）　13名（2名）
4月29日㈫・㈷ 北越高校　7名（1名）

美術の冒険
5月31日㈯　魚沼市立堀之内中学校（1・2・3年）19名（1名）
6月 3日㈫　新潟市立東新潟中学校（1・2・3年）27名（2名）
6月 7日㈯　阿賀町立阿賀津川中学校（1・2・3年）10名（2名）

近藤喜文展
7月 4日㈮ 新潟市立南万代小学校（2～5年） 8名（5名）
7月 5日㈯ 柏崎市立第一中学校 （小6,中1~3年） 7名（1名）
7月 5日㈯ 湯沢町立湯沢中学校 （1・2・3年） 19名（3名）
7月 6日㈰ 新潟県立高田高校 （1・2年） 11名（1名）
7月19日㈯ 上越市立城西中学校 （1・2・3年） 32名（2名）
7月19日㈯ 阿賀町立阿賀津川中学校（1・2・3年） 9名（2名）
7月23日㈬ 新潟市立巻西中学校 （1・2・3年） 10名（1名）
7月24日㈭ 新発田市立豊浦中学校（1・2・3年） 12名（1名）
7月24日㈭ 新潟市立南浜中学校 （1・2・3年） 15名（2名）
7月25日㈮ 新潟市立小須戸中学校（1・3年） 7名（1名）
7月25日㈮ 上越市立直江津東中学校（2・3年） 13名（2名）
8月 1日㈮ 新潟市立横越中学校 （1・2・3年） 16名（1名）
8月 5日㈫ 南魚沼市立大巻中学校（2年） 4名（1名）
8月 5日㈫ 新潟市立小新中学校 （1・2・3年） 34名（1名）
8月 5日㈫ 加茂市立葵中学校 （1・2年） 12名（1名）
8月 6日㈬ 新発田市立東中学校 （1・2・3年） 14名（1名）
8月 6日㈬ 新潟県立西川竹園高校（2年） 2名（1名）
8月 7日㈭ 新潟市立葛塚中学校 （1・2・3年） 19名（1名）
8月 7日㈭ 長岡市立岡南中学校 （1・2年） 6名（2名）
8月 8日㈮ 五泉市立五泉中学校 （1・2年） 6名（1名）
8月19日㈫ 燕市立燕中学校 （1・2・3年） 23名（1名）
8月26日㈫ 見附市立見附中学校 （1・2・3年） 16名（1名）

伊藤若冲と京の美術
9月20日㈯ 新潟市立新津第二中学校（1・2・3年） 23名（0名）
10月16日㈭ 新潟県立高田高校 （1・2年） 14名（1名）
10月16日㈭ 新潟県立長岡明徳高校（1・2・3年） 4名（1名）
10月16日㈭ 新潟県立長岡商業高校（1・2・3年） 37名（3名）
10月16日㈭ 新潟県立上越総合技術高校（1年） 6名（1名）
10月16日㈭ 新潟県立糸魚川白嶺高校（2・3年） 6名（3名）
10月19日㈰ 阿賀町立阿賀津川中学校（1・2・3年） 13名（2名）
11月 2日㈰ 柏崎市立第一中学校 （1・2年） 8名（1名）

昭和追想
1月17日㈯ 新潟朝鮮初中級学校 （小1・2・3年） 9名（6名）
トーベ・ヤンソン展
3月22日㈰ 魚沼市立堀之内中学校（1・2年） 21名（1名）
3月24日㈫ 新潟市立南浜中学校 （1・2・3年） 6名（2名）

●校外学習・総合学習
学校教育、特に中学校の校外学習及び総合学習での利用に供した。希望のあった場合は目的に応じて施設や職業に関する質問への対応や案内を行った。

［学芸員による解説を行った学校］ 159名
（児童生徒153名＋引率者6名）

梅佳代展
4月23日㈬ 新潟市立宮浦中学校 （2年） 5名（0名）

美術の冒険
5月20日㈫ 新潟市立上山中学校 （2年） 5名（0名）
5月27日㈫ 見附市立西中学校 （2年） 52名（0名）
6月12日㈭ 村上市立神納小学校 （5年） 19名（2名）

近藤喜文展
7月15日㈫ 新潟市立濁川中学校 （1・2・3年） 7名（1名）
7月28日㈪ 南魚沼市立大巻小学校（4年） 20名（2名）

伊藤若冲と京の美術
10月 9日㈭ 新発田市立本丸中学校（2年） 24名（0名）
10月15日㈬ 新潟市立黒埼中学校 （2年） 4名（1名）
10月16日㈭ 新潟市立五十嵐中学校（2年） 6名（0名）

昭和追想
11月27日㈭ 新潟市立中之口中学校（2年） 11名（0名）

［展覧会鑑賞のみの学校］ 331名
（児童生徒298名＋引率者33名）

梅佳代展
4月15日㈫ 新潟市立小合中学校 （2年） 4名（0名）
4月30日㈬ 新潟市立中野小屋中学校（2年） 7名（1名）
5月 1日㈭ 新潟市立東新潟中学校（2年） 12名（1名）
5月 2日㈮ 新潟市立関屋中学校 （2年） 14名（0名）

美術の冒険
5月23日㈮ 五泉市立山王中学校 （2年） 11名（0名）
6月10日㈫ 加茂市立加茂中学校 （2年） 5名（1名）
6月11日㈬ 関川村立関川中学校 （2年） 9名（0名）
6月18日㈬ 長岡市立江陽中学校 （2年） 10名（0名）
6月20日㈮ 新潟市立明鏡高校 （1年） 78名（9名）

近藤喜文展
7月15日㈫ 新潟県立江南高等特別支援学校（高等部） 12名（4名）
7月16日㈬ 新潟県立豊栄高校 （3年） 65名（4名）
7月18日㈮ 新潟県立西蒲特別支援学校（2年） 9名（3名）
7月18日㈮ 新潟県立江南高等特別支援学校川岸分校（高等部3学年）19名（6名）
7月22日㈫ 新潟県立村上特別支援学校いじみの分校（高等部2,3年） 9名（2名）
8月21日㈭ 福島県立会津高校 13名（1名）

昭和追想
11月26日㈬ 十日町市立南中学校 （1年） 3名（0名）
12月25日㈭ 新潟市立明鏡高校 （3年） 1名（1名）
1月20日㈫ 新潟明訓高校 17名（0名）

●小学校、中学校、高校以外の教育機関等の利用

［学芸員による解説を行った団体］ 128名
（児童生徒116名＋引率者12名）

美術の冒険
6月19日㈭ 新潟大学教育学部 11名（1名）

近藤喜文展
7月29日㈫　長岡造形大学視覚デザイン学科　20名（3名）

伊藤若冲と京の美術
9月30日㈫　日本アニメ・マンガ専門学校（2年）　14名（2名）
9月30日㈫　新潟コンピュータ専門学校　15名（1名）
10月 1日㈬　新潟コンピュータ専門学校　9名（1名）
10月 2日㈭　新潟コンピュータ専門学校　5名（1名）
10月 2日㈭　日本アニメ・マンガ専門学校（1年）　42名（3名）

［展覧会鑑賞のみ］　365名
（児童生徒341名＋引率者24名）

梅佳代展
4月29日㈫・㈷ 新潟大学　33名（1名）

美術の冒険
6月 6日㈮　新潟国際自動車大学校　10名（1名）
6月21日㈯　新潟大学教育学部　62名（1名）

近藤喜文展
7月 8日㈫　みどり幼稚園　32名（4名）
7月14日㈪　はじめ保育園、第二はじめ保育園、物見山はじめ保育園　69名（5名）
8月 8日㈮　福岡歯科大学　13名（0名）
8月21日㈭　日本アニメ・マンガ専門学校　48名（2名）
8月29日㈮　新潟コンピューター専門学校　8名（2名）

伊藤若冲と京の美術
10月23日㈭　新潟大学　16名（1名）

トーベ・ヤンソン展
3月 5日㈭　みどり幼稚園　34名（4名）
3月17日㈫　新潟えきなか保育園　16名（3名）

※（　）内の人数は引率者

●サポートスクール
近隣の小中学校12校を「サポートスクール」と位置づけ、各展覧会の広報等を厚くするとともに、協力関係を築くこととした。

・新潟市立山の下小学校　・新潟市立万代長嶺小学校
・新潟市立沼垂小学校　・新潟市立南万代小学校
・新潟市立笹口小学校　・新潟市立豊照小学校
・新潟市立入舟小学校　・新潟市立新潟小学校
・新潟市立栄小学校　・新潟市立湊小学校
・新潟市立白山小学校　・新潟大学附属新潟小学校
・新潟市立宮浦中学校　・新潟市立東新潟中学校

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第１３条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

展覧会名	会期	日数	学校等						障がい者	介助	合計
			小中・特			高校					
			校数	児童・生徒	引率	校数	生徒	引率			
梅佳代展　UMEKAYO	4月1日～5月19日	34	6	55	4	1	7	2	141	37	246
国立国際美術館コレクション　美術の冒険	5月17日～6月22日	34	16	302	17	1	78	9	198	54	658
新潟が生んだジブリの動画家　近藤喜文展	7月4日～8月31日	57	33	555	54	7	127	21	1,075	340	2,172
伊藤若冲と京の美術－細見コレクションの精華	9月13日～11月3日	51	7	93	5	5	67	9	662	185	1,021
昭和追想－美術でたどる時代の風景	11月22日～2月11日	67	4	87	9	1	1	1	181	30	309
生誕100周年　トーベ・ヤンソン展	2月28日～3月31日	29	4	157	11	0	0	0	315	86	569
合　計		272	70	1,249	100	15	280	42	2,572	732	4,975

夏休み期間　観覧料免除者数

展覧会名	期間	日数	校数	生徒
新潟が生んだジブリの動画家　近藤喜文展	7月4日～8月31日	57	65	763

サポートメンバー
（新潟県立万代島美術館ボランティア組織）

新潟県立万代島美術館では、美術館と県民とをより親しく結びつけることを目的として、新潟県立万代島美術館サポートメンバーを組織している。本年度は下記のとおり活動を行った。

【ねらい】

1　来館者に生涯学習の機会と場を提供する。
2　美術館の活動を共有し、美術館への関心と関わりを深めることにより、美術館の愛好者を増大する。

【登録人数】（H27年３月現在）

６名

【活動内容】

展覧会に付随するイベントへの協力、万代島美術館の活動や展覧会業務で必要な活動への協力

・「梅佳代展」作家ギャラリートーク・サイン会　実施補助
・「近藤喜文展」ミュージアムコンサート実施補助
・「近藤喜文展」ぬりえコーナー整理、感想ボードメモファイリング
・「伊藤若冲と京の美術展」ギャラリートーク実施補助
・「伊藤若冲と京の美術展」ミュージアムコンサート実施補助
・「トーベ・ヤンソン展」トークイベント実施補助
・各展覧会広報活動（ポスター、チラシ発送）への協力
・亀倉雄策関連資料データベース化作業
・図書等整理

【課　題】

・各展覧会のイベントへの協力、ポスター・チラシ等の発送などを中心に活動していただいた。
・メンバーそれぞれの活動可能日が異なり、集まって活動する機会が少ないため、メンバー同士の交流が難しい。

博物館実習

【趣　旨】

学芸員資格取得を目指す学生のための博物館実習を実施し、７名の実習生を受け入れた。各分野についての講義の他、作品の点検・取扱いの指導も行った。最終日には各自に所蔵品を使った展覧会企画を発表してもらい、学芸員の仕事について学んだ実習の総まとめとした。

【実習期間】

７月29日㈫～８月７日㈭

【実習生の所属および受入人数】

新潟大学	２名
長岡造形大学	２名
東京造形大学	１名
日本大学	１名
金沢美術工芸大学	１名
合　計	７名

【カリキュラム】

No.	日	時限	内容
1	7月29日㈫	1	開校式・館長講話・オリエンテーション
		2	施設案内（朱鷺メッセ・万代島ビル）／企画展見学
		3	博物館法／美術館の課題
		4	研究課題（課題説明、資料収集）
2	7月30日㈬	1	展覧会の企画・運営　総論
		2	著作権／所蔵品管理／刊行物作成（図録、年報・紀要等）について
		3	作品の点検・取り扱い（平面）
		4	研究課題（テーマ決定、構成検討）
3	7月31日㈭	1	広報活動／作品収集／保存・修復について
		2	総務担当の業務について（実行委員会、予算、人事等）
		3	研究課題（リスト・図面作成）
		4	
4	8月5日㈫	1	美術館の教育普及活動について
		2	作品の取り扱い（日本画）
		3	作品の取り扱い（工芸）
		4	法隆寺展見学
5	8月6日㈬	1	受付・監視の仕事
		2	作品の点検・取り扱い（彫刻、写真等）
		3	研究課題
		4	
6	8月7日㈭	1	課題発表準備（機材準備、資料配付等）
		2	課題発表・講評
		3	
		4	閉校式

※8/5は近代美術館（長岡市）で実施

担当者：高晟埈

新潟県立近代美術館

【調　査】

展覧会関連

宮下東子　蕗谷虹児作品調査　郵政博物館　4月9日

藤田裕彦、澤田佳三
濱谷浩展作品調査　神奈川県大磯町内　7月9日～10日

作品調査

長嶋圭哉　藤巻嘯月作品調査　楽集館（小千谷市）　4月19日

藤田裕彦　工芸作品調査　佐渡市内　5月16日

松矢国憲、澤田佳三
不同舎関連作品調査　新潟県内　5月28日、6月18・25日

長嶋圭哉　竹内蘆風作品調査　長岡市栃尾美術館　6月4日

松矢国憲　不同舎関連作品調査　新潟県内　6月20日、8月22日、11月7・21日、12月11日

澤田佳三　佐藤哲三郎作品調査　敦井美術館（新潟市）　6月27日
東京都武蔵野市内　7月16日

松矢国憲　中村木子作品調査　佐渡市内　7月7日

藤田裕彦、伊澤朋美
渡邉利馗作品調査　新潟市内　7月16日、9月12日

松矢国憲　仏像調査　三条市公民館、小千谷市内　7月27日

松矢国憲、平石昌子、伊澤朋美
彫刻作品調査　長岡市内　8月7日

平石昌子　ベルギー日本研究会、武石弘三郎調査　上智大学他　8月23日

長嶋圭哉　竹内蘆風作品調査　長岡市内、新潟市内　9月25日

松矢国憲、長嶋圭哉
仏像調査　三条市内　11月29日

【紀　要】『新潟県立近代美術館研究紀要』第14号

伊澤朋美　「新収蔵作品 武石弘三郎《裸婦浮彫》、北村四海《女性立像》について」

佐藤久美子　「鑑賞と表現をつなぐ 美術館と地域をつなぐ 人と人をつなぐ～次世代を担う鑑賞者を育むために～」

松矢国憲　「長岡出身の不同舎の画家・田中（脇屋）本吉の生涯と作品」

【寄　稿】

松矢国憲　「宮芳平展」（新潟日報ミュージアムへようこそ）『新潟日報』　5月5日

松矢国憲　「宮芳平」（連載）『読売新聞』新潟版　5月16・17・20日

『新潟日報』連載　法隆寺

伊澤朋美　②「鋳出如来三尊像」　7月16日
③「天人（金堂天蓋付属）」　7月17日
④「観音菩薩立像（伝金堂阿弥陀如来脇侍）」　7月19日

長嶋圭哉　⑤「村上華岳《阿弥陀》」　7月23日

佐藤久美子　①「地蔵菩薩立像」　7月15日
⑥「聖徳太子立像（孝養像）」　7月24日

藤田裕彦　⑦「鈴木空如《「法隆寺金堂壁画模写」第1号壁釈迦浄土図》」　7月26日

宮下東子　「黒井健・絵本原画の世界展」（新潟日報ミュージアムへようこそ）　9月29日

佐藤久美子　「ながおか農業まつり絵画展」作品解説　10月6日

宮下東子　「さがして、みつけて展」（新潟日報ミュージアムへようこそ）　11月11日

長嶋圭哉　「敦井美術館・東西両画壇の日本画名品展」（新潟日報ミュージアムへようこそ）　12月1日

澤田佳三　「コレクション・ストーリーズ-11年の物語-」（新潟日報 展覧会へようこそ）　2月27日

松矢国憲　「博物館・美術館新時代　一地方美術館のリニューアル構想」『紫明』第36号　3月25日

【講演・講義等】

新潟大学人文学部講義（美術史概説B）

澤田佳三　「①日本美術史概論」　10月１日
「⑧日本洋画Ⅰ」　11月19日
「⑨日本洋画Ⅱ」　11月26日

宮下東子　「②近世以前」　10月８日
「⑫日本画Ⅳ-戦後の日本画」　12月12日

長嶋圭哉　「③日本画Ⅰ-日本画の誕生」　10月15日
「④日本画Ⅱ-大正期の日本画」　10月22日
「⑤日本画Ⅲ-昭和戦前期の日本画」　10月29日

藤田裕彦　「⑥工芸Ⅰ-輸出工芸の時代」　11月５日
「⑦工芸Ⅱ-近代工芸の誕生」　11月12日
「⑮現代美術　概念を超えて」　１月21日

伊澤朋美　「⑩彫刻」　12月３日

松矢国憲　「⑪版画」　12月10日
「⑬戦後美術　書と洋画Ⅰ」　１月７日
「⑭戦後美術　書と洋画Ⅱ」　１月14日

佐藤久美子　美術研修会講師　長岡市立栃尾南小学校　６月６日、８月21日
長岡市家庭教育講座講師　長岡市中央公民館　６月18日
南魚沼市美術教育研究会講師　南魚沼市立栃窪小学校　８月４日
美術研修会講師　南魚沼市立石打小学校・上関小学校　８月６日
魚沼市・川口町教育振興会美術研修会・作品解説会講師　堀之内公民館　11月18日

宮下東子　新潟デザイン専門学校講義「日本画の基礎知識」（対象：モンセラート美術大学留学生）　６月５日
見附市立公立保育園保育士向け研修会講師「幼子と“美術”に出会う」　見附市役所　８月21日

佐藤久美子、宮下東子
長岡市美術教育研究会・美術鑑賞研修会　近代美術館　10月30日

【研　修】

徳永健一、立川厚生、藤田裕彦、澤田佳三
第56回北信越博物館協議会・研究協議会　５月29日～30日

伊澤朋美　第９回指定文化財（美術工芸品）企画展示・セミナー（初年度）　東京国立博物館　７月７日～11日

青木善治　中越美術教育研究会・夏季研修会　長岡市立上組小学校　８月５日

矢澤一広　新潟県博物館協議会研修　群馬県内、埼玉県内　11月26日～27日

【会議等】

藤田裕彦　公開承認施設会議　文部科学省　11月11日

佐藤久美子　平成26年度中越美術教育研究会　アトリウム長岡　５月22日

【その他】

徳永健一、宮下東子
「サマーナイトプレゼンツ　ペイントアートコンペ」審査　審査委員長（徳永）、オブザーバー（宮下）　国営越後丘陵公園　７月８日

佐藤久美子　新潟県交通安全ポスターコンクール　全国共済農業協同組合連合会新潟支部　９月29日
平成26年度ながおか農業まつり小・中学生絵画審査会　パストラル長岡　10月６日
平成26年度中越教育美術展審査会　長岡市立上組小学校　11月14・19日
新潟県ジュニア美術展覧会審査会　新潟県民会館　11月25日

藤田裕彦　新潟県伝統工芸〈公募〉審査員　雪梁舎美術館　11月12日

佐藤久美子、青木善治
平成26年度長岡市三島郡美術教育研究会　馬高縄文館　４月26日

長嶋圭哉　第44回新発田市美術展・日本画部門作品審査、作品解説　新発田市カルチャーセンター　10月14日

新潟県立万代島美術館

【調　査】

「ビアズリーと日本（仮称）」関連調査

桐原　浩　　新潟県立図書館　12月26日
東京国立近代美術館アートライブラリ　1月22日
日本近代文学館　1月23日
京都女子大学図書館　2月9日
大阪府立中央図書館　2月10日
東京都立中央図書館　3月24日

「亀倉雄策展（仮称）」関連調査

今井　有　　新潟県立近代美術館　5月30日、8月21日、9月5日、12月8日、12月15日、12月16日、3月16日、3月31日
富山県立近代美術館　5月27日

「日韓近代美術家のまなざし―「朝鮮」で描く」展 関連調査

高　晟埈　　小場恒吉作品調査（東京芸大図書館）　4月7日
荒井龍男作品調査（埼玉県久喜市）　7月10日
富本憲吉作品調査（新潟県糸魚川市）　8月25日
黄正洙コレクション調査（韓国ソウル市）　11月3日
権鎮圭作品調査（新潟県新発田市）　12月12日

【図録執筆】

『トーベ・ヤンソン展図録』

今井　有　　章解説、作品解説

『国立国際美術館コレクション 美術の冒険』

高　晟埈　　「関西の現代アートに対する雑感―郭徳俊、榎忠、森村泰昌を中心に」

『官展にみる近代美術』（福岡アジア美術館）

高　晟埈　　（翻訳）キム・ヒョンスク「朝鮮美術展覧会とはどんな展覧会だったのか」
（翻訳）イ・ドングク「植民地時代の官展美術と韓国近代の書についての一考察」
（翻訳）キム・イネ・他　作家作品解説

【紀　要】『新潟県立近代美術館研究紀要』第14号

松本美樹　　「所蔵品《カプリーチョス》におけるゴヤの理念と否定的なイメージについて」

【寄　稿】

高　晟埈　　「猪爪彦一展 思い出の塊 宇宙で浮遊」（ニイガタレビュー）『新潟日報』2014年4月3日
「昭和追想―美術でたどる時代の風景 「本物」重視 色濃く反映」（ミュージアムへようこそ）『新潟日報』12月22日

今井　有　　「梅佳代展UMEKAYO 笑いと愛に満ちた日常」（ミュージアムへようこそ）『新潟日報』4月25日
「亀倉雄策と東京オリンピック」『新潟日報』連載
（上）「原風景」12月4日
（中）「シンボルマーク」12月11日
（下）「公式ポスター」12月18日
トーベ・ヤンソン展『朝日新聞』連載
「第1章　芸術家への道」3月6日
「第2章　戦争と青春」3月14日
「第3章　ムーミン（1945-59年）」3月20日
「第4章　画家として」3月27日

桐原　浩　　「元井達夫展　震災主題 深い海の底を思う」（アートピックス）『新潟日報』5月1日
「新潟が生んだジブリの動画家　近藤喜文展」（ミュージアムへようこそ）『新潟日報』8月9 日
近藤喜文展『読売新聞』作品解説連載
①《「火垂るの墓」イメージボード》「優しく温かな観察眼」　8月9日
②《「おもひでぽろぽろ」修正原画》「生きた表情 繊細な線で」8月14日
③《「耳をすませば」背景画とセル　画》「観客引き込む 等身大の若者」8月15日
④《「耳をすませば」キャラクターデザインのための習作》「妥協なきデザインの修正」8月16日
⑤《ふとふり返ると―近藤喜文画文集》「日常の輝き 一冊に」8月20日
「荻野弘一彫刻展　ひとのかたち感じる造形」（ニイガタレビュー）『新潟日報』9月24日
「伊藤若冲と京の美術」（ミュージアムへようこそ）『新潟日報』10月20日

【会議等】

高　晟埈　　「日韓近代美術家のまなざし」展 研究会・企画会議 5月10-11日、8月22日、10月10日（美術館連絡協議会事務局 会議室）

【その他】

高　晟埈　　国際フォーラム「20世紀前半、二重空間の韓国に生きた日韓の美術家たち」10月11日（韓国文化院）

桐原　浩　　新潟デザイン専門学校卒業修了制作展　審査員 2月13日

美術品の収集

平成26年度収集作品一覧

分　野	各領域点数	合計点数
新潟の美術	日本画8　油彩画他10　彫刻3　工芸2　書5	28
日本の美術	デザイン1	1
世界の美術		0
総合計	日本画8　油彩画他10　彫刻3　工芸2　書5　デザイン1	29

新潟の美術

分野	作家名(生歿年)	作　品　名	制作年	寸　法(㎝)	素材･技法･形状	購入･寄贈
日本画	竹内蘆風 たけうちろふう 1874−1939	鴛鴦図	1894年	21.7×20.6	絹本彩色 軸装	寄贈
		蓬莱山水	1900年	122.6×55.8		
		夜桜争鴉之図	1900年	168.5×99.3		
		峠の富士	1901年	55.1×28.3		
		秋山晩趣之図	1905年	127.4×49.6		
		鍾馗	明治30〜40年代	27.4×20.2		
		落葉の頃	1912年頃	101.3×20.6		
	岩田正巳 いわたまさみ 1893−1988	相模太郎	昭和10年代	118.0×41.9	絹本彩色 軸装	寄贈
油彩画他	田中本吉(卓峰) たなかもときち(たくほう) 1860−1936	風景(七ツ釜)	1932年	52.0×98.0	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
		風景	制作年不明	70.8×46.5	油彩、カンヴァス 額装	
	宮芳平 みやよしへい 1893−1971	風景　その19	1955年 (63年加筆)	31.6×40.6	油彩、カンヴァスボード 額装	寄贈
		睡蓮　その1	1958年	31.5×40.5	油彩、カンヴァス 額装	
	佐藤哲三郎 さとうてつさぶろう 1889〜1958	中国風景	1942〜43年	50.0×60.2	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
		中国風景(習作)５点	1942〜43年	①②41.0×53.0 ③④⑤22.0×27.0	油彩、カンヴァス	
彫刻	渡邊利馗 わたなべりき 1925〜2006	門	1965年	縦20.5×横27.0×高53.0	ブロンズ	寄贈
		陽	1968年	縦25.0×横34.5×高48.0	ブロンズ	
		鏡の前で毛繕いする猫	1985年	縦63.0×横43.0×高42.0	アルミ板、ラッカー塗装	
工芸	５代伊藤赤水 ごだいいとうせきすい 1941〜	佐渡島	2012年	21.0×21.0×38.0	陶器	寄贈
		無名異練上花紋角壺	2013年	13.0×25.0×41.0	陶器	
書	中村木子 なかむらぼくし 1916〜1973	曠達	1950年頃	68.0×68.0	墨、紙 額装	寄贈
		崔顥詩黄鶴楼	1951年	各136.0×68.0	墨、紙 まくり	
		老子　第一章	1951年	16.5×28.5	墨、紙 まくり	
		作品C	1950年代中頃	52.0×59.5	墨、紙 パネル	
		作品	1950年代中頃	104.0×70.0	エナメル、紙 パネル	

日本の美術

分野	作家名(生歿年)	作　品　名	制作年	寸　法(㎝)	素材･技法･形状	購入・寄贈
デザイン	葛西薫 かさいかおる 1959〜	HIROSHIMA APPEALS 2013ポスター「夏の陽のまぶしさ」 ＊HIROSHIMA APPEALS 2013 原画（2013年、42.0×71.0cm、コラージュ・紙・額装）も併せて収集	2013年	102.0×72.0	ポスター、紙	寄贈

新収蔵品

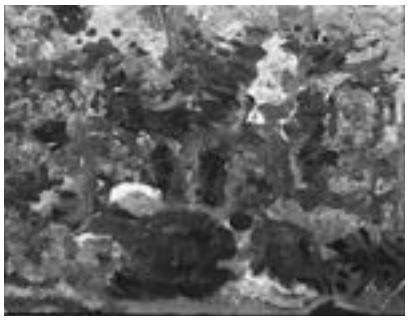
新潟の美術

日本画
竹内蘆風《夜桜争鴉之図》

油彩画他
田中本吉《風景（七ツ釜）》

油彩画他
田中本吉《風景》

日本画
岩田正巳《相模太郎》



油彩画他
宮芳平《風景　その19》

油彩画他
宮芳平《睡蓮　その1》

油彩画他
佐藤哲三郎《中国風景》

油彩画他
佐藤哲三郎《中国風景（習作）》

彫刻
渡邊利馗《陽》

工芸
５代伊藤赤水《佐渡島》

工芸
５代伊藤赤水《無名異練上花紋角壺》

書
中村木子《曠達》

書
中村木子《崔顥詩黄鶴楼》

日本の美術

デザイン
葛西薫《HIROSHIMA APPEALS 2013ポスター
「夏の陽のまぶしさ」》

美術品の修復

平成26年度　修復作品一覧

分野	作家名	作品名	制作年	修復内容	修復者	修復期間
日本画	尾竹竹坡	山岳図	大正初期～昭和初期	額装新調	神尾萬正堂（新潟県）	平成26年11月11日～平成27年1月26日
		山岳図	大正初期～昭和初期	額装新調		
		阿寒湖	昭和初期	額装新調		
日本画	安宅安五郎	麦圃	大正期	染み抜き、軸装桐箱付新調	神尾萬正堂（新潟県）	平成26年11月11日～平成27年1月26日
油彩画他	諸橋政範	潮風	1937年	剥落した絵具片の接着、額装改善（カンヴァスの張りの調整、金具による固定）	斎藤敦（東京都）	平成27年3月18日
油彩画他	高村真夫	女	1920年代後半	額装改善（金具等）	有限会社はにわ（新潟県）	平成26年12月11日
油彩画他	小野末	かめ	1960年	額装新調	有限会社はにわ（新潟県）	平成26年12月11日
		自画像（未完）	1981年	額装新調		
油彩画他	平澤熊一	草むら	1960年代	額装新調	有限会社はにわ（新潟県）	平成26年12月11日
彫刻	武石弘三郎	裸婦浮彫	1939年	展示用金属枠制作、展示台補強等	ヨシダ宣伝株式会社（新潟県）	平成26年12月22日～平成27年1月28日
参考資料	尾竹竹坡	豪華大下絵	1915年頃	染み抜き、軸装桐箱付新調	神尾萬正堂（新潟県）	平成26年11月11日～平成27年1月26日
		豪華下絵	1915年頃	額装新調		
		豪華下絵	1915年頃	額装新調		
		豪華下絵	1915年頃	額装新調		

美術品の燻蒸

平成25年度の新収蔵作品などを燻蒸し、収蔵庫に収めた。

平成26年度　燻蒸作品一覧

分野	作家名	作品名
日本画	仲山計介	光彩図
日本画	藤巻嘯月	家族団欒　＊
油彩画他	佐藤哲三郎	中国風景
		中国風景（習作）５点
油彩画他	宮芳平	風景　その19
		睡蓮　その1
彫刻	武石弘三郎	裸婦浮彫
彫刻	柳原義達	道標　鳩　＊
彫刻	掛井五郎	受胎告知　＊
彫刻	高田博厚	横たわる女　＊
彫刻	吾妻兼治郎	MU-766　＊
彫刻	オーギュスト･ロダン	花子のマスク　＊
彫刻	ヘンリー･ムーア	トルソ：コラム　＊
彫刻	エミリオ･グレコ	ルナ　＊
グラフィックデザイン	デイヴィッド･ホックニー	パラード
		パラード（フランス作曲家三部作）
		イーゴル･ストラヴィンスキー
書	中村木子	曠達
		崔顥詩黄鶴楼
		老子　第一章
		作品C
		作品
素描	岩田正巳	初夏のさへづり　大下絵
		武蔵野の秋　大下絵
素描	宮芳平	自画像　＊
素描	アレクサンダー･カルダー	無題 UNTITLED　＊
素描	マリノ･マリーニ	馬と赤い騎手　＊
素描	アリスティド･マイヨール	テレーズの背中　＊

※＊は寄託作品

※以下は、展覧会借用作品。

分野	作家名	作品名
日本画	中村不折･下村為山	卓峰送別図　８点
油彩画他	高村真夫	河井継之介像
		山本五十六
		諏訪堂の老杉
油彩画他	田中本吉	小山正太郎筆仙台の桜模写
		農夫
		農家ノ夜業
		妙義山
		木曾乃山路の図
		風景
		風景
		風景
		風景（七ツ釜）
油彩画他	安田稔	国士の俤
油彩画他	三輪大次郎	菊図
		農具
水彩画	田中本吉	釜戸
		伊豆修善寺
		飛騨国中山七里ノ中
素描	田中本吉	画帳
資料	小山正太郎ほか	諸家折帖
資料	中村不折	古稀記念帖
資料	石川寅治ほか	卓峰居士古稀記念帖

燻蒸者	株式会社サニーサニター（新潟県）
実施期間	平成26年11月14日～17日
使用薬剤	エキヒュームS
燻蒸方法	包み込み燻蒸処理

美術品の貸出

平成26年度　作品貸与一覧（近代美術館所管作品）

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
追憶の美人―日本画家･鏑木清方	佐野美術館	平成26年4月5日～5月11日	鏑木清方	桜姫
				梅王
				お嬢吉三
				毛剃
				鏡獅子
				狐火
				保名
				戻橋
鋳金 原益夫 傘寿記念展	NST1階ギャラリー	平成26年4月19日～4月29日	原益夫	エンドレス
新紀元―革新の視座― ―加賀谷武、木下晋、久世建二、 庄田常章、蓮で秀五郎の世界―	石川県立美術館	平成26年4月20日～5月18日	木下晋	101年の胎動
新潟ゆかりの院展作家7人展	弥彦村総合コミュニティセンター	平成26年5月3日～6月15日	大矢紀	煌
			齋藤満栄	橋（カレル）
高橋秀―気への形象	京都市美術館	平成26年5月23日～6月22日	高橋秀	アリスの月（黒）
			高橋秀	アリスの月（白）
メタルズ！ ―変容する金属の美―	高岡市美術館 碧南市藤井達吉現代美術館 北九州市立自然史・歴史博物館 新潟市新津美術館	平成26年6月28日～8月31日 平成26年9月11日～10月19日 平成26年11月1日～12月23日 平成27年1月24日～3月8日	初代本間琢斎	蝋型鋳銅羅漢鈕香炉
			津田信夫	鋳銅鳳凰置物
			佐々木象堂	鋳銅色絵鸚哥置物
メタルズ!―変容する金属の美―（新潟会場のみ追加）	新潟市新津美術館	平成27年1月24日～3月8日	宮田亮平	ゲルからの移行Ⅲ
			原益夫	エンドレス
第一回ふるさと与板人物展 三輪晁勢画伯特別展	長岡市与板歴史民俗資料館	平成26年6月21日～7月21日	三輪晁勢	海女
				黄色い椅子
				朱いトキ
				濤
挑戦する日本画: 1950～70年代の画家たち	名古屋市美術館	平成26年7月5日～8月24日	横山操	高速四号線
			加山又造	月と駱駝
佐倉学―浅井忠展	佐倉市立美術館	平成26年8月2日～9月7日	浅井忠	農人
生誕120年 宮芳平展	茅野市美術館 練馬区立美術館 島根県立石見美術館 安曇野市豊科近代美術館	平成25年8月2日～9月1日 平成25年9月15日～11月24日 平成25年12月21日～平成26年2月24日 平成26年7月 19日～9月7日	宮芳平	カーテンに
				ドント･オープン
				海　その1
				きざはし
				さざなみ
				聖地巡礼シリーズ　エフタとその娘

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
生誕120年 宮芳平展	茅野市美術館 練馬区立美術館 島根県立石見美術館 安曇野市豊科近代美術館	平成25年8月2日～9月1日 平成25年9月15日～11月24日 平成25年12月21日～平成26年2月24日 平成26年7月 19日～9月7日	宮芳平	聖地巡礼シリーズ　ゴルゴダ
				聖地巡礼シリーズ　サロメ
				聖地巡礼シリーズ　降誕
				聖地巡礼シリーズ　逃避
				聖地巡礼シリーズ　ニカノルの門
				聖地巡礼シリーズ　ニザンの月
				聖地巡礼シリーズ　ベテスダの池
				聖地巡礼シリーズ　埋葬
				聖地巡礼シリーズ　マグダラのマリアの悲しみ
				聖地巡礼シリーズ　マリアの驚き
				聖地巡礼シリーズ　ユダの椅子
				聖地巡礼シリーズ　ルツとナオミ
藤田嗣治 どうぶつものがたり	秋田県立美術館	平成26年9月20日～11月4日	藤田嗣治	私の夢
安井曾太郎の世界 ―人物画を中心に―	ふくやま美術館 佐倉市立美術館	平成26年9月20日～11月16日 平成26年11月22日～12月25日	安井曾太郎	読書
菱田春草展	東京国立近代美術館	平成26年9月23日～11月3日	菱田春草	放鶴
生誕110年 海老原喜之助展	鹿児島市立美術館 下関市立美術館 横須賀美術館	平成26年10月2日～11月9日 平成26年11月15日～12月28日 平成27年2月7日～4月5日	海老原喜之助	市場
あつまれ墨画アーティスト―点からはじまる墨の世界	富山県水墨美術館	平成26年10月31日～12月14日	石塚仙堂	鷹
			小杉放菴	春秋屏風
			小林古径	雨
			椿椿山	梅竹凍雀図
没後60年 佐藤哲三展～晩年の風景～	蕗谷虹児記念館	平成26年11月1日～11月30日	佐藤哲三	残雪
				風景
				帰路
新潟日報文化賞受賞記念 山﨑隆夫展	知足美術館	平成26年11月14日～12月10日	山﨑隆夫	新雪
				砂丘晩夏
				茄子
				雨
高松次郎ミステリーズ	東京国立近代美術館	平成26年12月2日～平成27年3月1日	高松次郎	カーテンをあけた女の影　※寄託作品

平成26年度　作品貸与一覧（万代島美術館所管作品）

展覧会名	貸　出　先	会　　期	作家名	作　　品　　名
立ちのぼる命　宮崎進展	神奈川県立近代美術館葉山	平成26年4月5日～6月29日	宮崎進	ナナエツの少女
				黄色い大地

管理・運営

新潟県立近代美術館

コレクション展観覧者数（コレクション展のみの観覧者）

期間（企画展名）		第５期	第１期			第２期			第３期			第４期		第５期	合計（年間273日）
		H26 4/1~4/13（12日間）	H26 4/17~6/22（58日間）			H26 6/26~8/31（59日間）			H26 9/4~11/24（71日間）			H27 1/4~3/1（49日間）		H27 3/4~3/31（24日間）	
		4/1~4/13 12日間（岩田正巳展）	4/17~4/25 8日間（コレクション展のみ）	4/26~6/1 32日間（宮芳平展）	6/3~6/22 18日間（コレクション展のみ）	6/26~7/4 8日間（コレクション展のみ）	7/5~8/17 39日間（法隆寺祈りとかたち）	8/19~8/31 12日間（コレクション展のみ）	9/4~9/11 7日間（コレクション展のみ）	9/12~11/3 46日間（黒井健絵本原画の世界展）	11/5~11/24 18日間（コレクション展のみ）	1/4~2/1 25日間（コレクション展のみ）	2/3~3/1 24日間（コレクション・ストーリーズ 11年の物語）	3/4~3/31 24日間（コレクション・ストーリーズ 11年の物語）	
個人	一般	7	68	62	201	59	123	199	97	78	256	274	13	8	1,445
	大学・高校生	1	1	25	19	3	10	20	4	12	11	12	0	1	119
	小計	8	69	87	220	62	133	219	101	90	267	286	13	9	1,564
		8			376			414			458		299	9	
団体	一般	0	0	0	0	21	0	0	0	37	76	2	0	0	136
	大学・高校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	30
	小計	0	0	0	0	21	0	0	0	37	76	32	0	0	166
		0	0			21			113			32		0	
無料		4	7	17	191	27	173	317	252	23	121	521	32	13	1,698
免除		0	8	5	46	27	5	53	20	2	30	47	5	1	249
合計		12	84	109	457	137	311	589	373	152	494	886	50	23	3,677
		12			650			1,037			1,019		936	23	3,677
		(1,623)			(2,933)			(40,075)			(22,399)		(1,838)	(946)	(69,814)

＊企画展開催中は、その観覧者数がコレクション展観覧者と重複する。
＊（　）内は企画展観覧者数をあわせた人数。
＊無料には友の会会員を含む。

企画展観覧者数

企画展名／期間／区分		生誕120年 岩田正巳展 新興大和絵、その清澄なる世界 4/1~4/13(12日間)	生誕120年　宮芳平展 野の花として生くる。 4/26~6/1(32日間)	東日本大震災復興祈念・新潟県中越地震復興10年 法隆寺　祈りとかたち 8/31~10/14(39日間)	中越地震復興10年 画業40周年記念 黒井健 絵本原画の世界展 9/12~11/3(46日間)	コレクション・ストーリーズ －11年の物語－ 2/3~3/31(49日間)	合計
個人	一般	778	930	21,401	10,759	1,000	34,868
	大学・高校生	11	36	565	434	76	1,122
	小計	789	966	21,966	11,193	1,076	35,990
団体	一般	17	71	506	223	43	860
	大学・高校生	0	0	3	1	0	4
	小計	17	71	509	224	43	864
前売		68		8,440	2,527		11,035
無料		668	918	5,794	6,365	539	14,284
免除		69	328	2,329	1,071	167	3,964
合計		1,611	2,283	39,038	21,380	1,825	66,137

企画展名	生誕120年 岩田正巳展 新興大和絵、その清澄なる世界	生誕120年　宮芳平展 野の花として生くる。	東日本大震災復興祈念・新潟県中越地震復興10年 法隆寺　祈りとかたち	中越地震復興10年 画業40周年記念 黒井健 絵本原画の世界展	コレクション・ストーリーズ －11年の物語－	合計
図録販売数（冊）	117	78	1,214	1,126	35	2,570
音声ガイド使用数(台)			7,659			7,659

共催展

展覧会名	会期	日数	観覧者数
県展「長岡展」	6/11～6/17	7	3,635
第44回世界児童画展	8/5～8/10	6	2,060
ぷれジョブ×アート　はじまりの美術展	8/22～8/24	3	543
第16回亀倉雄策賞受賞記念 葛西薫展「ヒロシマ・アピールズ」	9/9～9/30	19	1,318
第18回長岡市中学校美術部作品展	11/1～11/2	2	719
第25回MOA美術館長岡児童作品展	11/8～11/13	5	1,083
第45回県ジュニア美術展「長岡展」	1/15～1/25	10	2,808
こどもものづくり大学校	3/14～3/22	8	724
計		60	12,890

巡回ミュージアム

開催地	会場名	会期	日数	観覧者数
阿賀町	阿賀町公民館	10/18～10/26	9	378
計			9	378

総観覧者数

	常設展	企画展	共催展	巡回ミュージアム	合計
観覧者数	3,677	66,137	12,890	378	83,082

新潟県立万代島美術館

所蔵品展・企画展　観覧者数

企画展名		梅佳代展	美術の冒険	近藤喜文展	伊藤若冲と京の美術	昭和追想	トーベ・ヤンソン展	合計
期間		4/1～5/6 (34日間)	5/17～6/22 (34日間)	7/4～8/31 (57日間)	9/13～11/3 (51日間)	11/22～2/11 (67日間)	2/28～3/31 (29日間)	
個人	一般	4,405	2,265	29,241	10,350	1,673	6,857	54,791
	大学・高校生	316	244	4,944	400	96	1,232	7,232
	小計	4,721	2,509	34,185	10,750	1,769	8,089	62,023
団体	一般	45	181	254	366	32	134	1,012
	大学・高校生	35	62	158	45	1	11	312
	小計	80	243	412	411	33	145	1,324
前売		981	492	8,008	5,185		2,818	17,484
無料		1,899	1,356	12,975	2,346	736	2,972	22,284
免除		191	356	2,380	928	222	412	4,489
合計		7,872	4,956	57,960	19,620	2,760	14,436	107,604

＊所蔵品展の無料には友の会会員を含む
＊＊小中学生は無料に含む

講堂・ギャラリーの貸出

県民の文化活動の促進に資するため、新潟県立近代美術館講堂、講座室及びギャラリー使用要項に則り、講堂は１日につき27,100円、講座室は１日につき4,300円、ギャラリーは１日につき17,700円で貸し出した。

講堂使用状況

使用日	日　数	行　　事　　名	内　　容	利用者人数
4/5	半日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏	80
4/6	1日間	おさらい会	ピアノ発表会	110
4/12	1日間	ピアノコンサート	演奏会	100
4/17	半日間	カワイ音楽教室　音楽研究会	研究会	60
4/20	1日間	トリオ･ベルガルモ室内楽演奏会	室内楽演奏会	35
5/16	半日間	カワイ音楽教室　音楽研究会	研究会	60
5/31	1日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏	35
6/7	半日間	朗読会	朗読の発表会リハーサル	12
6/21	1日間	朗読会	朗読の発表	103
6/22	半日間	坂井むつみ　ピアノ教室発表会	ピアノ発表会	100
6/29	1日間	大人のおさらい会	ピアノ発表会	10
7/13	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	80
7/20	1日間	三月革命	復興支援舞台	10
7/27	半日間	ラルゴ　ピアノ発表会	ピアノの発表会	80
8/5~8/8	3.5日間	新潟の原風景写真とSanti Moix コラボレーション･パフォーマンス	羽賀康夫作=塩沢雪さらし写真にSanti Moix氏が絵を描く	55
8/22	半日間	カワイ音楽教育研究会	ピアノ講座	60
8/24	1日間	城所ピアノ教室発表会	ピアノ演奏及び発表会	25
9/6	半日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	80
9/7	1日間	音楽発表会	発表会	60
9/18	半日間	カワイ音楽教室　音楽研究会	ピアノ講座	60
9/23	1日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏	65
10/4	半日間	イリーデピアノコンサート	ピアノ発表会リハーサル	30
10/11	1日間	ミュージックスクール合同発表会2014	生徒合同発表会	75
10/12	半日間	ドルチェの会　発表会	ピアノ発表会	100
10/13	1日間	イリーデピアノコンサート	ピアノ発表会	100
10/16	半日間	カワイ音楽教育研究会	ピアノ講座	50
10/26	1日間	新潟県競書大会	優秀作品の展示及び表彰	185
11/1	1日間	秋の発表会	ピアノ教室発表会	30
11/2	半日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏	90
11/3	1日間	ピアノスタジオアンダンテ第9回ピアノ発表会	ピアノ発表会	200
11/9	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	90
11/14	1日間	吹奏楽部練習	吹奏楽部練習	24
11/15	半日間	第2回バリトン豊島雄一小さな歌曲のコンサート	声楽コンサート	190
11/19	半日間	赤血球で健康状態がすべてわかる	講演会	65
11/20	1日間	動物取扱責任者研修会	動物を扱う業者への定期研修	180
11/22	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	130
11/23	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	100
2/4	半日間	安定ヨウ素剤に関する勉強会	勉強会の開催	50
2/22	1日間	新潟県書き初め大会優秀作品展	優秀作品の展示	750
3/8	半日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	45
3/14	半日間	落語会	落語会	190
3/15	1日間	ティンカーベルの会	ピアノ発表会	300
3/19	半日間	赤血球の形状で健康状態がすべてわかる	講演会	50
3/21	1日間	酒井ピアノ教室ファミリーコンサート	ピアノ発表会	110
3/29	半日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	50

以上45件（延べ日数…38日）　　合計人数3,534

ギャラリー使用状況

使用日	日　数	行　　事　　名	内　　容	利用者人数
8/1~8/3	3日間	村山雨景 ニイガタの染色画展	染色画の発表	143
10/24~10/27	3日間	新潟県競書大会	優秀作品の展示及び表彰	3,093
2/20~2/23	3日間	新潟県書き初め大会 優秀作品展	優秀作品の展示	6,399
2/28~3/8	9日間	第4回白雪ノ会展	長岡造形大学絵画コースのOBによる展覧会	284

以上4件（延べ日数…18日）　　合計人数9,919

講座室使用状況

使用日	日　数	行　　事　　名	内　　容	利用者人数
4/9	半日間	ミーティング	ミーティング	6
4/10	1日間	会議	会議	5
5/31	1日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏	10
6/18	半日間	ミーティング	ミーティング	8
7/20	1日間	三月革命	復興支援舞台	10
7/27	半日間	ラルゴ　ピアノ発表会	ピアノの発表会	2
8/24	1日間	城所ピアノ教室発表会	ピアノ演奏及び発表会	25
10/7	1日間	社内会議	会議	11
10/11	1日間	ミュージックスクール合同発表会2014	生徒合同発表会	38
10/13	1日間	イリーデピアノコンサート	ピアノ発表会	15
10/16	半日間	カワイ音楽教育研究会	ピアノ講座	2
11/3	1日間	ピアノスタジオアンダンテ第9回ピアノ発表会	ピアノ発表会	30
11/19	半日間	赤血球で健康状態がすべてわかる	講演会	5
11/20	1日間	動物取扱責任者研修会	動物を扱う業者への定期研修	10
11/22	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	6
2/4	半日間	安定ヨウ素剤に関する勉強会	勉強会の開催	5
2/8	1日間	会議	会議	13
3/5	1日間	会議	会議	12
3/14	半日間	落語会	落語会	10
3/19	1日間	赤血球の形状で健康状態がすべてわかる	講演会	12
3/21	1日間	酒井ピアノ教室ファミリーコンサート	ピアノ発表会	10

以上21件（延べ日数…17.5日）　　合計人数245

新潟県立近代美術館

展覧会名	展覧会開催期間	入場者数	回答者	回収率
生誕120年　岩田正巳展	3月1日～4月13日	4,162	31	0.74%
生誕120年　宮芳平展	4月26日～6月1日	2,283	29	1.27%
法隆寺ー祈りとかたち	7月5日～8月17日	39,038	198	0.51%
黒井健　絵本原画の世界展	9月12日～11月3日	21,380	104	0.49%
合　　計		66,863	362	0.54%

Ⅰ　企画展覧会の感想

展　覧　会　名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合　計
生誕120年　岩田正巳展	71.0%	22.6%	6.5%	0.0%	0.0%	100.0%
生誕120年　宮芳平展	41.4%	55.2%	0.0%	0.0%	3.4%	100.0%
法隆寺ー祈りとかたち	45.5%	35.9%	7.6%	8.1%	3.0%	100.0%
黒井健　絵本原画の世界展	76.0%	21.2%	0.0%	1.0%	1.9%	100.0%
平　　均	58.5%	33.7%	3.5%	2.3%	2.1%	100.0%

Ⅱ　企画展覧会のきっかけ

展　覧　会　名	新聞記事	新聞広告	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑　誌	インターネット	友の会だより	知　人	たまたま来て	その他	無回答	合　計
生誕120年　岩田正巳展	7.3%	14.6%	4.9%	2.4%	12.2%	2.4%	2.4%	0.0%	12.2%	12.2%	29.3%	0.0%	100.0%
生誕120年　宮芳平展	3.0%	3.0%	9.1%	0.0%	27.3%	0.0%	15.2%	9.1%	0.0%	15.2%	15.2%	3.0%	100.0%
法隆寺ー祈りとかたち	18.8%	16.1%	21.5%	3.0%	12.7%	2.4%	4.8%	0.9%	6.4%	2.4%	7.9%	3.0%	100.0%
黒井健　絵本原画の世界展	15.2%	6.1%	31.1%	1.5%	16.7%	1.5%	3.8%	0.0%	11.4%	1.5%	9.8%	1.5%	100.0%
平　　均	11.1%	10.0%	16.7%	1.7%	17.2%	1.6%	6.6%	2.5%	7.5%	7.8%	15.6%	1.9%	100.0%

Ⅲ　コレクション展の感想

展　覧　会　名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合　計
生誕120年　岩田正巳展	35.5%	22.6%	0.0%	0.0%	41.9%	100.0%
生誕120年　宮芳平展	20.7%	34.5%	3.4%	0.0%	41.4%	100.0%
法隆寺ー祈りとかたち	25.8%	36.9%	3.5%	3.0%	30.8%	100.0%
黒井健　絵本原画の世界展	26.9%	21.2%	1.9%	0.0%	50.0%	100.0%
平　　均	27.2%	28.8%	2.2%	0.8%	41.0%	100.0%

Ⅳ　普段の情報源

展　覧　会　名	新聞	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑誌	インターネット	友の会だより	知人	たまたま来て	その他	無回答	合計
生誕120年　岩田正巳展	21.0%	24.2%	9.7%	12.9%	0.0%	12.9%	1.6%	6.5%	1.6%	4.8%	4.8%	100.0%
生誕120年　宮芳平展	20.8%	18.9%	7.5%	7.5%	0.0%	18.9%	5.7%	3.8%	1.9%	5.7%	9.4%	100.0%
法隆寺ー祈りとかたち	25.7%	29.6%	6.3%	7.8%	2.2%	15.8%	0.5%	3.9%	0.7%	1.9%	5.6%	100.0%
黒井健　絵本原画の世界展	23.0%	35.2%	6.1%	8.0%	2.3%	16.4%	0.0%	4.2%	0.9%	1.4%	2.3%	100.0%
平　　均	22.6%	27.0%	7.4%	9.1%	1.1%	16.0%	2.0%	4.6%	1.3%	3.5%	5.5%	100.0%

Ⅴ　当館への来館回数

展　覧　会　名	初めて	2回以上	5回以上	10回以上	無回答	合　計
生誕120年　岩田正巳展	12.9%	22.6%	16.1%	45.2%	3.2%	100.0%
生誕120年　宮芳平展	20.7%	10.3%	13.8%	48.3%	6.9%	100.0%
法隆寺ー祈りとかたち	17.2%	17.7%	23.7%	30.3%	11.1%	100.0%
黒井健　絵本原画の世界展	18.3%	16.3%	35.6%	27.9%	1.9%	100.0%
平　　均	17.3%	16.7%	22.3%	37.9%	5.8%	100.0%

Ⅵ　展覧会ジャンルの希望

展　覧　会　名	日本画	洋画（日本）	西洋絵画	彫　刻	版　画	工　芸	書	写　真	デザイン	現代美術	その他	無回答	合　計
生誕120年　岩田正巳展	24.7%	12.4%	10.1%	5.6%	7.9%	11.2%	4.5%	6.7%	7.9%	4.5%	2.2%	2,2%	100.0%
生誕120年　宮芳平展	14.3%	15.5%	17.9%	7.1%	2.4%	7.1%	6.0%	6.0%	9.5%	9.5%	3.6%	1.2%	100.0%
法隆寺ー祈りとかたち	20.0%	9.3%	13.6%	8.6%	5.8%	8.0%	5.0%	8.2%	5.0%	5.2%	5.0%	6.5%	100.0%
黒井健　絵本原画の世界展	17.2%	13.8%	13.4%	5.9%	3.8%	5.4%	4.2%	10.0%	12.1%	6.7%	5.9%	1.7%	100.0%
平　　均	19.1%	12.8%	13.8%	6.8%	5.0%	7.9%	4.9%	7.7%	8.6%	6.5%	4.2%	3.1%	100.0%

Ⅶ　ボランティア

展　覧　会　名	参加したい					合　計
	展示作業	作品解説	ポスター掲示・チラシ配り	ワークショップの手伝い	その他	
生誕120年　岩田正巳展	42.9%	14.3%	0.0%	42.9%	0.0%	100.0%
生誕120年　宮芳平展	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	100.0%
法隆寺ー祈りとかたち	31.4%	14.3%	14.3%	25.7%	14.3%	100.0%
黒井健　絵本原画の世界展	40.9%	4.5%	27.3%	22.7%	4.5%	100.0%
平　　均	37.1%	8.3%	10.4%	31.2%	13.0%	100.0%

（性　別）

展　覧　会　名	男　性	女　性	無回答	合　計
生誕120年　岩田正巳展	38.7%	54.8%	6.5%	100.0%
生誕120年　宮芳平展	31.0%	44.8%	24.1%	100.0%
法隆寺ー祈りとかたち	34.3%	46.0%	19.7%	100.0%
黒井健　絵本原画の世界展	23.1%	68.3%	8.7%	100.0%
平　　均	31.8%	53.5%	14.8%	100.0%

（お住まい）

展　覧　会　名	長岡市	新潟市	県内	県　外	無回答	合　計
生誕120年　岩田正巳展	9.7%	22.6%	54.8%	6.5%	6.5%	100.0%
生誕120年　宮芳平展	24.1%	13.8%	24.1%	13.8%	24.1%	100.0%
法隆寺ー祈りとかたち	25.3%	26.3%	26.3%	4.0%	18.2%	100.0%
黒井健　絵本原画の世界展	27.9%	28.8%	27.9%	5.8%	9.6%	100.0%
平　　均	21.8%	22.9%	33.3%	7.5%	14.6%	100.0%

（年　代）

展　覧　会　名	小・中学生	高校・大学生	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70才以上	無回答	合　計
生誕120年　岩田正巳展	3.2%	0.0%	0.0%	12.9%	6.5%	6.5%	25.8%	16.1%	19.4%	9.7%	100.0%
生誕120年　宮芳平展	10.3%	10.3%	0.0%	3.4%	3.4%	10.3%	13.8%	10.3%	17.2%	20.7%	100.0%
法隆寺ー祈りとかたち	10.6%	4.5%	0.5%	4.5%	5.6%	11.6%	17.2%	19.7%	8.6%	17.2%	100.0%
黒井健　絵本原画の世界展	20.2%	2.9%	0.0%	11.5%	7.7%	15.4%	11.5%	11.5%	9.6%	9.6%	100.0%
平　　均	11.1%	4.4%	0.1%	8.1%	5.8%	11.0%	17.1%	14.4%	13.7%	14.3%	100.0%

新潟県立万代島美術館

平成26年度開催展覧会名	会　　期	入館者数	アンケート回収数	アンケート回収率	
梅佳代展 UMEKAYO	平成26年4月1日～5月6日	7,872	457	5.8%	※全体会期のうち、平成26年度の数を抽出
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	平成26年5月17日～6月22日	4,956	96	1.9%	
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	平成26年7月4日～8月31日	57,960	849	1.5%	
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	平成26年9月13日～11月3日	19,620	315	1.6%	
昭和追想―美術でたどる時代の風景	平成26年11月22日～平成27年2月11日	2,760	63	2.3%	
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	平成27年2月28日～3月31日	14,436	151	1.0%	※全体会期のうち、平成26年度の数を抽出
合	計	107,604	1,931	1.8%	

展覧会の感想

展　覧　会　名	良かった	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	計
梅佳代展 UMEKAYO	75.9%	14.9%	2.6%	3.3%	3.3%	100.0%
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	50.0%	37.5%	5.2%	2.1%	5.2%	100.0%
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	87.7%	9.3%	0.8%	0.4%	1.8%	100.0%
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	57.3%	26.2%	7.5%	3.7%	5.3%	100.0%
昭和追想―美術でたどる時代の風景	66.7%	27.0%	1.6%	0.0%	4.8%	100.0%
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	76.8%	17.9%	1.3%	0.7%	3.3%	100.0%
平均	69.1%	22.1%	3.2%	1.7%	3.9%	100.0%

作品や作家についての解説

展　覧　会　名	適度な量である	量が少ない	量が多い	無回答	計
梅佳代展 UMEKAYO	59.9%	11.2%	2.9%	26.1%	100.0%
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	61.1%	12.6%	5.3%	21.1%	100.0%
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	72.9%	8.1%	4.3%	14.8%	100.0%
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	60.1%	16.7%	1.3%	22.0%	100.0%
昭和追想―美術でたどる時代の風景	65.1%	6.3%	3.2%	25.4%	100.0%
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	73.5%	4.6%	6.6%	15.2%	100.0%
平均	65.4%	9.9%	3.9%	20.8%	100.0%

展　覧　会　名	わかりやすい	難しい	簡単すぎる	無回答	計
梅佳代展 UMEKAYO	70.1%	3.5%	4.7%	21.7%	100.0%
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	67.7%	13.5%	5.2%	13.5%	100.0%
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	86.1%	5.2%	1.5%	7.1%	100.0%
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	62.3%	13.4%	5.8%	18.5%	100.0%
昭和追想―美術でたどる時代の風景	68.3%	15.9%	1.6%	14.3%	100.0%
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	84.1%	5.3%	1.3%	9.3%	100.0%
平均	73.7%	10.7%	3.1%	12.6%	100.0%

展覧会のきっかけ

展　覧　会　名	ポスター	チラシ	新聞	テレビ	ラジオ	雑誌	知人	友の会会員	県民だより	HP	フリーペーパー	インターネット	その他	無回答	計
梅佳代展 UMEKAYO	23.6%	13.7%	7.9%	12.8%	2.3%	4.1%	10.6%		0.6%	5.6%	2.9%	4.4%	7.9%	3.8%	100%
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	16.4%	18.9%	9.8%	2.5%	1.6%	3.3%	9.0%	1.6%	0.8%	8.2%	3.3%	6.6%	12.3%	5.7%	100%
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	12.6%	13.4%	7.9%	34.6%	2.6%	2.3%	8.1%	0.2%	0.8%	2.6%	2.0%	6.4%	5.3%	1.3%	100%
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	20.6%	12.3%	23.6%	13.5%	0.7%	1.9%	6.9%	0.5%	1.2%	6.4%	0.5%	3.1%	5.4%	3.5%	100%
昭和追想―美術でたどる時代の風景	26.3%	12.5%	18.8%	1.3%	1.3%	0.0%	18.8%	0.0%	1.3%	2.5%	1.3%	5.0%	11.3%	0.0%	100%
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	12.2%	10.6%	10.1%	21.8%	0.5%	3.7%	14.4%	0.0%	1.1%	7.4%	1.6%	7.4%	4.3%	4.8%	100%
平均	18.6%	13.6%	13.0%	14.4%	1.5%	2.5%	11.3%	0.5%	0.9%	5.4%	1.9%	5.5%	7.7%	3.2%	100.1%

お客様ご自身について

(1) 性別

展　覧　会　名	男性	女性	（不明）	計
梅佳代展 UMEKAYO	27.6%	56.0%	16.4%	100%
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	23.7%	69.1%	7.2%	100%
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	31.3%	63.3%	5.4%	100%
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	28.5%	65.5%	6.0%	100%
昭和追想―美術でたどる時代の風景	52.4%	38.1%	9.5%	100%
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	21.9%	74.8%	3.3%	100%
平均	31%	61%	8%	100%

(2) 年代

展　覧　会　名	小学生以下	中学・高校生	左記以外の10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	（無回答）	計
梅佳代展 UMEKAYO	4.6%	5.3%	2.4%	20.4%	20.8%	12.7%	10.1%	5.5%	1.8%	16.6%	100.0%
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	4.1%	0.0%	2.0%	19.4%	23.5%	19.4%	11.2%	8.2%	8.2%	4.1%	100.0%
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	12.6%	5.9%	4.3%	29.5%	14.6%	13.5%	11.3%	4.5%	1.7%	2.3%	100.0%
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	1.3%	0.6%	4.4%	13.0%	9.2%	15.6%	18.7%	23.2%	8.6%	5.4%	100.0%
昭和追想―美術でたどる時代の風景	7.9%	4.8%	1.6%	3.2%	9.5%	20.6%	17.5%	12.7%	19.0%	3.2%	100.0%
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	17.3%	4.0%	6.7%	26.7%	17.3%	8.0%	10.7%	4.7%	1.3%	3.3%	100.0%
平均	8.0%	3.4%	3.6%	18.7%	15.8%	15.0%	13.2%	9.8%	6.8%	5.8%	100.0%

(3) お住まい

展　覧　会　名	新潟市内	新潟市以外の下越地区	佐渡地区	中越地区	上越地区	県外・海外	（無回答）	計
梅佳代展 UMEKAYO	49.7%	11.6%	0.9%	14.2%	3.1%	15.8%	4.8%	100.0%
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	48.4%	15.8%	0.0%	7.4%	2.1%	15.8%	10.5%	100.0%
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	40.9%	16.1%	1.5%	16.6%	3.8%	15.3%	5.8%	100.0%
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	42.2%	14.4%	3.5%	15.3%	2.2%	14.7%	7.7%	100.0%
昭和追想―美術でたどる時代の風景	61.9%	9.5%	0.0%	9.5%	1.6%	9.5%	7.9%	100.0%
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	40.8%	11.2%	0.7%	17.8%	4.6%	14.5%	10.5%	100.0%
平均	47.3%	13.1%	1.1%	13.5%	2.9%	14.3%	7.9%	100.0%

(4) 当館へは主としてどんな交通手段でおいでになりますか

展　覧　会　名	自家用車	徒歩・自転車	バス	タクシー	電車	貸切バス	その他	（無回答）	計
梅佳代展 UMEKAYO	56.2%	16.1%	12.3%	0.6%	8.7%	0.4%	2.1%	3.6%	100.0%
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	50.0%	15.4%	15.4%	1.9%	10.6%	1.0%	0.0%	5.8%	100.0%
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	60.2%	5.9%	17.6%	1.7%	10.3%	0.6%	2.1%	1.7%	100.0%
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	51.1%	13.6%	20.8%	4.4%	4.1%	0.0%	2.2%	3.8%	100.0%
昭和追想―美術でたどる時代の風景	47.8%	10.4%	17.9%	4.5%	17.9%	0.0%	0.0%	1.5%	100.0%
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展～ムーミンと生きる～	47.8%	7.5%	23.3%	0.6%	15.7%	0.6%	0.6%	3.8%	100.0%
平均	52.2%	11.5%	17.9%	2.3%	11.2%	0.4%	1.2%	3.3%	100.0%

⑸　万代島美術館に来たのは何回目ですか

展　覧　会　名	初めて	2~4回目	5回以上	回答なし	計
梅佳代展 UMEKAYO	30.0%	36.1%	30.9%	3.1%	100.0%
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	23.8%	21.8%	49.5%	5.0%	100.0%
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	47.6%	32.4%	18.1%	1.9%	100.0%
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	27.0%	22.5%	46.7%	3.8%	100.0%
昭和追想―美術でたどる時代の風景	19.0%	27.0%	54.0%	0.0%	100.0%
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展~ムーミンと生きる~	34.4%	33.8%	27.2%	4.6%	100.0%
平均	30.3%	28.9%	37.7%	3.1%	100.0%

⑹　当館に限らず年に何回展覧会に来ますか

展　覧　会　名	1回以下	2~4回目	5回以上	回答なし	計
梅佳代展 UMEKAYO	19.0%	51.9%	24.3%	4.8%	100.0%
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	9.4%	44.8%	41.7%	4.2%	100.0%
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	42.1%	41.5%	13.3%	3.1%	100.0%
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	11.4%	44.9%	38.9%	4.7%	100.0%
昭和追想―美術でたどる時代の風景	9.5%	46.0%	42.9%	1.6%	100.0%
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展~ムーミンと生きる~	25.8%	51.7%	17.9%	4.6%	100.0%
平均	19.5%	46.8%	29.8%	3.8%	100.0%

⑺　どんなジャンルの展覧会を望みますか

展　覧　会　名	日本画	洋画	西洋洋画	彫刻	版画	工芸	書	写真	デザイン	現代美術	県人作家	アジアの美術	絵本	アニメーション・マンガ	その他	無回答	計
梅佳代展 UMEKAYO	8.5%	7.4%	9.4%	3.5%	3.0%	3.4%	2.4%	19.6%	9.0%	9.1%	1.5%	2.4%	9.1%	8.5%	1.3%	1.8%	100.0%
国立国際美術館コレクション 美術の冒険	9.2%	10.5%	16.6%	6.1%	3.8%	1.6%	1.6%	9.6%	8.0%	12.1%	2.2%	1.6%	6.4%	7.3%	1.6%	1.9%	100.0%
新潟が生んだジブリの動画家 近藤喜文展	8.6%	6.2%	8.8%	3.7%	2.4%	2.8%	2.4%	10.7%	6.9%	5.0%	2.7%	1.6%	12.3%	23.3%	1.0%	1.5%	100.0%
伊藤若冲と京の美術―細見コレクションの精華	21.5%	11.0%	15.8%	4.8%	6.1%	5.8%	3.5%	5.6%	5.0%	5.2%	1.4%	2.6%	4.4%	4.2%	1.6%	1.4%	100.0%
昭和追想―美術でたどる時代の風景	13.0%	11.5%	9.3%	4.8%	5.9%	4.8%	5.2%	10.8%	5.9%	6.7%	4.8%	1.5%	5.9%	7.1%	2.6%	0.0%	100.0%
生誕100周年 トーベ・ヤンソン展~ムーミンと生きる~	10.8%	7.1%	12.0%	2.9%	3.2%	2.7%	1.5%	9.3%	8.6%	7.1%	1.2%	1.0%	15.9%	13.2%	1.5%	2.2%	100.0%
平均	12.0%	8.9%	12.0%	4.3%	4.1%	3.5%	2.8%	10.9%	7.2%	7.5%	2.3%	1.8%	9.0%	10.6%	1.6%	1.5%	100.0%

組織及び業務

新潟県立美術館の業務【20年４月現在】

■新潟県立美術館条例（平成５年３月31日　新潟県条例第24号）（抜粋）

（設置）第１条　博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、県民の教育、学術及び分科の発展に寄与するため、新潟県立美術館（以下「美術館」という）を長岡市千秋３丁目に設置する。

２　前項に規定する美術館には、教育委員会の定めるところにより、分館として新潟県立万代島美術館（以下「万代島美術館」という。）を設置する。

（事業）第２条　美術館は、次に掲げる事業を行う。

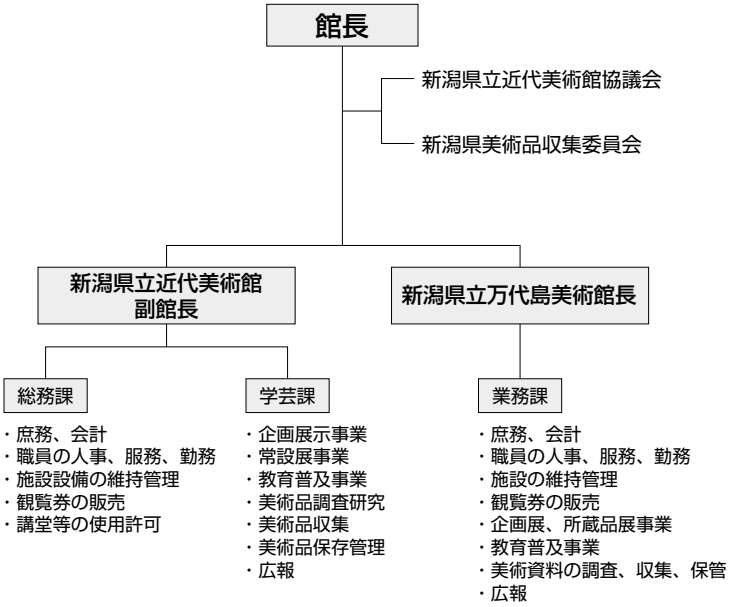
⑴　美術品、美術に関する資料等（以下「美術品等」という）の収集、保管及び展示

⑵　美術品等の利用に関し必要な説明、助言、指導等

⑶　美術品等の調査及び研究

⑷　美術品等に関する講演会、講習会、映写会等の主催及びその開催の援助

⑸　前各号に掲げるもののほか、美術館の目的を達成するために必要な事業



職　員

新潟県立近代美術館

	館長	徳永　健一
	副館長	立川　厚生
●総務課	総務課長	矢澤　一広
	主査	小林　史子
	主任	重高　優子
	非常勤職員	佐藤真希子
	非常勤職員	佐野　一美
●学芸課	学芸課長	藤田　裕彦
	専門学芸員	松矢　国憲
	学芸課長代理	佐藤久美子
	学芸課長代理	平石　昌子
	学芸課長代理	宮下　東子
	学芸課長代理	澤田　佳三
	副参事	青木　善治
	主任学芸員	長嶋　圭哉
	美術学芸員	伊澤　朋美
	嘱託員	佐藤　和子
	嘱託員	関　　紗織
	嘱託員	今井ひとみ（～H26.6.29）
	嘱託員	佐藤　友紀
	嘱託員	風間佳代子
	嘱託員	村越万友美
	嘱託員	深井　尚子
	嘱託員	酒井　真李
	嘱託員	佐藤　　望
	嘱託員	蟹澤　仁美（H27.1.1～）

新潟県立万代島美術館

	館長	伊藤　輝男
●業務課	業務課長	桐原　浩
	課長代理	板垣　和美
	課長代理	今井　有
	主任	中村　敦子
	主任学芸員	池田　珠緒
	主任学芸員	高　晟埈
	美術学芸員	飯島沙耶子
	臨時的任用職員	吉成見奈子（H25.9.1～H26.8.31）
	臨時的任用職員	阿部　春花（H26.8.1～）
	臨時的任用職員	松本　美樹（H26.9.1～）
	嘱託員	五十嵐綾子
	嘱託員	天木ひかり
	嘱託員	伊藤　祥子（～H26.6.30）
	嘱託員	中嶋　美幸
	嘱託員	豊島　晶子
	嘱託員	齋藤　恵理
	嘱託員	長井恵美子（H26.7.1～）

新潟県立近代美術館

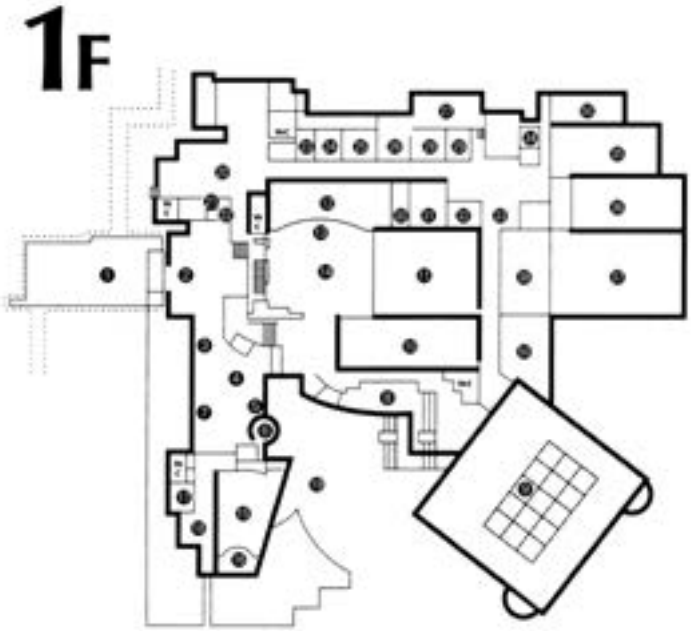
【施設概要】

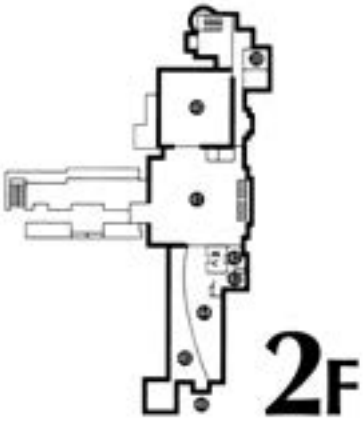
〈名　　称〉新潟県立近代美術館
〈所 在 地〉新潟県長岡市千秋３丁目278-14
〈設　　計〉㈱日本設計
造園設計　㈱日本設計・㈱日本造園
設計期間　1990年9月～1991年2月
〈監　　理〉新潟県土木部都市整備局営繕課
㈱日本設計
〈施　　工〉大成・吉原・小杉特定共同企業体
電気工事　六興・大原・長岡特定共同企業体
空調工事　三建・日立・越後特定共同企業体
衛生工事　ナカムラ・北陸特定共同企業体
ガス工事　北陸瓦斯㈱
昇降機工事　日本オーチスエレベーター
備品工事　㈱高島屋
植栽工事　北陸緑化、ニューガーデン、
長生園、宮川苑、吉茂造園、
鈴木造園、新潟造園土木、
長岡ガーデン、川崎農園、
グリーン産業、松本造園
工事期間　1991年7月29日～1993年5月31日
〈総工事費〉9,859,851千円
支出内訳
建築工事費　7,442,809千円
造園工事費　1,261,187千円
電気工事費　　79,654千円
展示工事費　1,121,201千円
〈主体構造〉鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、
プレストレストコンクリート梁
基礎・地業　PHC抗
〈規　　模〉地下１階、地上2階、塔屋1階
軒高　　13.0m
最高高　　19.250m
主なスパン　　3.9m
階高　　5.7m
〈面　　積〉敷地面積　33,800㎡
建築面積　　9,133㎡
延床面積　10,723㎡
地下－機械室・電気室　716㎡
１階－展示室・収蔵庫・講堂・
事務室・他　　8,873㎡
２階－レストラン・県民ギャラリー
1,064㎡
屋階－ELV機械室
地域地区　市街化調整区域
〈面積配分〉
導入部門　1,356㎡
（エントランスホール636㎡、ロビー576㎡、ほか）
展示部門　2,674㎡
（常設展示室391㎡＋472㎡＋265㎡、
企画展示室1,332㎡　ほか）
教育普及部門　384㎡
（講堂234㎡、講座室53㎡、ハイビジョン67㎡、ほか）
収蔵部門　1,746㎡
（収蔵庫第一292㎡、第二575㎡、
第三267㎡、作業室49㎡、ほか）
調査研究部門　272㎡
（研究室83㎡、資料保管室61㎡、書庫128㎡）
管理事務部門　416㎡
（事務室133㎡、会議室70㎡、館長室55㎡、ほか）
設備・機械　1,017㎡
（熱源機械室、電気室、空調機械室、ほか）
他共用部門　2,858㎡
（廊下、階段、ほか）

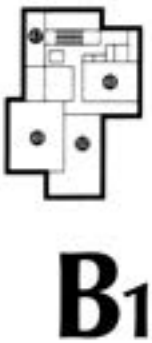
〈展示室の環境〉
室の明るさ　70～150lux＋局部照明
照明方法　全体照明（ダウンライト・間接）
スポットライトによる局部照明
光源の種類　ハロゲンランプ（熱線カット）
美術館用蛍光ランプ
温度・湿度　夏季／26℃・50%
冬季／22℃・55%
〈主な設備〉
空調方法　個別式（単一ダクト方式・FCU方式）
熱源：ガス・電気
熱源機器／ガス冷温水発生機２台
冷房能力／240USRT
暖房能力／52,000kCal/h
冷却塔／2,810,000kCal/h
空調機器／全空気方式　空冷ヒート
ポンプエアコンファン
給排水衛生　給　水／上水直結
給　湯／中央式（ガス）、
個別式（電気）
排　水／屋内合流、屋外下水道放流
給排水　　BIF床上受水槽（FRP40㎥）
排水漕／有効0.76㎥
電　気　　受　電／3相3線　50Hz　6.6kV
660kW
発電機／3Φ3W 50Hz 6.6kV
375kVA
非常保安動力／300kVA
非常保安電灯（スコット）／50kVA
変圧器／1,400kVA７台
防　災　　消化／屋内消火栓、屋外消火栓、
ハロゲン化物消失
排煙／自然排煙
屋内消火栓　粉末消化器　ハロン
消化設備　ハロン消化器　連結散
水設備　屋外消火栓
昇降機　　乗用ELV／750kg積
（30m／分）１台
人荷用ELV／3,000kg積
（30m／分）１台
駐車場　　屋内２台、屋外165台
〈主な外部仕上〉
屋　根　　アルミクラッド鋼板立ハゼ葺
外　壁　　四丁掛精炻器質タイル（割肌）
二丁掛精炻器質タイル
建　具　　アルミサッシュ電解二次着色
ステンレスサッシュH.L.仕上
外　構　　御影石ブロック＋陶製ブロック舗装
〈主な内部仕上〉
エントランスホール
天井／コンクリート打放し
壁／御影石こぶ出し仕上
床／御影石ジェットバーナー仕上
展示室　　天井／P.B.E.P
壁／ガラスクロスE.P
床／タイルカーペット
収蔵庫　　天井・壁／スプルス
床／ナラ緑甲板張
講　堂　　天井／
壁／四丁掛精炻器質タイル＋P.B.E.P
床／カーペット
研究室・事務室
天井／岩綿吸音板
壁／ビニールクロス貼
床／タイルカーペット

【施設の配置】

❶キャノピー
❷エントランスホール
❸ロビー
❹ミュージアムショップ
❺データベース室
❻ハイビジョンギャラリー
❼レファレンス
❽企画展示室ロビー
❾企画展示室
❿展示室１
⓫展示室２
⓬展示室３
⓭常設展示室ロビー
⓮中庭
⓯講堂
⓰ステージ
⓱講座室
⓲講堂ロビー
⓳屋外展示スペース
⓴事務室
㉑乳児室
㉒ロッカー室
㉓応接室
㉔館長室
㉕会議室
㉖研究室
㉗書庫
㉘資料保管室
㉙倉庫
㉚フィルム保管室
㉛撮影室
㉜作業室
㉝荷解室
㉞燻蒸室
㉟収蔵室１
㊱収蔵室３
㊲収蔵室２
㊳展示備品倉庫
㊴ギャラリー控室
㊵ギャラリー
㊶アトリウム上部
㊷レストラン事務室
㊸厨房
㊹レストラン
㊺吹抜
㊻テラス
㊼ドライエリア
㊽電気室
㊾熱源機械室
㊿空調機械室







新潟県立万代島美術館

【施設概要】

〈機能別延床面積〉

	内訳	用途等	面　積
展示室 1,433.09㎡		美術品等の企画展示	1,433.09㎡
収蔵 130.2㎡	収蔵庫	美術品等の保管	102.05㎡
	収蔵庫前室	収蔵庫の温室度を安定させる	28.15㎡
専用エレベーター 27.59㎡		地下1階より美術品を搬入	27.59㎡
管理 573.94㎡	事務室	学芸員、一般事務の執務室	72.66㎡
	資材倉庫	文書･書籍カタログ等の収納	32.75㎡
	準備室	展示作業用の作品移動ケース置場等	95.56㎡
	荷解室	美術品の開梱･点検場所	107.58㎡
	休憩室	嘱託員の休憩場所	10.04㎡
	応接室	来賓等の応接	13.99㎡
	トイレ	職員･来館者用	92.58㎡
	空調機械室	美術館専用の空調機械設置	120.15㎡
	ボンベ庫	ハロン消火設備用ボンベ庫(予)	28.63㎡
共通 630.44㎡	ロビー	来館者の導入、休憩及びインフォメーション等	279.63㎡
	廊下等	来館者の通路、避難経路など	321.84㎡
	乳児室	乳児のために使用	6.35㎡
	ロッカー･ルーム	来館者の利便のために手荷物を保管	22.62㎡
B1F 164.19㎡	専用エレベーター(B1F)	美術品の搬入用	26.23㎡
	専用エレベーター機械室	専用エレベーター用の機械設置	13.42㎡
	専用荷捌スペース	美術品の荷捌スペース	124.54㎡
合計			2,959.45㎡

〈建築概要〉

1．全体概要

種　　別／複合ビル内包型　公立美術館

所 在 地／新潟県新潟市万代島５番１号

工事期間／平成12年10月３日～平成15年３月30日

敷地面積／103,128.93㎡（万代島－団地認定敷地全体）

建築面積／6,017.37㎡

延床面積／52,585.54㎡（うち、美術館2,959.45㎡）

構造種別／鉄骨鉄筋コンクリート造

階　　高／美術館フロア6.3m

2．建築主体

設　　計／鹿島建設株式会社一級建築士事務所

監　　理／鹿島建設株式会社一級建築士事務所

施　　工／鹿島・大成・福田・五洋・本間・東亜共同企業体

3．仕上げ（美術館部分のみ）

屋　　根／鉄筋コンクリート下地断熱アスファルト防水押え、コンクリート鋼製根太組天然スレート敷

外　　壁／プレキャストコンクリート下地アルミスパンドレル張り、アルミカーテンウォールふっ素樹脂焼付塗装、プレキャストコンクリートカーテンウォールふっ素樹脂常乾塗装

内　　装／（設備概要を参照のこと）

4．電気設備

電力引込／３相３線6.6Kv50Hz、
２回線受電、地中引込

受 変 電／１階サブ変電所、キュービクル式受変電設備

非常用電源／発電機１台、ディーゼル1000KVA、
蓄電池400AH

電話設備／電話配管（機器、配線は別）

放送設備／非常放送兼用アンプ1160W、130回線、
美術館業務用アンプ80W、５回線

5．空調設備

熱　　源／全体熱源：冷温水発生器（ガス焚）
240RT×２台
収蔵庫：空冷ヒートポンプ

空 調 機／コンパクトエアハン7台
単一ダクト

換　　気／個別換気
給気ファン１台、排気ファン15台

制御機構／24時間中央温湿度管理システム

6．昇降機

乗　　用／ロープ式　210m／分　定員20名1,350kg
４基（うち、車椅子仕様１基）

荷 物 用／油圧式
15m／分　3,000kg　１基

テーブルリフター／
リフト　　0.9m
テーブル　2.0m×2.0m　3,000kg

〈設備概要〉

1．展示室概要

壁 仕 上／不燃プラスターボード、ガラスクロス表面仕上げ

床 仕 上／フローリング（ダグラスファー）

可 動 壁／不燃プラスターボード、ガラスクロス表面仕上げ
L4.0m×H4.5m：30枚、L2.0m×H4.5m：26枚、L2.4m×H4.5m：４枚

固定展示ケース／２箇所

（外側）スチール製・高透過ガラススチール製・アクリル焼付塗装、高透過ガラス・重量キャスター・アジャスター付、シリンダー錠付

（内側）低ホルマリン合板、クロス張り、エアタイト、寸法D18.0m、W1.2m、H4.5m

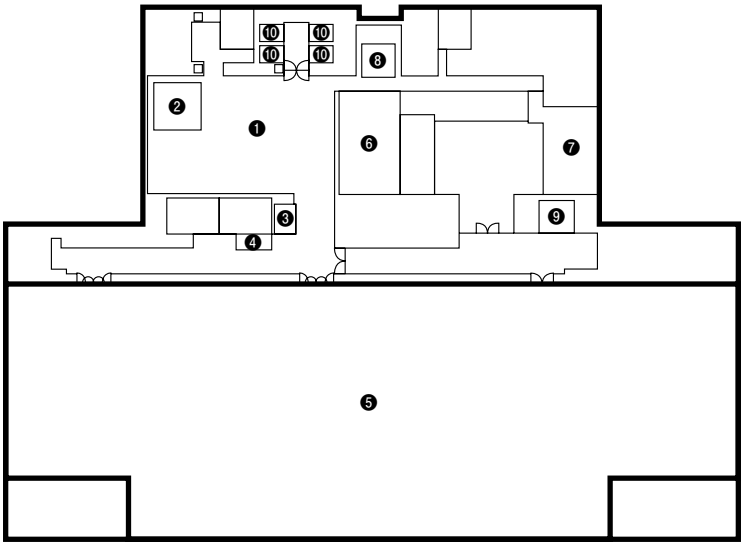
照　　明／全て美術館用UV／IRカットフィルター付
ベース照明：ハロゲンウォールウォッシャー200W
展示照明：ローボルトハロゲン（12V50W）
ケース内照明：高効率照明器具（32W）及びローボルトハロゲン（12V50W）

設定温湿度／春・夏期：23℃、60%、
秋・冬期：20℃、50%
（変動率±３℃、±10%以内）

2．収蔵庫概要
床 仕 上／フローリング
壁 仕 上／ゼオライトパネル（天井共）
内部寸法／L11.5m、W7.5m、天井H3.5m
入口寸法／H3.0m、W3.0m
収蔵庫内作品固定方法／収蔵棚
収蔵庫扉の構造及び仕様／スチール製
耐火２時間扉
照　　明／高効率照明器具（32W）
美術館用UV／IRカットフィルター付
空　　調／恒温恒湿パッケージ２台　単一ダクト（VAV）
設定温湿度／春・夏期：20℃、60%
秋・冬期：20℃、60%
（変動率±２℃、±５%以内）
3．搬入口関連概要
専用搬入口寸法／H3.8m、W5.0m
高位置の接岸ドック／地上からの高さ0.7m
可動接岸ドック／0〜0.9mレベルまで
油圧式リフト／最大重量3,000kg
クレーン／最大重量3,000kg
搬入可能なクレートの最大サイズ／
H3.0m、W3.0m、D3.0m
セキュリティ／画像センサー機械警備
荷解室への立入管理／カードリーダー方式電気錠
昇降機内部寸法／L3.0m、W3.0m、
天井H3.0m
4．防災設備
消火設備／湿式スプリンクラー
展示室、準備室、荷解室及び収蔵庫はハロン消火
感知器の種類／自動煙感知
火災警報への伝達／発信機、非常電話
補助消火栓／搬入場所１基、その他４基
連結送水管／その他２基
消 化 器／搬入場所：粉末ABC
展示室：ハロンガス
その他：粉末ABC及びハロンガス
5．防犯設備
監視設備／ITVモニター、ITVカメラ15台
（美術館14台、EV１台）
機械警備設備／画像センサー＋スピーカ
警備会社／SECOM株式会社
使用警報機の種類／画像センサー及び
水銀スイッチ
警報入電場所／館内中央監視盤及び
美術館事務室
盜難防止ケースの種類／
ガラス・ケース及び壁面固定ケース全てにシ
リンダー錠付

【施設の配置】

❶エントランスホール
❷ミュージアムショップ
❸情報検索コーナー
❹乳児室
❺展示室
❻収蔵庫
❼事務室
❽ロッカー・自販機
❾作品専用エレベーター
❿エレベーター



新潟県立近代美術館協議会

【委　員】(依嘱当時)

（平成24年８月１日から平成26年７月31日まで）

●学識経験者

◎近藤フヂエ（新潟大学名誉教授）

○金子　賢治（茨城県陶芸美術館長／多治見市美濃焼ミュージアム館長）

松本　健義（上越教育大学大学院学校教育研究科教授）

猪爪　彦一（新潟県美術家連盟洋画部代表理事／行動美術協会会員）

西條和佳子

（特定非営利活動法人ワーキングウイメンズアソシエーション常任理事）

●社会教育関係者

丸田　洋一（柏崎市文化会館アルフォーレ館長）

●学校教育関係者

柴野ひさ子（新潟県美術教育連盟理事／中越美術教育研究会副会長）

風巻　　洋（新潟県美術教育連盟副会長／下越美術教育研究会副会長）

●一般公募

上原みゆき（食文化研究家）

上松　和義（新潟大学工学部技術専門員）

※◎は会長　○は副会長

（平成26年８月１日から平成28年７月31日まで）

●学識経験者

◎近藤フヂエ（新潟大学名誉教授）

○金子　賢治（茨城県陶芸美術館長／多治見市美濃焼ミュージアム館長）

松本　健義（上越教育大学大学院学校教育研究科教授）

菅野　翠濤

（新潟県美術家連盟常務理事／北日本書芸院主幹／新潟県美術展覧会委員）

西條和佳子

（特定非営利活動法人ワーキングウイメンズアソシエーション常任理事）

●社会教育関係者

竹内　伊澄（歯科衛生士／新潟県社会教育委員／上越市社会教育委員）

●学校教育関係者

市村　吉之

（新潟市立中之口西小学校長／新潟県美術教育連盟副会長／下越美術教育研究会会長）

霜鳥　健二

（新潟県立長岡商業高等学校美術科教諭／新潟県高等学校文化連盟美術・工芸専門部委員長／新潟県美術展覧会運営委員）

●一般公募

北嶋　　伸（社会保険労務士）

地主　　純（新潟税務署非常勤職員）

※◎は会長　○は副会長

【日程及び内容】

第１回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成26年５月７日㈬　10：00～12：00

会場：新潟県立近代美術館

内容：⑴　平成25年度「美術館の自己評価に対する委員評価」の作成について

⑵　平成26年度事業について

第２回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成26年９月15日㈪　13：30～15：30

会場：新潟県立近代美術館

内容：⑴　新潟県立近代美術館協議会の概要

⑵　会長および副会長の選任

⑶　「平成25年度新潟県立近代美術館協議会評価報告書」について

⑷　「平成26年度美術館運営への提言」を受けて

⑸　平成26年度近代美術館の事業計画

⑹　平成26年度県立近代美術館の中間報告

第３回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成27年１月17日㈯　10：00～12：00

会場：新潟県立万代島美術館

内容：⑴　平成26年度事業の中間報告②

⑵　平成26年度評価の分野と執筆担当

⑶　作成手順およびスケジュール

⑷　次年度評価に向けた意見交換

【自己評価に対する委員評価】

平成26年７月

はじめに

新潟県立近代美術館が創設されて昨年20周年を迎えました。創設時日本各地に美術館建設がすすめられ、新潟県にも本格的な美術館がつくられるとあって、人々が大いに期待したことが想起されます。その頃から「地方の時代」がスタートしたといってもよいでしょう。芸術分野では、時代の先端を目指す前衛的な現代美術から、より身近な日常や地域、歴史などから発想する表現に関心が向けられて行きました。バブル経済も終焉し経済的な低迷が長いこと続きました。現在では、美術館をはじめ文化活動に向けられる公的予算も縮減されていますが、社会と結び着くことで新しい活路を見出すこともできました。地方美術館では単独企画や所蔵品の充実も年々困難になっているようです。

一方この20年で、企画展示も古典および純粋芸術の枠を超えて拡張してきました。それはより広い世代、特に若年層を意識したアニメや漫画、写真やCG.などの活用であり、美術館空間の多様な展開を生みだしてきました。展示方法とともに、作品の鑑賞法や解説などにも多くの工夫が求められてきました。

今日、県に伝えられる歴史的、文化的遺産を活用し、さらに新しい創造に結び付ける役割を担った美術館の活動は、行政及び管理者、職員の絶えざる研鑽と時代を見通す鋭い感性に支えられています。芸術観の変容に対し、美術館の自己評価もそのような変化の時代に道を開く方向で行われることを期待しています。

平成26年７月

新潟県立近代美術館協議会

会長　近藤　フヂエ

第１章　県立近代美術館の自己評価に対する総括的所見

１　平成25年度における美術館運営の全般について

創立20周年にあたり、社会的要請と美術館の使命においてバランスのとれた企画展示の年次計画がたてられ、教育普及活動でも利用者への作品理解の支援と美術館の資源の活用が意欲的に進められてきた。調査研究と保存、環境設備の改修・改善の進展、協働組織の改組など、注目すべき取組がみられる。
平成25年度の評価を通じ、中期的に取り組まれた業務が、継続されたり、縮小されたりした活動などが区別されるが、十分成果を上げることができなかった目標に関して、次年度以降、見直し・改善を図っていくことが期待される。

２　目標設定のあり方について

本年度も、その社会的使命にかんがみ、６つの目標のもとに、具体的な目標を掲げて取り組んできた。美術館の主要な活動は、「①利用者の拡充と県民の文化的レベルの向上」に向けられ、同時に「②文化的な心の憩いと学びの場の提供、利用者に愛される美術館となること」である。その他には「③地域や各種教育機関との連携」、「④新潟県の芸術文化の発掘・保存・発信」、「⑤美術に関心のある人材の育成」、「⑥東アジア、現代美術の紹介」（万代島美術館のみ）が目標に掲げられている。

３　目標に対する達成状況について

これらの成果は、企画展示の内容、利用者数の増加、利用者の具体的な感想から総合的に判定された。展覧会については、近代美術館では、正統的な西洋美術と日本を代表する日本画家の展覧会、「特撮博物館」という現代メディアの総合的展示を行い、万代島美術館では、世紀末のデザイン画家「ミュシャ」、「清水寺」、篠山紀信他の写真展が企画された。いずれの事業計画も、現代の芸術文化に対する多様な要請に対して、積極的に応えようとする意欲がうかがえる。近年新たな取組として、現代的なアニメや複合メディアによる展示企画は、これまで古典美術に無関心だった若い世代の足を美術館に向けさせ、固定化した芸術観に新しい広がりを提案することに寄与してきた。また古典的なメジャーアートの企画展は一定の集客力を維持しているが、地方美術館では、アカデミックな企画展は、初心者向けに構成するには準備や工夫が必要であり、その労に見合った成果をあげるのはかなり難しい。だが、美術に精通していない鑑賞者に対し、参加型の鑑賞会や鑑賞ノートなどの活用は、利用者の作品理解の支援に有効であり、学校教育でも大いに参考となる取組である。古典美術に対してこのような工夫が必要なのに対し、現代生活に浸透した漫画やアニメーションなどは、美術館空間の新しい活用と若い世代のボランティア・ガイドの活動など、美術館の新しい交流の姿を創出するのに役立った。

各種の活動における長岡造形大学や地域共同体、ボランティア組織との協働・連携は、開かれた文化的中心、教育機関としての役割を発展的に拡充する取組として評価される。

多くの県民に対し、美術館への関心を喚起するための広報活動も、外国語表記を採用したホームページの充実やポスターなどのデザインの工夫、TVや新聞、SNS等での発信により、一定の成果をあげている。しかしながら年間を通じて一定の利用者数を得ることが難しく、特に常設展への訪問者が少ないことは問題である。文化の日の「無料開放」は、高齢者への鑑賞料の割引などとともに、今日一般的に行われているが、新潟の県立美術館でもより多くの県民に対し開かれた美術館であるために、観覧料に関する文化行政の意欲的な配慮が切に求められる。

第２章　分野別に見た自己評価に対する委員評価

１　展覧会に関する評価

⑴　実施目標に対する達成状況について

コレクション展、企画展とも目標達成に向けて大きな成果を上げたと評価できる。コレクション展は、様々なテーマを設け、多彩に展開された。企画展は本年度も県民、来館者の多様な関心に応えるべくよく吟味された内容によって行われ、多くの来館者を得たと評価される。

ただ、「ルーベンス展」のように、我が国でこれまで何度も開催されているものはテーマ設定の差別化が要求され、その点よく知られた名品が出品されないということが起こる。テーマ性と一般的な要望との共生は、なかなか難しい問題だが、検討の余地がある。

⑵　今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

今年度も県民、来館者の幅広い層の関心に応えるもの、古典的な優れた美術の紹介、戦後の現代美術（写真も含め）の動向、県内の近代美術の動向に掉さしてきた作家の事績をたどるもの。これらがバランスよく配分され、広く関心を呼ぶように取り組んだことは評価される。

ただ、「特撮博物館展」、「清水寺展」などというふうに、あまりに幅広い展覧会、テーマを扱う中で、学芸員の専門性の進展、美術館総体としての蓄積、質の向上をいかに図っていくか、その点が若干心配である。両者ののびやかな共存をどう図っていくか、幹部をはじめ行政サイドも十分考慮されてしかるべきである。

⑶　自己評価に対する総括

なによりも企業活動が冷え込む中、「ルーベンス展」で地元有力企業との共同運営を実現しことは大変意義深く、評価したい。これが今後、一種の恒常的なシステムを構築するなど、より広がりを持たせていきたいものである。また両館とも、自主企画（調査も含めて）の進展が著しいことも特筆に値する。

２　教育普及等関連事業に関する評価

⑴　実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

平成24年度からの重点的事業目標である「鑑賞をきっかけとして美術や日常生活に生かせる『気づき』や『まなび』を創り出す」は、対話を取り入れた鑑賞活動の推進が軌道に乗り、引率者含む小中高等学校団体来観者3,196人の約75%にあたる60校74件、のべ2,291人に対して、

美術館からの提案により実施している。保育園、特別支援学校を含む一般団体来館者に対しても対話型を含む作品解説が行われている。対話を取り入れた鑑賞活動は、平成24年度の４倍に増加し、作品に対する気づきの深まりや鑑賞の楽しさに触れることができた児童生徒の姿も見られている。年間を通じ展覧会に即した鑑賞プログラムの実施も効果的になされており、目標は達成されている。

○万代島美術館

重点的な事業目標「展覧会に関連した学習に拡がりを持たせる」では、近代美術館学芸員との協働と学校教育との連携により、新潟市内小学校での鑑賞教育が進められたことにまず意義がある。連携の体制とあり方に課題が明らかになっている。館外の人材を活用した多彩なイベントの企画では、作家によるトークや記念撮影会、清水寺貫主による揮毫、児童合唱団公演、監修者講演、民間放送局アナウンサーとのギャラリートーク等、大都市に立地する美術館にふさわしく多彩に実施することができ、企画展の教育普及と協働の両面に有効に働いている。目標はおおむね達成されている。

⑵　今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○近代美術館

幼稚園、保育園から小・中・高校と幅広い年代の来館団体に対して対話型の作品解説等を行い、鑑賞教育を行うことができたことは評価できる。特に、①開催展覧会に合わせた鑑賞プログラムの実施、②保育園児向けに身体を使った体験を主とした鑑賞プログラムの開発と実施、③展覧会担当との情報交換や研修による鑑賞プログラム作成、④ファシリテーターの発問内容や対話方法の開発と工夫改善による鑑賞活動の深化、等が効果的取組となって成果を生み出している。対話型鑑賞はニーズも高く、低年齢の子どもにも鑑賞の楽しさを味わわせることができ、美術館のあるべき姿を探る先進的な取組となっており、今後も内容、対象者、場面、活動方法に応じて実践を積み重ね、開発と改善が期待される。

また、教員対象の研修会を繰り返し実施したことで、教員の「鑑賞活動」への関心が高まり、活動への抵抗感がなくなりつつあることも大いに評価できる。今後は、教員研修プログラムの開発に向け、①学校への出前講座や団体来館時の学芸員と共同での対話型鑑賞の実施、②教員やボランティアを対象とした美術館でのファシリテーター実習の実施、③県内拠点学校での教員研修、④退職教員との連携、等の取組が期待される。地域ボランティアに対しても研修プログラムを拡大し、ボランティア学芸員を養成し、教育普及活動が美術館や美術作品を媒介とした地域の方々の文化的な交流活動や生きがいとなることも期待される。

○万代島美術館

美術鑑賞講座や作品解説会は参加者も多く好評だった。来館者のニーズも高く、鑑賞の楽しさや作品理解の普及に効果的だった。今後は出前講座を近代美術館や新潟市美術館、新津美術館などと連携し、新潟市を中心としたエリアの活性化を図る必要がある。

万代島美術館に教育普及担当を常時数名配置し、多くの児童生徒を抱える新潟市及び下越地域の教育普及の拠点として、学校教育との実効性のある連携を早急に実現することは、本美術館の努力目標ではなく、県の文化行政の重要な課題である。

⑶　自己評価に対する総括

○近代美術館

平成25年度は、前年度までに小中高等学校を中心に基本的な活動内容と実施体制をつくり上げてきた対話型による鑑賞活動を、保育所園児から一般団体までその対象を拡大したこと。その際、団体の特性に応じた鑑賞プログラムや鑑賞シートを開発したり、展覧会担当と連携や研修を行うなど、対話型による鑑賞活動の取組を通じて、美術館の内外の実践的関係が形成されていることが、新しい進展として特に評価できる。教員研修プログラムも、教員の鑑賞指導力の充実のみを目的とするのではなく、美術館における企画展も含む美術作品の個々の鑑賞活動を通じて、子ども、教員、県民、学芸員等の実践的関係の再構築を視野に入れた活動の開発が期待される。

○万代島美術館

平成22年度以降の取組は、大都市やコンベンションセンターを地理的特質としたものであった。そうした特性に基づく取組は25年度もさらにその成果をあげている。

一方、周辺に中越地区以上に多くの学校を抱える新潟市は、学校教育との互恵的連携を教育普及事業として中期的に取り組むことが緊急の課題である。近代美術館収蔵品展の企画、授業と連携した美術館での対話型鑑賞の実施等が期待される。そのためには、①担当スタッフ、事業予算、事業スペース等に、県の行政的支援が必要である。②過去三年間に実績を挙げてきた近代美術館学芸員との柔軟な連携と協力の体制を構築すること。③学校、地域在住作家、退職教員、学生、ボランティア等による、教育普及を支えるネットワークづくりの実現等が課題である。

３　調査・研究、収集・保存、発信に関する評価

⑴　実施目標に対する達成状況について

今年度も、地元作家、出身作家の調査・研究に大きな成果を上げたことを評価したい。岩田正巳に関しては立派な図録を作ることができ、大きな成果を上げた。亀倉雄策に関しても両館展開催に向け、大きく進展した。会田誠、堺時雄についてもそれぞれ進展を見た。外部研究資金を得たことも評価されるが、それが恒常化することを願いたい。

⑵　今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

地元関連作家の調査・研究を中心に設定された内容は、当館しかなし得ない活動として大きく評価される。それと国際研究会でも発表するなど、より一般的な研究成果の発表も行われている。今後より一層進めてもらいたい。

⑶　自己評価に対する総括

調査・研究は展覧会に関するもの、学芸員個々の専門に関

するものなどがあるが、今年度は前者の例年通りの順調な進展に加えて、後者が例年以上に進展した。翻訳書出版というような取組も特筆される。前者同様、後者もより一層進展させていくことが重要である。

４　環境・設備に関する評価

⑴　実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

平成24、25年度と２年にわたって行われた空調機のオーバーホールが終了し、ルーベンス展に備えられたことはたいへん良かった。環境整備が計画的に進められていることがうかがえる。正面鉄扉と回廊の修繕を終了したことも同様である。

○万代島美術館

ホームページの年間スケジュールの表記をこれまでの日本語・英語に加え、韓国語・中国語・ロシア語でも情報発信できたことは、環日本海に位置している新潟としては重要なことであり、大きな成果である。今後はぜひ、これら外国の方が新潟を訪れた際には美術館へ立ち寄りたくなるようなコンテンツを企画していただきたい。館内の小修繕、電話設備交換など、日々の維持管理が適切になされている。展示室屋上の補修ができなかったのが予算の関係であったことは残念である。劣化の状況を正確に把握し、速やかに適切な措置をとるよう進めていただきたい。

⑵　今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

近代美術館は20周年に向けて、正面鉄扉・回廊の修繕及び空調機のオーバーホールに注力してきたことは評価でき、その効果が20周年記念行事の成功を支えたことは間違いがない。しかし一方では、さらに将来のことも同時に考えていく必要もあるであろう。美術館を取り巻く、もっと広い意味での環境という視点で、将来に向けた長期的展望に立った取組が望まれる。例えば、屋上庭園や中庭の積極的な活用などがあろう。また、施設・設備の長期的な修理・修繕計画を立て、県庁担当者と協議しながら計画的に進めていただきたい。

万代島美術館についても同様のことが言える。10年という節目の年でもあり、施設全体の保全環境を見直し、対策を進めることは妥当であり、評価できるが、定期的メンテナンスや長期的改修計画なども同時に進めていただきたい。

⑶　自己評価に対する総括

近代美術館は設備面、つまり施設の維持管理面では着実に業務が進められているようで自己評価の内容とも相違ない。万代島美術館は屋上の補修がまだ実施されていない点を反省点として挙げられているので、今後は計画の進展があるものと期待できる。

５　協働組織に関する評価

⑴　実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

「こどもものづくり大学」や「長岡デザインフェア」など従来からの取組が功を奏し、地元自治体や大学と安定した協働スタイルが構築されている。また、ルーベンス展における長岡市との共催や関連事業の実施は美術や音楽に関心のある市民県民の裾野を広げ、長岡造形大学生からのロゴマークの募集は若者の育成に繋がるものであったと高く評価したい。

また、平成24年度から始まった「新潟アートリンク」の４館拡充、近代美術館が積極的に関わることで「友の会」と「アートボランティア」の組織の一体化が進んだことなどは、協働に対する姿勢を第三者にわかる形で発信することに繋がり、さらなる協働の輪を推進する力を持つことに繋がったと思われる。

以上のように、近代美術館は地元における協働については既に安定した実績が出来ていると思われるため、県ゆかりの作家展の場合には関係市で講演会等の関連事業を積極的に行うなど、平成26年度は長岡市以外の自治体における協働実績を一例でも良いので創っていただきたい。

また、人口が少ない自治体ほど美術館の集客にも困難があることが想像されるため、アートリンクの輪を周辺自治体の美術館にも広げ、職員の交流を通じて県内の美術に関わる人材育成にさらに寄与をしていただきたい。

○万代島美術館

平成22年度から「近隣施設と連携・協働する」を目標に掲げ、近隣小中学校へのチラシ配布やタクシー運転手への情報提供を地道に続けていることについては、地に足のついた取組として評価したい。

しかし、昨年の評価時にも同様のことを述べたが、小中学校へのチラシ配布は「協働」と言うには物足りず、また、「教育普及関連事業」あるいは「広報」との区別がわからない。むしろ、ミュシャ展における、りゅーとぴあや新潟市少年合唱団との連携の方が協働と呼ぶに適当なように思われる。

その一方、近代美術館とともに参加している新潟アートリンクの参加館が４館に増え、学芸員同士の交流が進み、情報の共有が図られたことは、県民に還元される成果として評価したい。今後は下越地域の核となる美術館としてさらに協働の輪を広げていただきたい。

⑵　今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○近代美術館

「長岡造形大学、長岡市との協働事業に取り組む」については、「長岡市とのルーベンス展における協力」といった具体的な目標を掲げることで、曖昧とした協働ではなく具体的な形のある協働を館の内外に示すという点で妥当性があり、具体的な効果も示せていたと考える。

「新潟アートリンクの拡充」についても、県内自治体の美術館に範を示す立場にあると思えば非常に妥当であり、前年度の３館体制から４館へと拡充し、学芸員の交流や展示作品の連携など、美術館同士の協働を探る時期に相応しい効果があったと思う。

また、「友の会にアートボランティアが含まれることによる課題への協力体制をつくる」という取組は、当館の「県民との協働姿勢」を示す点で非常に妥当であり、ま

た、館をはじめ職員が積極的に関与する姿勢を示すことができた点で大きな効果のある取組であったと考える。

○万代島美術館

「近隣小中学校へのチラシ配布、タクシー運転手への情報提供を継続」は、前年度からの継続事項として実施すること自体は妥当だが、「チラシを配布する」、「情報を提供する」という一方的な働きかけを「協働」というのは物足りない。他者との双方向の取組があってこそ協働であり、チラシの配布ならびに情報提供は「協働」ではなく「教育普及」あるいは「広報」ではないだろうか。昨年度も同じ指摘をしたが、なにをもって「協働」というか再考を願いたい。

「スタンプラリーを４館に拡大して実施」については、近代美術館とも連携した取組として妥当であり、効果もあったと考える。今後は当館を拠点として周辺自治体の美術館との協働を模索していただきたい。

⑶　自己評価に対する総括

自己評価については、近代美術館については概ね適当と思う。しかし、万代島美術館については、チラシ配布やタクシー運転手への情報提供といった取組を継続して実施することは民間感覚からすると、少しも特別のことではない「当然のこと」であることを考えると、いささか点が甘いように思われる。

昨年度と同じ指摘になるが、何をもって協働とするのか、近代美術館と万代島美術館の双方で統一された基準を設け、協働の実績や職員数で上回る近代美術館による万代島美術館のサポートが進められることを期待したい。

その結果、現在行っている取組の中にも「協働の芽」と呼ぶに相応しいものが見つかり、次への手がかりになるものと思われる。

第３章　平成26年度県立近代美術館運営への提言

近藤　フヂエ 会長

地方の時代と言われて久しいが、近代の洋画、日本画、彫刻を収集する日本各地の地方美術館はそれほど大きな違いは無いといってもよい。その中で特色ある美術館として存在を確かなものとするため戦略が求められているが、まずは美術館からのさまざまな積極的な試行があることを期待したい。

また、学校教育におけるのと同様、作者の人物像、個性だけでなく、作品の技法や表現法について、情報が与えられるべきである。鑑賞者が追体験できるようなワークショップは、鑑賞のもう一つの重要な方法である。学芸員には多様な専門性が要求されるので、そのためにも研究、研修の機会を確保していきたい。今日地域の美術館は、鑑賞、創造の両面でワークショップによる参加型の手法を開発し、提供することにより教育機関としての役割を現場に密着した形で果たすことが期待されるのである。

金子　賢治 副会長

この20年ほど数館の購入関係の委員を仰せつかってきた。館によってはその約20年に一回も委員会が開かれていないところもある。購入予算がなく、寄贈作品ばかりの審議にわざわざ会議を開くまでもない、持ち回りで、ということなのである。この状況は好転する兆しもなく、悪化の一途をたどっている。これがあと10年、20年と続けば一体どうなるか？この30年なり、40年なりを半世紀後か、あるいはより後世の学芸員たちが振り返ってどう思うのだろうか。そういうことを考えるとぞっとする。

そういう美術館情勢と、独立行政法人化、指定管理者制度導入、あるいはまた「評価」というものの流行は、決して無縁ではないと思う。それはまた購入費０ということのみではなく、2012年度評価報告書の提言で、雪山委員が述べておられた企画会社型展覧会のデメリット面も同じ根からくる現象であろう。

「故宮博物院展」や「清水寺展」などは、多数の入館者を見込み、それを美術館の存在そのもののより広い認知につなげるという意図もある企画である。問題は来館者をどれほどリピーター、そしてサポーターとして定着し得たか、あるいはしつつあるか、ということである。貴重な学芸員の専門性を不問に付しつつ取り組むのであるから、それなりの成果がないと割に合わない。しかしどれほどそれが担保されているか、はなはだ疑問である。

なぜそれを強く感じるかというと、当委員を拝命し、展覧会企画をこれまでとは全く違う視点から眺めることになり、最も強く感じたのが、地元ゆかりの作家ないし美術活動の近代史、現代史構築の素晴らしさである。「GUN展」、「岩田正巳展」はもちろん、「宮芳平展」の素晴らしさはいくら強調してもし過ぎることはない、感動的な展覧会であった。

重厚な西洋美術コレクションやグラフィックデザインなど、それぞれの特徴を生かしつつ、近現代美術のトピックを捉え（「ジパング」「梅佳代」など）、なおかつ地元ゆかりの作家ないし活動の史的評価を打ち立てていく。さらにそれを例えば館独自の出版活動によってバックアップしていくなど、目に見える形で学芸員の研究者としての実績につなげていく。そういうことに予算を使う。そろそろそういう余裕のある美術館活動の時代が来ているのではないか、と思う次第である。

もう一つ希望を述べさせていただくなら、美術、デザインのみならず、工芸も加えてもらいたいということである。新潟には工芸制作の蓄積が幾重にも積み重なっている。何年かに一企画でいい。是非考慮願いたい。

松本　健義 委員

平成26年度への提言は、25年度の提言と同じである。以下の内容については、25年度取り組まれ成果を生んでいるものも多数あり、美術館のたゆまぬ努力に深く敬意を表するものであるが、未着手のものや25年度の取組の発展として可能性を残す項目もあり、昨年どおりの提言を以下のとおりいたします。

教育普及は、過去四年間において、対話型を取り入れた鑑賞活動を核として、近代美術館により、主に中越地区学校の来館団体や、出前講座による授業及び教員研修で実施されてきた。

今後、以下のような課題がある。①中越地区での活動の充実が、新潟市をはじめ、上越、下越、佐渡等においても同様の展開がみられるようになること。②幼稚園、小学校、中学校を中心と

した主に学校を対象とした事業展開が、一般来館団体に対しても実施されること。出前講座等においても一般機関や団体に対して拡充し、世代の幅が広がること。③上越、下越、佐渡等の遠隔地域においても、収蔵作品と親しみ鑑賞する機会と質がさらに拡充するよう、近代美術館収蔵作品を核として県内の美術館、博物館の作品も含んだ映像資料やアートカード等の学習活動教材を、学校教員や大学教員と連携して開発し、学校の授業や出前講座等で用いられるようになること。④作品を「見る楽しみ」「見る力」が変化していく喜びのある鑑賞経験が生まれるよう、作品を媒介とした他者との多様な対話の活動形式について、教材や道具の開発と合わせ研究開発を進めること。⑤対話を通して作品を見ることは、見る活動に語る活動を取り入れることで見える世界を変化させていくことである。同様に見る活動や見える世界は、つくる活動を通しても密接に変化していく。制作型のワークショップと対話型による鑑賞活動の組み合わせや相互関係についても、学校の授業と連動した開発を行うこと。⑥今後のこうした取組については、外部資金の取得等も検討すること。

万代島美術館においては、多くの若者が居住する大都市を背景とした地理的特質を第一の特質として教育普及活動を平成22年度より展開してきている。新潟市は、多数の学校、機関、団体がある地域でもある。まず、新潟市及び近隣市町村の学校での、企画展や近代美術館収蔵作品展による対話型を取り入れた鑑賞活動の普及と推進は、緊急に取り組むべき重要課題である。しかしながら万代島美術館は、学校との互恵的関係を実現していく教育普及活動担当の学芸員の数や専門性において現在不足した状態にある。今後以下のような体制の充実が期待される。①近代美術館で得た知見と方法をもつ学芸員の一部を万代島美術館に配置する。②美術館から学校へ異動した元学芸員との連携を教育委員会等の協力によりつくり、学校とのネットワークの拠点を形成する。③新潟市や近隣市町村の教育委員会に働きかけ、授業や学校行事での美術館利用の機会を拡充する。④大学や専門学校の授業、実習、研究等と連動した互恵的運営体制を構築する。⑤近隣の美術館、博物館等と対話型を取り入れた鑑賞活動の内容及び方法においてその連携を図る。

以上の取組を通して、世代的差異、地理的差異、制度的差異を克服していく教育普及活動の試みが展開することを期待する。こうした試みが県内の教育機関や団体に普及することで、県立美術館の存在意義は、より県民に身近なものとなるといえる。

猪爪　彦一 委員

二年間、美術館協議会に参加させていただき、学芸員の方々の御苦労が少しは理解できたように思います。一つの企画展を開催するためには表に現れない裏方の仕事がたいへん多くあるようです。そのいわば美術館運営の要である学芸員の仕事について一般の人たちがほとんど知らないというのはとても残念です。もっと開かれた美術館にしてゆくためにも、作品だけでは無く、現在の活動や仕事の状況が県民に伝わるように、学芸員の方々は忙しいとは思いますが、外部との交流をもっと活発にしていただけたらよいのにと思います。

先日、金沢21世紀美術館に行きましたが、美術館全体がお祭りのようなにぎわいでした。休日のせいもあったのですが、多くの老若男女や子供たちが楽しそうに館内を散策している様子を見て、地元新潟の美術館との違いを強く感じました。「来場者を増やすにはどうすればいいのか」と考えてきたその答えのいくつかがここにはあるようです。建物の立地条件などが異なり、同じような活動はできないとは思いますが、地域のイベントと連携した企画展を試みてみるなど、工夫できることはたくさんあると思います。

西條　和佳子 委員

１点提言を行いたい。それは近代美術館および万代島美術館における公式フェイスブックページの開設である。

理由は２点。一般県民とリアルに繋がる双方向のメディアであることが一つ。もう一つはホームページやブログに比べて扱いが簡単なことと、写真の投稿がたいへん容易であるため、個人のプライバシーに配慮をするのが前提ではあるが、年間を通じて様々な展示や活動を行っている美術館の在り様を伝えるに適当なメディアであると考えられることである。

新潟県立の施設としては県立歴史博物館が公式フェイスブックページを開設しているので参考にしていただければ宜しいかと思うが、講演会やイベントなどの開催風景が即時に発信されると同時に蓄積されていくので、日々の取組がその場限りで終わることがない。

折しも先日、仕事のついでに訪れた万代島美術館で、中学生を対象にした鑑賞教育が行われているところに遭遇をした。その場に居合わせずとも、新潟県内の美術教育の一助を両館が担っていることを県民が広く知るためにも、フェイスブックでの発信について、ぜひ一考を願いたい。

丸田　洋一 委員

「全国巡回展」の展覧会は東京等に行かなくても地元で有名作家の作品が鑑賞できる良い機会だと思う。

また、新潟県出身作家の作品展「岩田正巳」「宮芳平」「近藤喜文」などは、県立近代美術館の社会的使命の一つである「新潟固有の文化の価値を見直す」に合致する重要な展覧会だ。しかし、この「県出身者」の展覧会の入場者数が少ないのは残念なことである。「岩田正巳」は三条市、「宮芳平」は南魚沼市、柏崎市、「近藤喜文」は五泉市。この出身地など縁の地域で集中的な広報がもっと必要ではないだろうか。その地域で関連イベントを開催するなどしてスポットを当てることにより故郷の作家が再認識、再評価され興味を持つ人たちが出てくるのではないか。市役所、教育委員会、地元の美術愛好団体などへの働きかけを強化することにより、その作家は勿論、美術館の新潟、長岡以外の地域での認知度が上がり、愛着も湧くのではないかと思っている。

柴野　ひさ子 委員

県立近代美術館協議会委員として、美術館の運営について、関係者の方々の日々のご尽力に心からの敬意と感謝を申し上げます。新潟県に近代美術館と万代島美術館が在ることの有り難さをしみじみと感じております。各美術館で教育普及等関連事業の工夫がなされ、大学・小中学校・市民団体との連携で新た

な価値づけがなされていることが伺われ、来館者も少しずつ増えています。

人口減少社会の到来、グローバル化の進展など、変化の激しい波が本県にも押し寄せています。「ひとづくり」には、「個人としての個性を伸ばし、自立し創造的に生きていく力」と「生活する地域社会の形成者として貢献し、協働的に生きていく力」を、バランスよく育てていくことが問われる時代と受け止めています。美術を愛好する人も少しずつ増えていると思われます。その意味からも美術館の可能性が広がると思います。

PDCAを常に意識した美術館運営の点検改善など効果的かつ充実した運営がこれからもなされることにより、来館者の更なる増加を期待します。次の５点を提案致します。

①新潟にしかない価値ある美術品：郷土が生んだ作家を大事にし、コーナーを作り、楽しみとその価値を普及する。例えば 小林古径、土田麦僊、横山操、良寛、石川雲蝶、漫画家等県外や外国からも来館者を誘う作戦を展開する。JRの旅行パックや各種旅行会社と組んで、観光スポットのコースの一つに組み入れてもらう。お土産品売り場の充実、郷土作家やそれを意識した企画展作りを行う。

②市民団体との連携を一層図る。市民ギャラリーのコーナー等市民に開放するコーナーをつくる。一般の人が創作した絵や彫刻などが常に一定の期間で入れ替わり展示されるようにする。渡り廊下や休憩のソファなど１階の壁の一部を開放するなど、常に開館中は自由に出入りできる空間を作る。音楽アンサンブルとのコラボやリリックホールのコンサートなどとセットにして提案する。

③美術館祭りを開催する。近代美術館ならば、野外ステージ、土手のアートの参加型造形祭りを行い、美術の素晴らしさを普及させる拠点となる。健康づくり、河川敷の野外アート、石のアートなど、企画展に関係のある創作教室の開催、続き絵、私の○○、お気に入りの一枚から等の実施。

④夏休み・冬休み中は、可能な限り小・中・高校生が美術館に来て、作品鑑賞をもとにレポートを書く課題を全学校の課題とする。

⑤フェイスブック、インターネットの活用を図り美術館の紹介と楽しみ方の提案・広報。

来館者がリピーターになり、参加型・参画型の美術館を身近で楽しんでもらい、新潟市や長岡市を元気にする、様々な年代層の人が憩い・集い、つながる場になることを期待します。

風巻　洋 委員

近代美術館と万代島美術館とは、それぞれ設置された目的があります。収蔵作品を抱えながら企画展示を行う美術館と、県都にあって多くの来館者を迎えいれるための美術館とになっています。また、他の美術館との連携を図りながら、新潟県の美術館を牽引するとともに、県民に芸術への興味・関心を持たせる役割を担っているところがあります。

近代美術館では、学芸員による対話型の鑑賞会が行われております。また、小中学校などにおいて出前授業が実施されていることは、図工、美術にとって大変有意義な学習活動となっています。学校にとって美術館は重要な学習の場であり、それを有効に活用する工夫が必要となっています。しかし、現在では周辺地域の学校が来館することが多く、引率する職員は限られているようです。例えば、高等学校においては美術の専任教員の学校のみとなっています。そのため授業や部活動で美術館を利用することは難しいようです。しかし、義務教育では比較的に図工や美術の教員が学校に一人はいて、高校よりも利用する数は多くなっているのが現状です。

さらに、生涯学習の観点からみると、社会にでる直前の高等学校では美術館との関わりはとても貧弱になっています。それが県民全体の美術に対する意識というものが醸成されにくい状況が生まれていると思います。以前にも提言をしたように、義務教育においては無料の対応となっていますが、高校生に対してもその措置を広げて、親子で美術館に行くということを推奨していくべきです。そうすることにより、社会人になっても美術館を身近な存在としていくことができるのではないかと考えます。

ところで、近代美術館の景観等を含めて、屋外展示のコンセプトを改めて考える必要があるのではないでしょうか。それは、屋上の庭園や中庭のスペースが展示として活かされていないように思います。近代美術館における屋外のオブジェなどの展示が皆無に等しいからです。また、隣接する施設も含めて美術館の置かれている環境をうまく活用できないかと考えます。例えば、近代美術館の駐車場のスペースは、来館者が多い場合にはとても対応しきれないものです。駐車場は市の施設を利用するようにして、駐車場も展示スペースにするなどの工夫をしたらどうかと思います。これはもちろん地元自治体との連携が必要となります。

上原　みゆき 委員

外部評価検討委員会設立時に制定された「新潟県立近代美術館の社会的使命と目標」をおりにふれては読み返している。社会的使命について、ここで部分的に引用しようと試みたが、どの文言もはずす事ができず、あえて全文をのせることをお許しいただきたい。次のとおりである。

「広く新潟県民と新潟を訪れた人のために、新潟県固有の文化の価値を見直し、併せて未来に継承すべきコレクションの充実と研究、活用、普及を通じて、多様な美術館活動を開発、提供し、創造力溢れる人材の育成に取り組み、地域の人々と協働しながら、県民の誇りとなる新潟県の文化を発信する。」

さまざまな面から評価の作業を重ねていくなかでも、常に、この「社会的使命」を念頭に置いてきた。

協議会委員をつとめるにあたり、なんとしてでも全ての展覧会を鑑賞しようと、上越から通う努力をしたが、「努力」というよりも、何よりもの楽しみとして、私個人としては、両美術館に行くことがうれしい習慣となった。

美術作品をみることが大好きで、全般に関心も高い私ではあるが、学術的な事は正直なところ、わかってはいない。しかし、真剣に作品と対話を重ねるうちに、心で、何かをつかむことができたような気がする。とりわけ、岩田正巳展と宮芳平展では、新潟県ゆかりの作家である、という事もふくめて、深い感動をおぼえた。

まさに「社会的使命」が命を得て羽ばたいている。それを実感した。

これからも、ひとりの県民として、上越から両美術館に通い続け、注目し続けていきたい。

上松　和義 委員

近代美術館は長岡市を流れる信濃川のほとり、長岡大橋のたもとに位置し、広大な敷地の中に建っている。JR長岡駅からは少し離れているが、バス一本でアクセスでき、河川敷の、樹木の生い茂る、緑に囲まれた中にある。しかしその恵まれた環境を生かしきれているとは言えない。美術館をとりまく環境について提言したい。

オブジェが配された芝生の庭が連続的に屋上庭園に続く独特の構造をしているが、散策している人の姿はいつも少ない。駐車場に停めた車と美術館の正面玄関の行き来では、せっかくの庭の存在に誰も気が付かないのかもしれない。「裏庭」というイメージである。美術館にはきれいなレストランがあり、店員さんの対応はとても良い。しかし、2階の展示室で催し物がなければ、足を運ぶ人も少ないのではないか。レストラン内も館の一部なので自由に通行可能であると説明書きがあるが、入り口が狭く、通り抜ける人は少ないであろう。おいしそうなメニューもあるが、ここでしか食べられないようなものではない。館の向かい側には音楽会館（リリックホール）とコンベンション施設（ハイブ長岡）があり、催し物のある時には大勢の人がやってくる。しかし、これらとは通りで隔てられ、駐車場もわかれているため、一体感が少ない。すぐ近くには大規模商業施設（リバーサイド千秋）があり、日常的に大勢の人が訪れているが、美術館がその恩恵を受けているようには思われない。

あえてマイナス面ばかり挙げてみたが、これらが少しでも改善されれば、これまで以上に県民に親しまれる美術館になるのではないだろうか。たとえば、庭で演奏会や写生会などのイベントを行ったり、実のなる樹木を植栽して秋にそれを使って教室を開くなどできないだろうか。音楽会館とコラボレーションはできないだろうか。レストランではオリジナルメニューを出せないだろうか。館の企画展に対応した特別メニューなども楽しいかもしれない。メニューの公募も新鮮だ。ひょっとしたら美術館ではお昼を食べるのではなく、カフェの方がいいのかもしれない。オープンカフェ風にしてスイーツを充実させるというのはどうだろうか。カフェが、アートや緑に囲まれていればなおよい。お隣の長岡造形大学へ続く散歩道があれば歩いてみたくはならないか。

これらのことは的外れかもしれないし、現実的でないかもしれない。しかし、美術館を取り巻く環境全体をコーディネートしていく姿勢が重要なのではないか。

新潟県美術品収集委員会

【委　員】

◎宮田　亮平（東京藝術大学学長）
草薙奈津子（平塚市美術館長）
本江　邦夫（多摩美術大学教授）
前川　公秀（DIC川村記念美術館顧問）
柳原　正樹（京都国立近代美術館長、富山県水墨美術館長）
松本　　透（東京国立近代美術館副館長）
郷　　晃（新潟大学教授）
◎は委員長。

【日程及び内容】

平成26年度「新潟県美術品収集委員会」
日程：平成27年２月８日㈰
内容：⑴　平成26年度美術品収集について
①収集候補の全体説明
②収集候補の内覧
③収集候補作品の協議
⑵　その他

新潟県立美術館友の会

新潟県立美術館友の会は、新潟県立近代美術館開館の翌年、平成６年４月８日に「新潟県立近代美術館友の会」として発足。平成15年、新潟県立万代島美術館の開館にともない２館共通の友の会組織となり、「新潟県立美術館友の会」と改称した。

広く美術を愛する人達を中心として、美術館の活動及び運営に協力するとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深め、芸術文化の普及、向上を図ることを目的として活動している。

また、本年度は、友の会設立20周年を迎えた。

【会費･会員の種類】

一般会員	一般	2,000円	349人
	学生	1,000円	10人
ファミリー会員		4,000円	77人
特別会員	個人	30,000円	0人
	法人		28人
		計	464人

【会員の特典】

・会員証による近代美術館コレクション展、万代島美術館所蔵品の無料観覧
・近代美術館、万代島美術館の企画展を観覧できるモニター券の配布（モニター券１枚で一回観覧可）
・近代美術館、万代島美術館の企画展の優待観覧（団体料金）
・企画展図録の割引
・近代美術館、万代島ビル内のレストランの割引
・友の会だより、美術館便り等の配布
・近代美術館、万代島美術館の企画展会場式への参加

【役員体制】

会　長　丸山　結香
副会長　櫛谷　一代、小林　新治、上松　和義、小栗　俊郎、澤　秀一郎、宮澤奈緒子、舛岡　武雄
理　事　伊藤　英之、渡辺　雅明、丸岡　稔
監　事　松永　芳文、関澤　正道
代議員　阿部　貴子、阿部美恵子、永島　賢司、大平　剛、恩田　里士、片野　トク、佐藤　丈二、近藤フジエ、斎藤　裕子、田中　弘邦、高田　博俊、土屋　蔵三、羽賀　享、原　和彦、樋口　栄治、保坂　太、丸山　智、宮本　恵子、目黒　真弓、山梨玲江子、山本　正明
顧　問　徳永　健一、豊口　協、平山　征夫
事務局　更科　昌江

【事業内容】

◇５月24日　「デジカメ・スマホでプロの技を」
会場：近代美術館講座室・館内外
講師：中條均紀
◇５月31日　代議員会
会場：近代美術館会議室
◇８月23日　カラーレッスン
～伝統色ってなに？和のいろを学ぼう～
会場：近代美術館　講座室
講師：宮崎朋子
◇９月21日　びじゅつかん茶会
会場：近代美術館
呈茶：長岡大学　茶道部
◇10月11日～10月19日　第18回友の会
文化祭・作品展
会場：近代美術館エントランスホール
◇11月18日～11月30日　友の会文化祭・作品展
（近代美術館の縮小版）
会場：万代島美術館
◇11月１日　アートカフェ
会場：ホテルニューオータニ
カフェ&ダイニング「アゼリア」
講師：新潟大学教授　丹治嘉彦
◇11月８日　視察ツアー
視察先：群馬県立近代美術館
◇３月10日　友の会20周年記念品贈呈式
会場：近代美術館　会議室
寄贈品：「五代伊藤赤水　無名異練上花紋角壺」
◇友の会だよりの発行
◇ミュージアムグッズの販売
◇図録、前売券等の委託販売
◇近代美術館、万代島美術館主催の開場式に参加
◇各種情報提供　美術館だより等の送付

沿　革

《新潟県立近代美術館》

昭和63年度予算で美術館建設調査費計上
昭和63年12月
　「新潟県美術品収集基金条例」制定
平成元年10月
　新潟県美術館建設基本構想を策定
平成２年３月
　新潟県美術館建設基本計画を策定
平成２年３月
　県立近代美術館建設の設計者選考方式を指名設計競技（コンペ）に決定
平成２年３月
　指名設計競技の参加設計事務所５社を決定
平成２年７月
　県立近代美術館建設指名設計競技審査会開催
　㈱日本設計の作品が入選
平成２年８月
　設計業務の委託を㈱日本設計と契約
平成３年２月
　県立近代美術館建設の実施設計策定
平成３年５月
　県立近代美術館建設工事入札
　大成・吉原・小杉特定共同企業体等が落札
平成３年７月
　県議会で建設工事の契約承認
平成３年７月
　新潟県立近代美術館の建設着工
平成４年12月
　県立近代美術館建設本体工事完了・引き渡し
平成５年３月
　新潟県立近代美術館条例公布
平成５年４月
　新潟県立近代美術館発足
平成５年７月
　開館

《新潟県立近代美術館万代島美術館》

平成12年8月
　新潟県新美術館基本構想を発表
平成13年2月
　新潟県新美術館基本計画を策定
平成14年4月
　新潟県新美術館開設準備室発足
平成15年8月
　新美術館の名称を一般公募により「新潟県立万代島美術館」と決定
平成15年3月
　朱鷺メッセ万代島ビル竣工
平成15年4月
　新潟県立近代美術館万代島美術館発足
平成15年7月
　開館

平成26年度
新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館　年報

編集　新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館

印刷　株式会社第一印刷所
発行　平成28年３月11日